講義科目名称：　海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～３年次	2単位(60)	選択
担当教員			
小林　洋子　田口敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　平成32年3月15日～3月23日

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等

		でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
	第6回	医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュ二ケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュ二ケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。

	第26回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 第27回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 第28回　協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 第29回　研修成果　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　研修成果　報告会　(まとめとふりかえり) 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	授業終了後30分間　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。 【到達目標】 １　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。 ２　基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。 ３　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、グループ研究を行うことにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。	◎	◎	◎	◎
②基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。	◎	◎	◎	◎
③昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。	◎	◎	◎	◎
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	建学の精神と実践プログラム①　科目オリエンテーション ・新年度オリエンテーション ・基礎演習Ⅱについて説明し、講義内容の確認、課題の提示、評価方法について説明する。 ・委員長、副委員長の選出、クラスごとに各委員会を決定する。 【key word】 ・建学の精神　大学生活 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
	第２回	学習統合プログラム①　1年間の目標を立案する ・「看護学生の2年目をどう生きるか」について目標の立て方を説明する。 ・①長所・短所②看護師としてこうありたい自分の姿③卒業時にこうありたい自分の姿④2年終了時にこうありたい自分の姿⑤目標を達成する上で、現時点での自分の課題⑥自分の課題を解決するためにこの１年で行うこと⑦目標達成の評価を記入する。 【key word】 ・建学の精神　目標 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること ・①-⑦まで記入し提出する。
	第３回	学習統合プログラム②　所属する委員会の目標を立案する ・各委員会の役割の説明 ・委員会の目標と具体的な活動内容を決める。 【key word】 ・建学の精神　目標　委員会 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・各委員会ごとの目標と活動内容を記入し提出する。
	第４回	地域貢献プログラム①　看護学部合同ボランティア報告会に向けた準備 ・ボランティア報告会の準備 ・発表者の決定とパワーポイントを用いて報告会の発表練習をする。 【key word】 ・建学の精神　ボランティア 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・ボランティア活動報告会に使用するパワーポンイントを作成し提出する。
	第５回	地域貢献プログラム②　看護学部合同ボランティア報告会 ・ボランティア活動体験の報告会に参加し、学びを深める。 ・報告会ではボランティア活動の学びを共有することで、これまでのボランティア活動を振り返り、今年度の目標と計画の立案に役立てる。 【key word】 ・建学の精神　ボランティア 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・ボランティア活動の目標と計画を指定の用紙に記入し提出する。
	第６回	心身の健康プログラム①　自身の体力の把握と自己研鑽 ・自分自身の体力を把握し、大会に向けて種目別にチームワークを高め、自己研鑽する。 ・体育、イベント委員会の学生を中心に準備を進める。 【key word】 ・建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第７回	心身の健康プログラム②　学部合同親睦スポーツ大会 ・学園の「建学の精神」のもと、スポーツを通じて青春を謳歌し、友情を深めながら充実した学生生活の一助にするため親睦スポーツ大会に参加する。 ・スポーツマンシップに則り、種目別ごとにチームワークを高める。 【key word】 ・建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【課題・予習・復習・授業準備】 ・スポーツ大会参加後の振り返りを指定用紙に記入し提出する。
	第８回	進路・資格取得プログラム①　進路・資格取得を考える（自己分析） ・自己の基礎能力、性格的特徴、行動的特徴、意欲的特徴、内面的特徴、社会的特徴等の特性を分析し、今後の進路・資格取得に活用する。 【key word】 ・建学の精神　自己分析　基礎能力　性格、行動、意欲　内面　社会的 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第９回	学習統合プログラム③　グループ学習　「健康」について関心のある事柄を探求する（1） ・看護研究について説明し、研究テーマを明確にする。また、文献検索の方法について学習する. ・自己の関心のあるテーマの文献を読み読解力を高める。

【key word】
・建学の精神　研究　看護研究　テーマ　文献検索
【教科書】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備】
・指定されたワークシートにテーマ決定に対しての動機、疑問点、課題を記入し提出する。
・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

第１０回　学習統合プログラム④　グループ学習　「健康」について関心のある事柄を探求する（2）
・興味・関心のある領域のテーマの探求、文献検索を行う。

【key word】
・建学の精神　研究　看護研究　健康
【教科書】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備】
・指定されたワークシートにテーマを決定した動機、疑問点、課題を記入し提出する。
・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

第１１回　学習統合プログラム⑤　グループ学習　探究した内容についての検討（1）
・興味・関心のある領域のテーマの探求、文献検索を行い、グループで話し合う。
・グループ学習ではリーダーシップ、メンバーシップを考慮し、行動、発言する。

【key word】
・建学の精神　研究　看護研究　健康　リーダシップ　メンバーシップ
【教科書】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。
・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

第１２回　学習統合プログラム⑥　グループ学習　探究した内容についての検討（2）
・研究目的・方法・結果・分析・考察の書き方について学習する.
・グループで文献等を用いて検討した結果についてテーマに沿って小論文を作成する.

【key word】
・建学の精神　研究　看護研究　研究目的　研究方法　研究結果　分析　考察　文献検索
【教科書】
・配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備】
・指定されたワークシートに検討した内容を記入し提出する。
・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

第１３回　学習統合プログラム⑦　看護専門職になるための学習方法
・看護専門職になるためには知識の積み重ねが必要である。1年次に学習したことをミニテストを用いて復習を行う。
・効果的な学習方法を模索しながら知識の定着を図る。

【key word】
・看護専門職　知識　学習方法
【教科書】
・１年次に使用した教科書、模擬試験の結果
【課題・予習・復習・授業準備】
・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
・ミニテストで間違った箇所の自己学習を行い提出する。

第１４回　建学の精神と実践プログラム②　前期の目標の評価
・夏期オリエンテーション
・夏期中の過ごし方、学習の進め方について説明する。
・「看護学生の2年目をどうに生きるか」について前期目標の評価を実施する。

【key word】
・建学の精神　目標
【課題・予習・復習・授業準備】
・前期目標の評価を行い、後期に向けて目標の修正をする。
・前期に受けた模擬試験の復習を行い提出する。

第１５回　学習統合プログラム⑧　看護研究セミナーへの参加
・４年生の看護研究セミナー発表会に参加し、研究の方法、内容、まとめ方、発表時の態度・質問方法について学習する。
・発表会は領域別で開催するため、配布する抄録集を参照し、関心のあるテーマを見つけ参加する。
【key word】
・建学の精神　看護研究
【教科書】
・抄録集
【課題・予習・復習・授業準備】
・看護研究セミナーに参加し、どのような知識を得たかについて指定用紙に記入し提出する。
（4年生の発表に参加）

第１６回　建学の精神と実践プログラム③　後期に向けた目標の修正
・秋期オリエンテーション
・後期の大学生活に向けて目標の修正や追加をする。

【key word】
・建学の精神　大学生活　目標
【課題・予習・復習・授業準備】
・夏季中の指定課題を提出する。

	第１７回	学習統合プログラム⑨　グループ学習　発表会に向けての準備（1） ・各グループで健康教育のテーマに沿った発表資料をパワーポイントを用いて作成する。 【key word】 ・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第１８回	学習統合プログラム⑩　グループ学習　発表会に向けての準備　（2） ・各グループで健康教育のテーマに沿った発表資料をパワーポイントを用いて作成する。 【key word】 ・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育　パワーポイント 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・発表資料の提出
	第１９回	学習統合プログラム⑪　グループ学習　「健康教育」に関連した発表会 ・研究小論文の発表 ・健康のテーマに沿ってまとめた資料をもとにプレゼンテーションを実施する。 （研究小論文の学びを昌賢祭の健康指導に結びつける） 【key word】 ・建学の精神　研究　看護研究　健康　健康教育　プレゼンテーション 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第２０回	地域貢献プログラム③　　リレー・フォー・ライフ・ジャパンに参加 ・リレー・フォー・ライフ・ジャパンはがんに立ち向かう方々の勇気を称え、がん患者や家族、友人、支援者と共に地域一丸となってがん征圧を目指すチャリティー活動である。がんへの理解を深めながら地域貢献活動に参加し、コミュニケーション力、判断力、行動力について学びを深める。 【key word】 ・建学の精神　がん　征圧　コミュニケーション力　判断力　行動力 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第２１回	地域貢献プログラム④　　健康チェックの方法を学習する ・昌賢祭準備 ・企画展示（健康チェック）に向けての準備 ・各担当箇所を決め、健康チェックの内容・方法を決定する．また、健康教育を行うために、疾病について既習の知識をもう一度学習する． 【key word】 ・建学の精神　健康　健康教育　疾病 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第２２回	地域貢献プログラム⑤　　健康チェックの内容を検討する ・昌賢祭準備 ・企画展示（健康チェック）に向けての準備 ・各担当毎に役割を話し合い、健康チェックの内容・方法を学習しグループで検討する。また健康教育を行うために、疾病について既習の知識を活用し地域の方々に説明・指導出来るように準備をする． 【key word】 ・建学の精神　健康　健康教育 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第２３回	地域貢献プログラム⑥　　健康チェックについてまとめる ・昌賢祭準備 ・企画展示（健康チェック）に向けての準備を行う． ・各担当毎に役割を話し合い、健康チェックの内容・方法を学習し資料を作成する。また健康教育を行うために、疾病について既習の知識を活用し、説明・指導出来るように準備をする． ・健康チェックのデモンストレーション、前日・当日の役割の最終確認と準備をする． 【key word】 ・建学の精神　健康　健康教育　役割 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
	第２４回	地域貢献プログラム⑦　　実践　地域住民の健康チェック ・昌賢祭当日 ・学習したことをもとに、地域住民の健康チェックを実施する。健康チェックを実施する際に

	は、安全・安楽を考慮し技術を提供する。 【key word】 ・建学の精神　健康　健康教育　健康チェック　安全・安楽　地域　住民 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・昌賢祭後に指定の振り返り用紙に記入し提出する。
	第２５回　建学の精神と実践プログラム④　後期　目標の中間振り返り ・冬期オリエンテーション ・後期に修正した目標について振り返りを行い、自己の生活を振り返る。 ・冬期中の過ごし方、ボランティア活動の実践、自己学習方法について説明する。 【key word】 ・建学の精神　大学生活　ボランティア活動　学習 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 ・冬期中の課題を提示する。
	第２６回　建学の精神と実践プログラム⑤　学生生活の意義を考える（２年次） ・新春オリエンテーション ・学生生活の意義を考え自分自身の生活を振り返ることで3か月間を有意義に過ごすことができるようにする。 ・1・2月の予定について説明する。また、ボランティア活動の実践や環境美化活動についても説明する。 【key word】 ・建学の精神 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の授業時にミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること ・冬期中の課題を提出する。
	第２７回　進路・資格取得プログラム②　進路・資格取得を考える（自己表現力） ・看護専門職に関する進路・就職・マナー・一般常識について学習し、自己の表現力について分析する。 【key word】 ・建学の精神　進路　マナー　一般常識 【課題・予習・復習・授業準備】 ・自己の表現力について振り返りを行う。
	第２８回　地域貢献プログラム⑧　　1年間のボランティア活動からの学び ・今年度のボランティア活動の振り返りを行い、3つのテーマに絞りグループで情報共有を行う。 ・「建学の精神」をもとにしたボランティア活動の具現化を図るため、グループで情報共有を行う。 ・情報共有した内容をもとにパワーポイントにまとめ発表できるように資料を作成する。 ・1年間実施したボランティア活動からの学び、課題、後輩に伝えたいことをグループに分かれてまとめる。 【key word】 ・建学の精神　ボランティア　具現化　課題　情報共有 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ボランティア活動のまとめをパワーポイント資料にまとめ提出する。
	第２９回　地域貢献プログラム⑨　1年間のボランティア活動報告会 ・2年次におけるボランティア活動報告会に参加し、他の学生のボランティア活動の内容や学びを共有する。 ・また、報告会では看護研究セミナーで学習した発表態度、発表時における質問方法について実践する。 【key word】 ・建学の精神　ボランティア　具現化　発表態度 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の振り返り用紙に記入し提出する。
	第３０回　建学の精神と実践プログラム⑤　　1年間の目標評価 ・年度末オリエンテーション ・1年間の自己評価、次年度に向けて自己課題の明確化を振り返り用紙を用いて行う。 【key word】 ・建学の精神　目標　自己評価　自己課題 【課題・予習・復習・授業準備】 ・指定の用紙に1年間の振り返りを記入し提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 1　基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は、建学の精神と実践教育プログラムに含まれるので必ず

	出席すること。 〔受講のルール〕 1　授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 2　授業を受ける際、課題に取り組む際には基礎演習Ｉにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループ　ワークのあり方など）を活用すること。 3　資料の取り扱い。「授業で配布する資料の予備は保管しませんので，出席者からコピーをしてください」
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。 グループワークはリーダーシップ・メンバーシップを発揮しながら学習していくことが重要である。
オフィスアワー	授業時に提示する。
評価方法	演習への取組・内容等（30%）、研究小論文（40%）、クラス課題等の提出物（30%）を総合して評価する。
教科書	・『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎演習Ⅱは生活指導から学習指導まで幅広く学生と関わりを持つ科目である。 医療機関で医療従事者として実践経験のある教員がクラス担任となり生活指導や学習指導にあたり２年生の学生生活を支援する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　総合演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	1単位（30）	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学士力や問題解決能力等を基にして、高度な総合知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である卒業研究・制作では、総合演習Ⅱにおいて完成するべく、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。 ②臨床実習における看護実践を通して、自己の看護研究のテーマを探究する。 ③昌賢祭やボランティアでの総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。	○	○	◎	○
②臨床実習における看護実践を通して、自己の看護研究のテーマを探究する。	○	◎	○	○
③昌賢祭やボランティアでの総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。	○	○	○	◎

④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション 【key words】 前期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 前期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 総合演習Ｉの内容と評価方法について説明する。 クラスごとに学生委員会を決定し、各委員会の委員長・副委員長を選出する。 【教科書ページ・参考文献】 一年間の自己目標、国試対策年間計画等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活基礎調査シート、環境調査票、自己目標等の提出物を期限内に提出すること。
	第２回	地域貢献プログラム①　地域との深まりについて（１）ボランティア報告会準備 【key words】 建学の精神、ボランティア活動 【授業概要】 地域との深まりについて（１）ボランティア報告会準備 合同ボランティア報告会に向けて発表者の決定と報告会の発表リハーサルを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表練習を行う。発表用パワーポイントデータを指定された教室のPCデスクトップに保存する。
	第３回	地域貢献プログラム②　地域との深まりについて（2）学年合同ボランティア活動報告会 【key words】 建学の精神、ボランティア活動 【授業概要】 地域との深まりについて（2）合同ボランティア報告会 合同ボランティア報告会に積極的に参加し学びを共有することで、これまでのボランティア活動を振り返り、今年度の目標と計画を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目標シート、成長報告書等を指定の用紙に記入し提出する。
	第４回	心身の健康プログラム①　心身の充実について（１）親睦スポーツ大会の準備 【key words】 建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【授業概要】 心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会の準備 大会に向けて、バレーボール、バスケットボール、ドッチビー、長縄、グランドゴルフの各競技ごとに練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 体調を整え大会に参加できるよう自己管理を行う。
	第５回	心身の健康プログラム②　心身の充実について（2）親睦スポーツ大会 【key words】 建学の精神　チームワーク　自己研鑽 【授業概要】 心身の充実について（2）　親睦スポーツ大会の参加 学園の「建学の精神」のもと、スポーツを通じて青春を謳歌し、友情を深めながら充実した学生生活の一助にするため親睦スポーツ大会に参加する。スポーツマンシップに則り、種目別ごとにチームワークを高める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 スポーツ大会参加レポートを指定用紙に記入し期限内に提出する。
	第６回	建学の精神と実践教育プログラム②　夏期オリエンテーション 【key words】 夏期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 夏期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行うとともに、前期の振り返り　夏期休暇中の活動について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー参加レポート、長寿作文応募用紙等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー参加レポート、長寿作文等の提出物を期限内に提出すること。
	第７回	学士力育成プログラム①　看護研究セミナー発表会 【key words】 学士力育成、看護研究 【授業概要】 学士力育成プログラム①　看護研究セミナー発表会参加 ４年生の看護研究セミナー発表会に参加し、研究のすすめ方、研究方法等を学ぶ。さらに実習の学びを看護研究に結び付けて考えることで、自らの看護研究計画書作成の参考にする。 事前に配布する看護研究セミナー抄録集を参照し、興味・関心のあるテーマを選んで参観する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー抄録集、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー課題1・2を作成し、期限内に提出する。

	第８回	学士力育成プログラム②　看護研究セミナー発表会 【key words】 学士力育成、看護研究 【授業概要】 学士力育成プログラム②　看護研究セミナー発表会参加 ４年生の看護研究セミナー発表会に参加し、研究のすすめ方、研究方法等を学ぶ。さらに実習の学びを看護研究に結び付けて考えることで、自らの看護研究計画書作成の参考にする。 事前に配布する看護研究セミナー抄録集を参照し、興味・関心のあるテーマを選んで参観する。 【教科書ページ・参考文献】 看護研究セミナー抄録集、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 看護研究セミナー課題1・2を作成し、期限内に提出する。
	第９回	進路・資格取得プログラム①　看護師資格試験対策講座 【key words】 進路・資格取得、看護師資格試験対策講座 【授業概要】 進路・資格取得プログラム①　看護師資格試験対策講座 看護師資格試験対策講座に参加し、看護師国家試験に向けての心構え、過去問題の傾向、学習の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対策講座で学習した内容を復習し、国試対策年間計画の修正を行う。
	第１０回	建学の精神と実践教育プログラム③　秋期オリエンテーション・合同環境美化活動 【key words】 秋期オリエンテーション、建学の精神、合同環境美化活動 【授業概要】 秋期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 総合演習Ｉの内容と評価方法について確認する。後期に向けて目標の修正や追加をする。 合同環境美化活動を行い学内外における環境美化活動の徹底を図る。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。
	第１１回	地域貢献プログラム③　地域との深まりについて（３）昌賢祭 【key word】 建学の精神　昌賢祭 【授業概要】 地域との深まりについて（３）　昌賢祭 全学部が一体となり協力して昌賢祭を成功させるため学生委員会が中心となり準備、当日運営を行う。 企画展示（ピアカウンセリング）に向けての準備を行う。 【教科書】 ・配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備】 昌賢祭参加レポートを記入し期限内に提出する。
	第１２回	建学の精神と実践教育プログラム④　冬期オリエンテーション 【key words】 冬期オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 冬期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 後期に修正した目標および臨地実習について振り返りを行い、4学年に向けで進路について考える。 冬期休業中の生活に関する諸注意、ボランティア活動等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。
	第１３回	建学の精神と実践教育プログラム⑤　新春オリエンテーション 【key words】 新春オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 冬期オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 後期に修正した目標および臨地実習について振り返りを行い、4学年に向けで進路について考える。 冬期休業中の生活に関する諸注意、ボランティア活動等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。
	第１４回	進路・資格取得プログラム②　就職試験対策 【key words】 就職試験対策、就職作文模試、就職説明会 【授業概要】 進路・資格取得プログラム② 就職試験としての就職作文模試を行い、進路について具体的な展望を持ち計画的な就職活動について考える。 3月に実施される就職説明会の概要を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作文模試をとおして、自らの課題を明確にし課題解決のための手立てを探る。

	第１５回　　建学の精神と実践教育プログラム⑥　年度末オリエンテーション 【key words】 年末オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 年末オリエンテーションにて学長訓話、学部長講話、各委員会からの諸連絡を行う。 一年間の自己目標用紙を用いて1年間の自己評価を行い、次年度に向けて自己課題を明確化する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各種提出物を期限内に提出すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講に関わる情報］ １　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること（貢献度が評価となる）。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。学修その他の活動に積極的に取り組み、提出物等の作成に当たっては予習復習を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後の60分間
評価方法	提出物（55%）、演習への取り組み（45%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」鈴木利定・中田勝、中央法規、2002年
参考書	「知のナヴィゲーター」くろしお出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　総合演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(30)	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 本学の建学の精神・教育目標に基づき、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰで身に付けた基礎学士力や問題解決能力を基盤にして、資格取得に向けての高度な専門的知識の修得とプレゼンテーション能力の育成を目指すことを目的とする。また、礼儀、環境美化活動、ボランティア、進路決定等に自主的に取り組み、実習を通じ身に付いた実践力をさらに高め「仁愛」の精神を持つ自立した社会人になるためのスキルアップを図る。 [到達目標] ①礼儀･挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②看護専門職者として、マナー及び問題解決能力を身に付け、主体的に行動できる。 ③資格取得および専門性について理解を深め、各自の目標・課題に向かって自己研鑽できる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自律的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①礼儀･挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。	○	○	◎	○
②看護専門職者として、マナー及び問題解決能力を身に付け、主体的に行動できる。	○	◎	◎	◎
③資格取得および専門性について理解を深め、各自の目標・課題に向かって自己研鑽できる。	○	○	○	◎
④				
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　建学の精神と実践教育プログラム①			

【key words】
オリエンテーション、進路、国試対策

【授業概要】
・前期オリエンテーションでの学長訓話や学部長講話を通して、今年度の学生生活のあり方について考える。
・総合演習Ⅱの内容等のオリエンテーション
・進路、国試対策の今後の予定について

【教科書ページ・参考文献】
国試対策年間計画表ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
進路希望を明確にしておくこと。

第２回　地域貢献プログラム①　学年合同ボランティア活動報告会（全学年合同）
【key words】
ボランティア、合同報告会

【授業概要】
全学年合同でボランティア活動の報告会を行い、学び合う。

【教科書ページ・参考文献】
ボランティア活動記録簿

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今年度のボランティア活動の目標と年間計画を立て、期日までに提出する。

第３回　進路・資格取得③上毛新聞看護職ガイダンス・さわ国家試験対策講座
【key words】
進路、就職ガイダンス、国試対策

【授業概要】
上毛新聞社の就職ガイダンスおよび国試対策講座に参加し、今後の就職試験や国試対策の具体的な計画を考える。

【教科書ページ・参考文献】
進路の手引き

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ガイダンスで説明を受ける予定の病院を調べておくこと。
プロフィール用紙に記入しておくこと。

第４回　進路・資格取得プログラム③：就職試験に向けて（面接マナー、履歴書の書き方等）
【key words】
就職試験、面接マナー

【授業概要】
・履歴書の書き方を学ぶ。
・面接のロールプレイを通して、面接時のマナーについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
進路の手引き

【課題・予習・復習・授業準備指示】
進路の手引きを読んでおくこと。

第５回　学習統合プログラム①　統合実習事前課題グループワーク
【key words】
施設・病棟統合実習、グループワーク

【授業概要】
統合実習の事前課題である事例について実習グループで検討する。

【教科書ページ・参考文献】
事前学習シート、事例集

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、事前に提示されている用語を調べたうえでグループワークに参加すること。

第６回　心身の健康プログラム①健康と体力（親睦スポーツ大会）
【key words】
心身の健康、スポーツ大会

【授業概要】
バレーボール、バスケットボール、ドッヂビー、長縄、グランドゴルフのいずれかの競技にエントリーし、親睦スポーツ大会に参加する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各競技ごとに練習をして臨む。

第７回　学習統合プログラム②　統合実習事前課題グループワーク
【key words】
施設・病棟統合実習、グループワーク

【授業概要】
統合実習の事前課題である事例について実習グループで検討する。

【教科書ページ・参考文献】
事前学習シート、事例集

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例検討の事前学習シートの記録を進めておくこと。

第８回　建学の精神と実践教育プログラム②　夏期オリエンテーション
【key words】
オリエンテーション、国試対策

【授業概要】
・夏期オリエンテーションを通して、前期の振り返りを行なう。
・夏季休暇中における国試対策の計画を立てる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・国試対策セルフモニタリングシートを用いて前期の国試模試の振り返りを行い、夏季休暇中に計画的に学習を行うこと。

第９回　建学の精神と実践教育プログラム③　秋期オリエンテーション
【key words】
オリエンテーション、後期

【授業概要】
・後期の予定について説明する。
・国試受験までのスケジュールの概要を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１０回　建学の精神と実践教育プログラム①　灑掃の応対（環境美化活動）について　学生と学生との学び合い　（意義・実践方法）
【key words】
環境美化活動、学び合い

【授業概要】
・環境美化活動について、他学年混合のグループで学び合う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１１回　建学の精神と実践教育プログラム①　灑掃の応対（環境美化活動）について　学生と学生との学び合い　（意義・実践方法
【key words】
環境美化活動、実践

【授業概要】
・緩急美化活動の実践を通して、美化活動の意義を理解し、効果的な実践方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１２回　進路、資格取得プログラム③：資格取得に向けての心構え・手続き・準備等について（写真撮影・願書下書き）
【key words】
国家試験、願書

【授業概要】
・国家試験の願書の書き方、必要書類などの説明を行う。
・願書の証明写真の撮影を行う。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業までに、必要な書類等を準備し、願書の下書きを記入しておくこと。

第１３回　進路、資格取得プログラム⑥：資格取得に向けての心構え・手続き・準備等について（願書清書）
【key words】
国家試験、手続き、心構え

【授業概要】
・必要書類の確認、国試願書の作成を行う。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１４回　学習統合プログラム②：教育講話
【key words】

	講話 【授業概要】 ・臨床で役立つコミュニケーションに関する講話。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１５回　建学の精神と実践教育プログラム①　年度末オリエンテーション　１年間の総括：自己点検・自己評価 【key words】 オリエンテーション、年度末 【授業概要】 ・1年間の振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	・専門演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ・私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ・各種オリエンテーション、教員が指示する学校行事・模擬試験には必ず出席すること。3分の2以上の出席日数がないと単位が認められない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	クラス担任との個別面談時に確認する。
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。自主的に学習する姿勢が大切であり、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外での自己学習が必要である。
オフィスアワー	授業終了後、当日の18時まで。
評価方法	提出物（４0%）、演習への取り組み（６0%）を総合して評価する。（詳細な評価基準については授業初回に別紙配布）
教科書	鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　チームケア入門Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ねらい「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 ①　事例を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 ②　事例を通して、多職種連携の必要性、連携上の留意点を討議することができる。 ③　チームケアの目標について考えることができる。 ④　チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、学部・短大の枠を超えて3学部1学科合同チームによる「チームケア教育」を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①事例を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。	◎	◎	◎	◎
②　事例を通して、多職種連携の必要性、連携上の留意点を討議することができる。	◎	◎	◎	○
③チームケアの目標について考えることができる。	◎	◎	◎	○
④チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　〝科目のオリエンテーション　　福祉・教育・リハビリ・看護職の機能と役割・チームケアの目的、多職種連携 [授業概要]科目の概要・進め方等のオリエンテーションにより2年次のチームケア教育の目標を確

		認、自身の取り組み姿勢を考える。 [keywords]チームケア教育・多職種連携・福祉・リハビリテーション・看護 [教科書ページ・参考文献]　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]　夏休み前に配布した調べ学習の指定個所の整理をして臨む。
	第２回	担当事例に関する調べ学習　自職種の特徴を踏まえ何ができるかをまとめる [授業概要]担当事例に関する調べ学習の情報交換と共有を図る。 　　自職種の特徴を踏まえ事例を通して多職種連携における自職種として何ができるかをまとめる。 [keywords]地域特性・アセスメント・リハビリ・福祉職・看護職の対象把握の特徴・各職種の役割 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備] 夏休み前に配布した調べ学習の指定個所の内容を深める、各グループ毎次回合同演習までの課題について確認する。
	第３回	担当事例に関して自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる [授業概要]学部毎課題を進める。担当事例に関する調べ学習の情報交換と共有したことを深める。 　事例を通して多職種連携における自職種として何ができるかをまとめる。 　（担当事例に関するアセスメントをし、課題・問題点を明確にし、自職種ができることやるべきこと　をまとめる） [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備] チームケア入門資料集・ワークシートの内容を深める、各グループ毎次回合同演習での課題について整理する。
	第４回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにする。 [授業概要]学部毎課題をの共有進める。担当事例に関する調べ学習の情報交換と共有したことを深める。 　事例を通して多職種連携における自職種として何ができるかをまとめる。 　（担当事例に関するアセスメントをし、課題・問題点を明確にし、自職種ができることやるべきこと　をまとめる） [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備] チームケア入門資料集・ワークシートの内容を深める、各グループ毎次回合同演習での課題について整理する。
	第５回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにする。 [授業概要]学部毎学習課題の共有をし、各職種ごと事例について自職種ができることについて深める。 　事例を通して多職種連携における自職種として何ができるかをまとめる。 　（担当事例に関するアセスメントをし、課題・問題点を明確にし、自職種ができることやるべきこと　をまとめる） [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備] チームケア入門資料集・ワークシートの内容を深める、各グループ毎次回合同演習での課題について整理する。
	第６回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部による報告会 [授業概要]３学部の合同グループ毎に学習課題について、自職種のやるべきことを明確にし、担当事例への援助の過程について報告の準備をする。 [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備]明確化した事例の各学部の課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告する。
	第７回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部での報告会 [授業概要]３学部の合同グループ毎に学習課題について、自職種のやるべきことを明確にし、担当事例への援助の過程について報告の準備をする。 [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備]明確化した事例の各学部の課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告する。
	第８回	事例に関する自職種・多職種の役割、チームケアにおける多職種連携のあり方について考える チームケア教育の一連について振り返り、 [授業概要]３学部全体での合同報告会を通じて、他のグループからの気づき・学びについて確認をする、また本科目の全過程を通じての自身の取り組み姿勢を振り返り自己評価する。 [keywords]地域特性・社会資源活用・アセスメント計画立案・全体報告会・自己評価 [教科書ページ・参考文献]　配布資料　チームケア入門資料集・ワークシート [課題・予習・復習・授業準備]　終了後評価表の記入、ワークシートに自己の振り返りを記入、提出をする。
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：教科書を読んでくる。指示された事例を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード方式	

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱とする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
オフィスアワー	授業時間終了後18時まで。
評価方法	①グループワークの参加度20％・演習課題３０％（提出期限を遵守する）。②チームケア学部関連携教育評価表 ③総合評価は、グループワークの参加度・演習課題を合わせて60％以上を超えていることが前提
教科書	鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.
参考書	1. 川島みどり：チーム医療と看護、看護の科学社,2014 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015 3. 嶋崎謙二：看護白書、平成26年版、日本看護協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院（急性期・慢性期・外来）経験あり、介護老人保健施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション、病院退院調整部署の研修体験あり。本科目開講は３年目を迎えるが、開講準備から関わっている。多職種連携に関する研究は複数ある。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　住環境福祉論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
村山　明彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】高齢者・障害者が地域で生活する基盤となる住環境はどうあるべきかを理解する。また住環境整備の方法を学ぶことで、実際に問題解決を提案出来る能力を養うことを目的とする。 【到達目標】①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。 ②他職種との連携の意義を理解し、その必要性を説明することができる。 ③生活行為別に住環境整備の提案を行うことができる。
授業の概要	地域で生活する高齢者や障害者に対し、その生活を維持・向上させるという視点を持って関わることは重要である。 住みやすい住環境とは何か、どのように生活に介入するべきか考えることを重視する。 また住環境福祉コーディネーター検定試験２級公式テキストの内容に準拠した授業を展開することで、資格取得にも役立てる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①		○	◎	
②			◎	
③				○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題 【key word】少子高齢社会の現状と課題 住環境、少子高齢化地域で生活する高齢者や障害者に対し、生活を改善するという視点を持って関わる事は重要である。住みやすい住環境とは何か、どのように生活を改善すべきかを考える。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.2-6 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/ 第２回　ユニバーサル社会の実現の意義　小テスト① 【key word】ユニバーサル社会 ユニバーサル社会の実現の意義について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp8-10 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ

	https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 第３回　日本の住環境の問題点　小テスト② 【key word】日本の住環境 日本の住環境の問題点について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.105-111 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 地域理学療法診療ガイドライン http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/21_local_physiotherapy.pdf 在宅医療に関するエビデンス https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20150513_01_01.pdf 第４回　障害のとらえ方　小テスト③ 【key word】障害のとらえ方 障害のとらえ方について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.76-82 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページhttp://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryo/0609 第５回　高齢者の健康と自立　小テスト④ 【key word】高齢者の健康と自立 高齢者の健康と自立について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.83-90 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省　健康増進法の概要 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf 消費者庁　健康や栄養に関する表示の制度について http://www.caa.go.jp/foods/index4.html 第６回　バリアフリーとユニバーサルデザイン　小テスト⑤ 【key words】バリアフリー、ユニバーサルデザイン バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試?2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.116-146 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 国土交通省　バリアフリー新法の解説 http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/explanation/kaisetu/kaisetu_.pdf 第７回　福祉住環境整備とケアマネジメント　小テスト⑥ 【key word】ケアマネジメント 福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.192-230 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省　地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 第８回　生活行為別にみた安全・安心・快適な住まい　小テスト⑦ 【key word】生活行為 生活行為別にみた安全・安心・快適な住まいについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂4版＞pp.259-306 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 日本理学療法士協会　EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ また、1回から7回目までの内容を復習し、自身の考える住環境福祉についてプレゼンテーションできるよう準備しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	①第２回から第８回の授業で、福祉住環境コーディネーター試験問題に準拠した小テストを実施する。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（ＰＣ・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。また予習や課題の実施を前提に授業を進める。
オフィスアワー	授業終了後３０分は対応可能である。
評価方法	小テスト７０％、レポート３０％
教科書	東京商工会議所編・出版：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト　改訂4版

参考書	授業中に随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く経験している。 また、生活支援理学療法（安全管理・環境調整を含む）を専門としている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疫学・保健統計の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
藤田　晴康			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】看護を実践するにあたって、Evedence-based medicine(EBM)の概念を理解することは不可欠です。目の前にいる一人の対象者（患者）・家族、地域住民に対して、より良い医療・ケアを提供しようとするとき、Evidence-Based Medicine(EBM)のアプローチが役立ちます。 EBMとは、疫学的なアプローチにより判明した根拠に基づいて医療を行うことを指します。 EBMの実践に当たり、漠然とした臨床的な疑問について、本質をとらえて文献を探し、該当する文献を批判的に読むための基礎力が必要です。本講義では、EBMの初歩として疫学的な発想(クリティカルシンキング)、研究デザイン、実際の解析方法について、基礎的知識を身につけます。 【到達目標】 1)EBMの概念を理解し、疫学的アプローチの必要性を理解できる 2)疫学研究が示す内容を理解することができる 3)グループワークを通して、EBMを基盤としたプレゼーテーション及びディスカッションができる
授業の概要	疫学の歴史と概念、疫学の研究方法、疾病頻度の各種指標、保健統計調査の種類内容、スクリーニングの意味と注意点、主な疾患の疫学、疫学で使用される統計学の基礎を学習します。グループ演習・問題演習の中で知識の確実な定着をはかりる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 授業オリエンテーション　疫学の歴史と概念 第２回 疫学研究の概念　標本抽出、バイアスと交絡因子、因果関係、第１～２回の範囲の問題演習 第３回 疫学におけるさまざまな研究デザイン（記述研究、横断研究、介入研究） 第４回 疫学におけるさまざまな研究デザイン（症例研究、コホート研究） 第５回 第３～４階の範囲の問題演習 第６回 疫学頻度の指標 第７回 保健統計調査 第８回 スクリーニング

	第９回 第６～８回の範囲の問題演習 第１０回 主な疾患の疫学①（感染症） 第１１回 主な疾患の疫学②（がん、生活習慣病、精神疾患）、第１０～１１回の範囲の問題演習 第１２回 統計の基礎①（データの扱い、データの散布、分布） 第１３回 統計の基礎②（推定、検定、Ｘ２検定、ｔ検定） 第１４回 第１２～１３回の範囲の問題演習 第１５回 問題演習
受講生に関わる情報および受講のルール	■講義中に、適宜、一人で考える時間や、学生同士で話し合う時間をとります。 ■新しく覚える言葉や公式が非常に多い分野です。積極的に出席・参加することで、最低限の言葉を覚えて、使いこなせるようになるまで慣れておくことが必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	他教科書に比べてですが、テキストは薄く、最重要事項が厳選されています。完全にマスターすれば、看護師国家試験および保健師国家試験の基礎における疫学・保健統計領域の問題が正解できるようになります。 試験勉強の際にご自身でノートを作成し、国家試験の前に見直せるように整理しておかれることをお勧めします。
オフィスアワー	授業終了直後に質問すること。
評価方法	筆記試験60%　課題レポート25%　各回での考察10% これらに時間外学習の取り組みを加算する
教科書	看護学生のための疫学・保健統計　改定２版　浅野　嘉延　著　南山堂
参考書	国民衛生の動向：厚生の指標　厚生労働統計協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ☐実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ☐協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会保障制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １人ひとりが自らの責任と努力によって生活を営んでいますが、社会保障制度は、私たちのセーフティネットの機能を持っており、私たちの生活を生涯に渡って支え、基本的な安全・安心を与えている。社会保障制度について理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の用語及び歴史的理解。 ２．社会保障制度の目的・体系の理解。 ３．社会福祉及び国民生活への政策の理解。
授業の概要	医療対象者あるいは雇用労働者にとっての社会保障制度の内容や役割などを医療従事者として理解できるように授業を展開する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 第１章　社会保障制度と社会福祉について 第２回 第３章　医療保障制度の沿革と構造・体系について 第３回 第３章Ｄ　高齢者医療制度 第４回 第４章　介護保障創設の背景について 第５回 第４章Ｂ　介護保障創設の概要について 第６回 第５章　所得保障 第７回 第５章Ｂ　年金保険制度の仕組みについて 第８回 第５章Ｄ　労働保険制度について及びまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を使い、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	必要に応じて資料配布する。
オフィスアワー	授業終了後15分
評価方法	期末試験（80%），ミニテスト（10%），課題提出（10%）
教科書	系統看護学講座『社会保障・社会福祉（健康支援と社会保障制度③）』第16版　医学書院
参考書	随時提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
新木　恵一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 我が国の福祉制度を理解し、クライエントの支援を関係者（機関）と共に実施する力を身につける 【到達目標】 人は生まれてから、亡くなるまで様々な歩みをする。そうした中で、例えば貧困に陥ることもあるだろうし、障害に悩む時など様々な障壁を体験する。そうした中で自力で解決できることもあれば、それが困難な場合も発生する。そうしたした時看護の専門職としての必要な知識を活かして関係者とともに支援をすることが出来ればクライエントにとって何よりも心強いものがある。そうした支援の知識を本教科により修得することを目標とする。
授業の概要	我が国における福祉制度について、その成り立ちと共に大きく変貌している制度（福祉六法）を中心にその周辺領域までをも含んだ知識を高めるために可能な限り具体的な霊地とうを含めての事業を展開する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 社会福祉の法制度と社会福祉の歴史 第２回 現代社会の変化と社会福祉の動向 第３回 公的扶助と貧困対策 第４回 高齢者福祉の状況と施策 第５回 障害者福祉の状況と施策 第６回 児童福祉の状況と施策 第７回 社会福祉の実践（援助技術を中心に） 第８回 社会福祉の実践（援助の課題と地域連携について）
受講生に関わる情報および受講のルール	必ず事前に授業の範囲を読んでくること。新聞等から福祉情報を習得しておくこと。積極的に授業に参加すること。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	身近なところ（地域）でどのような福祉課題があるか考察しておくこと
オフィスアワー	別途指定する
評価方法	筆記試験８０％　授業参画状況等２０％
教科書	系統看護学講座『社会保障・社会福祉（健康支援と社会保障制度③）』第１８版　医学書院　2017
参考書	『２０１７年度版　医療福祉総合ガイドブック』NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会　2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　医療と倫理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
菅沼　澄江　西山　智春　酒井　美子　島田　壽美子　多田　真和　林　博			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	古くは古代ギリシャのヒポクラテスにまで辿ることのできる医の倫理は、日本においては医道として認識されており、１年次で履修した「哲学」において、その基盤はできていると確信する。本講義では、近年の医学における急速な進歩に伴う新たな医療行為に伴って生じる、倫理的問題について学習し、将来の諸君の取るべき立場について、考えを固めることを目的とする。自分が、自分の両親や子供が授業で提示されるような状況になった場合に、迷うことなく決断し、行動することができることを、到達目標とする。
授業の概要	まず、医療の歴史を顧みて、その中で生まれてきた倫理的問題を理解する。その後各分野の専門家による近年の医療や情報科学の進歩に伴う、新たな医療倫理上の問題点を提示し、学生諸君に考えてもらう。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①医療の歴史と倫理、医学の発達とその過程で生じた諸問題について考えることが出来る。	◎	△	◎	○
②生殖医療がもたらす倫理的問題点について考えることができる。	◎	△	◎	○
③医療情報の取り扱いについて理解することが出来る。	◎	△	◎	○
④脳死、臓器移植の現状と倫理について考える事が出来る。	◎	△	◎	○
⑤遺伝子医療の現状と倫理について考えることができる。	◎	△	◎	○
⑥安楽死の現状と倫理について考えることができる。	◎	△	◎	○

授業計画	第１回　医療の歴史と倫理　Ｉ　：　医学とは何か？医療とは？医道とは？人間の生命を考える 【key words】 医療の歴史　医の倫理　生命倫理　QOL 【授業概要】 医学とは何か？医療とは？医道とは？人間の生命を考える。 【教科書ページ・参考文献】

	①日野原重明著：系統看護学講座　別巻　医学概論　p 2-21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読する。 第２回　医療の歴史と倫理　Ⅱ　：　医学の発達とその過程で生じた諸問題 【key words】 医学の発達　　ヒポクラテス　　医療倫理　看護師の養成　看護倫理 【授業概要】 医学の発達とその過程で生じた諸問題について考える。 【教科書ページ・参考文献】 ①日野原重明著：系統看護学講座　別巻　医学概論　p 24-48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを熟読し、グループワークに参加する。 第３回　生殖医療における倫理　：　新たに生命をつくり出すことが可能となった生殖医療上の問題について学習する 【Key words】 生殖医療の現状　倫理問題 【授業概要】 人工妊娠中絶と生殖医療の現状と倫理問題 【教科書ページ】 配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の講義内容をまとめておくこと 第４回　医療情報の取り扱いⅠ　：　インフォームドコンセント、守秘義務、情報開示　などを理解する 【keyword】説明・同意・家族・看護者 【授業概要】医療情報の取り扱いⅠ　：　インフォームドコンセント、守秘義務、情報開示　などを理解する 【教科書ページ】 263P～268P第6章患者の権利 【意見・予習・復習・参考文献】 授業内容をまとめ実習に使用できるようにしておく 第５回　脳死、臓器移植の現状と倫理 臓器移植について自分はどのように考えるか、自分、家族の立場で考える。 外科学、免疫学の進歩によって可能となった臓器移植により生じる倫理的問題を学習する。 また、臓器移植に関する法律を理解し、移植時に起こりうる治療者の倫理的ジレンマとその対処（課題）について考察する。 第６回　医療情報の取り扱いⅡ　：　臨床研究上生ずる倫理の問題点を理解し、それらを審査する倫理委員会への理解を深める 【kerword】情報・個人・倫理・人権 【授業概要】医療情報の取り扱いⅡ　：　臨床研究上生ずる倫理の問題点を理解し、それらを審査する倫理委員会への理解を深める。 【教科書ページ】 267P～247P第7章個人情報保護 【課題・予習・復習・参考文献】 授業内容をまとめ実習に使用できるようにしておく 第７回　遺伝子医療の現状と倫理　：　分子生物学の進歩により可能となった遺伝子医療の現状の一断面から、倫理的問題を考える 【key words】遺伝、ゲノム情報、治療、課題、看護 【授業概要】ゲノム医療などに関する課題　1)臨床応用①遺伝学検査の品質・制度管理　②遺伝学検査の結果の伝え方　③ゲノム医療機関　2) 社会環境　①遺伝情報に基づく差別の防止等　②国民への啓発普及については、グループワークを通して医療者の役割について考察する。 【教科書ページ・参考文献指示】 医療概論　p112～121 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現在実施されている遺伝子検査について調べておくこと。 第８回　安楽死（がん末期）の現状と倫理　：　死を迎えるにあたっての考え方の多様化を、がん末期を例に学習する 【Key　words】 安楽死、尊厳死、ホスピス 【授業概要】 安楽死に対する考え方の時代による変化、現状の高齢社会において、死に対する自身の考えを表現できる ようカレン裁判を例に挙げて解説する。 【教科書ページ】 P. 275～286 【課題・予習・復習指示】 本日の講義内容を踏まえ、死に対する自身の考えをまとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	私語厳禁。注意をしても私語をやめない者は、退出させる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	報道（新聞、テレビ、ネット）などで話題になる、医療の進歩に伴う諸問題は、現在の諸君にとっては、経験したことがなく、身近な問題でない場合がほとんどであろう。しかし、自分が授業中に提示されるような立場に立った場合に、どのような決断をし行動がとれるかが定まっていなければ、将来現場出ても、患者さんを救うことはできない。答えは１つでなく、正解がない場合もあるが、常に自

	分が同じ対場に立った場合に、どのような行動をとるかを、授業中、授業後の復習において、考えをまとめること。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	全講義完了ののちに行う筆記試験により判定する
教科書	医学概論：日野原重明　著、　医学書院　　学生のための医療概論：千代豪昭/黒田研二　編、医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護と医療過誤　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	必修
担当教員			
源内　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 医療安全に対する知識を理論と根拠を踏まえ理解し、　医療事故防止についての意識を高めることができる。 【到達目標】 ①医療安全の基本的な知識を説明できる。 ②看護業務の範囲と責任について説明できる。 ③ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 ④事故報告の意味と必要性について説明できる。
授業の概要	①医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割について学習する。 ②医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①医療安全の基本的な知識を説明できる。	◎	◎	◎	◎
②看護業務の範囲と責任について説明できる。	◎	◎	◎	◎
③ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。	◎	◎	◎	◎
④事故報告の意味と必要性について説明できる。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 科目のオリエンテーション　　医療安全と看護の理念　事故防止の考え方 第２回 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 第３回 診療の補助の事故防止（Ⅰ）患者に投与する業務の事故防止 第４回 診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止

	第５回 看護における医療事故と安全対策　療養上の世話の事故防止。継続中の危険な医療行為と療養上の世話の事故防止の相違が理解できるようディスカッションを行う。 第６回 医療安全とコミュニケーション、学生間で、前回までの講義の振り返りを行い、学生間の共有を図る。 第７回 医療事故後の対応　医療コンフリクト・マネージメントについて。 第８回 危険予知（KYT)による医療安全（トレーニング）発表。事例から危険を予知する訓練を行い、学生間で発表する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・欠席や遅刻をする場合は必ず担当者に連絡をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨むと理解しやすい。分からない部分は授業の中で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後から18：00まで
評価方法	筆記試験80%、レポートの提出20%、その他グループワークや授業への取り組み、出席状況等加味する 総合評価は筆記試験、レポート等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1　川村治子編集：系統看護学講座　看護の統合と実践②「医療安全」医学書院 2　河村治子編集：医療安全ワークブック　医学書院
参考書	１．杉山良子編著：ナースのための危険予知トレーニングテキスト，MCメディカ出版，2013. ２．長野展久著：看護自己の舞台裏　22事例から徹底的に学ぼう，医学書院，2016. ３．石井トク著：医療事故 看護の法と倫理の視点から，MCメディカ出版，2013.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病院内のマネジメントで重要な医療安全管理の経験を有している教員による講義である。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護方法論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林　洋子　菅沼　澄江　上田　葉子　中嶋　朋子　内田　佳代			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 ヘンダーソン看護論の理論枠組みを使用した思考のプロセスをとおして、看護実践方法を理解する。 【到達目標】 １．事例について必要となる解剖生理、病態生理、治療、看護の要点についてまとめることができる。 ２．基本的欲求１４項目に合わせて、常在条件・病理的状態からアセスメント（情報収集、分類・整理、解釈・分析、統合）し記述する。 ３．事例の看護問題を明確にして記述することができる。 ４．事例に応じた計画を具体的に立案し記述することができる。 ５．実施・評価について説明できる。
授業の概要	個人ワークとグループワークにより能動的に学習する科目である。 提示した事例について、既習の知識を活用し、患者に必要な看護について考え、指定用紙に記述していく。　個人ワークで学習した結果を発表し、様々な考え方、まとめ方を知る。 グループワークにより、より良い看護実践について考える学習とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①事例について必要となる解剖生理、病態生理、治療、看護の要点についてまとめることができる。	◎	◎	◎	◎
②基本的欲求１４項目に合わせて、常在条件・病理的状態からアセスメント（情報収集、分類・整理、解釈・分析、統合）し記述することができる。	◎	◎	◎	◎
③事例の看護問題を明確にして記述することができる。	◎	◎	◎	◎
④事例に応じた計画を具体的に立案し記述することができる。	◎	◎	◎	◎

⑤実施・評価について説明できる。	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション　看護過程の復習　事前学習課題の確認　（講義）

【key words】
看護過程　看護過程の構成要素　事例　事前学習課題
【授業概要】
１．科目オリエンテーション
２．看護過程とは何か、看護過程の構成要素
３．演習事例を紹介
４．事前学習課題の説明と必要性
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習課題の不足している部分を追加してくる。

第２回　事例展開　プロフィールシート作成　（講義）

【key words】
事例　プロフィールシート　事前学習課題
【授業概要】
事例内容を読み取りプロフィールシートを作成する。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習課題の不足している部分を追加してくる。

第３回　基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント（講義・演習）

【key words】
ヘンダーソン　14の基本的欲求　常在条件　病理的状態
【授業概要】
基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　情報の分類
１．ヘンダーソンの14の基本的欲求
２．基本的欲求に影響を及ぼす常在条件
３．基本的欲求を変容させる病理的状態
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類をしてくる。

第４回　基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント（演習・発表）

【key words】
ヘンダーソン　14の基本的欲求　常在条件　病理的状態
【授業概要】
１．基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類
１）ヘンダーソンの14の基本的欲求
２）基本的欲求に影響を及ぼす常在条件
３）基本的欲求を変容させる病理的状態
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント、情報の分類をしてくる。

第５回　基本的欲求の充足に関する分析・解釈　（講義・演習）

【key words】
分析　解釈　分析・解釈の視点　充足　未充足
【授業概要】
１．情報の分析・解釈を行う。
２．分析・解釈の視点の方法を学ぶ。
３．充足・未充足を検討する。
４．未充足の原因、誘因を検討する。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する分析・解釈で不足している部分を追加してくる。

第６回　基本的欲求の充足に関する分析・解釈　（演習）

【key words】
分析　解釈　分析・解釈の視点　充足　未充足
【授業概要】
１．情報の分析・解釈を行う。
２．分析・解釈の視点の方法を学ぶ。
３．充足・未充足を検討する。
４．未充足の原因、誘因を検討する。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する分析・解釈で不足している部分を追加してくる。

第７回　基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　全体像（関連図）作成　（演習）

【key words】
アセスメント結果　全体像（関連図）　整理

【授業概要】
基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理（全体像）を行う。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関するアセスメント結果、全体像（関連図）を作成してくる。

第８回　基本的欲求の充足に関する情報とアセスメント　全体像（関連図）仕上げ　（演習・発表）
【key words】
アセスメント結果　全体像（関連図）　整理　看護問題の明確化
【授業概要】
１．基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理を行う。
２．アセスメント結果から看護問題を明確にする。
３．看護問題の明確化から、優先順位を考える。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関するアセスメント結果、全体像の不足している部分を追加してくる。

第９回　看護問題の明確化　全体像の発表　（講義・演習）
【key words】
全体像（関連図）　看護問題の明確化　発表　（講義・演習）
【授業概要】
１．看護問題の明確化、優先順位を記入する。
２．全体像(関連図）を発表する。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理で、不足している部分を追加してくる。

第１０回　看護問題の明確化　優先順位の決定（演習）
【key words】
全体像（関連図）看護問題の明確化　優先順位
【授業概要】
看護問題の明確化、優先順位を記入する。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関するアセスメント結果の整理で、不足している部分を追加してくる。

第１１回　看護計画の立案　短期目標設定　具体策（講義・演習）
【key words】
看護計画　看護問題　短期目標　援助計画
【授業概要】
立案した看護計画が実施できるように具体的な内容にする。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する情報と看護計画立案に不足している部分を追加してくる。
具体的な援助を実施する場合には、技術面のテキストを参考に手順を考えてくる。

第１２回　看護計画の立案（演習）
【key words】
看護計画　看護問題　短期目標　援助計画
【授業概要】
立案した看護計画が実施できるように具体的な内容にする。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する情報と看護計画立案に不足している部分を追加してくる。

第１３回　看護計画の実施　評価　修正（講義・演習）
【key words】
看護計画　実施　評価
【授業概要】
１．看護計画の実施・評価・修正
２．同じテーマで看護計画を立案した学生同士で、実施、評価を行う。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的欲求の充足に関する情報、看護計画立案の不足している部分を追加してくる。

第１４回　看護計画の実施　評価　修正（演習）
【key words】
看護計画　実施　評価
【授業概要】
１．看護計画の実施・評価
２．同じテーマで看護計画を立案した学生同士で、実施、評価を行う。
【参考文献】
１）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研
２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	基本的欲求の充足に関する情報、看護計画立案の不足している部分を追加してくる。 第１５回　看護過程の事例展開　まとめ　発表　振り返り　（演習） 【key words】 看護計画　実施　評価　まとめ　グループ発表 【授業概要】 １．看護計画立案、実施、評価の一連の流れをまとめてグループ発表する。 ２．看護計画立案、実施、評価の一連の流れを個人でまとめて、ファイル提出する。 ３．最後に記録の提出方法について説明する。 【参考文献】 １）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程－看護計画立案モデル、日総研 ２）ヴァージニアヘンダーソン、看護の基本となるもの、日本看護協会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々に発表後の振り返りを行い、不足している部分の加筆・修正し、提出期限までに提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１．看護方法論Ⅰの講義内容で学んだことを復習して臨むこと。（授業資料ファイル持参） ２．受け持ち事例の病態生理、検査、治療、看護の要点は指定の用紙にまとめること。 ３．課題レポートの提出は、時間厳守すること。
オフィスアワー	12：00～12：40
評価方法	個人課題レポート80％（内容70％、記録提出状況10％）、グループワーク・全体発表参加状況20％（内容15％、記録提出５％） 評価は個人課題レポートとグループワーク・全体発表を合わせて60%を超えていること
教科書	茂野香おる他：専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院2016 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」，日本看護協会出版会
参考書	授業中に適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 さまざまな外来や診療科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義・演習を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林　洋子　上田　葉子　中嶋朋子　菅沼澄江　内田　佳代他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎的な知識、技術、態度を習得する。 〔到達目標〕 ①フィジカルアセスメントの意義を説明できる。 ②演習を通して客観的情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーションについて、その方法、ポイントを述べることができる。 ③正常所見及び主な異常所見を説明できる。 ④神経系、呼吸器系、循環器系、筋・骨格系、腹部（消化器）の基礎的なフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ⑤身体診察を受ける対象の気持ちを配慮した対応ができる。
授業の概要	バイタルサイン、頭部・顔面・頸部・耳鼻咽頭、視覚、神経系、呼吸器系、循環器系、腹部（消化器）、筋・骨格系等に関する内容を教授する。講義後は学生同士でペアになり演習にて体験する。演習は、正常所見について確認する。また、身体診察を受ける対象の気持ちを考慮する必要性について考える機会とする。第14回、15回は、事例に基づきフィジカルアセスメントを実施・評価する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①フィジカルアセスメントの意義を説明できる。	◎	◎	△	△
②演習を通して客観的情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーションについて、その方法、ポイントを述べることができる。	◎	◎	△	△
③正常所見及び主な異常所見を説明できる。	◎	◎	△	△
④神経系、呼吸器系、循環器系、筋・骨格系、腹部（消化器）の基礎的なフィジカルイグザミネーションが実施できる。	◎	◎	△	△
⑤身体診察を受ける対象の気持ちを配慮	◎	◎	△	△

した対応ができる。				
授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業計画説明、予習・復習の説明、評価方法の説明など） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 事前課題は、講義・演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には期限までに提出する。 技術演習は繰り返し練習し、積極的に参加する。 評価方法は、筆記試験（80%）、総合演習課題（１０%）、ミニテスト・レポート課題（10%）である。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP74～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト目次に目を通し、講義のイメージを持つこと			
	第２回	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識） 【key words】 バイタルサイン・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 【授業概要】 バイタルサインの観察とアセスメントー講義 体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP86～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布した課題用紙に基準値・正常値を記入しておくこと。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。			
	第３回	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識） 【key words】 バイタルサイン・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 【授業概要】 バイタルサインの観察とアセスメントー演習 体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP86～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後は、技術練習し、次回の予習を行うこと。 【実技演習について①】 バイタルサイン測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。 バイタルサイン測定の結果をアセスメントし、報告できる。			
	第４回	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識） 【key words】 バイタルサイン・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 【授業概要】 バイタルサインの観察とアセスメントー演習 体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP86～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後は、技術練習し、次回の予習を行うこと。 【実技演習について②】 バイタルサイン測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。 バイタルサイン測定の結果をアセスメントし、報告できる。			
	第５回	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識） 【key words】 バイタルサイン・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 【授業概要】 バイタルサインの観察とアセスメントー演習 体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP86～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後は、技術練習し、次回の予習を行うこと。 【実技演習について③】 バイタルサイン測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。 バイタルサイン測定の結果をアセスメントし、報告できる。			
	第６回	バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識） 【key words】 バイタルサイン・体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 【授業概要】 バイタルサインの観察とアセスメントー演習 体温・脈拍・呼吸・血圧の正しい測定方法、評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP86～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後は、技術練習し、次回の予習を行うこと。 【実技演習について④】 バイタルサイン測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。 バイタルサイン測定の結果をアセスメントし、報告できる。 教員が学生の血圧測定をダブル聴診器を用いて技術チェックを行う。			
	第７回	フィジカルアセスメントの実際（系統別）：呼吸器系－講義 【key words】 呼吸のはたらき、呼吸数、リズム、呼吸音 【授業概要】			

・呼吸の観察とアセスメントー講義
肺の正常な位置、気管の正常な位置、ばち状指、胸部レントゲン像、動脈血酸素飽和度、問診、触診、打診、聴診について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP124～135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークブックP15～45
呼吸器系の基本的な構造と機能を復習する。
呼吸器系の正常所見、異常所見について復習する。

第８回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：呼吸器系ー演習
【key words】
呼吸のはたらき、呼吸数、リズム、呼吸音
【授業概要】
・呼吸の観察とアセスメントー演習
肺の正常な位置、気管の正常な位置、ばち状指、胸部レントゲン像、動脈血酸素飽和度、問診、触診、打診、聴診について学ぶ。
呼吸に関する測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。
測定結果をアセスメントし、報告できる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP124～135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークブックP15～45
呼吸器系の基本的な構造と機能を復習する。
呼吸器系の正常所見、異常所見について復習する。

第９回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系ー講義
【key words】
循環器　心臓　脈拍　心音
【授業概要】
・循環器系の観察とアセスメントー講義
循環器系の基本的な構造と機能を復習する。
フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見について演習を通して説明する。
末梢循環のアセスメント(脈拍・血圧・上肢下肢の色、爪の形状、皮膚温、浮腫、動脈の触診）、視診、触診（スリルの有無、心尖拍動、聴診（心音）について実施する。実施結果を観察記録に残し、アセスメントする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP138～146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークブックP46～65
循環器系の基本的な構造と機能を復習する。
循環器系の正常所見、異常所見について復習する。

第１０回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：循環器系ー演習
【key words】
循環器　心臓　脈拍　心音
【授業概要】
循環器　心臓　脈拍　心音観察とアセスメントー講義要】
循環器系の基本的な構造と機能を復習する。
フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見について演習を通して説明する。
末梢循環のアセスメント(脈拍・血圧・上肢下肢の色、爪の形状、皮膚温、浮腫、動脈の触診）、視診、触診（スリルの有無、心尖拍動、聴診（心音）について実施する。実施結果を観察記録に残し、アセスメントする。
循環器系に関する測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。
測定結果をアセスメントし、報告できる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP138～146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークブックP46～65
循環器系の基本的な構造と機能を復習する。
循環器系の正常所見、異常所見について復習する。

第１１回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部系ー講義
【key words】
腹部　腸蠕動音　触診　聴診
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）ー講義
腹部の基本的な構造と機能を復習する。
フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、主な異常所見について説明する。
腹部の視診（外形や輪郭）、聴診（腸蠕動音）、打診（腹部全体の打診）、触診（浅い、深い）、腹水のアセスメントについて演習するため、講義後ＤＶＤ学習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP152～161
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークブックP66～77
腹部系の基本的な構造と機能を復習する。
腹部系の正常所見、異常所見について復習する。

第１２回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部系ー演習
【key words】
腹部　腸蠕動音　触診　聴診
【授業概要】
・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：腹部（消化器系）ー【演習】
腹部の基本的な構造と機能を復習し、腹部の視診（外形や輪郭）、聴診（腸蠕動音）、打診（腹部全体の打診）、触診（浅い、深い）、腹水のアセスメントについて実施する。
腹部に関する診察を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。

	測定結果をアセスメントし、報告できる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP152～161 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークブックP66～77 腹部系の基本的な構造と機能を復習する。 腹部系の正常所見、異常所見について復習する。 第１３回　フィジカルアセスメントの実際（系統別）：筋・骨格系－講義・演習 【key words】 筋・骨格　徒手筋力テスト　関節可動域 【授業概要】 ・フィジカルアセスメントの実際（系統別）：筋・骨格系－講義・演習 筋・骨格器系の基本的な構造と機能を復習する。 フィジカルイグミザネーションのポイントと正常所見、主な異常所見について説明する。 筋・骨格の状態、関節、関節周囲の状態、関節可動域、徒手筋力テスト、バレー徴候等について演習する ため、講義後ＤＶＤ学習を行う。 筋・骨格の状態、関節、関節周囲の状態、関節可動域、徒手筋力テスト、バレー徴候等を実施する。 筋・骨格系に関する測定を看護師役・患者役・観察者役に役割分担して実施する。 測定結果をアセスメントし、報告できる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP162～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークブックP90～99 筋・骨格系の基本的な構造と機能を復習する。 筋・骨格系の正常所見、異常所見について復習する。 第１４回　フィジカルアセスメントの実際：総合演習（１） 【key words】 バイタルサイン測定、呼吸音　腸蠕動音 【授業概要】 ・フィジカルアセスメントの実際：総合演習（１）事例1に基づき実施 ・基礎看護援助技術Ｖで学習したことを振り返り、既習の知識を活用しながら事例に基づいて演習を 実施する。 ・看護師役、患者役になり、演習を実施したのちに担当教員よりフィードバックを行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークブックの仕上げ・期日までに提出 【教科書ページ・参考文献】 テキスト、ワークブック 第１５回　フィジカルアセスメントの実際：総合演習（２） 【key words】 バイタルサイン測定、呼吸音　腸蠕動音 【授業概要】 ・フィジカルアセスメントの実際：総合演習（２）事例1に基づき実施 ・基礎看護援助技術Ｖで学習したことを振り返り、既習の知識を活用しながら事例に基づいて演習を 実施する。 ・看護師役、患者役になり、演習を実施したのちに担当教員よりフィードバックを行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークブックの仕上げ・期日までに提出 【教科書ページ・参考文献】 テキスト、ワークブック
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・演習は白衣、ナースシューズを着用。頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・技術（フィジカルイグザミネーション）は繰り返して練習し、積極的に習得すること。 ［受講のルール］ ・他の受講生に迷惑になる行為（私語、携帯電話等の使用）は厳禁。 ・遅刻・早退については、担当教員の理由を申し出ること。欠席した場合は、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。 さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心がける。 ・授業のなかでミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること
オフィスアワー	・金曜日、12:00～12:40までとする。
評価方法	・筆記試験(80%）、総合演習課題(10%)、課題レポート・ミニテスト10%)とする。 総合評価は60%を超えていることが前提となる。
教科書	山内豊明：フィジカルアセスメント　ワークブック, 医学書院, 2016. 茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ②､医学書院、2018. 山内豊明：フィジカルアセスメント　ガイドブック, 医学書院, 2017.
参考書	横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント, メジカルフレンド社, 2016.
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 さまざまな診療科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。 演習では技術内容に応じて、実務容ある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護学実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(90)	必修
担当教員			
菅沼　澄江　鶴田晴美　小林洋子　上田葉子　中嶋朋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】患者の健康上のニーズを把握し、看護過程展開を通して、基礎的な看護実践能力を養う。 【目標】 １．受け持ち患者と援助的関係を築くことができる。 ２．V. ヘンダーソンの看護論を用いて、対象の健康上のニーズを把握できる。 ３．患者に合わせた日常生活援助を科学的根拠に基づいて立案できる。 ４．安全・安楽を考慮し、患者の反応をとらえて実施できる。 ５．実施した看護援助や患者の反応を具体的に記述できる。 ６．実施した結果をもとに看護計画を評価できる。 ７．実施した援助内容及び結果を正確に報告できる。 ８．看護者として倫理的な態度を習得できる。
授業の概要	原則として受け持ち患者を1人担当して行う。受け持ち患者への援助は、担当看護師または担当教員と一緒に行い、実施 した内容については、担当看護師に報告する。毎日カンファレンスを計画的に実施し、患者理解や患者に応じた援助の 実施に繋がるよう意見交換を行う。 １．実習時期　平成31年11月25日から12月6日：前半グループ　　12月9日～12月20日：後半グループ ２．実習単位及び時間数　２単位　90時間

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	・看護者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。 ・時間厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・対象管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・実習共通要綱、実習要項を熟読すること。 《履修要件］ 基礎看護学実習Ⅰの単位修得 看護学概論Ⅰ・Ⅱの単位修得 看護方法論Ⅰ・Ⅱの単位修得 基礎看護援助技術Ⅰ～Ⅴの単位修得
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習要項に準じる

授業外時間にかかわる情報	１．受持ち患者に関わる解剖生理、病態・検査・治療、看護について自己学習を行い、受持ち患者の理解を深める。 ２．実習記録は観察結果と自己の考えを整理し、他者にわかるように記載し、期日に提出する。 ３．実習中に不明なことや疑問点が生じた場合は、確認し、解決して実習を進める。
オフィスアワー	詳細は実習要項による
評価方法	基礎看護学実習Ⅱ実習要項に記載してある評価表に基づき、目標達成度、実習態度、提出された実習記録等によって 評価する。評価は60％を超えていること。
教科書	看護学概論　　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱテキスト　　看護の基本となるもの
参考書	実習要項に準じる
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
酒井　美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　精神症状によって影響される健康や生活をアセスメントし、健全な精神活動・生活行動に向けて、対象への自律の看護支援とその思考過程を理解する。また、自己理解・他者理解を通して、患者と看護師関係におけるコミュニケ―ションスキルを学び、自己活用の能力を高める。 【到達目標】 1）精神看護に活用する援助理論を説明することができる。 2）精神症状、治療が日常生活に及ぼす影響をセルフケア理論から記述することができる。 3）精神障がい者の健康面を引き出す援助を考案できる。 4）セルフケアモデルに基づき対象の全体像を把握し看護計画を立案できる。 5）グループ 演習を通して、多角的視点から対象を捉えることができる。
授業の概要	本講義では、講義と演習を組み合わせて、精神看護における援助理論を学び実践を通して体得する。また、精神疾患の代表的な統合失調症の事例に対する看護プロセスを理論を基に記述し、グループ演習で多角的な視点でアセスメントする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①精神看護に活用する理論を説明することができる。	◎	◎	◎	◎
②精神症状、治療が日常生活に及ぼす影響をセルフケア理論を基に記述することができる。	◎	◎	◎	◎
③精神障がい者の健康面を引き出す援助を考案できる。	◎	◎	◎	◎
④セルフケアモデルに基づき対象の全体像を把握しケアプランを立案できる。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション・治療と看護（1）リラクセーション(呼吸法・漸進的筋弛緩法) 【key words】 リラクセーション、心理的支援、呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスを説明する。心理的支援であるリラクセーションの意味と種類を知

り、リラクセーションが及ぼす心理的効果を体得する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94-97
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第2回　ケアの人間関係：観察と記録・再構成(プロセスレコード)
【key words】
精神科看護、看護記録、観察、再構成
【授業概要】
精神科における観察の視点と方法、記録の実際を学ぶ。また、既習のケアの人間関係論を想起し、自己の観察、自己洞察の意義とその方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P19-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第3回　ケアの人間関係：観察と記録・再構成(プロセスレコード)
【key words】
精神科看護、看護記録、観察、再構成
【授業概要】
精神科における観察の視点とその方法、記録の実際を体験する。また、お互いが対話したことを再構成し、コミュニケーションにおける自己の傾向を知り、自己洞察の実際を体得する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P19-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第4回　治療と看護（２）心理教育・認知行動療法・ＳＳＴ
【key words】
心理教育、認知行動療法、SST
【授業概要】
精神障がい者のリカバリーについて理解する。また、その支援の一つである認知行動療法のSSTの理論と方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P110-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第5回　治療と看護（２）心理教育・認知行動療法・ＳＳＴ
【key words】
心理教育、認知行動療法、SST
【授業概要】
SSTの理論と方法を、実際に体験する。SSTを実際に精神障害者、家族、学校で幅広く行っている外部講師による講義、指導を受け、実際に体験をする。コミュニケーションを通した社会的技能訓練により、ストレス対処、レジリエンス、エンパワメントを引き出す。その効果を実際に体得する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P110-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第6回　治療と看護（３）援助的コミュニケーション(ヘルスカウンセリングの実際)
【key words】
援助的コミュニケーション、ヘルスカウンセリング
【授業概要】
看護においてカウンセリングを学ぶ意味を理解し、カウンセリング技法とコミュニケーション技法を活用した援助的コミュニケーションについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
″精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P10-16
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第7回　治療と看護（３）援助的コミュニケーション(ヘルスカウンセリングの実際)
【key words】
援助的コミュニケーション、ヘルスカウンセリング
【授業概要】
援助的コミュニケーションの実際を体験し、その効果を体得する。その過程で、精神看護師の基本的姿勢を知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P10-16
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P8-29″
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第8回　ストレングスモデル・ナラティブアプローチ・リカバリー
【key words】
精神障がい者、リカバリ、ストレングスモデル,ナラティブアプローチ
【授業概要】
精神障がい者のリカバリへの支援方法の視点であるストレングスモデルと対象を理解する為の方法論を学び、その人らしさを大切にする自律性の回復への援助とその方法を知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P54～58
参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P72～76
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

	第9回	精神看護に用いる看護モデル：セルフケアモデル(オレム・アンダーウッド) 【key words】 精神科看護、看護過程、セルフケア理論とモデル 【授業概要】 オレムアンダーウッドによるセルフケアモデルから人間行動、および、生活行動を捉える視点から、自律性の回復に向けた精神科看護援助の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P23-33 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第10回	精神科看護プロセス（事例の捉え方） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス、看護アセスメント 【授業概要】 精神科看護における看護の視点をセルフケア理論から学び、アセスメントの視点を理解する。 統合失調症の急性期または慢性期の事例を、セルフケアモデルに基づいて情報を整理しアセスメントを記録する。関連する既習学習を想起、確認し対象を身体的・精神的・社会的側面から捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定の事例情報を記録用紙に記入する。
	第11回	精神科看護プロセス（情報とアセスメント） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス、看護アセスメント 【授業概要】 精神科看護における看護の視点をセルフケア理論から学び、アセスメントの視点を理解する。 統合失調症の急性期または慢性期の事例を、セルフケアモデルに基づいて情報を整理しアセスメントを記録する。関連する既習学習を想起、確認し対象を身体的・精神的・社会的側面から捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2017.P33-53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定の事例情報を記録用紙に記入する。
	第12回	精神科看護プロセス（多角的視点とアセスメント） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、アセスメントを深め、多角的に対象を捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の情報・アセスメントの追加修正をする。
	第13回	精神科看護プロセス（多角的視点と全体像） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス、カンファレンス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、アセスメントを深め、全体像を捉える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事事例のアセスメント、全体像、ケアプランの追加修正をする。
	第14回	精神科看護プロセス（多角的視点と計画） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例について、グループカンファレンスを通して、事例対象の全体像の把握からケアプランを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2017.P33～53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例のアセスメント、全体像、ケアプランの追加修正をする。
	第15回	精神科看護の統合的な視点（発表：全体像・計画） 【key words】 精神科看護、セルフケア理論、看護プロセス 【授業概要】 統合失調症の急性期または慢性期の事例の看護プロセスとケアプランを発表し、質疑応答による意見交換を通して、さらに、多角的に対象を捉え、精神科看護の視点を広める。

	【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P33-53 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例のアセスメント、全体像、ケアプランの追加修正を行い、指定の場所時間に提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて履修すること。 予習・復習を行い、学習を整理し新たな課題を見出す能動的に学習を展開する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話）は厳禁。 　ループディスカッションを積極的に行い対象のアセスメントを深められるようにお互い助け合う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	中間試験40点、課題レポート60点、100点満点の総合評価で60%以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015.
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・精神科看護師、及び、SSTの実務経験者によるSSTに関する講義、実践指導を受けて、学生が実際にSSTを体験しその効果を体得する。 ・精神科看護師の実務経験者、および、看護大学教員の実務者の授業により看護過程演習を実施。精神障がい者の看護ケアプランをグループによる対話、ディスカッションを通して立案し発表する。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	3単位(90)	必修
担当教員			
酒井　美子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	精神看護学概論・援助論Ⅰ・Ⅱ、さらにこれまでの基礎学習の知識、技術を統合し、精神障害により日常生活に支障をきたしている人とその家族との関係性を築きながら、個別性に応じた看護の展開を実践する。また、精神障がい者の方が、その人らしく地域で生活するための地域精神保健活動の現状から、精神看護の役割と課題を明確にする。 【到達目標】 1)対象の発達課題と取り巻く環境の視点から対象を捉えることができる。 2)対象の健康と生活について身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。 3)対象の目標達成に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価できる。 4)保健医療福祉における看護の役割」・機能を説明できる。 5)対象一看護師関係における治療的関わりの意義を説明できる。
授業の概要	【実習時間・場所】 １）実習期間：平成30年5月7日～平成30年11月9日中の2週間(1クール) ２）実習時間：9：00～16：00 ３）実習場所：精神科病院・地域活動支援センター・就労継続支援B型 【実習方法】 １）学生グループは１つの看護チームとし、病院実習は学生は一人の対象者を受け持ち看護過程の展開を行う。 ２）①１週目：対象との関係形成を築きながら、対象の全体像を理解し、日常生活の自律に向けた援助をアセスメント　　する。 ②２週目：対人関係における自己の特徴を理解し、治療的コミュニケーションを図る。立案した看護計画を実施・　　評価・修正する。 詳細は、実習事前オリエンテーションで説明する。　　配布する実習要項を参照する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①対象の発達課題と取り巻く環境の視点から対象を捉えることができる。	◎	◎	◎	◎
②対象の健康と生活について身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。	◎	◎	◎	◎
③対象の目標達成に向けた個別的な看護計画を立案・実施・	◎	◎	◎	◎

評価できる。				
④保健医療福祉における看護の役割」・機能を説明できる。	◎	◎	◎	◎
⑤対象ー看護師関係における治療的関わりの意義を説明できる。	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画	第１回
受講生に関わる情報および受講のルール	事前に実習場所の交通・所要時間等を確認しておく。 健康自己管理を行い、感染症予防行動を厳守する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	担当教員がその都度個人的に関わり確認する。
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	毎週金曜日　17：00-18：00
評価方法	１）実習時間の5分の4以上の出席が評価の前提である。 ２）実習担当教員が評価を行い、科目責任者が単位の認定を行う。 ３）実習評価表に基づき、個人面接などの結果を総合的に判断して行う。 ４）単位認定基準については、看護学臨地実習共通要綱Ⅸ「実習の評価について」参照。
教科書	川野雅資編他：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編他：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	田中美恵子編集；精神看護学第２版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版株式会社，2015. 授業資料
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師であり、精神科看護師としての臨床の実務経験を有し、看護教育に携わる教員が実習を担当する。 実習では、臨地の精神科病院にて、臨床指導者との連携を基に指導内容を共有し、学生の精神科看護実習における看護実践活動の指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小児看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春　　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小児看護学概論は、小児看護学の学習基盤（導入）として、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識や考え方を学び、小児観を育むことを目的とする。 〔到達目標〕 ①小児看護における対象理解に必要な基礎的知識を得る。 ②子どもと家族と社会の繋がりを理解し、子どもの成長発達や健康をサポートする看護の役割について理解できる。
授業の概要	現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児の健康と小児各期の成長発達の特徴及び小児とその家族に対する支援・看護の役割機能について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①小児看護における対象理解に必要な基礎的知識を得る。	◎	◎	○	○
②子どもと家族と社会の繋がりを理解し、子どもの成長発達や健康をサポートする看護の役割について理解できる。	◎	◎	○	△
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　小児看護の特徴と理念　　子ども観の変遷　　小児看護の歴史 【key words】 小児看護　　看護の対象　小児看護の目標と役割　子ども観　小児看護の歴史　家族支援 【授業概要】 シラバスに基づき、授業の進め方とその内容、評価の方法について説明をする。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 小児看護の特徴と理念及び子ども観の変遷について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ　小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院

②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版
パワーポイント資料、授業シラバス
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小児に関連する人体構造機能学を復習し、これらの学習が関連していることを伝える。

第２回　小児保健統計と関係法規
【key words】
小児期　保健統計　関係法規
【授業概要】
小児保健統計と関係法規について理解する。
小児保健統計から小児に関する動向を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ　小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１
医学書院　P8～15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。

第３回　子どもの権利と倫理
【key words】
子どもの権利　倫理　虐待
【授業概要】
・子どもの権利と倫理について理解する。
・子どもの権利に関する条約や虐待防止法等について概説する。
・子どもの権利と倫理について、看護専門職者としての視点から考える。

【教科書ページ・参考文献】
①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１
医学書院　P18～24
②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P22～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。

第４回　子どもの安全と事故防止
【key words】
安全　事故防止　チャイルドビジョン（幼児視界体験）
【授業概要】
各小児期に起こりやすい事故について成長発達の視点で考え、子どもの安全（事故防止）について理解する。
チャイルドビジョン（幼児視界体験）を活用・体験し、子どもの視点で安全について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、視聴覚教材使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小児の医療事故について、インターネットや新聞等で調べる。グループ討議をする。

第５回　子どもと家族を取り巻く社会と健康管理
【key words】
児童福祉　母子保健　小児慢性特定疾患治療研究事業　予防接種　学校保健　特別支援教育

【授業概要】
子どもと家族を取り巻く社会について理解する。
児童福祉、母子保健、予防接種、学校保健、特別支援教育等に関する法規と医療費支援及び看護支援について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学１
医学書院　P175～198
②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　　P34～58

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。

第６回　成長発達に役立つ基礎的理論
【key words】
小児期　成長発達
【授業概要】
小児期における成長発達に関する代表的な理論（ピアジェ理論、エリクソン理論、ハビィーガースト理論、ボウルビィー愛着形成理論、）について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P59～75

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。

第７回　小児各期の成長発達に役立つ基礎的知識
【key words】
小児期　成長発達評価
【授業概要】
小児各期の成長発達に関する理論及び評価の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学１
医学書院　P30～50
②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P162～171
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読んで講義に臨む。

第８回　乳児期の成長発達
【key words】

		乳児期　成長発達 【授業概要】 乳児期における成長発達の特徴とそのプロセスを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座　専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P68～98 ②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P78～97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第９回	幼児期の成長発達 【key words】 幼児期　成長発達 【授業概要】 幼児期における成長発達の特徴とそのプロセスを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P100～116 ②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P100～130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第１０回	学童期の成長発達 【key words】 学童期　成長発達 【授業概要】 学童期における成長発達の特徴とそのプロセスを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P116～129 ②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P131～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第１１回	思春期の成長発達 【key words】 思春期　成長発達 【授業概要】 思春期における成長発達の特徴とそのプロセスを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P132～151 ②中野綾美他著　小児の発達と看護　MCメディカ出版　P147～161 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第１２回	乳幼児の健康問題と社会的背景 【key words】 乳幼児　健康問題　　虐待　　突然死症候群　不適応行動 【授業概要】 乳幼児の健康問題とその社会的背景について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P100～129 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第１３回	学童・思春期の健康問題と社会的背景 【key words】 学童・思春期　心の問題　肥満　やせ　飲酒　　喫煙　　性に関する健康問題　薬物乱用 【授業概要】 学童・思春期の健康問題とその社会的背景について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①奈良間美保他著　系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論　小児看護学１ 医学書院　P132～151 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
	第１４回	保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携(小児在宅看護含む) 【key words】 保健医療チーム　小児在宅看護　他種職との連携　小児専門看護師 【授業概要】 保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 資料、DVD 教科書①② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小児看護学概論や他の看護学領域の講義関連資料等を活用し事前学習し、グループ討議する。
	第１５回	トピックス：最新の小児医療と看護 【key words】 小児医療　小児国際看護　世界の子どもたち 【授業概要】 小児看護、小児医療に関する最新情報から、小児看護の役割について考察する。 グローバルな視点により小児看護の方向性と今後の課題について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

	パワーポイント資料、資料 教科書①② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小児医療と看護に関する社会問題となっている情報を得ておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	・小児看護学概論（必修）は、小児看護学学習のための基盤となる科目であり、看護師国家試験出題基準に含まれる。 ・配布資料及びグループ・自己学習を含むに関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。 ・シラバスを確認し、予習復習をして授業に臨んむようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・周辺で見かける子どもたちや親子の様子を意識して観察してみてください。
オフィスアワー	授業終了後～２時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	課題レポート30%、定期試験70%により、総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他著　系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学〔１〕　小児看護学概論・小児臨床看護総論　　医学書院 ②中野綾美他著　小児の発達と看護　メディカ出版
参考書	松尾宣武・濱中喜代編集　小児看護学概論・小児保健　　メヂカルフレンド社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 小児専門病院（県立小児医療センター等）での小児医療・小児看護の臨床経験を活かし、小児看護専門職としての知識、技術、態度、職業倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
真田　英子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小児各期の成長発達並びに自立に向けた日常生活支援、子どもの安全、フィジカルアセスメント等、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識を学び、アセスメントに基づく小児看護の実践ができる能力を養うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①健康な乳幼児・学童・思春期の日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解できる。 ②小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解できる。 ③小児のフィジカルアセスメントの基礎的知識を理解し、観察技法を身につける。 ④小児各期の不慮の事故と安全教育について理解できる。
授業の概要	健康な小児の成長発達を促すための援助方法、さらに、正常な成長発達を阻害する要因とその予防についての保健指導を学ぶ。また、フィジカルアセスメント・一次救命処置等のモデルを使用した演習を取り入れて教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①健康な乳幼児・学童・思春期の日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解できる。	◎	○	◎	○
②小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解できる。	◎	○	◎	○
③小児のフィジカルアセスメントの基礎的知識を理解し、観察技法を身につける。	◎	◎	◎	○
④小児各期の不慮の事故と安全教育について理解できる。	◎	○	○	○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 【授業概要】 科目オリエンテーション　　小児期にある子どもの健康な生活への支援：育児の概念、コミュニケーション

【key words】
アタッチメント、自我発達、認知発達
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p91-93,103-108,119-122,135-138、メディカ出版②p14-27
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第２回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：環境
【key words】
子どもの最善の利益、内部環境・外部環境、感染予防、事故防止
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版②p30-55
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第３回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【１】：食事と栄養
【key words】
母乳栄養、人工栄養、自律授乳、離乳食、経管栄養
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p89-119,145-146、メディカ出版②p58-92
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第４回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【３】：排泄
【key words】
トイレット・トレーニング、清潔間欠導尿、ストーマケア
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p92-123、メディカ出版②94-107
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第５回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【４】：清潔と衣生活
【key words】
沐浴、口腔ケア、自立過程
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p92-127、②p110-130
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第６回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：睡眠と休息
【key words】
レム睡眠・ノンレム睡眠、単層性・多層性、乳幼児突然死症候群、乳幼児揺さぶられ症候群
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p91-124、②p40-44、248-252
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第７回

【授業概要】
小児期にある健康な子どもと健康障害を持つ子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【５】：遊びと活動
【key words】
発達、社会性、破壊行動、プレパレーション
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p91-140、②p248-252
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第８回

【授業概要】
小児期にある子どもへの保健指導・健康教育：発達段階別の保健指導、健康教育の特徴、予防接

種
【key words】
乳幼児全戸訪問事業、乳幼児健康診査、予防接種法、学校保健安全法
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p174-195、メディカ出版①p97-146
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第９回
【授業概要】
小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処
【key words】
PBLS、アルゴリズム
【教科書ページ・参考文献】
医学書院②p516-532
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１０回
【授業概要】
子どものフィジカルアセスメント：身体的アセスメント
【key words】
問診、視診、触診、打診、聴診
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p299-339
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１１回
【授業概要】
子どものアセスメントに必要な技術：コミュニケーション　、バイタルサイン、身体計測
【key words】
コミュニケーション、観察
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p282-299
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１２回
【授業概要】
子どもの示す主な症状とその看護【１】　痛み、発熱、脱水、けいれん、出血
【key words】
痛み、発熱、脱水、けいれん、出血
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p341-401
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１３回
【授業概要】
子どもの示す主な症状とその看護【２】　呼吸困難、嘔吐、下痢、浮腫
【key words】
呼吸困難、嘔吐、下痢、浮腫
【教科書ページ・参考文献】
メディカ出版①p92-123
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１４回
【授業概要】
〔演習〕子どものアセスメント　・バイタルサイン測定、身体計測
【key words】
フィジカルアセスメント、バイタルサイン、身体計測
【教科書ページ・参考文献】
医学書院①p282-299
【課題・予習・復習・授業準備】
テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。
配布資料を活用し、授業内容を整理する。

第１５回
【授業概要】
〔演習〕子どもの心肺蘇生法（AEDを用いた心肺蘇生法も含む）・総括
【key words】
心肺蘇生法
【教科書ページ・参考文献】

	医学書院②p516-532 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・配布資料及びグループ・自己学習を含むに関する資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・ 実習に活用できるようにする。 ・実習室で演習する際は、ユニホームを必ず着用すること。事前学習をし授業に臨んむようにしてください。 ・演習を欠席した場合、再演習を申し出ること。未演習のまま単位を修得することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・人体構造機能学、小児看護学概論の学習と関連させて復習・予習し履修すること。
オフィスアワー	授業終了後～１時間　　火曜日12：00～12：45
評価方法	・課題レポート20%、定期試験80%により総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院. ②.中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学②ー小児看護技術、メディカ出版
参考書	・「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 大学病院小児病棟副師長実務経験を活かし、小児看護職者としての知識、技術、態度、職業倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
真田　英子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶ。 〔到達目標〕 ①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療及び健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解できる。 ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解できる。 ③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で基本となる小児看護技術を身につける。
授業の概要	健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。 本科目では、 視聴覚教材、看護教育用シミュレータを活用することによってイメージ化を図り、健康障害を抱える子どもと家族に特徴的な看護問題と看護援助方法について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療及び健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解できる。	◎	○	◎	○
②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解できる。	◎	◎	◎	△
③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で基本となる小児看護技術を身につける。	◎	◎	◎	△
④				
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　科目オリエンテーション/病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護、医療を受ける子どもの権利 【授業概要】			

		科目オリエンテーション/病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護、医療を受ける子どもの権利 【key words】 ペイシェント&ファミリーセンタードケア 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p202-215 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第２回	健康障害を抱える子どもと家族の看護：入院・外来 【授業概要】 健康障害を抱える子どもと家族の看護：入院・外来　　入院中の看護時の遊びと学習 【key words】 トリアージ、プレパレーション、子どもの権利 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p218-234 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第３回	在宅療養中の子どもと家族の看護　災害時の子どと家族の看護 【授業概要】 在宅療養中の子どもと家族の看護　災害時の子どと家族の看護 【key words】 医療的ケア児、ソーシャル・キャピタル、子どもの権利 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p234-248 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第４回	急性期にある子どもと家族の看護：川崎病他 【授業概要】 急性期にある子どもと家族の看護：川崎病他 【key words】 冠動脈瘤、苦痛の緩和 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p253-254、②202-205 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第５回	長期療養を必要とする子どもと家族への看護：ネフローゼ症候群他 【授業概要】 長期療養を必要とする子どもと家族への看護：ネフローゼ症候群他 【key words】 低蛋白血症、蛋白尿、浮腫、脂質異常、安静 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p250-253、②340-344 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第６回	慢性期にある子どもと家族への看護：糖尿病他 【授業概要】 慢性期にある子どもと家族への看護：糖尿病他 【key words】 多飲・多尿・体重減少、薬物療法、運動療法、食事療法 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p250-253、②69-84 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第７回	予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護：小児がん 【授業概要】 予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護：小児がん 【key words】 トータルケア 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p270-280、②298-312、326-329 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第８回	ハイリスク新生児と家族への看護：低出生体重児 【授業概要】 ハイリスク新生児と家族への看護：低出生体重児 【key words】 呼吸窮迫症候群、肺サーファクタント、カンガルーケア 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p18-56 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
	第９回	障害を抱える子どもと家族への看護：重症心身障害児 【授業概要】

	障害を抱える子どもと家族への看護：重症心身障害児 【key words】 非言語的コミュニケーション、ポジショニング、子どもの権利 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p387-389、393-404 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１０回	心身に障害を抱える子どもと家族への看護：神経症性障害 【授業概要】 心身に障害を抱える子どもと家族への看護：神経症性障害 【key words】 自己肯定感、居場所作り 【教科書ページ・参考文献】 医学書院②p482-514 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１１回	手術を受ける子どもと家族への看護 【授業概要】 手術を受ける子どもと家族への看護 【key words】 プレパレーション、意思決定 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p253-270 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１２回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]：採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]：採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺 【key words】 プレパレーション、プライバシー、後腸骨稜、クモ膜下腔、頭蓋内圧症状 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p438-453 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１３回	【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]：与薬、輸液療法、酸素療法 【key words】 予薬における6R、吸引圧、酸素濃度 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p416-438、460-468 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１４回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【key words】 予薬における6R、プレパレーション 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p412-428 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
第１５回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[4]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【授業概要】 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[4]：【演習】与薬時の看護、輸液療法時の看護 【key words】 予薬における6R、プレパレーション 【教科書ページ・参考文献】 医学書院①p428-438 【課題・予習・復習・授業準備】 テキスト該当範囲を事前に読み、不明な用語等を調べて授業に臨む。 配布資料を活用し、授業内容を整理する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・上記「履修要件」に記載した科目において学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。 ・演習時には白衣を着用し、身だしなみを整え授業に臨むこと。 〔受講のルール〕 ・小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学習したことを復習・関連させながら学習をすすめる。 ・授業中に提示された課題は必ず提出すること。また、提出期限は厳守すること。 ・実習室で演習を行う際は、ユニホームを必ず着用すること。

	・演習を欠席した場合、再演習を申しでること。未演習のまま単位を修得することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むとともに、わからない部分を授業にて解決 するよう努めること。 ・授業の進行過程において、各自ポートフォリオを作成すること。 ・授業中に提示された課題には必ず取り組むこと。
オフィスアワー	授業終了後～1時間　　火曜日12：00～12：45
評価方法	筆記試験70%、技術演習および課題レポート30%により総合的に評価する。
教科書	①奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院.　②奈良間美保他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院　③中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版.　④中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学②－小児看護技術，メディカ出版.
参考書	随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 大学病院小児病棟副師長実務経験を活かし、小児看護職者としての知識、技術、態度、職業倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小児看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
木戸　美佐子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法を学ぶ。 〔到達目標〕 ①健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の意義、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の基本的考え方を　理解できる。 ②健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントできる。 ③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決及び回避に向けた個別的な看護計画を立案できる。
授業の概要	健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのためには、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開することが必要不可欠である。本科目では、様々な発達段階にある、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を試行することを通じ、子どもの特徴をふまえたヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際（基本的欲求、基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的状態、アセスメント、関連図の作成、看護問題と目標設定、具体策の立案、実施・評価）を教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の意義、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の基本的考え方を理解できる。	◎	◎	○	○
②健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントできる。	◎	◎	○	△
③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決及び回避に向けた個別的な看護計画を立案できる。	◎	◎	○	△
④				

⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション、看護過程①

【授業概要】
科目オリエンテーション/講義スケジュール、予習・復習、授業評価などについて説明
事例紹介、情報の整理
【Key Words】
ヘンダーソン、看護過程
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 15～p. 34
【課題・予習・復習・授業準備】
復習として不足している情報の整理をし、次回アセスメントが出来るようにテキストを精読する。

第２回　看護過程②

【授業概要】
事例の情報を整理し、個々でアセスメント、関連図の記入をする
【Key Words】
アセスメント、関連図
【教科教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 47～p. 50
【課題・予習・復習・授業準備】
次回のＧＷに向けて情報の整理をアセスメントを見直し追加・修正する

第３回　看護過程③

【授業概要】
ＧＷで個々の意見を述べながら、関連図を仕上げる
【Key Words】
ＧＷ 、関連図
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 47～p. 50
【課題・予習・復習・授業準備】
次回、発表に向けてグループ内で話し合いを行う

第４回　看護過程④

【授業概要】
ＧＷで行った関連図の発表
【Key Words】
関連図
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 47～p. 50
【課題・予習・復習・授業準備】
他のグループの発表を聞いて自分の関連図と比較し修正・加筆する

第５回　看護過程⑤

【授業概要】
ＧＷで行った関連図の発表
【Key Words】
関連図
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 47～p. 50
【課題・予習・復習・授業準備】
他のグループの発表を聞いて自分の関連図と比較し修正・加筆する

第６回　看護過程⑥

【授業概要】
個人ワークによる看護計画の立案
【Key Words】
看護計画
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 55～p. 56、　p. 125～p. 142
【課題・予習・復習・授業準備】
次回のＧＷに向けて個々の看護計画を見直し追加・修正する

第７回　看護過程⑦

【授業概要】
ＧＷによる看護計画の立案
【Key Words】
看護計画
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 55～p. 56、　p. 125～p. 142
【課題・予習・復習・授業準備】

第８回　看護過程⑧

【授業概要】
ＧＷで行った看護計画の発表、講評
【Key Words】
看護計画
【教科書】
ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程p. 55～p. 56、　p. 125～p. 142
【課題・予習・復習・授業準備】
他のグループの発表を聞いて自分の看護計画と比較し修正・加筆する

【

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・小児看護学の既習科目において学習した知識・技術を活用して、モデル事例の看護過程の展開を行う。 〔受講のルール〕 ・小児看護学実習につながる重要な科目であるため、積極的に授業に臨むこと。 ・ポートフォリオを持参し、活用しながら課題に取り組むこと。 ・授業中に提示された看護過程の課題の提出期限は厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。 ・授業中に提示された看護過程の課題には必ず取り組むこと。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後～1時間　　金曜日12：00～12：45
評価方法	課題レポート（モデル事例の看護過程展開の提出）70%、グループワーク参加度および発表30%により総合的に評価する。
教科書	①焼山和憲著：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程―看護計画立案モデル 第4版，日総研出版，2007
参考書	・山口桂子他編：エビデンスに基づく小児看護ケア関連図、中央法規，2017 ・茎津智子編：発達段階を考えたアセスメントに基づく看護過程，医歯薬出版，2012
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師の免許を有し、小児医療・小児看護の臨床経験のある教員が指導にあたる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小児看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
西山　智春　　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	様々な健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、健康の回復および維持・増進を目指した個別性を考慮した看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。 到達目標は小児看護学実習要項参照			
授業の概要	小児看護学実習要項を参照			
■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①小児期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解できる。	◎	◎	◎	◎
②小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性を身体的・心理的・社会的側面からアセスメントできる。	◎	◎	◎	◎
③小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題の解決および回日に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価できる。	◎	◎	◎	◎
④小児看護に必要な基本的な看護技術を身につける。	◎	◎	◎	◎
⑤小児期にある対象の保健医療福祉における看護の役割・機能を理解できる。	◎	◎	◎	◎
⑥小児期にある対象の理解および看護実践をとおして、看護の役割・機能とその意義を理解できる。	◎	◎	◎	◎
授業計画	第１回			

	実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	１．実習オリエンテーションは必ず受講すること。 ２．事前学習課題をしっかり学習し、実習に臨むこと。 ３．看護学生としての身だしなみ、言動、行動等、マナーに心がけること。 ＊小児看護学実習要項を参照
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	１．質問等は朝の打ち合わせ（行動計画発表）及び各学生指導時、カンファレンス終了後の時間を活用する。 ２．事前学習課題は、実習初日及び適宜、学習状況（理解）を確認する。
授業外時間にかかわる情報	１．１日のまとめと明日の行動計画立案（学習内容）及び看護過程を学習して実習に臨む。
オフィスアワー	実習担当教員が適宜対応する。
評価方法	小児看護学実習の一般目標及び目標を評価基準として、各施設実習（病棟実習、幼稚園実習、障がい児看護実習）、学内実習、カンファレンスにおける参加態度、記録物および

	小児看護学実習の一般目標および行動目標を評価基準として、各施設（病棟実習、幼稚園実習、障がい児看護実習）、学内演習、カンファレンスにおける参加態度、記録物およびレポートの記載内容により、単位認定教員が評価、判定する。
教科書	医学書院：小児看護学概論・小児臨床看護総論、小児臨床看護各論 ナーシンググラフィカ：小児看護技術
参考書	各自、参考書を持参する。 適時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師免許を有し、小児医療・小児看護の臨床経験のある教員が実習指導にあたる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田　智美、佐藤　充子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人の慢性期にある対象を理解し、健康特性に合わせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①疾病を持ち、かつ生活者である成人にとっての疾病コントロールに必要なセルフケアの概要と必要性について説明できる。 ②セルフコントロールのための生活習慣の再獲得に必要な知識や技術の提供を行う方法を説明できる。 ③慢性的な経過をたどる成人について看護診断に基づく思考プロセスを修得する。
授業の概要	成人期のあらゆる健康レベルのなかで慢性期にある対象の看護を学ぶ。 呼吸機能、内分泌・代謝機能、腎機能、、免疫系に慢性的な障害を抱えた患者の看護について、アセスメントから看護実践の方法までを学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①疾病を持ち、かつ生活者である成人にとっての疾病コントロールに必要なセルフケアの概要と必要性について説明できる。	◎	◎	◎	○
②セルフコントロールのための生活習慣の再獲得に必要な知識や技術の提供を行う方法を説明できる。	◎	◎	◎	○
③慢性的な経過をたどる成人について看護診断に基づく思考プロセスを修得する。	◎	◎	◎	◎
④				
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　慢性期にある対象の理解 【key words】			

成人期　慢性期　対象

【授業概要】

科目オリエンテーションにて、今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について説明をする。
特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。
慢性疾患の特徴・慢性期にある患者の特徴について

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、授業概要（平成30年度版）、授業シラバス
系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学[1] 第7、10章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。
成人看護概論で学習した慢性期にある対象への看護、慢性疾患、自己効力感などのワードを復習して授業に臨む。

第２回　A　呼吸機能に障害のある対象への看護　１．慢性呼吸器疾患(COPD) の患者の理解（病態生理・症状・検査・治療）

【key words】

ＣＯＰＤ　病態生理　症状　検査　治療

【授業概要】

慢性的な経過として特徴的な疾患である呼吸器に障害のある患者について取り上げ、呼吸器に生じる障害と疾患及び症状、検査・治療について学習する。また、患者の身体的・心理的・社会的特徴と日常生活に及ぼす影響等について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学[2] 第5章C、6章A～D、E-④

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第３回　A　呼吸機能に障害のある対象への看護　２．慢性呼吸器疾患(COPD) の患者の看護

【key words】

ＣＯＰＤ　看護　セルフケア

【授業概要】

第2回慢性呼吸器疾患（ＣＯＰＤ）の患者の理解での授業内容を踏まえ、慢性呼吸器疾患（ＣＯＰＤ）の患者に必要なセルフケアや日常生活援助の方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学[2] 第5章C、6章A～D、E-④

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第４回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　肝炎の患者の看護

【key words】

肝炎　看護　セルフケア

【授業概要】

肝機能の基礎知識
肝炎の病態生理、症状、検査、治療について
安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学[5] 第2章E、4章B-②、C-④、⑤章D-①、6章E-④

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第５回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　肝硬変の患者の看護

【key words】

肝硬変　看護　セルフケア

【授業概要】

肝機能の基礎知識肝硬変の病態生理、症状、検査、治療について
安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学する。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学[5]　第4章B-②⑦⑪、C-②、⑤章D-②、6章E-④

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第６回　B　内分泌・代謝機能に障害のある対象の看護　　甲状腺機能障害のある患者への看護
【key words】

内分泌疾患 視床下部－下垂体疾患 甲状腺疾患　副甲状腺疾患　副腎疾患 看護　セルフケア
【授業概要】

内分泌器官とホルモンの機能についての基礎知識
内分泌疾患（視床下部－下垂体疾患：ACTH産生腫瘍（クッシング病）・尿崩症／甲状腺疾患：慢性甲状腺炎・バセドウ病・甲状腺機能低下症・甲状腺腫瘍／副甲状腺疾患：原発性副甲状腺機能亢進症／副腎疾患：原発性アルドステロン症・原発性副腎皮質機能低下症・褐色細胞腫）の病態の特徴・症状及び検査・治療・看護のポイントについて学習する。
甲状腺疾患：バセドウ病の患者の看護を中心に安静・食事・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　　成人看護学[6] 第2章、4章A、5章A、6章AB
【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第７回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　１．糖尿病の患者の看護
【key words】

糖尿病　看護　セルフケア

【授業概要】

生活習慣病の影響を受けやすい糖尿病を取り上げ、生活の中での病因及び治療、対策を取り上げる。
食事・運動・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①
【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第８回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　２．糖尿病の患者の看護　　食事療法・血糖測定演習前学習
【key words】

糖尿病　食事療法　血糖測定　セルフケア

【授業概要】

食事療法、血糖測定を取り上げ、食事・運動・薬物療法の管理と日常生活における教育的支援と援助について学習する。
糖尿病患者の生活上の工夫や、治療継続に関わる生活の再構築への援助について学習する。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①
写真でわかる臨床看護技術①アドバンスchapter12

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第９回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　　３．糖尿病の患者の看護　　食事療法（演習）
【key words】

糖尿病　食事療法　演習

【授業概要】

フードモデルを用いて、糖尿病患者の食事療法に即した献立を作成する。
作成した献立をもとに、食事療法を継続していく糖尿病の患者の気持ちと看護についてグループ

で討議する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキスト・演習計画を読んで授業に臨む。
事前学習を行った上で演習に臨む。
演習後、事後レポートに取り組む。

第１０回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　４．糖尿病の患者の看護　血糖測定（演習）

【key words】

糖尿病　血糖測定　演習

【授業概要】

自己血糖測定の方法について学習し、実際に血糖値を測定する。
測定した血糖値について、アセスメントし、自己血糖測定を行う糖尿病の患者の気持ちについてグループで討議する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第4章B、5章B-①、6章C-①
写真でわかる臨床看護技術①アドバンスchapter12

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキスト・演習計画を読んで授業に臨む。
事前学習を行った上で演習に臨む。
演習後、事後レポートに取り組む。

第１１回　B　栄養・代謝機能に障害がある対象の看護　脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームの患者の看護

【key words】

脂質異常症　肥満症　メタボリックジンドローム

【授業概要】

栄養　代謝機能に障害があ.る脂質異常症等について、生活上の工夫や、治療継続に関わる生活改善等について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]　第5章B-②③④、6章C-②③⑤

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

授業中に提示された課題について、テキストを読んでまとめる。

第１２回　C　腎機能に障害がある対象への看護　慢性腎炎、腎不全患者の看護

【key words】

慢性腎炎　腎不全　看護

【授業概要】

慢性腎炎、腎不全の病態生理、症状、検査、治療について
治療の推進、生活の改善、セルフケアの援助について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学[8]　第1～4章D、5章A～D、

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第１３回　C　腎機能に障害がある対象への看護　透析を受ける患者の看護

【key words】

慢性腎炎　腎不全　透析　看護

【授業概要】

慢性腎炎、腎不全の病態生理、症状、検査、治療について
透析のメカニズム、透析が必要な基準について
透析時の看護について

	【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学[8]　第4章E、5章A～D、6章Ⅳ-C 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 第１４回　D　免疫系に障害のある対象の看護　　全身性エリテマトーデス患者の看護 【key words】 全身性エリトマトーデス　看護　セルフケア 【授業概要】 全身性エリトマトーデスの病態生理、症状、検査、治療について 日常生活・薬物療法の管理とセルフケアの援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　アレルギー膠原病感染症　成人看護学[11]　膠原病第1章～4章、5章B、6章E-② 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 第１５回　D　免疫系に障害のある対象の看護　　関節リウマチの患者の看護 Ｄ　免疫系に障害のある対象の看護　　関節リウマチの患者の看護 【key words】 関節リウマチ　看護　セルフケア 【授業概要】 関節リウマチの病態生理、症状、検査、治療について 日常生活・薬物療法の管理とセルフケアの援助について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、系統看護学講座　専門Ⅱ　アレルギー膠原病感染症　成人看護学[11]　膠原病第1章～4章、5章A、6章E-① 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。 〔受講のルール〕 ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時に課題を提示することがある。課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、演習などの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業概要に示されている教科書は必ず確認し、授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、ｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の授業であるため、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ （＊技術演習、課題レポートの評価基準の詳細は、課題提示時に別途説明する。） 総合評価は筆記試験、技術演習、課題レポート等を合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［１］成人看護学総論　医学書院（第1回～第15回で適宜） 2)　浅野浩一郎他：系統看護学講座成人看護学[2]呼吸器　医学書院（第2，3回） 3)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院（第4，5回） 4)　黒江ゆり子他：系統看護学講座成人看護学[6]内分泌・代謝　医学書院（第6～11回） 5)　大東貴志他：系:統看護学講座成人看護学[8]腎・泌尿器　医学書院（第12，13回） 6)　竹村信彦他：系統看護学講座成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症　医学書院（第14，15回） 7)　糖尿病食事療法のための食品交換表第７版　日本糖尿病学会（第７～１０回）

参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員による授業を展開する。また、第7、9、10回は糖尿病看護認定看護師、管理栄養士による講義・演習、第12、13回については、透析看護認定看護師による講義を展開する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
源内　和子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人の急性期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①　手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身に付ける。 ②　生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。 ③　クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。 ④　検査に必要な成人援助技術について習得する。
授業の概要	成人看護に必要な援助技術の理論と実際を学習する。 基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を学習する。 手術を受ける患者と家族への看護方法、救急時のケアなどについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身に付ける。	◎	◎	◎	◎
②生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。	◎	◎	○	○
③クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。	◎	◎	◎	◎
④検査に必要な成人援助技術について習得する。	◎	◎	○	○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 科目オリエンテーション　A．周手術期看護　1．周術期看護の概要　周術期の基礎知識と生体の変化 第２回 A．周手術期看護　２．　手術中患者の看護　手術過程に応じた看護　手術室看護　麻酔について

	第３回 Ａ．周手術期看護　３．　手術後の回復を促進するための看護　　術後合併症　　術後のドレーン管理 第４回 Ａ．周手術期看護　４．　手術後の回復を促進するための看護　　術後の継続看護 第５回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　　手術に関する最近の動向（腹腔鏡下手術についての概要） 第６回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　１　胃がんの患者の理解（病態生理・症状・検査・治療） 第７回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　２　胃がんの患者の看護　（胃切除術前後の患者の看護） 第８回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　　大腸がん患者の看護（病態生理・症状・検査・治療・看護・ストーマケア　） 第９回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　　乳がんの患者の看護（病態生理・症状・検査・治療・看護） 第１０回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　　周術期に必要な看護技術：深部静脈血栓の予防・術衣体験（演習） 第１１回 Ｂ．手術を受ける対象の看護　　周術期に必要な看護技術：術後観察（演習） 第１２回 Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　救急看護の概念と対象への看護 第１３回 Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　集中治療室における看護・急変時の対応 第１４回 Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い（講義・演習） 第１５回 Ｃ．クリティカルな状態にある患者の看護　　点滴をしている患者の寝衣交換（演習）
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと 〔受講のルール〕 ・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 　・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・演習前は、必ず事前課題を済ませてから臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ 総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1)　臨床外科看護総論、医学書院 2)　系統看護学講座成人看護学［５］　消化器　医学書院 3)　系統看護学講座成人看護学［９］　女性生殖器消化器　医学書院 4) 系統看護学講座成人看護学[2]　呼吸器　医学書院 5)　写真でわかる臨床看護技術１・２　インターメディカ
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院での急性期看護の実績を持つ教員の講義。特に周術期の経験を15年。又、災害看護や救急現場の経験を持つ教員が本授業に携わる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田　智美　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　成人期の対象における看護の実践方法を、エビデンスに基づき導き出す方法を修得する。 〔到達目標〕 ①看護に必要な情報を系統的に収集できる。 ②収集した情報を分析・解釈して、看護上の問題または共同問題を明確にできる。 ③適切な看護診断を選択し、優先順位を考え設定できる。 ④目標を正しく設定できる。 ⑤看護計画を立案できる。 ⑥看護過程における評価の方法について学ぶ。
授業の概要	成人看護学における看護過程を教授する。既習の看護理論や中範囲理論を基盤として看護モデルを活用し、成人看護学の特徴を踏まえた看護過程を学び、演習を通して理解を深める。更に成人看護学実習に反映させ習得していく基礎知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護に必要な情報を系統的に収集できる。	◎	◎	◎	◎
②収集した情報を分析・解釈して、看護上の問題または共同問題を明確にできる。	◎	◎	◎	◎
③適切な看護診断を選択し、優先順位を考え設定できる。	◎	◎	◎	◎
④目標を正しく設定できる。	◎	◎	◎	◎
⑤看護計画を立案できる。	◎	◎	◎	◎
⑥看護過程における評価の方法について学ぶ。	◎	◎	◎	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　看護過程の概要と看護診断について(講義) 【key words】 看護過程　看護診断　アセスメントガイド　情報の整理

【授業概要】

看護過程の概要・看護診断とは何か
看護診断を用いる必要性の理解
看護診断における領域・類の構成／アセスメントガイドについて

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1) 小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第10版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

看護過程の展開準備　事例の疾患の概要と看護について（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。

第２回　看護診断における領域・類の構成／アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈　（講義）
【key words】

情報の整理　分析・解釈　アセスメントガイド

【授業概要】

アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈（講義）
事例展開Ⅰ：事例紹介（内科的治療を受ける対象）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

疾患の概要と看護、フェイスシート、パターン1、2、4の情報の整理（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。

第３回　看護過程の展開Ⅰ：事例を元にアセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈の実際（講義・演習）
【key words】

情報の整理・分析・解釈

【授業概要】

アセスメントガイドを用いて情報を整理する方法・情報の分析・解釈の実際（講義・演習）
事例Ⅰのアセスメント（演習）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、パターン1～11までのアセスメント（事前学習）を行った上で次回授業に臨む。

第４回　看護過程の展開Ⅰ：情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式）
【key words】

情報の整理・分析・解釈

【授業概要】

情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、パターン1～11までのアセスメント（事前学習）を行った上で授業に臨む。

第５回　看護過程の展開Ⅰ：情報の整理、分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式）／関連図の書き方　（講義）
【key words】

情報の整理・分析・解釈　関連図

【授業概要】

情報の整理・分析・解釈の実際（演習：ゼミ形式）
関連図の書き方(講義)
【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

関連図（事前学習）を記載した上で次回授業に臨む。

第６回　看護過程の展開Ⅰ：関連図の作成（演習：ゼミ形式）
【key words】

情報の整理・分析・解釈　関連図

【授業概要】

関連図の作成（演習：ゼミ形式）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

関連図（事前学習）を記載した上で次回授業に臨む。

第７回　看護過程の展開Ⅰ：関連図の作成（演習：ゼミ形式）／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（講義）
【key words】

関連図　看護診断　優先順位　診断リスト

【授業概要】

関連図の作成（演習：ゼミ形式）

看護診断、診断リストの記載・優先順位の決定（講義）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】
看護診断の優先順位の考え方について復習し、関連図上に診断ラベルと優先順位を記載する。
診断リストを記載した上で次回の授業に臨む。

第８回　看護過程の展開Ⅰ：看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（演習：ゼミ形式）
【key words】

看護診断　優先順位　　診断リスト

【授業概要】

看護診断の優先順位の根拠と決定、診断リストの記載（演習：ゼミ形式）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

診断リストを修正した上で、目標、看護計画（事前学習）を記載して次回の授業に臨む。

第９回　看護過程の展開Ⅰ：看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）（演習：ゼミ形式）／目標・看護計画の立案（講義）
【key words】

看護診断　優先順位　診断リスト　　目標・看護計画

【授業概要】

看護診断の優先順位の根拠と決定、診断リストの記載（演習：ゼミ形式）
目標、看護計画の立案（講義）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

目標、看護計画を（事前学習）を記載して授業に臨む。

第１０回　看護過程の展開Ⅰ：目標・看護計画の立案（演習：ゼミ形式）
【key words】

目標・看護計画

【授業概要】

目標、看護計画の立案（演習：ゼミ形式）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献

1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１１回　看護過程の展開Ⅰ：目標・看護計画の立案（演習：ゼミ形式）／実施・評価（経過記録：SOAP記録の作成・サマリー記録の書き方）（講義・演習）

【key words】

実施・評価　SOAP／情報の整理　分析・解釈　アセスメントガイド

【授業概要】

実施・評価(講義)
SOAP記録の作成（講義・演習）
【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院

【課題・予習・復習・授業準備指示】

看護過程の展開Ⅰについての記録をファイルに綴じて提出出来るよう準備する。

第１２回　看護過程の展開Ⅱ：事例紹介（手術療法を行う事例）／看護診断の優先順位の変更について（講義）

【key words】

情報の整理　分析・解釈　関連図　診断リスト

【授業概要】
手術療法を受ける事例について（講義）

情報の整理・分析・解釈（ポイントの確認）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報の整理・分析・解釈の方法について復習をし、看護過程の展開Ⅱの事例について、パターン1～11までのアセスメント（事前学習）を行った上で次回の授業に臨む。

第１３回　看護過程の展開Ⅱ：グループワーク①：情報の分析・解釈および関連図の作成／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定）

【key words】

情報の整理　分析・解釈　関連図　診断リスト

【授業概要】

関連図・診断リストの作成（演習：グループワーク）

【教科書ページ・参考文献】

配布資料
参考文献
1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院
2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院
6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断

	医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで、・関連図、看護診断リストを作成し、期日までに提出する。 第１４回　看護過程の展開Ⅱ：グループワーク①：情報の分析・解釈および関連図の作成／看護診断（診断リストの記載・優先順位の決定） 【key words】 情報の整理　分析・解釈　関連図　診断リスト 【授業概要】 関連図・診断リストの作成（演習：グループワーク） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 参考文献 1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院 2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院 3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院 6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで、・関連図、看護診断リストを作成し、期日までに提出する。 第１５回　看護過程の展開Ⅱ：第13・14回のグループワークにおけるプレゼンテーション：関連図・看護診断について／看護過程まとめ 【key words】 関連図　優先順位　看護診断　プレゼンテーション 【授業概要】 関連図、診断リストを用いたプレゼンテーション 看護過程全体の展開のまとめ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 参考文献 1)　小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［1］成人看護学総論　医学書院 2)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院 3)　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA　5)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第11版 医学書院 6)　ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ著、江本愛子監訳：基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々にプレゼンテーションの振り返り、プレゼンテーション後の関連図、診断リストを修正し、看護計画を立案し、提出期限までに提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となる科目である。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・この科目は、学生自らが講義で学習した既習の知識を活用し、実際に看護過程を展開することによって、授業の目的・到達目標を達成することを目標としている。そのため、既習学習の復習を十分に行い授業に臨むことが必要である。 ・ゼミ形式演習及びグループワークについては、新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。 〔受講のルール〕 ・この科目では、講義で学習した内容を踏まえ、次回授業までの課題を提示する。提示された課題には必ず取り組み、次回授業に臨むこと。 ・課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、ゼミ形式演習やグループワークなどの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・課題に取り組む上で、自らでは解決が困難な疑問点が生じた場合には、科目責任者及び成人看護学領域担当者に確認する。（各教員のオフィスアワーは研究室前に提示） ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で授業に臨むこと。また、事前に学習した課題内容の理解を深めるため積極的に授業に参加すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式

授業外時間にかかわる情報	授業概要に示されている教科書は必ず確認し、授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。課題に取り組む上で、自らでは解決が困難な疑問点が生じた場合には、科目責任者及び成人看護学領域担当者に確認し、解決するよう努めること。（各教員のオフィスアワーについては研究室前に提示）
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、課題レポート・演習への取り組み40%（＊課題レポート・演習への取り組みに関する評価基準は、授業時に別途説明する。） 総合評価は筆記試験、課題レポート評価、演習への取り組みを合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	1)　成人看護援助論Ⅲの授業時に配布する授業資料（この授業資料は、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱにおいても使用する。必ず毎回ファイリングして授業時には持参すること） 2)　リンダJ. カルペニート＝モイエ著，新道幸恵監：看護診断ハンドブック第10版　医学書院 3) 小松浩子他：系統看護学講座成人看護学［１］成人看護学総論　医学書院 4)　金田　智他：系統看護学講座成人看護学[5]消化器　医学書院
参考書	基礎から学ぶ看護過程と看護診断、ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著江本愛子監訳　医学書院 これなら使える看護診断　江川隆子編集　医学書院　　江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE　HIROKAWA 他講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員による授業を展開する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
佐藤　充子、中山洋子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　成人期の回復期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①回復期にある対象のセルフケア獲得のための援助方法を学習する。 ②対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。 ③生活行動の障害を持ちながら生活している患者の看護を実践できる能力を身に付ける。 ④生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。
授業の概要	成人期にある対象の回復期および生活行動の障害に焦点を当て、ＱＯＬ、ＡＤＬの自立、リハビリテーション、セルフケアに焦点を当て、呼吸機能、循環機能、生活行動に障害のある対象への看護を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①回復期にある対象のセルフケア獲得のための援助方法を学習する。	◎	◎	◎	◎
②対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。	◎	◎	◎	◎
③生活行動の障害を持ちながら生活している患者の看護を実践できる能力を身に付ける。	◎	◎	◎	◎
④生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。	◎	◎	◎	◎

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　循環機能に障害のある対象の看護　高血圧症の患者の看護 （症状・検査・治療） 【keyword】高血圧・検査・治療 【授業概要】科目オリエンテーション　、授業の内容の進め方、科目目標と看護学DPとの関連について説明する。成人看護援助論Ⅳについて説明をする。 高血圧症の患者の看護（症状・検査・治療）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③血圧異常患者の看護第6章 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。

	第２回	循環機能に障害のある対象の看護　　高血圧症の患者の看護(日常の塩分摂取と減塩が必要な患者への食事指導の演習) 【keyword】高血圧・減塩 【授業概要】日常の塩分摂取と減塩が必要な患者への食事指導の工夫（演習） 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③血圧異常、高血圧症患者の看護 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。授業を含む事後課題に取り組む。
	第３回	循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護　（病態生理・症状・検査・治療） 【keyword】心筋梗塞 【授業概要】心臓の解剖生理・心筋梗塞の症状・検査・治療の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③　第6章 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第４回	循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護　（心臓血管撮影・心電図変化） 【keyword】心筋梗塞　血管造影　心電図 【授業概要】心臓の解剖生理・心筋梗塞の症状・検査・治療の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③　第6章 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第５回	循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護 【keyword】心筋梗塞　心臓リハビリテーション 【授業概要】心筋梗塞の患者の看護　心臓リハビリテーションと看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③第6章 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第６回	循環機能に障害のある対象の看護　　心不全の患者の看護 【keyword】心不全 【授業概要】心不全患者の看護を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③　第6章 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第７回	生活行動に障害のある対象の看護　　１．脳血管障害（脳出血）のある患者の理解（病態生理・症状・検査・治療） 【keyword】脳出血　病態生理　検査　治療 【授業概要】脳血管障害（脳出血）のある患者（病態生理・症状・検査・治療）の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ脳・神経成人看護学⑦ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第８回	生活行動に障害のある対象の看護　　２．脳血管障害（脳梗塞）のある患者の看護（病態生理・症状・検査・治療） 【keyword】脳梗塞　病態生理　検査　治療 【授業概要】脳血管障害（脳梗塞）のある患者の看護（病態生理・症状・検査・治療）を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ脳・神経成人看護学⑦ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第９回	生活行動に障害のある対象の看護　　１．運動機能に障害のある患者の理解（骨折の分類・症状・検査・診断・治療） 【keyword】骨折の分類　検査　診断　治療 【授業概要】運動機能に障害のある患者の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ運動器成人看護学⑩ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第１０回	生活行動に障害のある対象の看護　2. 運動機能に障害のある患者の看護：大腿骨頸部骨折患者の看護 【keyword】大腿骨頸部骨折 【授業概要】大腿骨頸部骨折患者の術前後の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ運動器成人看護学⑩ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第１１回	循環機能に障害のある対象の看護　　心電図検査を受ける患者の看護過程（演習） 【keyword】心筋梗塞　心電図 【授業概要】事前課題に取り組み実際に12誘導心電図をとる 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③ 臨床看護技術アドバンスP97- 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。（臨床看護技術アドバンスP97-）
	第１２回	循環機能に障害のある対象の看護　　心筋梗塞の患者の看護過程（関連図）（演習） 【keyword】心筋梗塞　関連図 【授業概要】事前課題に取り組み、グループワークし関連図作成する 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
	第１３回	回復期におけるセルフケア獲得のためのリハビリテーションの意義：ベッドサイドで行える運動療法について 【keyword】回復期　リハビリテーション 【授業概要】回復期におけるセルフケア獲得のためのリハビリテーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器成人看護学③P348-、脳神経成人看護学⑦P233-、成人看護学⑩P267- 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと （心臓リハビリテーション、脳血管障害、大腿骨頸部骨折後のリハビリテーション）
	第１４回	生活行動に障害のある対象の看護　神経・筋疾患患者の看護（重症筋無力症・筋ジストロフィー） 【keyword】重症筋無力症・筋ジストロフィー 【授業概要】神経・筋疾患患者の看護（重症筋無力症・筋ジストロフィー）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ脳・神経成人看護学⑦

	【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。 第１５回　　生活行動に障害のある対象の看護　：脊椎疾患の患者の看護 【keyword】脊椎疾患 【授業概要】運動機能に障害のある患者の看護：脊椎疾患患者の看護を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座専門分野Ⅱ運動器成人看護学⑩ 【課題・予習・復習・授業準備】テキストを読んで授業に臨むこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと 〔受講のルール〕 ・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードで適宜確認する。
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、技術演習、課題レポート等２０％ 総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	・浅野浩一郎他：系統看護学講座；成人看護学[2]呼吸器　医学書院 ・阿部光樹他：系統看護学講座；成人看護学[3]循環器　医学書院 ・竹村信彦他：系統看護学講座；成人看護学[7]脳・神経　医学書院 ・織田弘美他：系統看護学講座成人看護学[10]運動器　医学書院
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院での実務経験のある教員による授業を展開する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護援助論Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川田　智美、佐藤　充子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人期にあり、緩和ケアを受ける対象を理解し、必要な看護実践能力を身につける。 がんで治療を受ける対象を理解し、治療に伴う看護に必要な看護実践能力を身につける。 〔到達目標〕 ①緩和ケアを受ける対象に必要な援助方法を学習する。 ②緩和ケアを受ける対象に必要な看護を実践できる能力を身につける。 ③緩和ケアを受ける対象とその家族を取り巻く環境の在り方を考える能力を身につける。 ④がん治療（化学療法・放射線療法）に伴う看護について学習し、看護を実践できる能力を身につける。
授業の概要	成人期で緩和ケアを受ける対象の看護を展開するために必要な理論や方法論を学習する。 肺がん、白血病、前立腺がん、子宮がん等の疾患を踏まえ、がん治療（化学療法・放射線療法）に伴う看護について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①緩和ケアを受ける対象に必要な援助方法を学習する。	◎	◎	◎	○
②緩和ケアを受ける対象に必要な看護を実践できる能力を身につける。	◎	◎	◎	◎
③緩和ケアを受ける対象とその家族を取り巻く環境の在り方を考える能力を身につける。	◎	◎	◎	◎
④がん治療（化学療法・放射線療法）に伴う看護について学習し、看護を実践できる能力を身につける。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　緩和ケアの概念と対象理解 【key words】 緩和ケア　全人的苦痛			

【授業概要】
緩和ケアの定義・理念・歴史について
緩和ケアを受ける対象の理解
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第1，5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。また新聞などの緩和ケアや死に関する情報に目を向けておく。

第２回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアの実際
【key words】
緩和ケア
【授業概要】
緩和ケアにおける看護師の役割について
緩和ケアの実際（事例を通して学ぶ）

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第2，4，5，6章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。また新聞などの緩和ケアや死に関する情報に目を向けておく。

第３回　A緩和ケアを受ける対象への看護　　身体的苦痛とその援助
【key words】
痛み　全人的苦痛　身体的苦痛　疼痛アセスメント　痛みのコントロール

【授業概要】
全人的苦痛とは
身体的苦痛とは
疼痛アセスメントの方法・留意点
痛みのコントロールに対する看護援助

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第7章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。
第４回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　心理・社会的苦痛・スピリチュアルペインとその援助
【key words】
痛み　全人的苦痛　心理・社会的苦痛　スピリチュアルペイン

【授業概要】
対象が抱える心理社会的苦痛とは
死にゆく人の心理過程
心理社会的苦痛への援助
スピリチュアルペインとは
スピリチュアルケア（事例を通して考える）

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第9，10章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。
第５回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　対象と家族を支援するチームアプローチ
【key words】
家族看護　チームアプローチ　遺族ケア　エンゼルケア

【授業概要】
家族の定義と家族看護のあり方
家族看護の方法：看護師の役割とチームアプローチ
遺族ケア
エンゼルケア
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第2，11章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第６回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について（ディベート演習オリエンテーション含む）
【key words】
緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート

【授業概要】
倫理的課題とは何か（講義）
ディベート演習オリエンテーション
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第1～5回までの授業資料、テキストを読んで講義に臨む。

第７回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について（講義・ディベート演習）
【key words】
緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート

【授業概要】
緩和ケアにおける倫理的課題について事例を通して学習する。（GW）
緩和ケアにおける倫理的課題についてディベートを行う。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

ディベート演習オリエンテーション時に配布した演習資料を熟読し、事前学習を行った上で授業に参加する。

第８回　A.緩和ケアを受ける対象への看護　　緩和ケアにおける倫理的課題について（ディベート演習）
【key words】
緩和ケア　終末期　看護　倫理的課題　　ディベート

【授業概要】
終末期における倫理的課題について事例を通して学習する。（GW）
終末期における倫理的課題についてディベートを行う。

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　緩和ケア　　医学書院　第3章

【課題・予習・復習・授業準備指示】

ディベート演習オリエンテーション時に配布した演習資料を熟読し、事前学習を行った上で授業に参加する。
演習終了後、事後レポート課題に取り組み、緩和ケアにおける倫理的課題についての理解を深める。

第９回　Ｂがん治療に伴う看護　　化学療法を受ける対象への看護
【key words】
化学療法　副作用　看護
【授業概要】
化学療法について
化学療法を受ける対象の理解
化学療法時の看護
【教科書ページ・参考文献】
講義資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】

事前に講義資料に目を通してから講義に臨む。
疾病治療論（化学療法）について復習した上で講義に臨む。

第１０回　Ｂがん治療に伴う看護　　肺がんの患者の看護
【key words】
肺悪性腫瘍　化学療法　放射線療法　看護

【授業概要】
肺悪性腫瘍の病態生理・症状・診断・検査
治療（化学療法　放射線療法）
肺がん患者の看護（化学療法・放射線療法を受ける患者の看護）

【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　第5章肺腫瘍，6章肺がん患者の看護

【課題・予習・復習・授業準備指示】

疾患に関する既習講義を復習しておく。
テキストを読んで講義に臨む。

第１１回　B.がん治療に伴う看護　　前立腺がんの患者の看護
【key words】
前立腺がん、放射線療法、看護
【授業概要】
前立腺がんの病態生理・症状・検査・治療
放射線療法時の看護
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学⑧　第5章前立腺がん，第6章Ⅴ-D放射線療法を受ける対象への看護
【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで講義に臨む。

第１２回　B.がん治療に伴う看護　　子宮がんの患者の看護
【key words】

	子宮頸がん、子宮体がん、化学療法、放射線療法、看護 【授業概要】 子宮がん（頸部がん、体がん）の病態生理・症状・検査・治療 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨　第5章③子宮の疾患，第6章E③子宮疾患患者の看護，G化学療法を受ける対象への看護，H放射線療法を受ける対象への看護 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 第１３回　C.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　１．白血病の患者の看護：化学療法を受ける患者への看護 【key words】 白血病　診断・検査　化学療法　感染リスク 【授業概要】 急性白血病の病態生理・検査・治療（化学療法） 輸血について 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第1～4章C造血器腫瘍，第5章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 疾患に関する既習講義を復習しておく。 テキストを読んで講義に臨む。 第１４回　C.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　２．白血病の患者の看護：造血幹細胞移植を受ける患者への看護 【key words】 白血病　診断・検査　化学療法　感染リスク　無菌室　造血幹細胞移植 【授業概要】 造血器幹細胞移植を受ける患者の看護 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　第1～4章C造血器腫瘍，第5章D-④ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 疾患に関する既習講義を復習しておく。 テキストを読んで講義に臨む。 第１５回　C.血液・免疫機能に障害のある対象の看護　　HIVの患者の看護 【key words】 HIV　AIDS　日和見感染 【授業概要】 HIV感染症とAIDS HIV合併症と治療 HIV患者の理解(偏見・差別、感染予防行動) 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪　感染症：第5章R HIV感染症と日和見感染症，第6章D疾患を持つ患者の看護 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。 ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと 〔受講のルール〕 ・事前に授業概要及びシラバスを必ず確認し、自己の達成目標を明確にした上で、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時に課題を提示することがある。課題の未実施や実施した課題を授業時に持参しなかった場合には、演習などの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。また、授業中にスライドを撮影することや授業内容の録音についても固く禁ずる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業概要に示されている教科書は必ず確認し、授業に臨むこと。また、授業内で提示された課題には計画的に取り組み、提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	各回、原則授業終了後から放課後18時までとする。但し、ｵﾑﾆﾊﾞｽ形式の授業であるため、学内教員のオフィスアワーについては、研究室に提示されている時間に準ずる。
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、演習、課題レポート等20%で評価する。 （＊演習、課題レポートの評価基準の詳細は、課題提示時に別途説明する。）

	総合評価は筆記試験、演習、課題レポート等合わせて６０％を超えていることが前提となる。
教科書	1) 系統看護学講座　緩和ケア、医学書院（第1回～8回） 2) 系統看護学講座成人看護学［２］　呼吸器　医学書院（第10回） 3) 系統看護学講座成人看護学［８］　腎・泌尿器　医学書院（第11回） 4) 系統看護学講座成人看護学［９］　女性生殖器　医学書院（第12回） 5) 系統看護学講座成人看護学［４］　血液・造血器　医学書院（第13、14回） 6)系統看護学講座成人看護学［１１］　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院（第15回）
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員による授業を展開する。また、第2、3、5、9回については、がん看護専門看護師及び各分野の認定看護師による講義を展開する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護学実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
川田　智美　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	１．実習目的 　回復期・慢性期にある対象の、自己効力を意識したセルフマネジメントに働きかけ、機能回復及びセルフケア再獲得のための援 助を展開できる。また、緩和ケアを受ける対象及び家族が抱える苦痛を緩和し、QOLを高めるための看護について学ぶ。 ２．実習目標 １）回復期・慢性期にある対象の特徴を踏まえ、健康障害が日常生活に及ぼす影響について理解できる。 ２）対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性が導き出せる。 ３）生涯にわたりセルフケアを必要とする対象及び家族に対し、セルフケア確立に向けての介入ができる。 ４）緩和ケアを受ける対象の全人的苦痛を理解し、対象及び家族に対して心身の安楽に向けた介入が出来る。 ５）継続看護の必要性を理解し、他職種との連携における看護師の役割について理解できる。
授業の概要	成人看護学実習要項を参照のこと

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①回復期・慢性期にある対象の特徴を踏まえ、健康障害が日常生活に及ぼす影響について理解できる。	◎	◎	◎	◎
②対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性が導き出せる。	◎	◎	◎	◎
③生涯にわたりセルフケアを必要とする対象及び家族に対し、セルフケア確立に向けての介入ができる。	◎	◎	◎	◎
④緩和ケアを受ける対象の全人的苦痛を理解し、対象及び家族に対して心身の安楽に向けた介入が出来る。	◎	◎	◎	◎

⑤継続看護の必要性を理解し、他職種との連携における看護師の役割について理解できる。	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画	第１回　　成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習要項を参照のこと
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 実習履修資格者 ・人体構造機能学Ⅰ-Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ-Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ-Ⅴ及び基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者 2. 実習時期及び実習日数・時間 1）時　期：2019 年　5月～11月 2）日　数：2週間 3）時　間：90時間（2単位）　指定された病院（別途指示）で１グループ５～６名で実習を行う。 3. 実習上の注意 1）実習要項　オリエンテーション用紙参照　（別途配布） 2）個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。 3）既習学習内容を復習し、看護技術を十分練習した上で実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。また、実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間は、各自で確保する必要がある。
オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
評価方法	１．4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。 ２．実習評価表に基づいて評価する(実習要項参照）。
教科書	成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅲ、Ⅴの授業で使用した教科書及び授業資料等
参考書	上記、教科書及び実習期間中に実習担当教員より提示された参考書等
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院又は総合病院で実務経験のある教員により実習を展開する アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護学実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	4単位(180)	必修
担当教員			
源内　和子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 健康の危機状況にある対象の特徴を理解し、全身状態の改善と合併症予防に努め、苦痛の緩和・早期回復に向けての看護ができる。 【実習目標】 １）急性期にある対象及び家族の特徴が理解できる。 ２）身体侵襲を伴う治療を必要とする対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性を導き出せる。 ３）周手術期にある対象の看護ができる。 （１）手術を受ける対象の身体的・精神的準備について理解し、術前の看護が実践できる。 （２）手術中の安全管理と看護の役割が述べられる。 （３）手術後の回復過程を過ごす対象に必要な看護が実践できる。 （４）生活の再構築に取り組む対象及び家族への看護が述べられる。 （５）手術を受けた対象への継続看護の必要性が述べられる。 ４）生命の危機状態にある対象（救急外来・救急病棟・集中治療室など）において、必要な医療や看護の特徴が理解できる。
授業の概要	成人看護学実習要綱を参照のこと

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①急性期にある対象及び家族の特徴が理解できる。	◎	◎	◎	◎
②身体侵襲を伴う治療を必要とする対象の特徴を踏まえ、看護診断を用いて必要な看護の方向性を導き出せる。	◎	◎	◎	◎
③周手術期にある対象の看護ができる。 （１）手術を受ける対象の身体的・精神的準備について理解し、術前の看護が実践できる。 （２）手術中の安全管理と看護の役割が述べられる。 （３）手術後の回復	◎	◎	◎	◎

過程を過ごす対象に必要な看護が実践できる。 （４）生活の再構築に取り組む対象及び家族への看護が述べられる。 （５）手術を受けた対象への継続看護の必要性が述べられる。				
④生命の危機状態にある対象（救急外来・救急病棟・集中治療室など）において、必要な医療や看護の特徴が理解できる。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 成人看護学実習要項に準ずる。
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 実習履修資格者 ・人体構造機能学Ⅰ-Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ-Ⅴ、成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ-Ⅴ及び基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得している者 2. 実習時期及び実習日数・時間 1）時　期：2019 年　5月～11月 2）日　数：4週間 3）時　間：180時間（4単位）　指定された病院（別途指示）で１グループ５～６名で実習を行う。 うち、学内実習　90時間 3. 実習上の注意 1）実習要綱　オリエンテーション用紙参照　（別途配布） 2）個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。 3）既習学習内容を復習し、看護技術を十分練習した上で実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。また、実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間は、各自で確保する必要がある。
オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。
評価方法	1. 4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。 2. 実習評価表に基づいて評価する（実習要綱参照）。
教科書	成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業で使用した教科書及び授業資料等
参考書	上記の教科書以外に受け持ち患者の関連疾患看護の参考書や教員から指示された参考書等
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 成人看護学領域の実習担当者の実務経験は、総合病院、大学病院での成人看護、特に急性期看護の経験を持つ教員が担当している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
中島　葉子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[目的] 高齢者の生活に影響を与える加齢変化について理解し、高齢者を支援するための基本的知識を修得する。 [到達目標] ①高齢者疑似体験を通して加齢変化を理解できる。 ②加齢現象に伴って生じる高齢者の脆弱性を理解する。 ②器官系統別の加齢変化のありようを踏まえたアセスメント方法について理解することができる。 ④加齢変化が高齢者の生活に及ぼす影響について理解することができる。
授業の概要	人体構造機能学Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論総論等で学んだ知識を基に、高齢者の身体的特徴や器官系統別における構造と機能の変化について理解を深め学習を進めていく。具体的には、老年期の加齢現象から日常生活に影響を与えている根拠となる身体症状に関するアセスメント方法について理解するための基礎知識である。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①高齢者疑似体験を通して加齢変化を理解できる。	◎	◎	◎	△
②加齢現象に伴って生じる高齢者の脆弱性を理解する。	◎	◎	◎	△
③器官系統別の加齢変化のありようを踏まえたアセスメント方法について理解することができる。	◎	◎	○	△
④加齢変化が高齢者の生活に及ぼす影響について理解することができる。	◎	◎	◎	△
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　／　現代の高齢者理解 【Key word】　老化（正常・病的）　エイジズム　環境　ヘルスアセスメント　ICF　CGA 【授業概要】 ①高齢者の発達的特徴②高齢者と環境③アセスメントに必要な症状の特徴④面接や観察時のポイント⑤高齢者の健康⑥高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義について学ぶ。 【教科書 ページ】　南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改

訂第2版）P2～28、配布資料。
【課題・予習・復習・授業準備】　「既往歴聴取の目的、身体所見観察時の留意点・評価のポイントについて」1週間後レポート提出

第２回　フィジカルアセスメント、加齢による変化とアセスメント　感覚器・運動器
【Key word】加齢変化　老視　近見視力　青錐体　弁別能力　抗重力筋　骨粗鬆症
【授業概要】①高齢者の感覚器、運動器の加齢変化②症状の病態と生理学的特徴③加齢変化が及ぼす生活への影響④アセスメントの視点⑤フィジカルアセスメントについて学ぶ
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P145～156、配布資料、DVD視聴。
【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。

第３回　加齢による変化とアセスメント　運動・神経系
【Key word】MMT　ROM　サルコペニア　ロコモティブシンドローム　フレイル　　起立性低血圧　ロンベルグ徴候
【授業概要】①加齢に伴って生じる運動器変化について理解する②運動器のアセスメント方法③加齢変化が高齢者の生活に与える影響④症状の対処方法についてセルフケアの視点から理解する。
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P126～143、配布資料、DVD視聴。
【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。

第４回　高齢者疑似体験準備
【Key word】加齢変化　高齢者体験
【授業概要】①グループ編成（3～4人）し、高齢者役（シミュレーター装着）、援助者（高齢者役の援助）、観察者（高齢者役、援助者役を観察する）とし、全員が全ての役を体験することができるように順番を決める。②シミュレーターの点検、使用方法の確認。③コース・体験内容・時間配分、安全面への配慮についての計画書提出。
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）配布資料。
【課題・予習・復習・授業準備】配布資料の復習、計画書の内容確認。

第５回　高齢者疑似体験実施
【Key word】加齢変化　高齢者体験　グループワーク
【授業概要】①全員が高齢者、援助者、観察者を体験する。②シミュレーターを用いて円背や関節可動域の制限、視覚、聴覚の特徴を体験し高齢者の身体機能低下の理解を深める。③高齢者の日常生活上での不自由さや危険を理解し、高齢者の視点に立った援助を考える。④それぞれの学びを各グループでまとめる。
【教科書 ページ】配布資料。
【課題・予習・復習・授業準備】グループで学びをまとめ、次回（第６回）の発表に備える。

第６回　高齢者疑似体験での学び発表会
【Key word】グループワーク　プレゼンテーション　ディスカッション
【授業概要】①表、意見交換を行い、他者が経験した情報の共有、様々な感じ方、視点を学ぶ。②高齢者の日常生活上での不自由さや危険を理解し、高齢者の視点に立った援助を考える。
【教科書 ページ】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備】発表会での他者の意見・発表後もう一度グループごとに振り返り、まとめたものを1週間後に提出。

第７回　加齢による変化とアセスメント　皮膚とその付属器
【Key word】スキンテア　ドライスキン　褥瘡　保湿　静水圧　浮力
【授業概要】①皮膚の構造と役割②加齢による、皮膚とその付属器の変化の特徴③観察のポイント④アセスメントの視点⑤高齢者に及ぼす影響　入浴の温熱作用・静水圧作用・浮力について学ぶ。
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P97～105、配布資料、
【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。

第８回　加齢による変化とアセスメント　呼吸器
【Key word】エアートラッピング　NPPV　包括的呼吸リハビリテーションプログラム　1秒率　気道クリアランス
【授業概要】①齢に伴って生じる運動器変化②加齢変化が高齢者の生活に与える影響③呼吸機能のフィジカルアセスメント④高齢者の生活場面に対する看護実践と評価の方法を学ぶ
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P30～39配布資料、DVD視聴。
【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。

第９回　加齢による変化とアセスメント　循環器
【Key word】食後低血圧　起立性低血圧　脈圧　白衣高血圧　高血圧治療ガイドライン2019　脈拍欠損　服薬コンプライアンス
【授業概要】①加齢に伴う循環器系の構造と機能の変化②高齢者の血管、血圧の特徴③高血圧治療ガイドライン改定2019④高齢者の脈拍の特徴⑤循環器系の観察項目・留意点・アセスメントについて学ぶ
【教科書 ページ】配布資料、DVD視聴。
【課題・予習・復習・授業準備】配布資料の復習。

第１０回　加齢による変化とアセスメント　内分泌・排泄
【Key word】LOW症候群　サーカディアンリズム　排尿障害　排便障害
【授業概要】①分泌系の構造と機能の変化②ホルモン分泌の変化と臨床症状③生体リズムに関わるホルモン④下部尿路の加齢変化の症状と特徴⑤排便機能に影響する要因⑥排泄機能の変化・介入について学ぶ
【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P49～62、配布資料。
【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。

第１１回　加齢による変化とアセスメント　消化器・嚥下機能・食事
【Key word】PEM　サルコペニア肥満　低栄養　摂食・嚥下リハビリテーション
【授業概要】①高齢者にとっての栄養②栄養スクリーニング③加齢に伴う消化器の構造と機能の

	変化④嚥下機能アセスメントについて学ぶ 【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P40～48、157～167、178～187、配布資料、DVD視聴。 【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 第１２回　高齢者に特徴的な症状と看護　生活リズム・コミュニケーション・うつ・せん妄 【Key word】レム睡眠　ノンレム睡眠　多相性睡眠　生活史　構音障害　失語症 【授業概要】①加齢に伴う睡眠・覚醒の変化②高齢者にとっての睡眠③睡眠障害の影響④睡眠の評価⑤生活リズムを整えるケア⑥高齢者に起こり易い⑦コミュニケーション能力・障害のアセスメント⑧高齢者のうつの特徴⑨せん妄発症のリスク要因・予防・対応について学ぶ。【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P79～89、106～115、257～266、277～284、配布資料。 【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 第１３回　高齢者に特徴的な症状と看護　　転倒　骨折　寝たきり　褥瘡　日常生活動作のアセスメント 【Key word】IADL　BADL　転倒恐怖症　廃用症候群　DESIGN-R　大腿骨頸部骨折 【授業概要】①基本的・集団的ADLの評価指標②事例を用いたADLの評価③転倒リスクのアセスメント④転倒予防・再発防止⑤転倒の心理・社会的な影響に関するケア⑥寝たきり発生要因、臥床による弊害、予防⑦褥瘡リスクをアセスメントして要因を排除する⑧褥瘡評価について学ぶ 【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P211～225、267～276、285～303、配布資料、DVD視聴。 【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 第１４回　高齢者に特徴的な症状と看護　痒み・痛み・発熱・感染症 【Key word】老人性皮膚掻痒症　ドライスキン　疥癬トンネル　水尾徴候　除痛ラダー　集団感染 【授業概要】①清潔の心理的・社会的・生理的・自立生活上の意義②痒みの原因・メカニズム③高齢者で問題になる集団感染・施設での集団感染・感染対策④高齢者の発熱の原因・メカニズム・アセスメント⑤発熱と随伴症状に対する支援⑥高齢者の感染症・予防と治療について学ぶ 【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P90～96、188～210、305～316、配布資料。 【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。 第１５回　高齢者に特徴的な症状と看護　脱水　ミニテスト 【Key word】水分出納バランス　ホメオスタシス　高張性　低張性　混合性 【授業概要】①脱水の定義・疫学②水の病態と生理学的特徴②脱水の症状と生活への影響③脱水を予防する、アセスメント・介入・評価の視点④脱水を改善する、アセスメント・介入・評価の視点について学ぶ⑤ミニテスト 【教科書 ページ】南江堂　老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第2版）P168～176、配布資料。 【課題・予習・復習・授業準備】使用テキストを読み理解を深める、配布資料の復習。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・知識の整理と確認目的で小テスト(加齢変化に関する出題）を実施しますので、必ず受験してください。 ・課題レポートについては、授業時に提示します。 [受講のルール] ・授業計画内容を必ず確認し、欠席・遅刻のないように臨んでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に示されるキーワードは、教科書や授業時に配布された資料を活用し復習をしましょう。
オフィスアワー	月曜日　8：20～8：40 12：00～12：30
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。 総合評価は筆記試験・小テスト・課題レポートの合計点60%を超えることが大前提である。
教科書	①老年看護学概論　「老いを生きる」を支えることとは　改訂第2版　南江堂　(2016) ②老年看護学技術　南江堂
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立病院・総合病院の看護師として25年間勤務経験がある。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
剱持　貴史　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助方法について理解する。 [授業の到達目標] ①生理的加齢現象が高齢者の生命や生活に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護の基本的知識を修得することができる。 ②健康障害を併せもつ高齢者の疾患・症状をアセスメントし、具体的な看護について理解できる。 ③高齢者のQOLを高めるべく健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について理解できる。
授業の概要	高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助について理解する。具体的には、これまで学んだ日常生活を支える基本的活動に基づいて、老年期の生理的加齢現象や疾患をもつ高齢者の生命や生活に及ぼす影響を踏まえながら、日常生活を整える看護について学びを深める。 さらに、健康障害を併せもつ高齢者の疾患・症状の特徴を理解し、高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①生理的加齢現象が高齢者の生命や生活に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護の基本的知識を修得することができる。	◎	◎	○	○
②健康障害を併せもつ高齢者の疾患・症状をアセスメントし、具体的な看護について理解できる。	◎	◎	○	○
③高齢者のQOLを高めるべく健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について理解できる。	◎	◎	○	○
授業計画	第１回　　科目オリエンテーション／高齢者の急性期の看護 【授業概要】			

授業の受け方、授業展開、評価についてシラバスを基に説明する。
胃がんの事例を基に高齢者の急性期における治療の特徴を理解する。
手術をするかどうかの決定、高齢者が起こしやすい合併症について学ぶ。
【key words】
高齢者の急性期治療、胃がん、合併症
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p220～225、老年看護学技術p320～p332
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく。

第２回　高齢者のリハビリテーション看護
【授業概要】
大腿骨頸部骨折の事例を通して、高齢者に対する回復期・リハビリテーション看護について学ぶ。
【key words】
回復期、リハビリテーション、大腿骨頸部骨折
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p226～232、老年看護学技術改訂第2版p333～344
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく

第３回　高齢者の慢性期看護
【授業概要】
慢性閉塞性肺疾患の事例を通して、高齢者に対する慢性期看護について学ぶ。
【key words】
慢性期、慢性閉塞性肺疾患
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p128～131、p156～161
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく。

第４回　エンドオブライフケア
【授業概要】
病院、施設における高齢者のエンドオブライフケアについて学ぶ
【key words】
終末期、緩和ケア、家族ケア
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p286～327　老年看護学技術改訂第2版p375～391
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく。
終末期に起こりやすい症状については、成人看護学等での学びを復習しておく。

第５回　パーキンソン病の看護
【授業概要】
パーキンソン病の事例を通して、パーキンソン病の特徴と看護援助について学ぶ。
【key words】
パーキンソン病、症状、看護援助
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学技術改訂第2版p392～403
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく。

第６回　薬物療法を受ける高齢者の看護
【授業概要】
高齢者の服薬行動について、なぜ気を付ける必要があるのか、肝機能や腎機能との関連、視覚、巧緻性、認知機能の低下などさまざまな加齢変化との関連で考える。
【key words】
高齢者、薬物療法、加齢変化
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学技術改訂第2版p404～414
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく。

第７回　生活史を通した高齢者の理解（演習）
【授業概要】
高齢者が生きてきた時代はどういう時代だったのか、各年代における特徴的な出来事についてまとめる。
【key words】
生活史、ライフストーリー
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p110～117、生活機能からみた老年看護過程p500～509
【課題・予習・復習・授業準備】
事前にテキストの該当箇所について学習しておく

第８回　生活史を通した高齢者の理解（演習）
【授業概要】
高齢者が生きてきた時代についての発表、ディスカッションを通して、高齢者の生活史について理解を深める。
【key words】
生活史、ライフストーリー
【教科書ページ・参考文献】
老年看護学概論p110～117、生活機能からみた老年看護過程p500～509
【課題・予習・復習・授業準備】

	各自が担当する年代の資料を授業2日前までに提出する。 第９回　認知機能障害のある高齢者の看護 【授業概要】 アルツハイマー病の事例を通して、認知機能に障害のある高齢者に対する看護を学ぶ。 【key words】 認知症、アルツハイマー病 【教科書ページ・参考文献】 老年看護学技術改訂第2版p357～374 【課題・予習・復習・授業準備】 事前にテキストの該当箇所について学習しておく。 第１０回　認知機能障害：高齢者と『意思疎通』を図るケア 【授業概要】 認知症高齢者に対するユマニチュード、バリデーションなどのコミュニケーション技法について学び、認知症高齢者とのコミュニケーションの取り方について理解を深める。 【key words】 認知症、ユマニチュード、バリデーション 【教科書ページ・参考文献】 本田美和子，イヴ・ジネスト，ロゼット・マレスコッティ著，ユマニチュード入門，医学書院，2014 藤沢嘉勝監訳　Naomi Feil著　痴呆症の人との超コミュニケーション法　バリデーション　筒井書房　2002 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館で参考図書について調べ、その技法について理解しておく。 第１１回　高齢者の心地よさにつなげる援助技術 【授業概要】 科学的な論文を参考に、学生同士で手浴、足浴援助を行い、心地よさを目指した看護ケア技術演習を行う。 また、口腔ケアを通して 【key words】 手浴、足浴、心地よさ 【教科書ページ・参考文献】 新田 紀枝，阿曽 洋子，川端 京子：足浴，足部マッサージ，足浴後マッサージによるリラクゼーション反応の比較，日本看護科学会誌,22(4)，2002. 【課題・予習・復習・授業準備】 足浴および手浴に関する論文を各自で検索、持参する。基礎看護技術に関するテキストの足浴および手浴、口腔ケアに関する項目について理解しておく。 第１２回　遊びを通した高齢者とのコミュニケーション 【授業概要】 遊びを通した高齢者とのコミュニケーションの方法とその効果を学ぶ。 【key words】 摂食・嚥下機能障害、経口摂取 【教科書ページ・参考文献】 森山千賀子，土井晶子：日本の高齢者施設における余暇活動の現状と課題－QOLの向上に効果的な余暇活動とは－，白梅学園大学・短期大学紀要，45，49～67，2009. 【課題・予習・復習・授業準備】 あやとり、おはじき、お手玉、けん玉などの遊び方について各自で調べる。 第１３回　「口から食べたい」をかなえる看護 担当：外部講師 【授業概要】 摂食・嚥下機能に障害のある高齢者が経口摂取するための基本的知識および援助技術について学ぶ。 【key words】 摂食・嚥下機能障害、経口摂取 【教科書ページ・参考文献】 老年看護学技術改訂第2版p157～167 【課題・予習・復習・授業準備】 事前にテキストの該当箇所について学習しておく。 第１４回　認知機能障害：認知機能に障害がある高齢者のケア(音楽療法)講義 担当：外部講師 【授業概要】 音楽療法士の講師による実践的な講義を通して、認知症高齢者に対する音楽療法の意義と役割について学ぶ。 【key words】 認知症、音楽療法 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備】 資料を基に認知症高齢者に対する音楽療法の意義について理解しておく。 第１５回　認知機能障害：認知機能に障害がある高齢者のケア(音楽療法)演習 担当：外部講師 【授業概要】 音楽療法士の講師による実践的な講義を通して、認知症高齢者に対する音楽療法の実際と技術について学び、実習における実践につなげる。 【key words】 認知症、音楽療法 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備】

	資料を基に認知症高齢者に対する音楽療法の方法について理解しておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと看護を学ぶため、高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰ、疾患の病態生理・治療と基礎看護学での生活援助の知識や演習内容の復習が必要である。 〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し、予習復習をして授業に臨むこと。　・疑問や不明点については積極的に質問する。　・他の学生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁 ①講義資料は教科書を予習・復習するためのものであるので授業前後に活用する。②課題レポートやワークシートに関しては決められた期限内に提出すること。③毎回の講義は学習テーマが異なるため欠席しないようする。④出席時間を守る、挨拶をもって授業に臨むことを忘れずに。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に示されるキーワードは教科書や配布された資料を活用し復習をしましょう。
オフィスアワー	金曜日18時まで
評価方法	課題レポート40%、筆記試験40%、ワークシートおよび発表10%、グループワークの取り組み10% 総合評価においては、60%を超えることが単位認定及び評価となる。
教科書	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは ・老年看護学技術改訂第2版　南江堂 ・系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論（2016） ・随時講義資料を配布
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病院において高齢者に対する看護実践経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護援助論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
剱持　貴史　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 慢性疾患や健康障害を併せもつ高齢者の特徴を捉え、「もてる力」を引き出すための看護援助の視点および生活機能に基づく看護過程の展開技術を修得する。 〔授業の到達目標〕 ①高齢者の看護過程展開に用いる生活行動モデルが理解できる。 ②老年期にある対象の特徴を理解し、生活機能の観点からアセスメントできる。 ③高齢者が望む生活や状態を見据えた目標志向型思考の看護展開ができる。 ④事例患者を通して、その人の「もてる力」を活かした高齢者に必要な看護援助の方法が理解できる。
授業の概要	本科目では、高齢者の「もてる力」を引き出す生活機能重視の看護を学習し、生活行動モデルによる看護過程の考え方を理解する。また、その人らしく生活を営むことができるよう、事例を通して目標志向型思考に合わせた看護の焦点を抽出し、高齢者とその家族の望む生活をめざした看護過程の展開技術を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①高齢者の看護過程展開に用いる生活行動モデルが理解できる。	◎	◎	○	○
②老年期にある対象の特徴を理解し、生活機能の観点からアセスメントできる。	◎	◎	○	○
③高齢者が望む生活や状態を見据えた目標志向型思考の看護展開ができる。	◎	◎	○	○
④事例患者を通して、その人の「もてる力」を活かした高齢者に必要な看護援助の方法が理解できる。	◎	◎	○	○

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション/高齢者の看護過程展開における特徴/高齢者看護に用いられる看護理論 【授業概要】 授業の受け方、授業展開、評価についてシラバスを基に説明する。 生活行動モデルの概要および目標志向型思考について学ぶ。 【key words】

	生活行動モデル、目標志向型思考、もてる力 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。老年看護学概論p2～29,p58～63 【課題・予習・復習・授業準備】 事前にテキストの該当箇所について学習しておく。 第２回　事例展開①　情報の整理とアセスメント 【授業概要】 アセスメントツールについて説明する。アセスメントツールを基に事例に対するアセスメントを行う。 【key words】 生活行動モデル、老年看護過程事例展開、アセスメント 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備】 前回の資料について復習しておく。 第３回　事例展開②　情報の整理とアセスメント 【授業概要】 事例展開する中で生じた質疑応答を行う。 【key words】 アセスメント、質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。「生活機能からみた老年看護過程」 【課題・予習・復習・授業準備】 事例展開した中で、疑問に生じたことをまとめ、質問できるようにしておく。 第４回　事例展開③　病態・生活関連図/看護の焦点の明確化・優先順位の決定（グループワーク） 【授業概要】 病態・生活関連図/看護の焦点の明確化・高齢者看護における優先順位の決定について説明し、その後グループで関連図の作成および看護の焦点を明確にしていく。 【key words】 病態・生活関連図、看護の焦点、優先順位の決定 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。「生活機能からみた老年看護過程」 【課題・予習・復習・授業準備】 各自アセスメントを一通り完成させておく。アセスメントした記録用紙を持参する。 第５回　事例展開④　病態・生活関連図および看護の焦点 【授業概要】 各グループの病態・生活関連図および看護の焦点について発表し、グループ間での意見交換を行うことで、グループ間での関連図および看護の焦点に対する理解を深める。 【key words】 病態・生活関連図、看護の焦点、共有、ディスカッション 【教科書ページ・参考文献】 各グループの関連図および看護の焦点についての資料を配付 【課題・予習・復習・授業準備】 授業の２日前までに、グループで作成した資料（病態・生活関連図、看護の焦点）の原本を提出。 自分のグループの資料をよく理解しておき、発表の準備を行う。 第６回　看護過程演習：看護目標の設定/看護計画の立案と実施・評価/フローシート作成 【授業概要】 看護目標および看護計画の立案、実施評価の方法、フローシートの作成について説明する。 各自で看護目標の設定、看護計画の立案と実施・評価、フローシート作成を行い、もてる力を活用した看護目標および看護計画の立案方法を理解する。 【key words】 看護計画、もてる力 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備】 これまで行った学習について復習し、事例の全体像を理解し、看護の焦点を基にした看護計画について考える。 第７回　看護過程演習まとめ（グループワーク） 【授業概要】 個人で立案した看護計画を持ち寄り、グループで看護目標および看護計画についてディスカッションを行う。グループごとに看護計画を立案する。 【key words】 看護計画、グループワーク、ディスカッション 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備】 各自で看護計画を完成させ、グループワークに持参する。 第８回　看護過程演習まとめ（グループ発表） 【授業概要】 各グループの看護計画を発表し、グループ間でディスカッションを行う。 ディスカッションを通じて、看護目標および看護計画の立案に対する理解を深め、看護過程全体を通した対象理解につなげる。 【key words】 看護計画、対象理解、ディスカッション、共有 【教科書ページ・参考文献】 看護計画についての資料を配付する。 【課題・予習・復習・授業準備】 授業の２日前までに、グループで作成した資料（看護計画用紙）を提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・本科目は高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱの履修要件となっている。

	・高齢者看護過程の演習では、疾患・病態・生活機能を多角的に捉えながら循環する5つの過程について段階を踏み学習していくため、欠席がないよう体調管理に万全を期すこと。 ・基礎看護学での生活援助の知識や演習の既習内容を復習しておくこと。 〔受講のルール〕 ・シラバスを必ず確認し、予習復習をして授業に臨むこと。 ・疑問や不明点については積極的に質問する。 ・他の学生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・グループワークでは、全員参加で活発な意見交換ができるように、個人の演習記録を整理して臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・高齢者看護学概論および高齢者援助論Ｉについて復習しておく。 ・個人ワークシートおよびグループワークシートを時間外にも進める。
オフィスアワー	金曜日18時まで
評価方法	・看護過程展開の個人ワークシート40％／グループワークシート40％／グループワークおよび発表の自主性・積極性・協調性・責任性20％
教科書	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは　改訂第2版　南江堂, 2016 ・老年看護学技術　南江堂
参考書	・生活機能からみた老年看護過程　第３版　医学書院, 2016
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病院において高齢者に対する看護実践経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
中島　葉子　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 多様化する高齢者の生活の場を理解し、他職種と協働して高齢者の健康生活を支えるために必要な看護を実践する能力を養う。 〔到達目標〕 ①多様化する高齢者の生活の場が理解できる。 ②高齢者の身体的・精神的・社会的特徴とライフステージが理解できる。 ③認知症高齢者とのコミュニケーション方法について理解できる。 ④他職種との連携を通して施設における看護師の役割・機能について理解する。 ⑤高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる。
授業の概要	老人保健施設及び老人福祉施設でそれぞれ１週間ずつ（計２週間）、各施設において実習を行う。 １．実習期間及び実習時間 期　間：前期実習　2019年5月　7日（火）～ 2019年　7月26 日（金） 後期実習　2019年9月 30日（月）～ 2019年 11月　8日（金） 時　間：8:300～16:00（原則） ※実習施設の時間に準じて実習していく 2. 実習単位及び時間数 高齢者看護学実習Ⅰ:2単位　90時間 3. 履修要件 以下の単位を修得している者が、高齢者看護学実習に臨むことができる。 1)人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ 2)疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ 3)看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ 4)高齢者看護学概論 5)高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①多様化する高齢者の生活の場が理解できる。	◎	◎	◎	○
②高齢者の身体的・精神的・社会的特徴とライフステージが理解できる。	◎	◎	◎	○
③認知症高齢者とのコミュニケーション方法について理解できる。	◎	◎	◎	○

④他職種との連携を通して施設における看護師の役割・機能について理解する。	◎	◎	◎	◎
⑤高齢者の人権を尊重する態度を養い、高齢者観を深めることができる	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画	実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	実習要項（共通・高齢者看護学実習）、オリエンテーション用紙を参照し遵守すること。 ①入所者及び通所者のプライバシーを守るために個人情報の取り扱いには特に注意する。 ②遅刻・欠席の場合はグループリーダー、担当教員、大学に必ず8時30分までに連絡する。 ③事前に連絡ができない場合は大学事務局に必ず連絡する。 ④実習時間外には実習施設へ出入りしない。 ⑤学生単独での援助は絶対に行わない。 ⑥事故の危険がある場合、直ちに近くにいる職員に報告する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示する
オフィスアワー	実習要項参照
評価方法	1）実習目的の到達度を中心に以下の視点で総合的に評価する。 ①実習場面②実習へのとりくみ③実習記録、事前・事後レポート 2）担当教員の意見・指導者・スタッフの意見を参考とし、高齢者看護領域の会議において最終判定する。 3）成績評価は１００点満点とし60点以上を合格とする。 4）所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、成績評価及び単位認定を受けられない。 5）記録などの提出遅れは、成績評価に影響する。 ６)実習評価の結果、合格した者は所定の単位を習得できる。
教科書	系統的看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学　第8版　第2刷　医学書院（2017） 生活機能から見た　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　第2版　第5刷　医学書院（2016）
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論（医学書院）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護学実習Ⅱ(医療施設等)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
中島　葉子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療施設における多様で個別的な健康障害をもつ高齢者とその家族を総合的に理解し、対象のもてる力を活かしながら、健康の回復・維持・増進を図る看護を実践するための基礎的能力を養う。 〔到達目標〕 ①高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を踏まえ、対象および家族のもてる力を活かした看護過程の展開ができる。 ②保健・医療・福祉チームメンバーとの連携を通して、期待される看護師の役割が理解できる。 ③高齢者および家族が必要としている社会資源が理解できる。 ④地域に向けた、継続看護の必要性が理解できる。 ⑤高齢者の人権を尊重する態度と高齢者観を深め、今後の自己の課題を明確にできる。
授業の概要	1．実習期間及び実習時間 期　間：前期実習　2019年5月　7日（火）～ 2019年　7月26 日（金） 後期実習　2019年9月 30日（月）～ 2019年 11月　8日（金） 時　間：8:300～16:00（原則） ※実習施設の時間に準じて実習していく 2．実習単位及び時間数 高齢者看護学実習Ⅱ:2単位　90時間 3．履修要件 以下の単位を修得している者が、高齢者看護学実習に臨むことができる。 1)人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ 2)疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ 3)看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ 4)高齢者看護学概論 5)高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①高齢者の健康障害と特性、個別性、治療を踏まえ、対象および家族のもてる力を活かした看護過程の展開ができる。	◎	◎	◎	◎
②保健・医療・福祉チームメンバーとの連携を通して、期待される看護師の役割が理解できる。	◎	◎	◎	○

③高齢者および家族が必要としている社会資源が理解できる	◎	◎	◎	○
④地域に向けた、継続看護の必要性が理解できる。	◎	◎	◎	○
⑤高齢者の人権を尊重する態度と高齢者観を深め、今後の自己の課題を明確にできる。	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画	実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	実習要項（共通・高齢者看護学実習）、オリエンテーション用紙を参照し遵守すること。 ①入所者及び通所者のプライバシーを守るために個人情報の取り扱いには特に注意する。 ②遅刻・欠席の場合はグループリーダー、担当教員、大学に必ず8時30分までに連絡する。 ③事前に連絡ができない場合は大学事務局に必ず連絡する。 ④実習時間外には実習施設へ出入りしない。 ⑤学生単独での援助は絶対に行わない。 ⑥事故の危険がある場合、直ちに近くにいる職員に報告する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示する。
オフィスアワー	実習要項参照
評価方法	1）実習目的の到達度を中心に以下の視点で総合的に評価する。 ①実習場面②実習へのとりくみ③実習記録、事前・事後レポート 2）担当教員の意見・指導者・スタッフの意見を参考とし、高齢者看護領域の会議において最終判定する。 3）成績評価は１００点満点とし60点以上を合格とする。 4）所定の実習時間の5分の4に満たない場合は、成績評価及び単位認定を受けられない。 5）記録などの提出遅れは、成績評価に影響する。 ６)実習評価の結果、合格した者は所定の単位を習得できる。
教科書	系統的看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学　第8版　第2刷　医学書院（2017） 生活機能から見た　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　第2版　第5刷　医学書院（2016）
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論（医学書院）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　地域看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
勅使川原　洋子・中川　陽子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 地域看護学を概観し、看護職としての地域、地域住民の健康の捉え方、活動のあり方を学ぶ。 【到達目標】 ①地域看護学の概念、歴史、社会的背景を理解できる。 ②地域住民に対する健康支援のあり方について理解できる。 ③公衆衛生及び地域保健活動ついて基本的な知識を習得する。
授業の概要	地域看護学、公衆衛生看護学の概念、基本的な知識、公衆衛生の歴史、法律、政策等を調べることや、現場の保健師からの講話やヘルスプロモーション活動への参加を通して公衆衛生看護活動について理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①地域看護学の概念、歴史、社会的背景を述べられる。	◎	○	◎	△
②人間の集団の健康についての考え方が延べられる。	◎	◎	◎	○
③公衆衛生及び地域保健活動について基本的な知識を述べられる。	◎	○	◎	○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　予防の概念　公衆衛生の定義　公衆衛生看護活動とは 【key words】 予防の概念　公衆衛生　公衆衛生看護 【授業概要】 授業の全体像を理解し、看護学の中で地域看護学の位置づけを理解し、全8回をどのように学習していくのか自ら考える。 【教科書ページ・参考書】 ｐ3―11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。 第２回　健康とはなにか、ヘルスプロモーション

【key words】
アルマアタ宣言　プライマリヘルスケア　オタワ憲章　健康日本２１
【授業概要】
ヘルスプロモーションの理念を理解し、活動の基本を学ぶ
【教科書ページ・参考書】
ｐ13―20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第３回　公衆衛生看護の歴史

【key words】
訪問看護　保健所法　保健婦規則　保健婦助産婦看護婦法
【授業概要】
19世紀イギリスで始まった訪問看護～我が国戦後の公衆衛生看護婦の歴史のＤＶＤを視聴し歴史を理解する。また、我が国の公衆衛生看護は歴史的にどのように変遷し、社会環境の変化にどのような影響を受けてきたかを知る。歴史を学び「保健師とは、どのような役割を担う職業と考えるか」グループでまとめ発表する。
【教科書ページ・参考書】
ｐ21―41　DVD（公衆衛生看護の歴史）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第４回　医療経済と保健活動、保健医療福祉システム

【key words】
費用対効果分析　費用便益分析　国民医療費の動向　衛生行政　社会保障制度
【授業概要】
医療経済の見地から保健活動を考えるにあたり、効率性を分析する要素、政策評価について理解する。
保健師活動を支える保険・医療・福祉制度の概要を理解する。
【教科書ページ・参考書】
ｐ42―57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第５回　公衆衛生看護活動（活動の場、保健師業務、対象、保健指導、施策化）

【key words】
保健師活動指針　一次予防　二次予防　三次予防　健康レベル　ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ　ＰＤＣＡサイクル
【授業概要】
公衆衛生看護活動の視点を理解し、活動方法の概要を理解する。
【教科書ページ・参考書】
ｐ58―68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第６回　社会環境の変化と健康課題

【key words】
人口構造の変化　死因と疾病構造　社会構造の変化（経済、産業、女性の社会進出、地域社会の変化、働き方、生活環境など）
【授業概要】
地域の人々の健康とその支援を考える時、社会環境は切り離せない重要事項であることを理解し、社会の変化の概要を理解する。
【教科書ページ・参考書】
ｐ69―82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第７回　保健行動と保健活動

【key words】
保健行動の分類　セルフケア行動　コンプライアンス行動　アドヒアランス行動　ウエルネス行動　保健信念モデル　シーソーモデル　多理論統合モデル
【授業概要】
保健師活動をする上で、人間の認識、行動様式を理解することが重要である。ここでは、既に理論化されている保健行動について概観し、理解を深める。
【教科書ページ・参考書】
ｐ83―93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで授業に臨む。授業後は当日の資料、ノートを整理する。

第８回　保健師活動の実際

【key words】
健康日本２１　地域　都道府県と市町村保健師
【授業概要】
自分の住んでいる市町村の保健事業について、各自で調べてきたものを、グループワークで、共通事業、特色ある事業を整理、発表する。
【教科書ページ・参考書】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が住んでいる市町村の概要、保健事業ををホームページ、広報誌などで調べてきて、グループでまとめ発表する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 欠席者の資料を持っていく場合は、教員に断わってから責任を持って欠席者に渡してください。 基本的には欠席者の資料は次回の授業までに教員のところに取りに来てください。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内で指示された課題を指示された日程までに提出すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）70%　②積極的な参加10%…教員評価　③レポート20% 注：総合評価は①～③合わせて60%を超えていることが前提となる。 注：レポートは期限内に提出がない場合、減点する。
教科書	第4版データ更新　公衆衛生看護学. jp. インターメディカル. 2018
参考書	国民衛生の動向 2019/2020
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県庁保健師として勤務。精神保健業務としては、家庭訪問や相談などの個別支援を中心に社会生活の維持継続支援、家族会の結成や作業所の設置及びNPO法人化、精神科救急システムづくり、精神科危機介入など行ってきた。母子保健では、乳幼児健康診査の実施、ハイリスク児の家庭訪問などの個別支援、市町村事業への支援・協力など。感染症対策では、結核の患者管理としての個別支援や検診、新型インフルエンザなどへの対応システムづくりを行い、医療機関との合同訓練なども実施した。東日本大震災には保健師として派遣され保健活動を行った。現在、精神障害者のための、就労支援施設Ｂ型、グループホームを運営し障害者支援を行っている。 保健師としての様々な公衆衛生活動を経験し実践しているので、こうした経験を生かし、より理解を深めた保健師教育を行いたい。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
勅使川原　洋子・中川　陽子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防、発生、回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について理解するとともに、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術の選択及び支援方法について理解する。 〔到達目標〕 １．保健指導に有効な理論の概要を述べられる。 ２．「個」「家族」への援助技術である家庭訪問の目的、対象、展開方法の概要を述べられる。 ３．家庭訪問のプロセスを理解し、対象把握、優先度、接近技法・技術を使って学内において模擬的に展開することができる。 ４．健康相談の対象、方法が述べられる。 ５．健康相談、個人に対する健康教育に関する理論を使って学内において模擬的な健康相談を実施することができる。 ６．ライフステージ毎の対象者の発達課題、健康課題を理解し、保健指導に必要な基礎知識を述べられる。
授業の概要	①家庭訪問、健康相談、健康診査の目的、対象、プロセスについて学ぶ。 ②家庭訪問を模擬的に実施する。 ③保健指導を模擬的に実施する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①保健指導に有効な理論の概要を述べられる。	◎	◎	○	○
②「個人」「家族」への援助技術である家庭訪問の目的、対象、展開方法の概要を述べられる。	◎	◎	◎	○
③家庭訪問のプロセスを理解し、対象把握、優先度、接近技法・技術を使って学内において模擬的に展開することができる	◎	◎	◎	○
④健康相談の対象、方法が延べられる。	◎	◎	◎	○

⑤健康相談、個人に対する健康教育に関する理論を使って学内において模擬的な健康相談を実施することができる	◎	◎	◎	○
⑥ライフステージ毎の対象者の発達課題、健康課題を理解し、保健指導に必要な基礎知識を述べられる。「個」から「地域」へ広げる意義、必要性を述べられる	◎	◎	○	○

授業計画

第１回　［科目オリエンテーション］

【key words】
保健師活動
【授業概要】
地域における看護活動を行う必要な知識・技術とは何か。その背景にある社会的な背景を論じた上で、保健師助産師看護師法に規定されている保健師業務「保健指導」とは何かを探る。
【教科書ページ　参考文献】
ｐ58―59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を熟読して臨むこと。配布資料を整理するためのＡ４ファイルを持参し、啓発活動を実践する。

第２回　［講義］　家庭訪問

【key words】
家庭訪問　目的　特徴　機能　プロセス　手順　プライバシーの配慮
【授業概要】
保健師が行う法廷根拠に基づく家庭訪問の目的、対象、展開方法を学ぶ。
【教科書ページ　参考文献】
ｐ117―188
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ教科書を読んで臨む。授業後は資料、ノートを整理する。

第３回　［講義］　家庭訪問の事例展開

【key words】
家庭訪問の対象　事例
【授業概要】
事例を用いて、保健師が行う家庭訪問について学ぶ。
【教科書ページ　参考文献】
当日資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業後は資料、ノートを整理する。

第４回　［演習］　家庭訪問　事例アセスメント、計画立案

【key words】
事例　分析　家庭訪問計画
【授業概要】
事例を用いて、保健師が行う家庭訪問について実践的に学ぶ。
【教科書ページ　参考文献】
当日資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を熟読する。

第５回　［演習］　家庭訪問　相談・保健指導

【key words】
家庭訪問　目的、特徴、プロセス、手順、プライバシーの配慮
【授業概要】
保健師は行う法的根拠に基づき家庭訪問の目的、対象、展開方法を学ぶ。ＤＶＤを視聴し具体的手順を学ぶ。
【教科書ページ　参考文献】
当日資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を熟読する。

第６回　［演習］　家庭訪問　訪問記録作成

【key words】
家庭訪問指導　家庭訪問記録
【授業概要】
母子に関する家庭訪問事例を取り上げ、訪問計画、模擬演習（訪問方法、面接方法、観察方法、訪問記録）を行う。高齢者、精神、難病等の事例についても援助方法を考察する。
【教科書ページ　参考文献】
当日資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料を熟読する。

第７回　［講義］　健康相談

【key words】
健康相談　健康教育
【授業概要】
保健師が行う健康相談、健康教育の目的、対象、方法、基礎理論を学ぶ。
【教科書ページ　参考文献】
ｐ189―207
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	あらかじめ教科書を読んで臨む。授業後は資料、ノートを整理する。 第８回　［講義］ 保健行動理論 【key words】 ＫＡＰモデル　保健信念モデル　プリシードフレームワーク　オペラント学習理論 【授業概要】 特定健康診査及び特定保健指導の方法を学習し、実際に学生同士で模擬的に指導ができるように準備する。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ189―207　当日資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を熟読する。授業後は資料、ノートを整理する。 第９回　［講義］ 健康教育、保健指導 【key words】 健康教育　保健指導 【授業概要】 保健師が行う健康相談、健康教育の目的、対象、方法、基礎理論を学ぶ。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ189―207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ教科書を読んで臨む。授業後は資料、ノートを整理する。 第１０回　［講義］ 健康診査、検診 【key words】 健康診査　目的、対象、方法 【授業概要】 健康診査の概要を理解し、保健指導の方法としての集団指導と個別指導を理解する。 【教科書ページ　参考文献】 208―223 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ教科書を読んで臨む。授業後は資料、ノートを整理する。 第１１回　［講義］ 健康診査のプロセス 【key words】 健康診査事業　企画　対象選定　参加勧奨と実施準備　事後フォロー　評価 【授業概要】 健康診査の準備から事後評価まで一連の流れを理解する。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ219―223　当日資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を熟読する。授業後は資料、ノートを整理する。 第１２回　［講義］ 特定保健指導 【key words】 特定健康診査項目　階層化 【授業概要】 特定健康診査項目、特定保健指導の流れと個別指導を取り上げる。 次回授業で特定保健指導に関する演習を行うため、基礎知識を身につける。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ213　ｐ268―279　当日資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を熟読する。授業後は資料、ノートを整理する。 第１３回　［演習］ 特定健康診査　検査技術演習① 【key words】 メタボリックシンドローム　動機づけ支援　積極的支援　行動変容 【授業概要】 主に特定健康診査及び特定保健指導の方法を学習し、実際に学生同士で模擬的に指導ができるよう準備する。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ268―279 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習資料等を確認する。授業後は資料、ノートを整理する。 第１４回　［演習］ 特定健康診査　検査技術演習② 【key words】 メタボリックシンドローム　動機づけ支援　積極的支援　行動変容 【授業概要】 主に特定健康診査及び特定保健指導の方法を学習し、実際に学生同士で模擬的に指導ができるよう準備する。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ268―279 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習資料等を確認する。授業後は資料、ノートを整理する。 第１５回　［演習］ 特定保健指導　面接演習 【key words】 メタボリックシンドローム　動機づけ支援　積極的支援　行動変容 【授業概要】 主に特定健康診査及び特定保健指導の方法を学習し、実際に学生同士で実施する。 【教科書ページ　参考文献】 ｐ268―279　当日資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習資料等を確認する。授業後は資料、ノートを整理する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習をして臨むこと。

	②演習時の服装は、普段着又は大学指定ジャージとエプロンとする。 ③自身や家族･身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講する。 ④教科書･プリント等は毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ②私語・携帯電話・スマートフォンの使用を禁ずる。携帯電話・スマートフォンは許可がない場合は机上に置かない。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ④授業の学びを必ず記載すること（振り返り用紙）。記載することで思考を深める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	振り返り用紙及びミニレポート。
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）60%、 ②実技試験（演習課題・演習に関するレポート）40%、内訳は以下に示す。 ・家庭訪問演習課題 20% ・保健指導演習課題 10% ・ミニレポート及び演習に臨む態度 10% 注：総合評価は筆記試験、実技試験合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	教科書：荒賀直子・後閑容子編：第4版データ更新版　公衆衛生看護学.jp. インターメディカル.2018
参考書	参考書：中谷芳美：標準保健師講座対象別公衆衛生看護活動. 医学出版. 2014 参考書：松本千明：健康行動理論（実践編）. 医歯薬出版株式会社. 2014 参考書：後藤真太郎他：MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座. 古今書院. 2013 参考書：中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学（１）小児の発達と看護. メディカ出版. 2013
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県庁保健師として勤務。精神保健業務としては、家庭訪問や相談などの個別支援を中心に社会生活の維持継続支援、家族会の結成や作業所の設置及びNPO法人化、精神科救急システムづくり、精神科危機介入など行ってきた。母子保健では、乳幼児健康診査の実施、ハイリスク児の家庭訪問などの個別支援、市町村事業への支援・協力など。感染症対策では、結核の患者管理としての個別支援や検診、新型インフルエンザなどへの対応システムづくりを行い、医療機関との合同訓練なども実施した。東日本大震災には保健師として派遣され保健活動を行った。現在、精神障害者のための、就労支援施設Ｂ型、グループホームを運営し障害者支援を行っている。 保健師としての様々な公衆衛生活動を経験し実践しているので、こうした経験を生かし、より理解を深めた保健師教育を行いたい。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護管理論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　公衆衛生看護活動の円滑な推進と質の向上のための組織運営と管理、人材育成、健康危機管理について学ぶ。 【到達目標】 ①公衆衛生看護管理の目的と機能がわかる。 ②公衆衛生看護管理の対象、方法がわかる。 ③専門職としての責務と成長がわかる。 ④健康危機管理の目的、方法がわかる。
授業の概要	基礎的知識の講義と公衆衛生看護管理の具体例を通して、概念と方法を理解する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①公衆衛生看護管理の目的と機能がわかる。	◎	◎	○	○
②公衆衛生看護管理の対象、方法がわかる。	◎	◎	◎	○
③専門職としての責務と成長がわかる。	◎	◎	◎	○
④健康危機管理の目的、方法がわかる。	◎	◎	◎	○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　公衆衛生看護管理の目的と機能 【key word】 　公衆衛生　看護管理　人財育成　統括保健師 【授業概要】 　授業の全体属を理解する。公衆衛生における看護管理とはどのようなものか知る。 　公衆衛生看護における看護管理の機能を理解し、保健師が働いている行政機関の分散配置の課題を探ることで、管理の在り方、統括保健師の必要性と役割を理解する。 【教科書ページ・参考文献】

	p 487―488 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 第２回　公衆衛生看護管理の対象　組織　人材　予算　　情報　地域ケアの質　リスク管理 【key word】 行政組織　予算　リスク管理 【授業概要】 公衆衛生看護管理の対象を捉え、、組織運営管理、人事管理、予算管理、地域ケアの質の管理、リスク管理のそれぞれを理解する。リスク管理は事例を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p 498―496 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 第３回　健康危機管理 【key word】 健康危機　保健所　災害時の保健活動　保健師活動 【授業概要】 公衆衛生活動における健康危機がどのようなものかを捉え、保健所等の行政機関の役割を理解する。更に災害時の保健師活動を通して、平常時からの予防活動の流れを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p 409―428 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 教科書を熟読しておくこと 第４回　在宅ケアマネジメント　地域ケアシステム 【key word】 在宅ケア　ケアシステム　チームワーク　コーディネート 【授業概要】 地域ケア及び地域ケアシステムの基本的知識を理解し、社会的背景を踏まえた地域ケアシステムのプロセスを学ぶ。ここでは、ケア会議などにおける保健師の役割を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p 476―484 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 第５回　行政分野の保健師に求められる看護管理機能の具体（体制づくりの展開、事業の経過、評価） 【key word】 行政組織　保健業務　予防対策 【授業概要】 保健所保健師業務とは、市町村保健師業務とは、具体的な対策例（母子保健対策、自殺対策など）から保健事業計画づくりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p 135―148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読し授業に臨むこと 第６回　保健師としてのキャリア発達、キャリアラダ 【key word】 キャリア　専門職　自己啓発　自己管理 【授業概要】 保健師の活動基盤に関する基礎調査から見た保健師業務の実態を捉える。また、保健師おける専門性と保健師のキャリアの発達過程を学び、自身のキャリアについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 p 497―499 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読して授業の臨むこと 第７回　継続教育　現任教育　自己開発 【key word】 キャリアラダー　継続教育　現認教育　看護研究　自己開発 【授業概要】 保健師のキャリアラダーを学び、専門職としての自己のありようを考える。専門書として継続教育の必要性を理解し、研究や大学院などにおける学びの場の有効性を知る。 【教科書ページ・参考文献】 p 499―503 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読して授業の臨むこと 第８回　保健師活動と倫理 【key word】 倫理　看護研究　事例分析　意思決定 【授業概要】 倫理とはどのようなものか理解し、保健師の保健活動の場における倫理的課題を考える。 【教科書ページ・参考文献】 p 507―514 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を熟読して授業の臨むこと。授業後、これまでの資料・ノートを通して知識を整理し理解を深める。
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習を習慣づけること。 教科書・配布プリントは毎回持参すること。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード方式

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	参考書を図書館等で自主的に入手し、授業を深く学べるよう自己研鑽すること
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記テスト90%　授業への取り組み状況（予習・復習等）10%
教科書	第4版データ更新　公衆衛生看護学．Ｊｐ　インターメディカル．2017
参考書	宮崎美砂子他編　最新公衆衛生看護学　各論２（2017年版、2018年版）　日本看護協会出版会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県庁保健師として勤務。精神保健業務としては、家庭訪問や相談などの個別支援を中心に社会生活の維持継続支援、家族会の結成や作業所の設置及びNPO法人化、精神科救急システムづくり、精神科危機介入など行ってきた。母子保健では、乳幼児健康診査の実施、ハイリスク児の家庭訪問などの個別支援、市町村事業への支援・協力など。感染症対策では、結核の患者管理としての個別支援や検診、新型インフルエンザなどへの対応システムづくりを行い、医療機関との合同訓練なども実施した。東日本大震災には保健師として派遣され保健活動を行った。現在、精神障害者のための、就労支援施設Ｂ型、グループホームを運営し障害者支援を行っている。 保健師としての様々な公衆衛生活動を経験し実践しているので、こうした経験を生かし、より理解を深めた保健師教育を行いたい。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健実習)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(45)	選択
担当教員			
勅使川原　洋子・中川　陽子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[実習の目的] 産業の場における保健活動（保健師及び看護師）の実際を学び、地域と産業の連携の在り方を通して、成人期における包括的健康支援を考える。 [実習目標] 1.産業の場における健康問題を知り、健康管理部署の役割、機能がわかる。 2.成人期の健康問題について、産業・地域保健の場での対応の違い、連携の必要性がわかる。
授業の概要	臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅲ参照 ■実習時期及び実習日数・時間 実習時期：平成31年5月7日（火）～ 7月26日（金） 実習日数：5日間 実習時間：45時間 実習施設：県内の事業所等 ※実習方法の詳細は「臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅲ」に提示する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①産業の場における健康問題を知り、健康管理体制・やその役割・機能が理解できる。	◎	○	◎	○
②成人期の健康問題を知り、産業・地域保健の場での対応の違い、連携の必要性いを理解する	◎	◎	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				
授業計画	＊＊＊＊　　臨地実習要項参照			
受講生に関わる情報および受講のルール	■実習履修資格者 （1）保健師課程履修を許可されていること。			

	(2) 施設・病棟統合実習を除く３年次までの看護学臨地実習の単位を全て修得していること。 (3) 3年次までの保健師必修科目の単位を全て修得していること。 (4) 4年次前期の保健師必修科目の単位認定の資格要件を満たしていること。 以上（１）～（４）の条件をすべて満たしていること。 ■実習上の注意 ・臨地実習要項「公衆衛生看護学実習Ⅲ」にそって実習を行う。 ・社会人としての責任ある振る舞いを要求される。 ・制服もしくは指示された服装で実習すること。 ・靴はローヒールで音のしないものであること。 ・髪は他の実習と同様にまとめる。アクセサリーはつけない。 ・実習中は名札を着用する。 ・事前学習をしないで実習することはできない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習要項参照
授業外時間にかかわる情報	臨地実習要項、実習オリエンテーション資料参照
オフィスアワー	臨地実習要項参照
評価方法	1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①出席状況。 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況。 ③実習態度。 ④実習記録・レポート。 ⑤事前課題、事後課題。 ①～⑤を総合的に評価する。 ※実習時間の4/5以上の出席を要する。 2) 評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了後に評価表・記録・レポートを提出する。 ③上記評価等により、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの5段階で総合的に評価する。 詳細は臨地実習要項を参照のこと。
教科書	詳細は実習オリエンテーションにおいて提示する。
参考書	詳細は実習オリエンテーションにおいて提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県の保健師として勤務し、精神保健業務、成人保健業務（成人病検診や保健指導）、母子保健業務、難病対策及び個別支援、感染症対策（結核、その他の感染症対策）、健康危機対策においては、健康危機対応のシステムづくりをし、東日本大震災時は保健師として派遣され、住民の健康管理業務を行った。また、県の担当者として、特定健診・特定保健指導等の市町村保健事業の推進を図った。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　感染・災害看護と危機(国際協力含む)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	必修
担当教員			
中山　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 近年多様化する災害発生に伴い、人々の健康被害も多様化している。それらの人々に対して看護活動を行うためには、災害の特性をふまえた人々の理解も必要である。また、災害時における看護の理解を深めるとともに、災害サイクル各期において他職種と協働しながら看護活動を行うための必要な知識・技術も必要である。さらには、グローバル化が進む中で、在日外国人に対し諸外国に対応する保健・医療活動等看護実践の機会が増えている。看護の多様な場を理解するためにも、国際社会が求める看護師の役割について理解し、看護実践を行うための必要な知識を理解する。 【到達目標】 ①災害の概念や定義について理解し、災害が健康に及ぼす影響を理解できる。 ②災害発生時の看護活動の基盤となる法的制度が理解できる。 ③災害各期の被災者の特性を理解し、各期の看護活動を理解できる。 ④災害各期に応じた看護実践を身につける。 ⑤災害時の精神的ケアの方法を理解できる。 ⑥災害時における自助、共助、公助について理解できる。 ⑦感染の成り立ち、感染予防の観点とその具体的実践方法を理解できる。 ⑧国外での救護活動に必要な基本的知識と国際協力について理解できる。 ⑨国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた多文化への適応や多文化理解の基本的な考え方を理解できる。 ⑩国際協力方法について多文化共生や効果的な国際協力の視点を理解できる。
授業の概要	災害が人々の健康と生活に与える影響を理解し、災害発生時に看護者として行動できるように、災害各期に合わせた看護活動についての知識、技術を学ぶ。 国際看護実践に必要な基礎的知識、国や地域、文化や人種の違いを学び、国際看護の実践について考える。また、先進国と発展途上国の健康問題を比較しながら国際協力における看護活動を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①災害が人々に与える健康被害について理解し、災害各期における看護活動を理解する。	◎	○	◎	
②災害時の看護活動の基盤となる法律を理解し、自助、共助、公助について理解し、災害現場で看護活動を行うために必要な他職種連携について理解する。	◎	◎	◎	○

③感染の成り立ち、感染予防の観点とその具体的実践方法を理解できる。	◎	○	○	○
④国際看護実践に必要な基礎的知識、国や地域、文化や人種の違いを学び、国際看護の実践を国内外の看護活動について理解する。	◎	◎	◎	○
⑤先進国と発展途上国の健康問題を比較しながら国際協力における看護活動を理解する。	◎	○	◎	◎
⑥				

授業計画

第１回　災害および災害看護に関する基礎知識

【key words】
災害　災害看護　災害医療　災害に関する法律
【授業概要】
オリエンテーション　講義の進め方と評価方法について。
災害・災害看護の歴史と災害の定義を理解する。
災害をめぐる関係法規を理解し、災害時の情報伝達の仕組みや、日本における災害医療体制について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～
第1章、第2章　Ｐ2～Ｐ100
【課題・予習・復習・授業準備】
災害・災害看護の歴史について学習する。災害の種類別の疾病構造を学習する。災害をめぐる関係法規について調べておく。日本の災害医療体制について調べておく。

第２回　災害各期に応じた看護（１）：超急性期、急性期

【key words】
災害サイクル　超急性期　急性期　看護　ＣＳＣＡＴＴＴ
【授業概要】
災害サイクルにおける看護師の役割と超急性期、急性期における病院の看護師の役割を理解する。
ＤＭＡＴとその活動について、ＣＳＣＡＴＴＴについて理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～
第2章　Ｐ78～110
【課題・予習・復習・授業準備】
災害サイクルにおける超急性期、急性期の看護師の役割について学習する。急性期における病院の看護師の役割について学習する。「ＣＳＣＡＴＴＴ」「ＤＭＡＴ」について調べておく。

第３回　災害各期に応じた看護（２）：亜急性期～静穏期

【key words】
災害サイクル　亜急性期　慢性期　避難所　静穏期　健康障害　心のケア
【授業概要】
災害サイクルの急性期から亜急性期、慢性期、静穏期における看護師の役割を理解する。
避難所、仮設住宅等における健康障害とその対応について理解する。
災害に関わる人々の心のケアを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～
第2章　Ｐ101～Ｐ190
【課題・予習・復習・授業準備】
災害サイクルにおける亜急性期、慢性期、静穏期の看護師の役割について学習する。避難所、仮設住宅等における健康障害とその対応について調べておく。災害に関わる人々の心のケアについて調べておく。

第４回　災害時に必要な技術

【key words】
一次トリアージ　二次トリアージ　トリアージタッグ　３Ｔ
【授業概要】
トリアージの概念、基本的考え方について。一次トリアージ、二次トリアージ、トリアージタッグの記載方法について実技演習を行う。災害現場における医療活動について、机上訓練を取り入れながら、グループワークを通して考える。
【教科書ページ・参考文献】
系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～
第2章　Ｐ35～Ｐ50
【課題・予習・復習・授業準備】
トリアージの概念とカテゴリーについて調べておく。トリアージタッグの取り扱いと記載方法を学習する。
災害における疾病（クラッシュ症候群、外傷患者の取り扱い等）について学習しておく。

第５回　感染に関する基礎知識

【key words】
感染経路　感染予防　医療環境　サーベランス　新興感染症対策
【授業概要】
医療関連感染の理解を深め、医療関連感染対策に興味をもつきっかけとするとともに、災害現場から日常における環境管理まで、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
基礎から学ぶ医療関連　感染対策　～標準予防策からサーベイランスまで～

	第Ⅱ章P27～P42、第Ⅳ章P86～P96、第Ⅵ章P109～P144、第Ⅷ章P165～P176 【課題・予習・復習・授業準備】 感染症の種類とその原因、対策について調べておくとともに、関連法規に目を通しておく。 災害現場や避難所に対する環境感染管理について、過去の災害において調べる。 第６回　国際看護学に関する基礎知識 【key words】 国際看護　国際的健康課題　国際協力　国際看護活動　保健医療 【授業概要】 世界の健康問題の現状を理解し、健康に影響を与える要因について理解する。保健医療分野における国際機関の役割について理解する。国としての国際協力活動について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～ 第4章　Ｐ234～269 【課題・予習・復習・授業準備】 世界の健康問題の現状と課題について調べておく。「国際協力」「国際人権法」「国際人道法」について調べておく。保健医療協力分野における国際機関について学習する。 第７回　多文化理解と多文化看護論 【key words】 多文化理解　在留外国人　多文化看護論 【授業概要】 国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた多文化への適応や多文化理解の基本的な考え方が理解できる。事例を通して多文化理解を学習することができる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～ 第4章　Ｐ270～276 【課題・予習・復習・授業準備】 文化を考慮した看護理論について調べておく。在留外国人の定義について調べておく。 第８回　国際看護活動の展開 【key words】 開発協力　国際看護活動　国際救援 【授業概要】 国際協力方法について多文化共生や効果的な国際協力の視点を理解できる。国際救援における理念と救援活動について理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　～看護の統合と実践③～ 第4章　Ｐ283～344 【課題・予習・復習・授業準備】 開発途上国の健康問題について調べておく。世界における災害の発生状況について調べておく。国際救援活動を行う団体について調べておく。国際救援時の看護者の役割についてまとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・この科目は統合分野の必修科目である。 【受講のルール】 ・授業シラバスを必ず確認し、予習を行い積極的に授業に臨むこと。 ・教科書･プリント等は毎回持参してください。 ・遅刻･早退･欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント･資料等は自己責任で入手し、学習してください。 ・ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどを積極的にまとめて記述すること。 ・グループワーク、演習においては学生同士積極的に取り組むこと。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。　そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ・私語・携帯電話・スマートフォンの使用を禁ずる。携帯電話・スマートフォンは許可がない場合は机上に置かない。 ・レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に関わる事柄について予習をして授業に臨むこと。 終了した授業に関しては必ず復習をすること。
オフィスアワー	各回授業終了後から18時までとする。
評価方法	筆記試験（客観・論述）８０％、課題レポート等２０％ ※課題レポートについてはその都度説明を行う。
教科書	１）坂本史衣：基礎から学ぶ医療関連感染対策　南江堂 ２）浦田真理子ほか：看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院
参考書	講義の中で適宜提示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院または総合病院での実務経験、実災害における看護師としての派遣活動の経験、日本ＤＭＡＴ隊員養成研修における講師経験のある教員による授業を展開する。 また、内閣府危機管理専門官、国際緊急援助隊(IRT)登録隊員、日本DMAT隊員、東京消防庁災害救助機動部隊の救急救命士として、国内国外の災害派遣活動実績があり、JICA、外務省、笹川平和財団、日本ＤＭＡＴ隊員養成研修における講師経験のある教員とあわせて講義を展開する。

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	2 単位（60）	必修
担当教員			
クラス担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教養目的に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀、挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。 【到達目標】 １．礼儀・挨拶・ボランティア活動・環境美化活動を理解し、積極的に修得することができる。 ２．基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用、レポート作成など学習スキルを身につける。３．昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、基礎的学習スキルを身につけることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①礼儀・挨拶・ボランティア活動・環境美化活動を理解し、積極的に習得することができる。	◎	◎	◎	◎
②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用、レポート作成など学習スキルを身につける。	◎	◎	◎	◎
③昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。	◎	◎	◎	◎

授業計画	第１回　　建学の精神と実践教育プログラム　①基礎演習Ⅰの目的・到達目標について 【key words】建学の精神、履修要件、単位、到達目標、授業概要、5つのプログラム 【授業概要】 ・担任紹介、自己紹介、基礎演習Ⅰについて説明、学生各委員会の選出（クラスリーダー・サブリーダー・体育委員等） ・今後の日程・時間割説明（春期オリエンテーション、健康診断、フレッシャーズキャンプ・親

		睦スポーツ大会等） ・書類の提出 【教科書・参考文献】学生生活HANDBOOK、履修の手引き、時間割 【課題・予習・復習・授業準備指示】親睦スポーツ大会の参加種目の決定、1年間の目標、学習計画の立案を行う。
	第２回	進路、資格取得プログラム　①大学生活への適応（学習面・生活面・個別学習指導） 【key words】大学生活、学習、クラス運営、中講義室の使用方法 【授業概要】 ・大学生活へ適応するために学習面・生活面について、1年間の目標と学習計画を立案する。 ・大学生活が快適に過ごせるようにクラス運営、環境美化活動グループについて説明する。 ・シラバス、時間割、履修計画、履修登録方法、掲示板活用方法について説明する。 【教科書・参考文献】学生生活HANDBOOK、履修の手引き、時間割 【課題・予習・復習・授業準備指示】指定された期日までに履修登録を行う。指定された期日までに各書類を提出する。
	第３回	学習統合プログラム　①大学での授業の受け方　スタディ・スキルズとは　　ノート・テイキング 【key words】スタディ・スキルズ、学生、タイム・マネージメント、ノート・テーキング 【授業概要】 ・生徒と学生の学び方の違いを理解する。 ・タイム・マネージメントの技術を身につける。 ・スタディ・スキルズの全体像をつかむ。 ・講義を聴いて、重要なことをノートにとる。講義ノートをもとに、興味・関心を持つ。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P1～28 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習・復習する。
	第４回	地域貢献プログラム　①学年合同ボランティア活動報告会 【key words】地域貢献、建学の精神、ボランティア活動 【授業概要】 ・新入生に対して２～４年生がこれまで行ってきたボランティア活動についてプレゼンテーションを行う。 【教科書・参考文献】別冊ボランティア活動記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】別冊ボランティア活動記録を熟読する。
	第５回	学習統合プログラム　②リーディングの基本スキル 【key words】テキストの種類、読みの種類、マーキング、構成、話題 【授業概要】 ・テキストの種類に応じた読み方を身につける。 ・効率の良い読書の方法を身につける。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P29～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習・復習する。
	第６回	心身の健康プログラム　①親睦スポーツ大会 【key words】心身の健康プログラム、親睦スポーツ 【授業概要】 ・各種目におけるスポーツを通して、各学部学生・教職員との親睦を図る。 【教科書・参考文献】指示された資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】準備体操、運動着、シューズ、集合時間厳守
	第７回	学習統合プログラム　③基礎基盤試験 【key words】基礎知識、学習 【授業概要】 ・外部試験を行い、学生の基礎知識を確認する。 【教科書・参考文献】指示された資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】指示された教室に集合する。時間厳守。
	第８回	学習統合プログラム　④より深いリーディングのために 【key words】要約、大意、要旨、主題、意見、考え 【授業概要】 ・テキストを読んで要約する技法を身につける。 ・読書を通じて、自分の意見や考えをもつ。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P43～53 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習・復習する。
	第９回	心身の健康プログラム　②大学生活への適応　（防犯講話） 【key words】防犯、交通安全、SNS 【授業概要】 ・警察署の方を講師に招き、防犯についての講義を聴く。 【教科書・参考文献】配布された資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】講和終了後、レポート提出。
	第１０回	学習統合プログラム　⑤図書館利用指導及びインターネットによる情報収集・文献検索 【key words】大学図書館、文献検索、インターネット、情報収集、情報モラル 【授業概要】 ・情報収集の概念と必要性を学ぶ。 ・情報モラルを身につける。 ・情報発信の留意点と情報扱いの注意事項 ・大学における図書館の利用方法を身につける。 ・インターネットでの文献検索方法を身につける。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P55～100 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習・復習する。
	第１１回	地域貢献プログラム　②障害者スポーツ大会 【key words】障害者、支援、安全 【授業概要】

・障害者とともに各競技に参加する。
・役割を行いながら、障害者が楽しく、安全に競技に参加できるように支援する。
【教科書・参考文献】配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】役割を確認し、指示に従って行動する。

第１２回　学習統合プログラム　⑥研究（研究の意義と目的、文献カードの作成、文献活用）
【key words】研究の動機、研究目的、文献検索、研究方法
【授業概要】
・研究とは何か。
・研究を行う目的と研究方法の種類について説明する。
【教科書・参考文献】看護研究に関する文献・研究論文
【課題・予習・復習・授業準備指示】看護研究に関する文献を読んでまとめる。

第１３回　学習統合プログラム　⑦研究（研究テーマ、研究計画書の作成、論文の書き方、ＩＣＴを活用した情報の分析）
【key words】研究、興味、テーマ、文献、ＩＣＴ
【授業概要】
・研究テーマの選定の仕方、研究計画書の書き方、進め方、使い方を説明する。
・ＩＣＴを活用して情報分析や図、表を作成してみる。
【教科書・参考文献】看護研究に関する文献・研究論文
【課題・予習・復習・授業準備指示】看護研究に関する文献を読んでまとめる。

第１４回　地域貢献プログラム　③昌賢祭準備（昌賢祭：テーマ策定、研究班編成）
【key words】研究計画書、文献、研究テーマ
【授業概要】
・グループで研究テーマ、研究計画書を作成する。
【教科書・参考文献】グループでテーマに沿った文献を集めて資料とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

第１５回　地域貢献プログラム　④昌賢祭準備（昌賢祭：各研究班調査資料収集）前期の振り返り
【key words】研究計画書、文献、研究テーマ
【授業概要】
・グループで研究テーマ、研究計画書を作成する。
【教科書・参考文献】グループでテーマに沿った文献を集めて資料とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム　②後期の学習目標・生活目標
【key words】建学の精神、学習目標設定、学習計画、履修単位、生活目標
【授業概要】
・後期の目標を設定する。
・教育課程を理解し、学習計画の立案及び学生生活への取り組み方を明確にする。
【教科書・参考文献】学生生活HANDBOOK、シラバス
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

第１７回　建学の精神と実践教育プログラム　③環境美化活動の意義と実践方法について
【key words】建学の精神、環境美化活動
【授業概要】
・環境美化活動について、実践した活動内容を学び、学生全員で協力して大学構内の環境美化を行う。
【教科書・参考文献】指示された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】全員で協力して環境美化を行う。

第１８回　心身の健康プログラム　③デートDV講和
【key words】大学生活、デートDV
【授業概要】
・外部講師により、デートDVについて講義を聴く。
【教科書・参考文献】配布資料参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】講義終了後、レポート提出。

第１９回　地域貢献プログラム　⑤昌賢祭準備（昌賢祭：各研究班調査資料分析、発表検討）
【key words】昌賢祭、研究発表、資料確認、プレゼンテーション、レジメ
【授業概要】
・昌賢祭に向けて研究発表の進捗状況を確認する。
・他の人にわかってほしいこと、伝えたいことを整理する。
・よりよくわかってもらうために、相手に示す資料を準備する。
【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
各グループの研究テーマに関する資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

第２０回　域貢献プログラム　⑥昌賢祭準備　（グループ研究中間発表）プレゼンテーション
【key words】昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料
【授業概要】
・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。
・実際にプレゼンテーションをする。
【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197
各グループの研究テーマに関する資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。

第２１回　地域貢献プログラム　⑦昌賢祭準備　（グループ研究発表後の追加・修正）
【key words】昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料
【授業概要】
・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。
【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろ

	しお出版、2018、P165～197 【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。 第２２回　地域貢献プログラム　⑧昌賢祭準備　（グループ研究ポスター発表に向けての準備） 【key words】昌賢祭、パワーポイント、読み原稿、リハーサル、視聴覚資料 【授業概要】 ・昌賢祭に向けて本番を想定した練習を重ねる。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P165～197 【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。 第２３回　域貢献プログラム　⑨昌賢祭　（グループ研究ポスター発表） 【key words】昌賢祭、建学の精神、発表 【授業概要】 ・昌賢祭当日 ・学習したことをもとに、各グループでwまとめたものを来校者に発表する。 【教科書・参考文献】指示された資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の研究発表グループでテーマに沿って役割を決め、話し合いながら計画的に研究内容を進めていく。 第２４回　地域貢献プログラム　⑩防災訓練 【key words】建学の精神、地域貢献、ボランティア活動 【授業概要】 県主催の広域防災訓練にボランティア活動の一環として参加する。 スポーツ施設でのテロ災害被災者役として参加する。 【教科書・参考文献】配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】役割を確認し、指示に従って行動する。 第２５回　学習統合プログラム　⑧より深いリーディングのために 【key words】要約、大意、要旨、主題、意見、考え 【授業概要】 ・読んで要約する技法を活用する。 ・自分の意見や考えを発表できる。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P43～53 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習・復習する。 第２６回　学習統合プログラム　⑨カデミック・ライティングの基本スキル 【key words】事実と意見、三部構成、引用、参考文献 【授業概要】 ・レポートと感想文の違いを学ぶ。 ・レポート（論文）を仕上げるまでに、どういう作業が必要なのかを学ぶ。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P101～125 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習復習する。 第２７回　学習統合プログラム　⑩効果的なアカデミック・ライティングのために 【key words】文、文章、表現 【授業概要】 ・わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ。 ・視覚的にわかりやすい表現方法のポイントをつかむ。 【教科書・参考文献】上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ第5版、くろしお出版、2018、P127～140 【課題・予習・復習・授業準備指示】基礎演習テキストを予習復習する。 第２８回　建学の精神と実践プログラム　④1年次の振り返り 【key words】建学の精神、大学生活、学習 【授業概要】 ・冬期オリエンテーション ・後期の目標、自己の生活について振り返る。 ・冬期休業中の過ごし方、自己学習について説明する。 【教科書・参考文献】配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】冬期休業中の課題を提出する。 第２９回　地域貢献プログラム　⑪ボランティア活動のまとめ 【key words】建学の精神と実践プログラム、ボランティア活動、活動時間、活動場所 【授業概要】 ・1年間のボランティア活動について振り返りを行い、冊子をまとめ提出する。 【教科書・参考文献】別冊ボランティア活動記録を熟読する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】指定された期日までに課題を提出する。 第３０回　進路、資格取得プログラム　②個人面談（1年の振り返りと基礎調査シートのまとめ） 【key words】進路、学習計画、看護師、保健師、養護教諭 【授業概要】 ・基礎演習Ｉで実施した内容について振り返りを行う。自己の課題を明確にし、2年次に向けて準備を行う。 【教科書・参考文献】学生生活HANDBOOK 【課題・予習・復習・授業準備指示】各自で1年間の振り返りを行う。（学習面、学生生活、単位取得、ボランティア、環境美化、委員会活動等）
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 1　基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は、建学の精神と実践教育プログラムに含まれるので必ず出席すること。 〔受講のルール〕 1　授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。
オフィスアワー	各回、授業終了後30分
評価方法	演習への取り組み・内容等（60%）、提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	鈴木利定・中田勝（著）「威有一穂」中央法規・2002年「基礎演習テキスト」群馬医療福祉大学 上村和美：大学生からのスタディ・スキルズ　知へのステップ第4版，くろしお出版，2018.
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 医療機関で医療従事者として経験のある者、看護師等養成所で専任教員として実務経験のある者など様々な社会経験をしている教員がクラス担任となり、学生の生活指導から学習指導まで幅広く関わっている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 　「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　社会学について　　社会学とは何か　社会学的視点について 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第２回　ジェンダー 【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁、158頁、235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。

	第３回　　虐待 【key words】 児童・障害者・高齢者虐待、DV 【授業概要】 虐待の種類と対応を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第４回　　児童虐待と社会資源 【key words】 児童虐待 【授業概要】 現場での児童虐待の対応について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第５回　　人口からみた社会変動 【key words】 合計特殊出生率、人口オーナス 【授業概要】 人口に関係する指標について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 72頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人口統計について確認する。 第６回　　福祉国家 【key words】 イギリス、アンデルセン 【授業概要】 イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 85頁～87頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の社会保障制度について確認する。 第７回　　社会的ジレンマ 【key words】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 【授業概要】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 176頁～186頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第８回　　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 211頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	授業終了後の１０分間。　または、コメントカードに質問を記載すれば返答する。
評価方法	試験（80%）と授業中の課題（20%）によって評価
教科書	社会福祉養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」：中央法規出版株式会社
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉国試ナビ」：中法規出版株式会社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	□プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　チームケア入門Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
島田　壽美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 他学部・学科との学生間の交流を通して他職種について理解し、多職種連携について関心が持てる。 【到達目標】 1)自己の職種について他者に伝えることができる。 2)他職種の基本的な役割について述べることができる。 3)簡単な事例（発達障害児、右型麻痺）から、ケアチームとして一連の取り組みについてまとめ、報告することができる。 4) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。 5) 一連の学習過程を通して自己評価することができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学１学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①1)自己の職種について他者に伝えることができる。	◎	△	○	△
②他職種の基本的な役割について述べることができる。	◎	△	○	△
③簡単な事例（発達障害児、右型麻痺）から、ケアチームとして一連の取り組みについてまとめ、報告することができる。	○	◎	◎	△
④チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。	○	○	◎	△
⑤ 一連の学習過程を通して自己評価することができる。	○	○	○	◎

⑥				
授業計画	第１回　１．科目のオリエンテーション　２．なぜ、今連携なのか　チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割　、連携の目的・意義。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携、職種 【授業概要】多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識態度」について学び、３学部１学科としての「チームケア学部間連携教育」の意義について理解する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己の職種について調べ、学内におけるグループワークに参加する資料を作成し次回に臨む。 第２回　チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。 【key words】 チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】 自分の目指す職種の支援内容についてグループワークを行い整理する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学内のグループワークで討議する事例（発達障害児、右片麻痺）について調べ学習をして臨む。 第３回　チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・多職種の役割について各学部のグループで、討議する。 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】自己のの目指す職業や、事例（発達障害児、右片麻痺）から自分が目指す職種の支援内容についてグループで検討し、次回からの演習の発表にむけて準備する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の資料作りをして次回に臨む。 第４回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】学部、学科間のグループワークにおいて自分が目指す職種について他者に説明し、自分の目指す職種と他職種の役割がイメージでき責務を知る。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の支援について自己の職種からの内容について発表できるように準備する。 第５回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】学部・学科間の合同グループワークにおいて、事例について自分の目指す職種の支援内容について検討し、自分が目指す職種の支援項目の必要性について説明する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 第６回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会① 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】学部・学科間の合同グループワークにおいて、事例において多職種が関わる中で、チームとして取り組むことの必要性について検討しあう。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 第７回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会② 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】各学部・学科間の合同グループワークにおいて事例をとおしてまとめたことを発表し、多職種連携について考察する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 合同グループワークで学んだ事をポートフォリオでまとめる。 第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 【key words】チームケア、地域包括ケアシステム、ＱＯＬ、多職種連携 【授業概要】合同演習後の振り返りで、多職種の連携のあり方について各自考察し、今後の目標を設定する。 【教科書ページ・参考文献指示】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学んだ事をポートフォリオで整理する。			
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 【受講のルール】 ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、ICT利用（WEBフォームやメールなど）			
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む			
オフィスアワー	火、木曜日　12時から12時40分			
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　②ポートフォリオ評価50%			

教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，20０8. 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　道徳教育（特別活動を含む）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・　人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける ・　自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける ・　道徳の教育の目標と意義及び内容を理解する（特別活動を含む）			
授業の概要	・　人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う			
■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①豊かな人間性を身につけ実践できている。	◎	○	○	○
②思考力・判断力を身につけ、適切な言動ができている。	○	◎	○	○
③人々の心身の健康についての知識を身につけ、適切な会話によって伝えることができる。	○	○	◎	○
④仁愛の精神によって、他者を理解し支援する力が身についている。	○	○	○	◎
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　オリエンテーション（授業計画・授業内容、授業方法、授業時の留意事項、評価） [キーワード] 授業について、講義の受け方、評価 [授業概要] ・授業のスタートに当たり授業活動における秩序（ルール、マナー等）を確認する。 ・授業内容は儒学哲学をもとに、社会にあって人間のあり方についての思考を深める。 さらには、道徳・特別活動教育について学習指導要領をもとに実践的授業について児童・生徒の指導と教師として教育すべき技術・能力を考察する。 ・授業形態（グループ発表・全体討議・評価等）について教師と学生によって授業活動が出来る（アクティブラーニング）ことを基本とする。 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」、授業担当教師が作成する資料を配布			

		[課題・予習・復習・授業準備の指示] ・本時配布資料 講義について、上毛新聞「三山春秋」、上毛新聞「虐待」、自分の気になる社会事象記述用紙「ハチドリのひとしずく」（記述用紙） ・上記の配布資料について読解・記述を次回授業までに行う。 [アクティブラーニングについて] ・授業出席確認は授業担当者のもと学生のリーダーが呼名で確認する。 ・次回授業からグループ発表のため、グループ編成、発表テーマ・内容について活動する。
	第２回	テキスト「咸有一徳」について解説・「道」と「徳」の字源、「哲学する」ことについて [キーワード] 咸有一徳、道、徳、哲学する [授業概要] ・書経の篇名「咸有一徳」が有する意味を解説する。 ・「道」「徳」字の源を探る。 ・「哲学する」ことの意義にして考察する。 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P62～64、教師作成資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] ・本時配布資料 「徳」字の字源解説、グループ発表記録用紙、読売新聞「編集手帳」（船戸結愛ちゃん）
	第３回	[アクティブラーニングについて] グループ発表テーマ等の考察、「ハチドリのひとしずく」発表と話し合い ・発表グループ編成　・「仁」の字源（加藤常賢）と論語に見る「仁」について考察する。 [キーワード] グループ編成とその意味　・仁 [授業概要] ・なぜグループを編成するのか。何を追究するのか。 ・「仁」字の字源と儒教的考察 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P40～48、P41～43、教師作成資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] ・本時配布資料 ・「仁」字の字源解説、論語「顔淵」の解釈
	第４回	[アクティブラーニングについて] グループ発表の最終打合せ ・グループ発表初回　・「大学での学び」について　・第3回講義の補足と復習 [キーワード] ・咸有一徳の「一」、論語、儒学 [授業概要] ・「仁」について　その字源と論語における意味。 ・現代主権者、社会人として考察すべき儒教哲学。 ・「大学での学び」を考える ・グループ発表と質問と討論と評価を行う [教科書ページ・参考文献] 「咸有一徳」・配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・大学での学び、発表グループが作成した資料
	第５回	[アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分 ・「仁」は講師の思想の中心を考察する　・「漢」という時代について　・コメントカードから学ぶこと [キーワード] ・中国漢時代、コメントカード [授業概要] ・「仁」は孔子の中心思想（儒学倫理学、儒学リーダーシップ学） ・中国漢時代の様子と儒学の発展 ・グループ発表と討論30分 [教科書ページ・参考文献] 「咸有一徳」・配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・漢の時代　・コメントカードよりコメント集
	第６回	[アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分、コメントカードに答える（学生の話し合い） ・「仁」～孟子と伝習録　・「秦」という時代～諸子百家の出現

		[キーワード] 孟子、伝習録、秦、諸子百家 [授業概要] ・「仁」を多方向からとらえる。そして倫理学としての「仁」を再認識する。 ・グループ発表と質問と討論と評価 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P39～40、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・上毛新聞「三山春秋」（東京空襲と井上有一） ・本の紹介「アニメと哲学」小川仁志著 [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第７回	儒学の実践「知行合一」について考察する（公愛を育て、吾が英知〈至善・良知〉の実践を考える） [キーワード] 知行合一、至善、良知、格物、陽明学 [授業概要] ・真心を行いで示す。誰もが生まれながらに持っている、人として行うべき正しい道を外に現すこと。そしてそれによって社会的な物事に正しく処することについて考察する。 ・グループ発表と討論30分 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 学習指導要領「道徳」、学校教育法施行規則（抄） [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第８回	・「真心」とは何か　「真心」の本体とは何か　・学習指導要領一部改正（平成27年3月）から、第1章総説「道徳の内容」について [キーワード] 真心、学習指導要領、学校教育法施行規則、「道徳」 [授業概要] ・「真心」とは何か、「真心」の本体とは何かについて考察する。 ・学習指導要領改訂「道徳」について理解し、指導の視点、方法を実践的に学ぶ。 ・グループ発表と討論 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P49～56、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料、（新）学習指導要領「特別活動」編 [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第９回	・「真心」について「中庸」「礼記」「伝習録」より「何か」を考察　・「真心」について「伝習録」より「本体」について考察 [キーワード] 「中庸」「礼記」「伝習録」「何か」「本体」 [授業概要] ・「真心」について中庸・礼記・伝習録によって考察する ・「道徳」の教科化について、その経緯・改訂の基本方針を再認識する ・グループの発表と討論 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・中庸・礼記・伝習録に見る「真心」の解説 ・上毛新聞「三山春秋」（「想定外」という説明） [アクティブラーニングについて] グループ発表と討議30分
	第１０回	・「至誠」とは何か、「尽くす」が極めて大切、を「中庸」・「礼記」から引用して考察する。・教育の歴史を「修身科」と「教育勅語」を中心にとらえて教育の変遷を探る。 [キーワード] 至誠・修身科、教育勅語 [授業概要] ・儒教哲学「仁」を「中庸」より「至誠」について考察し、「知行合一」によって実践することの意義について学ぶ。 ・日本の文化、教育に影響が大であった儒教と、「小学教則」の関係を考察する。

		・グループ発表と議論 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P57～61、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・「伝習録」「中庸」「礼記」から「至誠」「尽くす」の引用文 ・教育の歴史―修身科―の解説 [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第１１回	・学習指導要領と道徳　・「レポート・小論」に必要な技術 [キーワード] 道徳、教科化のための法改正 [授業概要] ・「道徳」を教科化するための関係法令の改正、改訂について知る。 ・「考える」というクリティカルな思考行為について ・グループ発表と討論 [教科書ページ・参考文献] 学習指導要領「道徳」（解説書）、配布資料 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・「レポート・小論」の技術 ・上毛新聞「三山春秋」から2編 [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第１２回	・修身科と教育勅語～修身科の廃止（昭和22年）と道徳の授業　・教育勅語とは　・学習指導要領特別活動編 [キーワード] 修身科、教育勅語、学習指導要領特別活動 [授業概要] ・教科「修身科」が廃止され「道徳」として教育されることになった考察 ・（新）学習指導要領の特徴と「特別活動」における教育について概説する。 ・グループ発表と討論 [教科書ページ・参考文献] 配布資料（教育の歴史―修身科―、学習指導要領「特別活動」編） [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 先時配布「新学習指導要領　特別活動編」を熟読しておくこと [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第１３回	・学習指導要領「特別活動」改訂の経緯及び基本方針　・「特別活動」改訂の主旨及び要点 [キーワード] 特別活動、改訂と改正 [授業概要] ・「特別活動」改訂の主旨及び要点について、今回の学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を理解しながら「学習指導の改善・充実」について考察し、教育実践に生かす。 ・グループ発表と討論 [教科書ページ・参考文献] 配布資料（第12回配布） [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 明治憲法と教育勅語（文部科学省）、教育勅語（原文・読み・意味） [アクティブラーニングについて] グループ発表と討論30分
	第１４回	・「咸有一徳」本文（第一編・第二編・第三編）の注釈を解説する。 [キーワード] マナー（家庭・医療福祉・学校） [授業概要] ・「咸有一徳」「本文」の注釈を読解しながら「家庭生活における基本的なマナー」「医療福祉界が今望んでいるマナー」「学校生活における品位あるマナー」について考察する。 ・グループ発表と討論 [教科書ページ・参考文献] テキスト「咸有一徳」P71～102 [課題・予習・復習・授業準備の指示] 本時配布資料 ・「世界がもし100人の村だったら」、上毛新聞「三山春秋」（古墳時代の代表的な遺物である人

	物埴輪…） ［アクティブラーニングについて］ グループ発表と討論30分 第１５回　・授業の総括　・グループ発表　・「世界がもし100人の村だったら」（第14回授業配布資料）の文章の最終文を考察する。 ［キーワード］ 授業考察、世界がもし100人の村だったら（「ドネラ・メドウズ」より） ［授業概要］ ・授業の全体を振り返り取り組みについて総括し、グループリーダーが発表する。 ・「世界がもし100人の村だったら」の文章の終章を創作し、その理由を記して提出する。 ・グループ発表、3グループが発表し討論する ・授業アンケートを実施する ［教科書ページ・参考文献］ 配布資料 ［課題・予習・復習・授業準備の指示］ 本時配布資料 ・「P4C」を授業に（「道徳」の学習スタイルとして有効な学習活動） ［アクティブラーニングについて］ グループ発表と討論60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　日常の生活において学びを実践すること ・　授業中の迷惑行為　（遅刻、居眠り、私語、メール作成等）は厳禁する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持って とらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　レポート提出１０％、筆記試験７０％、発表（内容、方法、態度）２０％
教科書	・　咸有一徳
参考書	・　授業において紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として36年間教育に携わった。その経験をもとに、教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護学概論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	看護とは何かを探求するとともに、看護学を構成する所要概念としての人間・健康・環境・生活の理解を深め、看護学を学ぶ基礎を身につける。 到達目標：①「看護とは何か」が説明できる。 ②看護の独自性・専門性を述べることができる。 ③看護の対象である人間はどういう存在であるか述べることができる。 ④健康の法則について述べることができる ⑤健康と環境との関係について述べることができる。 ⑥看護の役割・機能・しくみについて説明できる。
授業の概要	１．学生自身の体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」を考え、理論と結び付けて教授する。 ２．「人間は共通性と個別性」をもった唯一無二の存在であることおよび人間の可能性を考え、理解を深める。 ３．学生自身の生活を通して「生活・環境とは何か」、「看護の役割・機能」について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①「看護とは何か」が説明できる。	◎	○	◎	◎
②看護の独自性・専門性を述べることができる。	◎	◎	◎	○
③看護の対象である人間はどういう存在であるか述べることができる。	◎	◎	◎	◎
④健康の法則について述べることができる	◎	◎	◎	◎
⑤健康と環境との関係について述べることができる	◎	◎	◎	◎
⑥看護の役割・機能・しくみについて説明できる	◎	○	○	○

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　看護学概論で何を学ぶのか (1)授業内容 基礎看護学における看護学概論Ⅰの位置づけ・自分のイメージする「看護とは」と照合し看護の本質を学ぶ。

		(2)keywords 看護・看護の語源・看護の原点 (3)教科書ページ・参考文献 2P～4P第１章看護とは (4)課題・予習・復習・授業準備 看護についてまとめ復習をしておく (5)アクティブラーニング 自分の考えている看護について書かせる 課題・予習・復習・授業準備
	第２回	看護とは何か―看護の原点・歴史的変遷 (1)授業概要 近代看護確立までの歴史的変遷。アメリカにおける看護学の発展について学ぶ。 (2)keyword 宗教と看護・看護師協会・高等教育化 (3)教科書ページ・参考文献 4P～10P第１章看護とは (4)課題・予習・復習・授業準備 ゴールドマークレポート・ブラウンレポートについてまとめをしておく
	第３回	看護とは何か―看護の概念および定義に関する諸説 (1)授業概要 看護の主要な概念としての人間、健康、環境、看護について理解する。主な理論家の主要概念を学ぶ (2)keyword 看護の定義・看護の概念 (3)教科書ページ・参考文献 10P～26P第１章看護の定義 (4)課題・予習・復習・授業準備 看護理論化について、教科書の資料を参考にしてどのような理論をもっているか復習をしておくこと
	第４回	看護とは何か―看護の継続性と情報共有 (1)授業概要 入院時の施設間の連携や入院中の情報伝達と共有、多職種チームとしての情報共有と継続的かかわり及び在宅療養を可能にする連携と継続的な関わりを学ぶ。 (2)keyword 情報共有・看護の継続性・多職種チーム (3)教科書ページ・参考文献 48P～62P第１章看護の継続性と情報共有 (4)課題・予習・復習・授業準備 看護の継続はどのように行われているのか、入院から退院、地域へと繋がることへの理解をしてまとめておく (5)アクティブラーニング グループワークにてチーム医療について討論とまとめをする
	第５回	看護の対象の理解―人間の「こころ」と「からだ」 (1)授業概要 何のためにどう人間を見るのか、ホメオスタシスや人間のこころ、からだにかかるストレスの影響、病気による心の変化を学ぶ。マズローの人間のニードに関する理論を学ぶ。 (2)keyword 人間・こころ・ホメオスタシス・ストレス (3)教科書ページ・参考文献 64P～79P第2章人間の「こころ」と「からだ」 (4)課題・予習・復習・授業準備 マズローの欲求段階説やキュブラ=ロスの死に行く人の心理過程は人間の理解の基本であるので復習しておく
	第６回	看護の対象の理解―生涯発達しつづける存在としての人間・人間としての暮らしの理解 (1)授業概要 人間は生涯発達しつづける存在であり、ハヴィガースト、エリクソンの発達段階をもとに、成人期、老年期の特徴を学ぶ。 (2)keyword 発達・発育・心理社会的側面 (3)教科書ページ・参考文献 79P～86P第2章生涯発達しつづける存在としての人間 (4)課題・復習・予習・授業準備 ハヴィガ゜ーストやエリクソンの発達理論はよく使われるのて理解しておくように指導する
	第７回	看護の対象の理解―人間の暮らしの理解・家族と地域 (1)授業概要 生活者としての人間を生活の３つの側面からとらえ、看護の対象としての家族、看護の対象としての集団、地域について学ぶ。 (2)keyword 暮らし・生活・家族 (3)教科書ページ・参考文献 86P～92P第2章人間の「暮らし」の理解 (4)課題・予習・復習・授業準備 生活者としての人間と家族については、看護を行う上で重要であることを認識してまとめをする
	第８回	健康とは―健康のとらえ方 (1)授業概要 健康とは何か、ＷＨＯの健康の定義、障がいの定義や健康の関連因子について学ぶ。 (2)keyword 国民の健康・権利・ヘルスプロモーション (3)教科書ページ・参考文献 94P～102P第3章健康の捉え方 (4)課題・予習・復習・授業準備 自分の健康をよく考え、毎日の過ごし方が健康的か自ら考えさせ、理解させる。まとめをする

	(5)アクティブラーニング 自分の健康を基に健康をグループワークで考えさせる。グループワークの用紙を提出 第９回　国民の健康について (1)授業概要 医療政策の変遷や社会状況、医療、健康の概念と位置づけの変化などについて学ぶ。 (2)keyword 自覚症状・患者状況・障害者・難病患者状況 (3)教科書ページ・参考文献 102P～108P第3章こくみんの健康の全体像 (4)課題・予習・復習・授業準備 国民の健康状態を図ヤグラフから読み取る練習は大切であることを伝え、復習をさせる 第10回　国民の健康・環境・生活ーライフサイクルと健康・生活 (1)授業概要 統計から人々の生活と健康や私のライフコース、出生から高齢期までと日本人の平均像から健康を学ぶ。 (2)keyword ライフサイクル・平均寿命・健康寿命 (3)教科書ページ・参考文献 108P～126P第3章国民のライフサイクルと健康・生活 (4)課題・予習・復習・授業準備 ライフサイクルと健康について自分のライフサイクルを考えさせまとめをしておくよう指導する 第11回　国民の健康・環境・生活ー日本人の健康と生活 (1)授業概要 身体的健康、精神的健康、社会的健康の３つの健康の側面とわが国の患者と医療について学ぶ。 (2)keyword 健康・生活・健康格差 (3)教科書ページ 126P～136P第３章現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード (4)課題・予習・復習・参考文献 健康について、生活と環境を考えながら、全体のまとめをする 第12回　看護の役割・機能についてー看護ケアについて (1)授業概要 ケアとは何かを考え、看護におけるケアの捉え方やケアリングについて学ぶ。 (2)keyword ケア・看護の役割・看護の機能 (3)教科書ページ 27P～33P第1章歓呼背の役割と機能 (4)課題・予習・復習・参考文献 ケアとケアリングⅡついて考え、実践に結び付けることができるようにする 第13回　看護の役割・機能についてー看護実践と質保障 (1)授業概要 看護実践に欠かせない要素と看護の質を向上させるために必要な要件、科学的根拠を追求する態度、安全性と安楽性、倫理的配慮とプライバシーや対象者の自立の促進について学ぶ。 (2)keyword 質・個別看護・安全性・安楽性 (3)教科書ページ 33P～46P第1章看護実践とその質保証に必要な要件 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護の質保証について、個別性、自律性、安全性、安楽性などから実践の中で考えることができるようにする 第14回　看護の役割・機能についてー看護の役割・機能の拡大 (1)授業概要 疾病構造の変化、看護活動の地域への広がり、生活習慣病対策・健康増進運動における看護への期待などを学ぶ。 (2)keyword 看護活動・地域・疾病構造変化 (3)教科書ページ46P～48P第1章看護の役割・機能の拡大 (4)課題・予習・復習・参考文献 生活習慣病対策や看護活動の地域への広がり等全体的に看護の役割・機能を調べておく (5)アクティブラーニング 自分の看護を記載し、グループワークにて、さらに考えている看護の拡大を図る 第15回　看護の提供のしくみ（サービスとしての看護） (1)授業概要 看護サービスについて、看護サービス提供の場と看護をめぐる制度と政策等の概要を学ぶ。 (2)keyword サービス・チーム医療について (3)教科書ページ 212P～214P第６章サービスとしての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 実習に繋げ、理解できるように、病院全体の概要を把握し、学びを深め、広げて行けるようにまとめをする
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	月曜日　12時～12時40分

評価方法	筆記試験70%、レポート30%（内容25%、書き方５%） 総合評価は筆記試験とレポートを合わせて60%を超えていること。 とレポートを合わせて60%を超えていること。
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座　専門分野Ⅰ看護学概論　基礎看護学①　医学書院　2019
参考書	授業中に適宜紹介。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院にて、循環器、運動器、小児、消化器、脳神経等内科的・外科的治療に伴う臨床看護経験をしている。これを基に健康・人間・生活・看護の役割を考える。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護学概論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】　看護職としての過去・現在の経過を知り、未来を考える。また、看護職者としてのキャリアと専門性及び看護倫理について学び、課題を考えることができる。 【到達目標】 ①職業としての看護について歴史を通して説明できる。 ②看護職に関わる法制度・看護教育・キャリア等について述べることができる。 ③看護職者の継続看護と専門性（認定看護師、専門看護師等）について述べる事ができる。 ④倫理の歴史的経緯と看護倫理の考え方等について述べる事ができる。 ⑤実践における看護倫理問題を考え、他者に説明することができる。
授業の概要	1.職業としての看護の歴史、看護職の資格と養成・就業状況等について教授する。 2.看護職者の継続教育と専門性について考え、看護職の課題を考える 3.看護倫理について、看護職者としてのあるべき姿を考える

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①職業としての看護について歴史を通して説明できる。	◎	○	◎	◎
②職業としての看護について歴史を通して説明できる。	◎	○	◎	◎
③看護職者の継続看護と専門性（認定看護師、専門看護師等）について述べる事ができる。	◎	◎	◎	○
④倫理の歴史的経緯と看護倫理の考え方等について述べる事ができる。	◎	◎	◎	◎
⑤実践における看護倫理問題を考え、他者に説明することができる。	◎	◎	◎	◎
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　看護の提供者　　職業としての看護の確立と充実 (1)授業概要 ・疾病構造の変化による看護活動の地域への広がり、場の多様化について理解する。保健師助産師看護師法に基づく各看護職の資格・業務を理解する。看護師、准看護師、保健師、助産師の従

		業状況を理解する。 (2)keyword 職業・保健婦助産婦看護師法・高等化教育、看護教育 (3)教科書ページ 138P～148P第４章職業としての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護の職業的発達を復習し、看護の経過が理解できるようにまとめをする
	第２回	職業としての看護の発展・これからの看護 (1)授業概要 ・疾病構造の変化による看護活動の地域への広がり、場の多様化について理解する。保健師助産師看護師法に基づく各看護職の資格・業務を理解する。看護師、准看護師、保健師、助産師の従業状況を理解する。 (2)keyword 多職種・包括的・チームワーク (3)教科書ページ 148P～149P第４章職業としての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護の歴史を学習し、これからの看護はどうあるべきか、各自自分の未来も考えてどうあったらよいのか自分自身の課題として考えることができるようにしておく
	第３回	看護職の資格と養成にかかわる制度 (1)授業概要 ・看護職の成立と発展の経緯を理解する。看護基礎教育を学ぶ。 (2)keyword 看護職・守秘義務・免許・業務 (3)教科書ページ 149P～157P第４章職業としての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 保健師助産師看護師法が看護の基本法律であり、業務、免許、禁止規程等述べられており、看護職を歩むには、この法律の遵守が必要であることを復習させる
	第４回	看護職者の就業状況と継続教育 (1)授業概要 ・地域における保健・医療福祉の連携について理解する。チーム医療とは何か、チームの機能を理解する。 チーム医療に携わる様々な職種について理解する。 (2)keyword 就業状況・継続教育・専門看護師 (3)教科書ページ 158P～145P第４章職業としての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護の就業状況を把握し、看護師を基盤として、専門看護師、認定看護師等のキャリアを積むことの大切さを学び、将来が考えられるようにまとめをしておく (5)アクティブラーニング キャリアについて各自将来を見据えて考え、用紙にまとめ、将来のあり方についてグループワークをする。
	第５回	看護職の養成制度の課題 (1)授業概要 ・看護初養成の場としくみに関する課題。特定行為に係る看護師の研修制度の開始。看護教育の養成と看護継続教育の保障 (2)keyword 新人看護職員研修・特定行為・看護基礎教育 (3)教科書ページ 166P～179P第４章職業としての看護 (4)課題・予習・復習・参考文献 医療の状況を把握して、将来の自分の進む道に関して、考える機会とする。教科書をよく読み、まとめをしておく
	第６回	看護における倫理〔1〕医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理について (1)授業概要 ・看護に関わる様々な法制度を理解し、法制度がつくられる過程を理解する。・医療法、保健師助産師看護師法について理解する。 (2)keyword 倫理・道徳・法・現在社会 (3)教科書ページ 166P～179P第5章看護における倫理 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護倫理に関して、人間としての権利と生命の大切さについて考えさせ、看護職者としてのあるべき姿勢に関して、日常から留意をすることを意識づけ、考えることができるようにする。
	第７回	看護における倫理〔2〕看護実践における倫理問題への取り組み (1)授業概要 ・医療・看護において倫理が重要視されるようになった背景を理解する。・医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理を理解する。医療専門職の倫理規定について学ぶ。 (2)keyword 看護倫理・アドボカシー・ジレンマ・ケアの倫理 (3)教科書ページ 199P～210P第5章看護における倫理 (4)課題・予習・復習・参考文献 倫理原則について、実践と結び付くことができるように整理をしておく
	第８回	看護における倫理〔3〕事例を通して、看護倫理を考える (1)授業概要 ・医療・看護をめぐる倫理的問題を理解する。倫理的課題に取り組むためのしくみ。 (2)keyword 抑制・臨床実践・自律性・権利 (3)教科書ページ

	なし第5章看護における倫理 (4)課題・予習・復習・参考文献 抑制の事例から、人間としての権利と看護者のあるべき姿考えることでできるようにまとめる (5)アクティブラーニング 看護学概論Ⅰ・Ⅱが終了し、実習に臨む姿勢について、説明をする。
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し理解をして授業に臨むこと。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	12:00～12:40
評価方法	筆記試験70%　課題レポート30%（内容25%、書き方５%） 評価は筆記試験と課題レポートを合わせて60%を超えていること
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ看護学概論　基礎看護学①，医学書院 2019
参考書	授業中に適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院でいろいろな診療科の看護を経験して、その中から、臨床と結び付けながら看護倫理や看護職の役割等の説明をする アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護方法論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
菅沼　澄江ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 看護学専門科目に共通する問題解決思考プロセスとして、看護過程の概念と展開方法を理解する。 【目標】 １．看護過程の意義について説明できる。 ２．看護過程の構成要素について説明できる。 ３．看護の目的に照らして人間を統合的に把握し、対象に必要な看護を導き出し、計画的に実施・評価する思考の道筋を 説明できる。 ４．看護記録の目的と意義について説明できる。
授業の概要	あらゆる看護実践の基盤となる思考プロセスの学習として、看護過程の考え方と構成要素を教授する。 看護実践と看護記録、看護過程と記録の関連について学習する機会とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 科目オリエンテーション、看護における観察について 第２回 看護記録について 第３回 看護過程とは何か。　看護過程の５つの構成要素、構成要素の関係性、看護過程を用いる利点 第４回 看護過程の各段階－アセスメント（情報収集の方法と内容） 第５回 看護過程の各段階－アセスメント（情報の解釈・分析）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の私用）は厳禁。 課題提出が指示されている場合は、指定された期日を厳守する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行って下さい。 さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心がけて下さい。

	ミニテストを行いますので、指示された範囲を学習して臨んで下さい。
オフィスアワー	授業日 12：00～12：40
評価方法	筆記試験80%、課題レポート・ミニテスト20%　　評価は筆記試験と課題レポートを合わせて60%を超えていること
教科書	茂野香おる：基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②、医学書院　2016
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
中嶋朋子　菅沼澄江　小林洋子　上田葉子　内田佳代			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護における共通基本技術に必要な知識を学び、基本技術を習得する。 〔到達目標〕 ①看護技術の特徴と範囲、技術を適切に実践するための要素について理解できる。 ②人間関係を発展させるためのコミュケ―ション技術を習得できる。 ③基本的活動の基礎知識を理解し、活動に伴う援助技術（体位・体位変換・移動・移乗・移送）を習得できる。 ④体位保持の意義と罨法が身体に及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする援助技術（ポジショニング・罨法）を習得できる。 ⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	・看護学概論と基礎看護援助技術との関連を学習し、一つ一つの援助技術が科学的根拠に基き、援助を受ける対象にとって看護に繋がる技術になっているか問題意識と探究心を持って各看護技術が習得できるように進める。 ・コミュニケ―ションは「分かち合うこと、共有すること」を意味する言葉である。コミュニケ―ションの構成要素と成立過程を教授する。また、演習を通してコミュニケーショ技法を学習する。 ・人間の身体構造や機能を力学的に学習し、人間の基本的な体位、体位変換、身体の移動や移乗・移送の援助技術を学習する。また、疾患により自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングの技術と身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）の技術を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護技術の特徴と範囲、技術を適切に実践するための要素について説明できる。	◎	◎	◎	○
②人間関係を発展させるためのコミュニケーション技術を習得できる。	◎	◎	○	○
③基本的活動の基礎知識を理解し、活動に伴う援助技術（体位・体位変換・移動・移乗・移送）を習得できる。	◎	◎	○	○
④体位保持の意義と罨法が身体に及ぼす影響を理解し、苦痛	◎	◎	○	○

の緩和や精神的安寧を目的とする援助技術（ポジショニング・罨法）を習得できる。				
⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。	◎	◎	○	○

授業計画

第１回　科目オリエンテーション

【key words】看護技術の概要、看護技術の特徴
【授業概要】
・科目の位置づけとシラバスの説明をしたのち、技術とは何か、特徴、範囲、技術を適切に実践するための要素について説明する。
・これから演習を行うにあたり、実習室の使用方法と演習時の態度・注意点について説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅰ.医学書院　P2-16
【課題・予習・復習・授業準備指示】事前学習としてテキストをよく読んでおく。講義の時間に配布した「実習室の手引き」を読み、演習に必要な物品を準備する。

第２回　コミュニケーション

【key words】コミュニケーション、構成要素、成立過程
【授業概要】
・コミュニケーションの意義と目的を説明する。
・コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本について説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅰ.医学書院　P18-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】事前学習としてテキストをよく読んでおく。

第３回　コミュニケーション

【key words】コミュニケーション、傾聴、情報収集
【授業概要】
・効果的なコミュニケーションの実際を説明する。
・コミュニケーションに障害のある人の特徴を踏まえ、言語的コミュニケーションに必要な身体機能について説明し、コミュニケーション障害のある人への対応方法について説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅰ.医学書院　P18-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】前回の資料、テキストをよく読んで予習・復習をしておく。

第４回　コミュニケーション（演習：効果的なコミュニケーションの実際）

【key words】コミュニケーション、傾聴、話し方
【授業概要】
・関係構築のためのコミュニケーションの基本的な知識を活用しながら、ペアを組み効果的なコミュニケーションの実際を行う。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅰ.医学書院　P18-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】第2・3回で配布した資料をよく読んでおく。
演習終了後、課題レポートを提出する。

第５回　感染防止の技術

【key words】エプロン、マスク、手洗い、標準予防策
【授業概要】
・感染防止の基礎知識と標準予防策について説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P421-435
【課題・予習・復習・授業準備指示】事前学習としてテキストをよく読んでおく。

第６回　感染防止の技術（演習：効果的な手洗い、防護用具の着脱方法）

【key words】エプロン、マスク、手洗い、標準予防策
【授業概要】
・衛生学的手洗い方法や感染防護のためのマスクとビニールエプロンの着脱方法などをグループに分かれて実施する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P421-435
【課題・予習・復習・授業準備指示】既習の感染防止の基礎知識と標準予防策について復習し、マスクとエプロンの着脱方法をテキストの動画で確認し、演習に参加する。

第７回　活動と休息援助技術（基本的活動の基礎知識、ボディメカニクス、体位、体位変換）

【key words】ボディメカニクス、体位、体位変換、褥瘡
【授業概要】
・姿勢と体位について説明する。
・ボディメカニクスを活用した患者の体位変換方法について説明する。
褥瘡の基礎知識を説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-126　P277-280
【課題・予習・復習・授業準備指示】基本肢位、良肢位、ボディメカニクス、体位についての課題レポートを提出する。

第８回　活動と休息援助技術（移動、移乗・移送、睡眠と休息の援助）

【key words】移動・移乗・移送、車椅子、ストレッチャー、睡眠
【授業概要】
・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移動、移乗・移送）の実際を説明する。
・人の睡眠と睡眠障害の種類、要因と援助の実際について説明する。
【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-136
【課題・予習・復習・授業準備指示】車椅子の構造と使用前の点検、ストレッチャーの構造と使用前の点検、睡眠障害の要因と対策についての課題レポートを提出する。

第９回　活動と休息援助技術　（演習：ボディメカニクス、体位、体位変換）

【key words】ボディメカニクス、体位、体位変換
【授業概要】
・ボディメカニクス技術の基本を活用して臥床患者の体位変換を実施する。

	・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】体位について、体位変換の手順と留意点について復習してから演習に参加する。 「実習室の手引き」をよく読み演習に参加する。演習終了後、課題レポートを提出する。 第１０回　活動と休息援助技術　（演習：ボディメカニクス、体位、体位変換） 【key words】ボディメカニクス、体位、体位変換 【授業概要】 ・ボディメカニクス技術の基本を活用して臥床患者の体位変換を実施する。 ・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】体位について、体位変換の手順と留意点について復習してから演習に参加する。 「実習室の手引き」をよく読み演習に参加する。演習終了後、課題レポートを提出する。 第１１回　活動と休息援助技術　（演習：移乗・移送） 【key words】移乗・移送、車椅子、ストレッチャー 【授業概要】 ・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移乗・移送）を実施する。 ・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】移乗・移送について、体位変換の手順と留意点について復習してから演習に参加する。 「実習室の手引き」をよく読み演習に参加する。演習終了後、課題レポートを提出する。 第１２回　活動と休息援助技術（演習：移乗・移送） 【key words】移乗・移送、車椅子、ストレッチャー 【授業概要】 ・姿勢の維持や体位変換を自力で行えない患者に対する援助（移乗・移送）を実施する。 ・対象の安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】移乗・移送について、体位変換の手順と留意点について復習してから演習に参加する。 「実習室の手引き」をよく読み演習に参加する。演習終了後、課題レポートを提出する。 第１３回　安楽確保の技術（体位保持、罨法） 【key words】体位保持、温罨法、冷罨法、安楽 【授業概要】 ・自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングの実際を説明する。 ・身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）の技術を説明する。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P138-150 【課題・予習・復習・授業準備指示】事前学習としてテキストをよく読んでおく。 第１４回　安楽確保の技術（演習：体位保持、罨法） 【key words】移動・移乗・移送、車椅子、ストレッチャー、睡眠 【授業概要】 ・自力では体位を保持できない患者に対するポジショニングを実施する。 ・身体の安楽や精神的安定をもたらす罨法（温罨法・冷罨法）を実施する 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P138-150 【課題・予習・復習・授業準備指示】体位保持と罨法の手順と留意点について復習してから演習に参加する。 「実習室の手引き」をよく読み演習に参加する。演習終了後、課題レポートを提出する。 第１５回　総合演習　　事例に基づく実施 【key words】コミュニケーション、環境調整、ボディメカニクス、体位、体位変換、移動、移乗、体位保持、罨法 【授業概要】 ・第７回から第12回までの活動と休息援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。 ・演習後、自己の課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】基礎看護技術Ⅰ.医学書院　P18-62　基礎看護技術Ⅱ.医学書院　P94-150 【課題・予習・復習・授業準備指示】第1-14までに学習した内容を復習してから演習に参加すること。技術練習は何度も行い技術の習得に努めること。
受講生に関わる情報および受講のルール	［　受講性に関わる情報　］ ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 ［　受講のルール　］ ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。欠席した場合は、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、繰り返し練習することにより習得すること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験　（80%）　総合演習課題（10%）　ミニテスト・レポート課題（10%）、それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学②・③. 医学書院,

	2019.
参考書	・三上れつ・小松万喜子編集：演習・実習に役立つ基礎看護技術. NOVELLE HIROKAWA, 第4版, 2015. ・その他、講義内で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
上田 葉子　内田 佳代　中嶋 朋子　小林 洋子　菅沼 澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・看護の対象の日常生活援助に必要な環境調整、食事、排泄について学習し、根拠に基づいた看護技術を習得する。 【到達目標】 ①環境調整の意義を理解し、対象の状態に応じた環境を整える技術を習得できる。 ②食事援助の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた食事援助技術を習得できる。 ③食事後の口腔ケアの必要性が理解でき、対象に応じた口腔ケアの援助技術を習得できる。 ④排泄の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた排泄ケア技術を習得できる。 ⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	１．入院患者を取り巻く生活環境について理解し、ベッドメーキングを中心とした環境調整について演習を通して考える。 ２．人が生きていくうえで欠かすことのできない食事と排泄の意義について学習し、対象の状況に応じた具体的な援助方法について演習を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①環境調整の意義を理解し、対象の状態に応じた環境を整える技術を習得できる。	◎	◎	△	△
②食事援助の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた食事援助技術を習得できる。	◎	◎	△	△
③食事後の口腔ケアの必要性が理解でき、対象に応じた口腔ケアの援助技術を習得できる。	◎	◎	△	△
④排泄の基礎知識が理解でき、対象の状況に応じた排泄ケア技術を習得できる。	◎	◎	△	△
⑤対象の安全・安楽・自立を考慮した援助技術の必要性に	◎	◎	○	△

ついて考えることができる。				
⑥				
授業計画	第１回	科目オリエンテーション　環境調整技術　療養生活の環境　病室の環境のアセスメントと調整、ベッドメーキング ・人間にとっての環境調整技術の意義、患者の療養生活における環境調整について説明する。 ・ベッドメーキングとリネン交換の目的・実施方法について説明する。 【key word】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　ベッドメーキング　リネン交換 【教科書ページ】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理的な環境条件の基準について課題用紙を提出する。			
	第２回	環境調整技術　　（演習）　ベッドメーキング ・学生どうしペアとなり、それぞれがベッドメーキングの演習を行う。 ・演習時には実務経験のある教員がベッドメーキング時のボディメカニクスの活用法、手技における留意点についても実演し学生の演習を支援する。 【key word】 ・療養生活　環境調整　ベッドメーキング 【教科書ページ】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習を通してベッドが患者にとって安全で快適な場になるように作成することができたか課題用紙に記入し提出する。			
	第３回	環境調整技術　　（演習）　臥床患者のリネン交換（1） ・ベッドメーキングで学習した方法を活用しながら、臥床患者のリネン交換を実施する。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者がいる場合のリネン交換の方法を実演し、その後看護師役、患者役、観察役に分かれて演習を行う。 【key word】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　ベッドメーキング　リネン交換 【教科書ページ】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習はグループで実施するため、観察役、患者役となり「安全・安楽」の視点でどのように感じたのか看護師役の学生の記録用紙に記入する。また、看護師役として「安全・安楽」の視点で気づけたこと、気づけられなかったこと課題用紙に記入し提出する。			
	第４回	環境調整技術　　（演習）　臥床患者のリネン交換（2） ・ベッドメーキングで学習した方法を活用しながら、臥床患者のリネン交換を実施する。 ・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者がいる場合のリネン交換の方法を実演し、その後看護師役、患者役、観察役に分かれて演習を行う。 【key word】 ・人間　環境　療養生活　環境調整　リネン交換 【教科書ページ】 p.10-24. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習はグループで実施するため、観察役、患者役となり「安全・安楽」の視点でどのように感じたのか看護師役の学生の記録用紙に記入する。また、看護師役として「安全・安楽」の視点で気づけたこと、気づけられなかったこと課題用紙に記入し提出する。			
	第５回	食事援助技術　　栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント　基礎知識および援助の実際 ・食事援助を必要とする患者の栄養状態及び食欲・摂取能力のアセスメントと医療施設で提供される食事について説明する。また、食事援助を行う前の環境調整、摂食の準備、援助時の留意点について説明する。 【key word】 ・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助 【教科書ページ】 p.26-56. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義後の復習として嚥下のメカニズム、食事援助における看護師の役割について課題を提出する。			
	第６回	食事援助技術　　非経口的栄養摂取の援助（経管栄養法・中心静脈栄養法）　摂食・嚥下障害の評価と実際、清潔援助技術（口腔ケア） ・摂食・嚥下訓練の目的・意義、摂食・嚥下障害の評価方法と嚥下検査について説明する。 ・非経口的栄養摂取の援助として、経管栄養法と中心静脈栄養法について説明する。 ・口腔ケアの援助の基礎知識と実際について説明する。 【key word】 ・摂食・嚥下障害　摂食・嚥下訓練　非経口的栄養摂取　経管栄養法　中心静脈栄養法 ・口腔ケア　ブラッシング 【教科書ページ】 p.26-56，p.195-202. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義後の復習として経管栄養法について課題を提出する。			
	第７回	排泄援助技術　　自然排尿および自然排便の基礎知識　排泄の意義とメカニズム、観察とアセスメント ・排泄の意義、メカニズム、観察とアセスメントについて説明する。 ・自然排泄に関しての基礎知識・自然排尿・自然排便に関する援助技術の方法を説明する。 【key word】 ・排泄の意義　メカニズム　自然排尿　自然排便 【教科書ページ】 p.58-92，p.185-188.			

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・講義後の復習として便・尿の性状の一般的な基準と逸脱について課題を提出する。

第８回　排泄援助技術　　自然排尿および自然排便の介助の実際（トイレ・床上・おむつによる排泄援助）、清潔援助技術（陰部洗浄）
・排泄の意義、メカニズム、観察とアセスメントについて説明する。
・自然排泄に関しての基礎知識・自然排尿・自然排便に関する援助技術の方法を説明する。
・臥床患者の陰部洗浄方法について施行時の留意点とその手順について説明する。
【key word】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助　陰部洗浄
【教科書ページ】
p.58-92, p.185-188.

第９回　食事援助技術　　（演習）　食事の援助
・看護師役、患者役のペアになり、それぞれ食事の援助を実施する。
・演習時には患者役を通して角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態をそれぞれが体験する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら事例に基づいて食事援助の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【key word】
・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助
・口腔ケア　ブラッシング
【教科書ページ】
p.26-56, p. 195-202.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・観察役・患者役から「安全・安楽」の視点からの気づきを看護師役にフィードバックする。
・角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態の違い、他者から援助を受ける体験からの気づきを課題用紙に記入し提出する。

第１０回　食事援助技術　　（演習）　食事の援助および口腔ケア
・看護師役、患者役のペアになり、それぞれ食事の援助を実施する。
・演習時には患者役を通して角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態をそれぞれが体験する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するコミュニケーションの取り方、声掛けの方法を実際に見せながら事例に基づいて食事援助の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【key word】
・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動　食事摂取の介助
・口腔ケア　ブラッシング
【教科書ページ】
p.26-56, p. 195-202.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・観察役・患者役から「安全・安楽」の視点からの気づきを看護師役にフィードバックする。
・角度の違いによる咀嚼・嚥下の状態の違い、他者から援助を受ける体験からの気づきを課題用紙に記入し提出する。

第１１回　排泄援助技術　　（演習）　尿器・便器の用い方
・床上排泄として尿器・便器の用い方、おむつ交換方法について看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者の尿器・便器の援助方法を実演し、学生の演習を支援する。
【key word】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助
【教科書ページ】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・演習後の振り返りとして看護師役を実施してみて自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。

第１２回　排泄援助技術　　（演習）　尿器・便器の用い方　おむつ交換
・便器を用いた陰部洗浄法について、看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者のおむつ交換の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【key word】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助　陰部洗浄
【教科書ページ】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・演習後の振り返りとして看護師役を体験した自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。

第１３回　排泄援助技術　　（演習）　尿器・便器の用い方　陰部洗浄
・便器を用いた陰部洗浄法について、看護師役、患者役、観察役に分かれて演習する。
・演習では実務経験のある教員が患者に対するプライバシーへの配慮の方法や声掛けの方法を実際に見せながら臥床患者の陰部洗浄の方法を実演し、学生の演習を支援する。
【key word】
・床上排泄　便器　尿器　おむつ　排泄援助　陰部洗浄
【教科書ページ】
p.58-92, p.185-188.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・演習後の振り返りとして看護師役を体験した自身の課題、患者役の立場からの学び、演習を通しての気づきを課題用紙に記入し提出する。

第１４回　総合演習　　(1) 課題学習
・基礎看護援助技術Ⅱで学習したことを振り返りながら、課題用紙を活用して学習をすすめる。
【key word】
・療養生活　環境調整
・栄養状態　食欲　摂食・嚥下能力　摂食行動
・床上排泄　便器　尿器　おむつ
【教科書ページ】
1. 有田清子他：系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③. 医学書院, 2019.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	・演習前にはチェックリストを活用しながら技術練習をする。 第１５回　総合演習　(2) 事例に基づく実施 ・基礎看護援助技術Ⅱで学習したことを振り返り、既習の知識を活用しながら事例に基づいて演習を実施する。 ・看護師役、患者役になり、演習を実施したのちに担当教員よりフィードバックを行う。 【key word】 ・ベッドメーキング　リネン交換 ・食事摂取の介助　口腔ケアの援助 ・排泄援助　陰部洗浄 【教科書ページ】 1. 有田清子他：系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③. 医学書院, 2019. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・演習前にはチェックリストを活用しながら技術練習をする。
受講生に関わる情報および受講のルール	[　受講生に関わる情報　] ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・事後課題がある場合には提出期限までに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 [　受講のルール　] ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。 ・欠席した場合は、後日、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、演習室を利用して学習を深めること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	・筆記試験　(80%)　総合演習課題（10%）　ミニテスト・レポート課題（10%） ※それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学③. 医学書院, 2019.
参考書	・岡谷 豊. 看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.1. 第1版, 第7刷, 2014. ・岡谷 豊. 看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.2. 第1版, 第7刷, 2014. ・その他、講義内で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
内田　佳代　中嶋　朋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　看護の対象の日常生活援助に必要な清潔・衣生活、排泄、感染予防の知識・技術・態度を学び、根拠に基づいた看護技術を習得する。 〔到達目標〕 １．衣生活の意義を理解し、対象の状態に応じた病衣・寝衣交換の援助技術を習得できる。 ２．身体の清潔の意義と全身への影響を理解し、清潔ケア(入浴・シャワー浴・清拭・洗髪等)の援助技術を習得できる。 ３．感染予防の根拠について理解し、無菌的操作の技術を習得できる。 ４．排泄の援助である一次的導尿・持続的導尿について説明できる。 ５．対象の反応を捉え、安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考えることができる。
授業の概要	「衣・食・住」と表現されるように衣生活は人間生活の基盤となる三大要素の一つである。人間が衣服を身につけることの意義を説明し、入院となった場合の衣生活について考える。「衣服」の役割と同様に、皮膚・粘膜自体にも身体内部をまもる働きがある。皮膚や粘膜の構造と機能について説明し、入院によって清潔行動に制限のある患者にとっての入浴、シャワー浴、清拭、洗髪等の清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を学習する。これらを理解したうえで、病衣・寝衣交換と清潔援助の具体的な援助方法について演習を行う。 　また、感染防止の基礎的知識と感染経路別予防策および無菌操作について学習する。無菌操作を用いて、排泄の援助技術である導尿の技術を学習する。 　第14・15回は、事例に基づいた総合演習課題を実施し、基礎的な日常生活援助技術の習得を図る。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①衣生活の意義を理解し、対象の状態に応じた病衣・寝衣交換の援助技術を習得できる。	◎	◎	○	○
②身体の清潔の意義と全身への影響を理解し、清潔ケア(入浴・シャワー浴・清拭・洗髪等)の援助技術を習得できる。	◎	◎	○	○
③感染予防の根拠について理解し、無菌的操作の技術を習得できる。	◎	◎	○	○
④排泄の援助である一次的導尿・持続的	◎	◎	○	◎

導尿について説明できる。				
⑤対象の反応を捉え、安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考えることができる。	◎	◎	○	○
⑥				

授業計画

第１回　衣生活援助技術　　衣生活の援助

【Keywords】寝衣交換・パジャマ
【授業概要】
・人間が衣服を用いる意義と看護における衣生活の意義について説明する。
・療養生活における病衣の特徴、選び方、病衣の条件について説明する。
・寝衣交換の留意点と方法、臥床患者の寝衣交換の実際について説明する。
・人間が衣服を用いる意義と看護における衣生活の意義について説明する。
・療養生活における病衣の特徴、選び方、病衣の条件について説明する。
・寝衣交換の留意点と方法、臥床患者の寝衣交換の実際について説明する。
【教科書・参考文献】テキストp202～211
【課題・予習・復習・授業準備】衣服を用いることの意義について説明できるように準備しておくこと。授業終了後は、復習し、「和式寝衣の交換」、「かぶり式上衣の交換」、「腰上げ可能な患者のズボンの交換」、「輸液ラインが入っている場合の和式寝衣の交換」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。

清潔援助技術　　清潔援助の基礎知識

【Keywords】入浴・シャワー浴・清拭・洗髪
【授業概要】
・清潔援助に必要な皮膚および粘膜に関する基礎的知識、清潔援助の効果と全身への影響を説明する。
・清潔援助の実施・方法の判断の視点を説明する。
・入院によって清潔行動に制限のある患者にとっての入浴、シャワー浴、全身清拭、洗髪、手浴、足浴について、援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響について説明できる。
・対象の状態に応じた清潔援助の原則と留意点について説明する。
【教科書・参考文献】テキストｐ153～184
【課題・予習・復習・授業準備】清潔援助の基礎知識について説明ができるように準備しておくこと。授業終了後は、復習し、「全身清拭」、「ケリーパッドを用いた洗髪」、「足浴」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。

第３回　衣生活援助技術　　（演習）臥床患者の寝衣交換

【Keywords】臥床患者・寝衣交換
【授業概要】
・デモンストレーション後、患者・看護師役のペアとなり実施する。
・臥床患者の寝衣交換を安全・安楽に実施できることを目標とする。
・対象の反応を捉えつつ安全・安楽・自立を考慮しながら実施する重要性について考える。
【教科書・参考文献】テキストｐ202～211
【課題・予習・復習・授業準備】「和式寝衣の交換」、「腰上げ可能な患者のズボンの交換」、の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第４回　清潔援助技術　　（演習）全身清拭（１）

【Keywords】臥床患者・全身清拭
【授業概要】
・デモンストレーション後、グループに分かれて実施する。患者・看護師役のそれぞれの役割を体験しながら、どのように援助すると心地よいケアが提供できるのかを考える。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。

【教科書・参考文献】テキストｐ153～170
【課題・予習・復習・授業準備】「全身清拭」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第５回　清潔援助技術　　（演習）全身清拭（２）

【Keywords】臥床患者・全身清拭
【授業概要】
・グループに分かれて実施する。患者・看護師役のそれぞれの役割を体験しながら、どのように援助をすると心地よいケアが提供できるのかを考える。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書・参考文献】テキストｐ153～170
【課題・予習・復習・授業準備】「全身清拭」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第６回　清潔援助技術　　（演習）足浴

【Keywords】足浴
【授業概要】
・足浴の目的、援助方法について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
・対象の状態に応じた原則と留意点を説明する。
・患者・看護師役を体験しながら、どのように援助すると心地よいケアが提供できるかを考える。
【教科書・参考文献】テキストp182～184
【課題・予習・復習・授業準備】「足浴」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第７回　清潔援助技術　　（演習）手浴

【Keywords】手浴
【授業概要】
・臥床患者の手浴の目的、援助方法について説明し、グループに分かれて実施する。
・対象の状態に応じた原則と留意点を説明する。
・患者・看護師役を体験しながら、どのように援助すると心地よいケアが提供できるかを考え

る。
【教科書・参考文献】テキストp179～182
【課題・予習・復習・授業準備】「手浴」の手順書を確認し、実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第８回　清潔援助技術　（演習）洗髪（１）
【Keywords】臥床患者・洗髪
【授業概要】
・ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪方法について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
・ケリーパッドを用いた洗髪の原則と留意点について確認しながら実施する。
・対象の反応を捉え、安全・安楽・自立を考慮した援助の必要性について考える。
【教科書・参考文献】テキストp170～179
【課題・予習・復習・授業準備】「ケリーパッドを用いた洗髪」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第９回　清潔援助技術　（演習）洗髪（２）
【Keywords】臥床患者・洗髪
【授業概要】
・ケリーパッドを用いて洗髪を実施する際の原則と留意点を理解しながら実施する。
・対象の状態や用いる物品が異なる場合の援助の要点を学習する。
【教科書・参考文献】テキストp170～179
【課題・予習・復習・授業準備】「ケリーパッドを用いた洗髪」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第１０回　感染防止の技術
【Keywords】スタンダードプリコーション・消毒・滅菌・無菌操作
【授業概要】
・スタンダードプリコーション、消毒と滅菌、無菌操作と感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱い方について説明する。
【教科書・参考文献】テキストp423～453（第13章感染防止の技術）
【課題・予習・復習・授業準備】感染防止の基礎知識について説明できるように準備しておくこと。授業終了後は、復習し、「防護用具の着用方法」、「防護用具の外し方」「、手袋の外し方」、「滅菌手袋の手順」、「滅菌ガウンの着用手順の例」」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。

第１１回　感染防止の技術　（演習）滅菌ガウンの着脱方法　鑷子の取り扱い　滅菌物の取り出し方
【Keywords】滅菌ガウン・鑷子・滅菌物
【授業概要】
・清潔と不潔の区別をふまえ、ガウンテクニック、滅菌物の取り扱い方、滅菌包みの開き方について説明し、デモンストレーション後にグループに分かれて実施する。
【教科書・参考文献】テキストp423～453（第13章感染防止の技術）
【課題・予習・復習・授業準備】「防護用具の着用方法」、「防護用具の外し方」「、手袋の外し方」、「滅菌手袋の手順」、「滅菌ガウンの着用手順の例」」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第１２回　排泄援助技術　一時的導尿、持続的導尿
【Keywords】導尿・滅菌操作
【授業概要】
・一時的導尿と持続的導尿について、目的、導尿の適応の判断と技術の要点について説明する。
・ＤＶＤ学習によりイメージ化を図りながら、演習へと関連付けられるようにする。
【教科書・参考文献】テキストp73～92（導尿）
【課題・予習・復習・授業準備】無菌操作の実施内容について説明ができるように準備しておくこと。授業終了後は、復習し、「一時的導尿」」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。

第１３回　排泄援助技術　（演習）一時的導尿、持続的導尿の管理
【Keywords】導尿・滅菌操作
【授業概要】
・一時的導尿の目的、手順、根拠、留意点について理解し、シミュレーターを用いて実施する。
・持続的導尿の管理について要点を説明する。
【教科書・参考文献】テキストテキストp73～92（導尿）
【課題・予習・復習・授業準備】「一時的導尿」」の動画を閲覧し実施内容について説明ができるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第１４回　総合演習（１）　事例に基づく実施
【Keywords】
【授業概要】
・第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。
・演習後、自己の課題を明確にする。
【教科書・参考文献】テキストｐ153～170・～211
【課題・予習・復習・授業準備】「全身清拭」の動画および手順書を確認し実施できるようにしておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。

第１５回　総合演習（２）　事例に基づく実施
【Keywords】事例・実施
【授業概要】
・第１回から第９回までの清潔援助技術で学習したことを振り返り、演習を通して技術の習得をする。
・演習後、自己の課題を明確にする。
【教科書・参考文献】テキストｐ153～170・～211
【課題・予習・復習・授業準備】「全身清拭」の動画および手順書を確認し実施できるようにし

	ておく。演習終了後は、目標に照らし、看護職としての自己の課題に関して考察する。
受講生に関わる情報および受講のルール	［ 受講生に関わる情報　］ ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は、受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 ［　受講ルール　］ ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。 ・遅刻、早退については担当教員に理由を申しでること。欠席した場合は、担当教員まで授業資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義にて解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、繰り返し練習することにより習得すること。
オフィスアワー	各回授業後から放課後18時までとする。
評価方法	筆記試験　(80%)，総合演習課題（10%），　課題レポート・ミニテスト（10%） 総合評価は筆記試験、総合演習課題、課題レポートともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	茂野香おる他：基礎看護技術Ⅱ③．医学書院，2019
参考書	・三上れつ・小松万喜子編集：演習・実習に役立つ基礎看護技術　NOUVELLE HIROKAWA、第４版、2015. ・その他、講義内で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護援助技術Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林 洋子　上田 葉子　中嶋 朋子　内田 佳代　菅沼 澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①呼吸・循環を整える技術として、酸素吸入療法、一時的吸引、吸入の基礎知識を習得する。 ②創傷とその治癒のメカニズムを知り、創傷処置方法、包帯法、褥瘡予防の援助について習得する。 ③症状・生体機能管理技術の基礎知識として、検体検査・生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を習得する。 ④医学的な検査・処置を必要とする対象への介助技術について習得する。 ⑤与薬における基礎知識を学習し、与薬に必要な看護を習得する。 ⑥救命救急を必要とする対象への判断方法を学習し、一次救命処置の実際について習得する。 ⑦死に至るまでの身体的・精神的変化を学習し、死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性と死後の処置方法について習得する。 ⑧安全確保の基礎知識を学習し、対象にとって安全を考慮した援助技術の必要性について習得する。 【到達目標】 ①呼吸・循環を整える基礎知識を学習し、酸素吸入療法、吸引、吸入時における基本技術について実施できる。 ②創傷とその治癒のメカニズムを知り、治癒のために必要な環境と看護援助について述べることができる。 ③生体検査・検体検査、与薬に必要な基礎知識を理解し、検査、与薬に対する基本技術を習得する。 ④生体情報のモニタリングの種類を列挙し、それぞれの概要と手順、看護の役割を述べることができる。 ⑤診察の目的と検査・処置時の看護を述べることができる。 ⑥救命救急を必要とする対象者の判断方法を述べることができる。また、判断内容によって一次救命処置を実施できる。 ⑦死にゆく人と周囲の人々の身体的・精神的変化を学習し、ケアの必要性を述べることができる。また、死亡による身体の変化が説明でき、死後の処置の留意点を述べることができる。 ⑧対象の安全を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。
授業の概要	①酸素吸入療法、、一時的吸引、吸入の目的と方法を学び、その援助の実際を習得する。 ②創傷とその治癒のメカニズムについて学び、その援助の実際を習得する。 ③診察・検査・処置における基礎知識を学び、医学的に異常をきたした対象に対する援助の実際について学習する。 ④与薬における基礎知識を学び、対象に与薬する際の援助技術について習得する。 ⑤安全確保の基礎知識として誤薬防止、チューブ類の予定外抜去防止、患者誤認防止、転倒・転落防止、薬剤・放射線暴露の防止方法について学習する。 ⑥救命救急を必要とする対象への判断方法を学び、一次救命処置の実際を習得する。 ⑦死に至るまでの身体的・精神的変化と死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性、死後の処置方法について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

①呼吸・循環を整える基礎知識を学習し、酸素吸入療法、吸引、吸入時における基本技術について実施できる。	◎	◎	○	○
②創傷とその治癒のメカニズムを知り、治癒のために必要な環境と看護援助について述べることができる。	◎	◎	○	○
③生体検査・検体検査、与薬に必要な基礎知識を理解し、検査、与薬に対する基本技術を習得する。	◎	◎	○	○
④救命救急を必要とする対象者の判断方法を述べることができる。また、判断内容によって一次救命処置を実施できる。	◎	◎	○	○
⑤死にゆく人と周囲の人々の身体的・精神的変化を学習し、ケアの必要性を述べることができる。また、死亡による身体の変化が説明でき、死後の処置の留意点を述べることができる。	◎	◎	○	○
⑥対象の安全を考慮した援助技術の必要性について考えることができる。	◎	◎	○	○
授業計画	第１回　科目オリエンテーション　　呼吸・循環を整える技術 ・呼吸・循環を整える技術について、酸素吸入療法、吸引（口腔、鼻腔、気管内）、吸入について実施する際の目的や留意点について説明する。 【key word】 ・呼吸、循環、酸素療法、排痰ケア、一時的吸引、持続的吸引、吸入、人工呼吸療法 【教科書ページ】 p.214-260. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に教科書を読み授業に参加する。 ・演習前の事前課題について提示する。（酸素吸入療法、滅菌について） 第２回　呼吸・循環を整える技術（演習）　酸素吸入療法　酸素ボンベの取り扱い ・モデル人形を活用し、酸素療法について演習を実施する。 ・演習では実務経験のある教員がデモンストレーションを実施し、その後4～5人のグループに分かれて酸素カニューレ、酸素マスクの装着方法について演習する。また、臨床では酸素ボンベを使用することもあるため、酸素ボンベの取り扱い方や注意点、酸素の残量計算の方法について学生の学習を支援する。 【key word】 ・呼吸、循環、酸素療法、酸素ボンベ、酸素残量計算 【教科書ページ】 p.214-260. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に配布された酸素療法の方法について目を通してから演習に参加する。 ・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。 第３回　呼吸・循環を整える技術（演習）　吸引療法（口腔、鼻腔、気管内） ・モデル人形を活用し、吸引療法について演習を実施する。 ・演習では4～5人のグループに分かれて口腔、鼻腔、気管内の吸引療法を演習する。特に気管内の吸引については無菌操作が必要なため、実務経験のある教員が実際にデモンストレーションを実施し、学生の演習を支援する。 【key word】 ・呼吸、循環、一時的吸引 【教科書ページ】 p.214-260. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。 第４回　創傷管理技術 ・皮膚の構造と機能について復習しながら、創傷の定義、創傷治癒過程とそのメカニズム、創傷治癒のための環境づくり、創傷処置について説明する。 【key word】 ・創傷、創傷治癒、創傷処置、皮膚障害、包帯法、褥瘡、褥瘡予防 【教科書ページ】 p.262-284. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に教科書を読み授業に参加する。 第５回　創傷管理技術（演習）　包帯法（巻軸帯、三角巾）			

		・さまざまな場面で、さまざまな状態の人に、さまざまな目的で行われる援助として包帯法について演習する。実務経験のある教員が巻軸帯（環行帯、らせん帯、麦穂帯）、三角巾を用いた上肢の固定方法についてデモンストレーションを実施し、その後の学生の演習を支援する。 【key word】 ・創傷、創傷治癒、創傷処置、皮膚障害、包帯法、褥瘡、褥瘡予防 【教科書ページ】 p.262-284. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に配布された包帯法の演習について目を通してから参加する。 ・演習後の事後課題を提示するため記入し提出する。
	第６回	与薬の技術（1）与薬の基礎知識　経口与薬　吸入　点眼　点鼻　経皮的与薬　直腸内与薬 ・薬物動態について復習を行い、その後与薬についての基礎知識と種類について説明する。 ・主に経口、吸入、点眼、点鼻、直腸内与薬の目的・適応・方法・留意点について学習する。 【key word】 ・薬物動態、薬剤の保管、正しい与薬、6R、経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 【教科書ページ】 p.286-343. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第７回	与薬の技術（2）与薬の基礎知識　　静脈注射　皮内注射　皮下注射　筋肉注射　輸血の基礎知識 ・与薬についての基礎知識と種類について説明する。 ・主に静脈内、皮内、皮下、筋肉内注射、輸血の目的・適応・方法・留意点について学習する。また、輸液投与を行う際の滴下計算方法について説明する。 【key word】 ・正しい与薬、6R、静脈注射、皮内注射、皮下注射、筋肉注射、輸血 【教科書ページ】 p.286-343. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第８回	症状・生体機能管理技術 ・症状・生体機能管理技術の基礎知識を学習し、検体検査や生体モニタリングの種類や援助の実際を説明する。 【key word】 ・検体検査（血液、尿、便、喀痰検査）、モニタリング、心電図検査、動脈圧、中心静脈圧 【教科書ページ】 p.374-402. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第９回	診察・検査・処置の介助技術 ・診察の介助の目的を説明し、それぞれの生体検査の概要と検査、処置時の看護について学習する。 【key word】 ・診察の介助、検査・処置の介助、X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査、超音波、肺機能、核医学、穿刺 【教科書ページ】 p.404-420. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第１０回	与薬の技術（演習）筋肉内注射　注射筒と注射針の取り扱い方　針刺し防止策　感染性廃棄物の取り扱い方 ・殿部モデルを使用して筋肉注射の演習を実施する。与薬の技術では６Rを活用し安全を確保する技術を習得する。 ・演習ではデモンストレーション後に4～5人のグループに分かれてアンプルを使用した薬液の吸い上げ、筋肉注射による与薬について演習する。特に注射器や針の使用は無菌操作や安全確保が必要なため、実務経験のある教員が実際に学生の演習を支援する。 ・注射筒と注射針の取り扱い方　針刺し防止策　感染性廃棄物の取り扱い方についても演習を実施する。 【key word】 ・正しい与薬、6R、筋肉注射、無菌操作 【教科書ページ】 p.286-343. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に配布された筋肉注射の演習について目を通してから参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第１１回	症状・生体機能管理技術（演習）静脈血採血　注射筒と注射針の取り扱い方　針刺し防止策　感染性廃棄物の取り扱い方 ・上肢モデルを使用して静脈血採血の演習を実施する。 ・演習ではデモンストレーション後に4～5人のグループに分かれて真空管を用いた採血と注射器を用いた採血を演習する。特に注射器や針の使用は無菌操作や安全確保が必要なため、実務経験のある教員が実際に学生の演習を支援する。 ・注射筒と注射針の取り扱い方　針刺し防止策　感染性廃棄物の取り扱い方について演習も実施する。 【key word】 ・検体検査（血液、尿、便、喀痰検査） 【教科書ページ】 p.374-402. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前に配布された静脈血採血の演習について目を通してから参加する。 ・事後課題を提示するため記入し提出する。
	第１２回	救命救急処置技術 ・救命救急処置の基礎知識、心肺蘇生法、止血法、院内急変時の対応について学習する。

	【key word】 ・トリアージ、心肺蘇生法、一次救命処置、二次救命処置、止血法、エマージェンシー-カート 【教科書ページ】 p.346-372. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 第１３回　救命救急処置技術　（演習）一次救命処置 ・救命救急処置の基礎知識をもとにモデル人形を使用して一次救命処置の演習をする。 ・演習では実務経験のある教員がデモンストレーションを実施し、その後4～5人のグループに分かれて演習を行い学生を支援する。 【key word】 ・救急、トリアージ、心肺蘇生法、一次救命処置 【教科書ページ】 p.346-372. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事前、事後課題を提示するため記入し提出する。 第１４回　安全確保の技術 ・わが国における過去の医療事故を取り上げ、安全確保の重要性について説明する。 ・医療事故の定義、分類、発生要因、危険因子、看護事故の種類について説明し、看護者に求められる安全管理行動について学習をすすめる。 【key word】 ・セーフティマネジメント、医療事故、医療過誤、インシデント・アクシデントレポート、6R、薬剤・放射線被爆 【教科書ページ】 p.462-478. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・事後課題を提示するため記入し提出する。 第１５回　死の看取りの援助 ・日本の死亡に関して、現在の平均寿命、死因、死亡場所の変遷について復習をする。その後、死に至るまでの人の身体的・精神的変化を知り、死にゆく人と周囲の人々へのケアの必要性を学習する。また、死亡後の身体的変化を学習し、死後の処置方法について説明する。 【key word】 ・平均寿命、キュブラー・ロス、死の恐怖、心理、苦痛、死の看取り、死後の処置、グリーフケア 【教科書ページ】 p.480-498. 【課題・予習・復習・授業準備】 ・日本の平均寿命、死因について復習しておく。 ・死を迎える状態にみられる人の精神的変化について復習する。また残された家族のグリーフケアについて復習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・演習は白衣または指定の体育着を着用すること。「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。 ・事前課題がある場合には講義、演習までに学習して臨み、提出の指示があった場合には速やかに提出すること。 ・事後課題がある場合には提出期限までに提出すること。 ・看護技術は何回も繰り返して練習を行い、技術を習得すること。 [受講のルール] ・他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・遅刻・早退については担当教員に理由を申し出ること。 ・欠席した場合は、後日、担当教員まで講義資料を取りにくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習し、わからない部分を講義や演習で解決するように努力すること。 ・看護援助技術は、演習室を利用して自己学習を深めること。
オフィスアワー	各回授業終了後から放課後18時までとする。
評価方法	・筆記試験（80%）　課題レポート（20%）　それぞれが60%を超えていることが前提となる。
教科書	有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③. 医学書院, 2019.
参考書	・岡谷 豊. 看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.1. 第1版, 第4刷, 2014. ・岡谷 豊. 看護技術が見える 基礎看護技術 Vol.2. 第1版, 第7刷, 2014. ・その他、講義内で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 基礎看護援助技術は看護援助を行うにあたり土台となる基礎的な技術について講義する科目である。 様々な科で実践してきた教員が、根拠をもとに講義を行う。演習では技術内容に応じて事例を挙げ、実務経験のある教員がデモンストレーションを実演し、技術演習をすすめる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
菅沼　澄江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	看護援助の基礎となる代表的な看護論の特徴を学び、看護実践との繋がりが理解できる。 到達目標：①各看護論の特徴を述べることができる。 ②理論と看護実践の繋がりが説明できる。
授業の概要	代表的な看護論の理論的枠組みおよび知識体系について、代表的な書籍を精読し、要約・意見等をまとめる。 各理論家の看護論についての考えに触れ、看護実践との関係を理解する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①各看護論の特徴を述べることができる。	◎	◎	◎	◎
②理論と看護実践の繋がりが説明できる	◎	◎	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　理論とは　看護論とは　看護論で何を学ぶのか　Ｖ．ヘンダーソンについて (1)授業概要 看護論とは何か、看護学の原点および看護の枠組みと方向性を導く看護理論の考え方を学ぶ。看護理論と看護実践の繋がりを理解する。Ｖ．ヘンダーソンについて概略を知る。 (2)ketword 看護理論・看護論・定義 (3)教科書ページ 当日配布資料 (4)課題・予習・復習・参考文献 看護の基本となるもの、看護覚え書をはじめにや序章をよく読んで理解しておく 第２回　ヘンダーソンの看護論〔１〕ヘンダーソンについて　看護師の独自の機能　基本的看護ケア　基本的欲求と基本的看護との関係 (1)授業概要 看護の基本となるもの」第Ⅰ章・第Ⅱ章を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅲ章の説明から確認、訂正を行い、看護の独自の機能について理解する。 (2)ketword 基本的欲求・看護ケア・独自の機能 (3)教科書ページ 11P～23P第1章第2章看護師の独自の機能　基本的看護ケア　基本的欲求と基本的看護との関係

		(4)課題・予習・復習・参考文献 第１章第Ⅱ章をよく読んで要約をしておく。自分の意見が述べられるようにする
	第３回	ヘンダーソンの看護論〔２〕基本的看護ケアのための計画 (1)授業概要 「看護の基本となるもの」第Ⅲ章を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅲ章の説明から確認、訂正を行い、基本的看護ケアを行うにあたって考慮に入れるべき患者の状態、その他の条件について理解する。 (2)keyword 計画・基本的看護ケア・患者の状態 (3)教科書ページ 26P～33P第Ⅲ章基本的看護ケアを行うにあたって考慮に入れるべき患者の状態、その他の条件 (4)課題・予習・復習・参考文献 基本的看護ケアを行うにあたって考慮に入れるべき患者の状態、その他の条件の要約と意見を書いて提出する
	第４回	ヘンダーソンの看護論〔３〕基本的看護の構成要素１～２項目 (1)授業概要 「看護の基本となるもの」第Ⅳ章基本的看護の構成要素「呼吸を助ける」「飲食を助ける」を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅳ章基本的看護の構成要素「呼吸を助ける」「飲食を助ける」の説明から確認、訂正を行い、基本的看護の構成要素「呼吸を助ける」「飲食を助ける」について理解する (2)keyword 呼吸・患者・飲食 (3)教科書ページ 36P～46P第4章基本的看護の構成要素 (4)課題・予習・復習・参考文献 患者の呼吸を助ける、患者の飲食を助けるの要約と意見を書いて提出する (5)アクティブラーニング 患者の呼吸を助ける、患者の飲食を助けるの要約と意見を基にグループワークをする
	第５回	ヘンダーソンの看護論〔４〕基本的看護の構成要素３～４項目 (1)授業概要 「看護の基本となるもの」第Ⅳ章基本的看護の構成要素「排泄を助ける」「姿勢を保持する、身体を動かすことを助ける」を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅳ章基本的看護の構成要素「排泄を助ける」「姿勢を保持する、身体を動かすことを助ける」の説明から確認、訂正を行い、基本的看護の構成要素「排泄を助ける」「姿勢を保持する、身体を動かすことを助ける」について理解する。 (2)keyword 姿勢・体位・排泄 (3)教科書ページ 46P～51P第4章基本的看護の構成要素 (4)課題・予習・復習・参考文献 患者の排泄を助ける、歩行時および座位、臥位に際して患者が望ましい姿勢を保持するように助けるの要約と意見を書いて提出する (5)アクティブラーニング 患者の排泄を助ける、歩行時および座位、臥位に際して患者が望ましい姿勢を保持するように助けるの要約と意見を基にグループワークをする
	第６回	ヘンダーソンの看護論〔５〕基本的看護の構成要素５～６項目 (1)授業概要 「看護の基本となるもの」第Ⅳ章基本的看護の構成要素「休息と睡眠を助ける」「衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅳ章基本的看護の構成要素「休息と睡眠を助ける」「衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」の説明から確認、訂正を行い、基本的看護の構成要素「休息と睡眠を助ける」「衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」について理解する。 (2)keyword 休息・睡眠・衣類・着脱 (3)教科書ページ 52P～56P第4章基本的看護の構成要素 (4)課題・予習・復習・参考文献 患者の休息と睡眠を助ける、患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助けるの要約と意見を書いて提出する 5)アクティブラーニング 患者の休息と睡眠を助ける、患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助けるを基にグループワークをする
	第７回	ヘンダーソンの看護論〔６〕基本的看護の構成要素７～８項目 (1)授業概要 「看護の基本となるもの」第Ⅳ章基本的看護の構成要素「体温を正常範囲内に保つのを助ける」「身体を清潔に保ち、見出しなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」を精読し、要約および意見を記載する。記載した内容を第Ⅳ章基本的看護の構成要素「体温を正常範囲内に保つのを助ける」「身体を清潔に保ち、見出しなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」の説明から確認、訂正を行い、基本的看護の構成要素「体温を正常範囲内に保つのを助ける」「身体を清潔に保ち、見出しなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」について理解する。 (2)keyword 体温・清潔・皮膚・保護 (3)教科書ページ 57P～第4章基本的看護の構成要素

(4)課題・予習・復習・参考文献
患者が体温を正常範囲内に保つのを助けるの要約と意見を書いて提出する
5)アクティブラーニング
患者が体温を正常範囲内に保つのを助けるの要約と意見を基にグループワークをする

第８回　ナイチンゲール看護論〔１〕ナイチンゲールについて　「看護覚え書」序章
(1)授業概要
ナイチンゲールについて概略を知る。「看護覚え書」序章を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。「看護覚え書」序章についてさらに検討し、理解を深める。
(2)keyword
病気・回復過程・看護
(3)教科書ページ
13Pt～20P序章
(4)課題・予習・復習・参考文献
序章の要約と意見を書いて提出する。次回の章を読んでおく。

第９回　ナイチンゲール看護論〔２〕「看護覚え書」換気と保温・部屋と壁の清潔
(1)授業概要
「看護覚え書」換気と保温・部屋と壁の清潔を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。グループワークにて、換気と保温・部屋と壁の清潔についてさらに検討し、理解を深める。
(2)keyword
換気・保温・壁の清潔・部屋
(3)教科書ページ
21P～42P、149P～158P第１章換気・第10章部屋と壁の清潔
(4)課題・予習・復習・参考文献
第1章と第10章の要約と意見を書いて提出する。次回の章を読んでおく。

第10回　ナイチンゲール看護論〔３〕「看護覚え書」陽光・物音（グループワーク）
(1)授業概要
「看護覚え書」陽光・物音を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。グループワークにて、陽光・物音についてさらに検討し、理解を深める。
(2)keyword
陽光・物音・音楽・部屋
(3)教科書ページ
145P～148P、81P～103P第9章陽光、第4章物音
(4)課題・予習・復習・参考文献
第4章と第9章の要約と意見を書いて提出する。次回の章を読んでおく。

第11回　ナイチンゲール看護論〔４〕「看護覚え書」食事・食物の選択（グループワーク）
(1)授業概要
「看護覚え書」食事・食物の選択を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。グループワークにて、食事・食物の選択についてさらに検討し、理解を深める。
(2)keyword
食事・生命・スープ・時間・食物
(3)教科書ページ
112P～134P第6章食事・第7章食物の選択
(4)課題・予習・復習・参考文献
第６・7章の要約と意見を書いて提出する。次回の章を読んでおく

第12回　ナイチンゲール看護論〔５〕「看護覚え書」からだの清潔・変化（グループワーク）
(1)授業概要
「看護覚え書」からだの清潔・変化を事前に精読し、要約と意見を記載し、授業に参加する。グループワークにて、からだの清潔・変化についてさらに検討し、理解を深める。
(2)keyword
清潔・皮膚・変化・回復・援助
(3)教科書ページ
104P～111P、159～163P第5章変化、第11章体の清潔
(4)課題・予習・復習・参考文献
第5章、第11章の要約と意見を書いて提出する。次回の章を読んでおく

第13回　①人間関係の看護論について　ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビー等
(1)授業概要
ペプロー、ウィデンバックの看護理論について理解する。参考資料を基に①プロフィール②理論の基本構造③基本概念のとらえ方④理論の実践活用について理解を深める。
(2)keyword
再構成・プロセスレコード・人間関係
(3)教科書ページ
なし。資料配布
(4)課題・予習・復習・参考文献
人間関係の代表的な理論家の理論を学び、日常に活用できるように、記録のまとめ方を自分の方法で実践に活用できるようにまとめておく

第14回　②人間関係の看護論について　ペプロー、オーランド、ウィデンバック、トラベルビー等
(1)授業概要
オーランド、トラベルビーの看護理論について理解する。参考資料を基に①プロフィール②理論の基本構造③基本概念のとらえ方④理論の実践活用について理解を深める。
(2)keyword
人間関係・理論家・看護実践
(3)教科書ページ
なし。資料配布
(4)課題・予習・復習・参考文献
人間関係のそれぞれの理論の特徴をまとめ、混乱しないように各自、ファイルに綴じ、いつでも活用できるようにまとめておく

第15回　人間関係（コミュニケーション）演習
(1)授業概要
事例を使用して、再構成の理論を学び、実際に各自で再構成を行ってみる。
(2)keyword

	気づき・自己の振り返り・場面 (3)教科書ページ なし。資料配布 (4)課題・予習・復習・参考文献 ウィデンバックの再構成を実際に取り、自分の傾向を確認することでコミュニケーションのあり方に気づけるようにまとめをする
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業計画に示されている文献は必ず熟読し理解して授業に臨むこと。 ・わからない部分を授業で解決するように努力すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず精読して授業に臨む。 分からない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	月曜日12：00～12：40
評価方法	・課題レポート20%（内容15%　書き方５%）と授業中レポート80%（内容70%　書き方10%） ・課題レポートと授業中レポートを合わせて60%を超えること
教科書	茂野香おる他：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　　看護概論　基礎看護学①　医学書院　2019 Ｆ．ナイチンゲール（湯槇ます・薄井博子他訳）看護覚え書　現代社。ヴァジニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
参考書	授業の時、紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 いろいろな臨床経験をもとに、看護の基本を考えて行く。実践活動や日常生活と合わせて、各理論家の主張する理論を実践をふまえ、考えることできるようにする アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎看護学実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(45)	必修
担当教員			
菅沼　澄江　鶴田　晴美　小林　洋子　上田　葉子　中嶋朋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	Ⅰ　実習目的 　医療・看護の行われている場において、患者および患者を取り巻く環境の理解を深め、看護活動の実際を学ぶ。 Ⅱ　実習目標 　１．病院機能の概要および病院における医療チームとその役割を理解する。 　２．入院患者の療養生活の場を理解する。 　３．入院患者とコミュニケーションをはかり、患者の気持ちを理解する。 　４．看護師の活動と役割を理解する。 　５．看護学生としての基本的な態度を身につけることができる。
授業の概要	１．実習時期　平成31年9月24日（火）～9月27日（金） ２．実習単位及び時間数　１単位　45時間

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	学内実習 １．全体オリエンテーション 　１）実習目的、目標、実習内容について 　２）実習病院の機能と概要、交通アクセスについて 　３）グループの役割決定、連絡網、交通手段用紙作成 　４）実習目標に関連した事前学習内容の確認 ２．施設別オリエンテーション ３．病棟別オリエンテーション 病院実習 １．病院オリエンテーション 　１）病院の理念、組織機構、機能、設備 　２）看護部の概要と役割 　　・看護部の理念、職員構成、看護体制、安全管理、感染対策等 ２．施設内見学 　１）グループに分かれて見学する。 　２）各部門の概要：職種、主な仕事の内容、特徴、看護部との連携について説明を受ける。 　３）まとめ 病棟実習 １．病棟オリエンテーション ２．病棟探索 ３．看護師と共に行動 ４．ショートカンファレンス 病棟実習

	１．看護師と共に行動 ２．患者とのコミュニケーション ３．カンファレンス 学内実習 １．実習全体のまとめ ２．個人面接 ３．課題レポート作成、提出
受講生に関わる情報および受講のルール	１．具体的内容については、看護学臨地実習共通要綱及び基礎看護学実習要項に準じ遵守すること。 履修要件 ・看護学概論Ⅰ、Ⅱの単位認定の受験資格要件を満たしている。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・基礎看護学実習Ⅰの科目責任者または、実習担当教員に確認すること。
授業外時間にかかわる情報	・事前課題については必ず学習してから実習に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	Ⅰ．総合評価 １．実習時間の5分の4以上の出席を要する。 ２．基礎看護学実習Ⅰの実習評価表に基づき、目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。
教科書	茂野香おる 他：看護学概論,医学書院,2018. 有田清子　他：基礎看護技術Ⅱ,医学書院,2018.
参考書	フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書き,現代社,1993.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
酒井　美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間の精神の発達とメンタルヘルスの視点から、精神保健医療福祉の役割と精神看護の活動のあり方を知る。また、精神看護、対象理解、自己理解に関連する理論から精神看護の役割を理解する。 【到達目標】 １）精神保健学・精神看護学の定義と看護の役割を概説することができる。 ２）現代社会の変遷とニーズからメンタルヘルスの課題と対策を説明することができる。 ３）人間の精神活動、こころの仕組みと働きを理論と関連づけることができる。 ４）精神機能から精神障がい者の生きにくさを説明することができる。 ５）ライフサイクルにおける発達段階を理論で説明することができる。 ６）人間関係論を知り、患者との関係性と看護師のあり方を考案することができる。 ７）精神医学の歴史、精神医療・看護における倫理性から課題を見出すことができる。
授業の概要	本講義では、精神看護学・精神保健学・対人関係に関する基礎的な知識を理論から学修する。様々な社会病理現象からメンタルヘルスへの関心を高め、精神保健医療福祉の活動の実際をイメージする。精神障がい者の生活の生きにくさから必要な社会資源を考えていく。さらに、当事者（精神障がい者とその家族）の方と支援者の体験から障がい者と支援に関して理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①精神保健学・精神看護学の定義と看護の役割を概説することができる。	◎	○	○	△
②現代社会の変遷とニーズからメンタルヘルスの課題と対策を説明することができる。	◎	○	○	△
③人間の精神活動、こころの仕組みと働きを理論と関連づけることができる。	◎	○	○	○
④精神機能から精神障がい者の生きにくさを説明することができる。	◎	○	○	○
⑤ライフサイクルにおける発達段階を理論で説明することができる。	◎	○	○	△

⑥人間関係論を知り、患者との関係性と看護師のあり方を考案することができる。 7）精神医学の歴史、精神医療・看護における倫理性から課題を見出すことができる。	◎ ◎	○ ○	○ ○	○ ○

授業計画

第１回　オリエンテーション・　現代社会 とメンタル ヘルス（1）

【key words】
現代社会・メンタルヘルス・社会病理現象
【授業概要】
科目の位置づけとシラバスの説明
現代社会の現状と社会的問題となっているニュースから、社会病理現象を知り、精神的健康・生活に及ぼす影響を考える。自分の生活上での生きにくさから精神の健康を意識する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P263-288
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第２回　現代社会 とメンタルヘルス自殺：対策

【key words】
現代社会現象、こころの健康、自死、対策
【授業概要】
自死の現状と背景を知る。こころの健康のあり方、精神保健の役割から対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P272-279
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第３回　現代社会とメンタルヘルス/精神看護と精神保健

【key words】現代社会現象、こころの健康、自死、対策
【授業概要】
自死の現状と背景を知る。こころの健康のあり方、精神保健の役割から対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P263-288
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第４回　ストレスと危機理論

【key words】
ストレス、危機、理論、対処行動
【授業概要】
危機モデルと理論、ストレス対処理論を学び、ストレスの対処方法、危機へ介入と対処行動を知る。自己のストレスマネージメントから、こころの健康維持と支援を考える。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P48-55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第５回　こころの健康(こころの仕組みと働き：フロイト)

【key words】
精神力動論、自我、精神機能、防衛機制
【授業概要】
こころの健康、不健康とはどのような状態か、健康の概念から考える。フロイトの精神力動論から、こころの仕組みと働きを知り、人間行動を捉えられる。そのこころの機能から精神の健康行動特性である防衛機制を学び、自己（人間）の行動を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P17-36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第６回　脳機能と精神活動

【key words】
自我、脳機能、精神活動
【授業概要】
自我の構造とその人らしさである人格の構成を学ぶ。また、人間行動を脳の働き（知・情・意）から精神活動を理解し、精神活動が生活に及ぼす影響を考える。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P17-36
参考文献　精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2018.P54～78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

第７回　ライフサイクルにおける人格の発達と危機（フロイト・エリクソン）

【key words】
人格、ライフサイクル、発達理論
【授業概要】
フロイト・エリクソンのライフサイクルにおける人格の発達と危機を知り、人間的成長に影響する環境の重要性を理解する。また、発達の危機から精神の健康を考える。

【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P17-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題は授業資料と教科書を読むこと

	第８回	中間試験　人間関係論(1) 個人・集団人間関係論 【key words】 人間関係論、個人、集団（グループ）、役割機能 【授業概要】 人間関係論における自己と他者について知る。集団の役割機能から集団力動を理解し、集団の治療的効果につなげる。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P36-47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第９回	人間関係論(2) 家族 【key words】 人間関係論、家族役割、家族病理 【授業概要】 家族の多様性と役割機能の現状を知り、家族役割と機能からこころの健康との関連から家族病理について考える。また、精神障がい者の家族の心理状況を察する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P120-123　140-149 参考文献：精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2018.P108-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１０回	当事者授業-家族の思い- 【key words】 精神障害、家族、心理 【授業概要】 精神障がい者の家族のゲストスピーカーによる体験談を聴き、精神障がい者とその家族の思いから看護の役割を考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P120-123　140-149 参考文献：精神看護学(1)精神看護の基礎　第5版，医学書院，2018.P54-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１１回	人間関係論(3)治療的関係 【key words】 人間関係論、患者看護師関係 【授業概要】 ペプロウ・トラベルビー・ロジャーズ・サリバンの人間関係における理論を学び、ケアの人間関係である患者と看護師関係のあり方を考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P9-14 参考文献　精神看護学(2)精神看護の展開　第5版，医学書院，2018.P2-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１２回	精神科医療の歴史・法律 【key words】 精神医療、看護、歴史、精神保健福祉法 【授業概要】 精神医療における法律と歴史を学び、精神医療での法律の役割と必要性を知る。法律の改正に伴い、精神医療に対する社会の意識の変化と精神医療看護の課題について考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P205-238 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１３回	精神看護における人権－看護倫理と法 【key words】 精神看護、人権、看護倫理、法律 【授業概要】 精神科医療、看護における倫理的問題と課題について知る。精神科看護の定義から倫理性を踏まえた看護のあり方を考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P239-252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１４回	地域精神保健看護と地域移行支援ー地域で生活する精神障がい者と生活支援ー 【key words】 地域精神保健、地域移行支援、チーム医療、精神障がい者 【授業概要】 地域で生活する精神障がい者の生きにくさや、必要とする生活支援について、ゲストスピーカーの当事者による体験談と、支援者である講師との対談による実際の社会支援を知り、精神障がい者のリカバリーについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P167～186　198-204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
	第１５回	リエゾン精神看護と看護者のメンタルヘルス 【key words】 リエゾン精神医療・看護・感情労働・看護師・メンタルヘルス 【授業概要】

	リエゾン精神看護しの役割とその必要性について学ぶ。また、感情労働者である精神科看護師のメンタルヘルスの必要性を含め、これまでの授業の学びを統合して、再度こころの健康と維持について考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P59-63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題は授業資料と教科書を読むこと
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ思考を発展させる学習姿勢で臨む。 授業中の疑問はそのままにせず、自主的に調べ、質問する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。
オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	中間試験　定期試験　課題レポートによる総合評価で60%以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神障がい者に対する地域保健福祉と社会資源の活用とケアマネジメントの実務経験を有する精神保健福祉士。 当事者と家族へのサポートの実践者でもある。その実務経験者と、精神看護師としての経験を有する教員との連携による、当事者の体験も踏まえた授業による障害者のリカバリーとその支援・課題を考える授業を展開する。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
酒井　美子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　主な精神疾病特性の症状、治療、回復への看護の役割と実践活動を理解する。また、理論を実際の状況に応用できる方法が分かる。 【到達目標】 　１）各精神疾患の回復過程を説明することができる。 　２）各精神疾患の治療と看護のポイントを説明することができる。 　３）精神科リハビリテーション看護の展開を記述することができる。
授業の概要	本講義では、精神疾患とその看護に関する基礎知識を学び、これまでの基礎知識を想起し統合する。看護看護視聴覚教材ＤＶＤや当事者の体験を聴くことで精神障がい者の特徴を知り、疾病が生活に及ぼす影響と支援を考える。臨床の看護活動の実際と知識を関連づけ共に考え学びを深められるように展開する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①各精神疾患の回復過程を説明することができる。	◎	◎	○	○
②各精神疾患の治療と看護のポイントを説明することができる。	◎	◎	○	○
③精神科リハビリテーション看護の展開を記述することができる。	◎	◎	○	◎
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション　精神疾患の回復過程（ＤＶD） 【key words】 統合失調症、当事者理解、回復過程、福祉支援 【授業概要】 ″映像視聴から、精神疾患の病の体験を知る。 当事者の心理・社会的支援について知る。 精神疾患の「生きづらさ」が生活面、人生面に及ぼす影響がどのようなものか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 川野雅資他；精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 【課題・予習・復習・授業準備指示】

「ビューティフル・マインド」を視聴し、感じたこと考えたことをレポートにまとめる。

第２回　精神疾患回復過程（ＤＶＤ）
【key words】
統合失調症、当事者理解、回復過程、福祉支援
【授業概要】
″映像視聴から、精神疾患の病の体験を知る。
当事者の心理・社会的支援について知る。
精神疾患の「生きづらさ」が生活面、人生面に及ぼす影響がどのようなものか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
川野雅資他；精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ビューティフル・マインド」を視聴し、感じたこと考えたことをレポートにまとめる。

第３回　統合失調症と看護（１）　急性期
【key words】
統合失調症、急性期、看護
【授業概要】
急性期の統合失調症の精神症状の観察視点を理解する。
急性期の患者の特徴を理解し、アセスメントから援助の方向性について考える。
症状、治療による生活への影響について知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P138-142　224-351
【課題・予習・復習・授業準備指示】
統合失調症の急性期の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第４回　統合失調症と看護（２）　慢性期
【key words】
統合失調症、慢性期、看護
【授業概要】
慢性期の統合失調症の精神症状の観察視点を理解する。
慢性期の患者の特徴を理解し、アセスメントから援助の方向性について考える。
症状、治療による生活への影響について知る。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P138-142　224-351
【課題・予習・復習・授業準備指示】
統合失調症の慢性期の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第５回　気分障害と看護
【key words】
気分障害（抑うつ、躁状態）、治療、看護
【授業概要】
″気分障害の症状と特徴を踏まえ、看護の視点を導き出し、援助の方向性について考える。
気分障害の主な治療と生活への影響について理解する。
気分障害の症状に応じた適切な環境を整える方法が理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P143-147　224-351
【課題・予習・復習・授業準備指示】
気分障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第６回　依存症・摂食障害と看護
【key words】
依存症、摂食障害、治療、看護
【授業概要】
依存症・摂食障害の症状と特徴を踏まえ、看護の視点を導き出し、援助の方向性について考える。
依存症・摂食障害の主な治療と生活への影響について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P27４-282
【課題・予習・復習・授業準備指示】
依存症・摂食障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第７回　パーソナリティ障害と看護
【key words】
パーソナリティ障害、治療、看護
【授業概要】
パーソナリティ障害の症状とその特徴を理解する。
パーソナリティ障害にある患者の観察の視点を理解し、援助方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P157-160　278-279
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パーソナリティ障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第８回　神経性障害と看護
【key words】
神経性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、治療、看護
【授業概要】
神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の症状とその特徴を理解する。
神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害にある患者の観察の視点を理解し、援助方法を理解する。【教科書ページ・参考文献】

精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P146-152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
神経性障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。

第９回　発達障害と看護
【key words】

	発達障害、特性、看護 【授業概要】 発達障害の特性を理解する。 発達障害にある患者の生活のしづらさと心理状況について理解し支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P161-169　252-257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発達障害の看護のポイントについて自己学習ノートにまとめる。 第１０回　心身喪失者等医療観察法と看護 【key words】 精神科医療、精神保健福祉法、精神疾患、心神喪失、精神看護 【授業概要】 精神科医療に関する法の変遷から、現在の精神科医療、看護オン実際と課題を知る。 法の改正に伴う患者の処遇の変化を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅰ「精神保健学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P220 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心の健康が対人関係、日常生活に及ぼす影響について考える。 第１１回　治療と看護（１）：行動療法（入院・保護室・身体拘束） 【key words】 精神看護、入院形態、行動制限、隔離、身体拘束 【授業概要】 精神保健福祉法の観点から、入院患者の処遇について理解する。 患者の安全を守るためのリスクマネージメントについて理解する。 行動制限と人権擁護について考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P103-108 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P249 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動制限を受ける患者の権利擁護について考える。 第１２回　治療と看護（２）：身体療法(薬物療法・電気けいれん療法) 【key words】 身体療法、薬物療法、電気けいれん療法、看護 【授業概要】 薬物療法・電気けいれん療法の身体に及ぼす影響を理解する。 身体療法における看護者の役割を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P74-92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 薬物療法における看護者の役割についてまとめる。 第１３回　治療と看護（３）：精神療法 【key words】 精神看護、精神療法、認知行動療法 【授業概要】 精神療法の概要を理解する。 精神療法のアプローチについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支持療法（傾聴、受容、共感）について調べ、自己学習ノートにまとめておく。 第１４回　治療と看護（４）：環境療法・集団療法 【key words】 精神看護、治療的環境、集団精神療法 【授業概要】 環境が精神症状・生活に及ぼす影響から治療的環境を知る。 集団療法の目的を理解し、対人間の相互作用について考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P94～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 集団の中で語り合うことは、自己・他者にどのような意義があるのかを考える。 第１５回　精神科看護の実際（精神科リハビリテーション看護） 【key words】 精神科リハビリテーション看護（病棟ー外来ーデイケア・ナイトケアー社会復帰施設） 【授業概要】 精神医療におけるリハビリテーションの意味を理解する。 リハビリテーションに関わるサポートシステムを理解する。 退院を実現するための支援について理解し、現状の課題を考える。 【教科書ページ・参考文献】 精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.P106～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神に障害を持つひとの視点から、生活のしづらさとリハビリテーションがどのように関与しているのかまとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	精神に関する科目、精神看護学概論で得た知識を繋げて履修すること。 予習・復習を行い、学習を整理し新たな課題を見出す能動的に学習を展開する。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業後は、その日の資料内容を確認する。短時間でも行うこと。

オフィスアワー	授業についての質問は授業終了後1時間受け付ける。
評価方法	中間試験　定期試験　課題レポートによる総合評価で60%以上を単位認定とする。
教科書	川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019. 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第6版，ヌーベル・ヒロカワ，2019.
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科看護師実務経験者であり、看護教育大学での実務経験者でもある。 また、精神科臨床看護師の実務経験者である臨床看護師による、精神科看護の実際、医療観察病棟の実際を授業に盛り込み、臨床の知を伝え精神科看護に関心を高める。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　成人看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
源内　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の健康課題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。 成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を理解する。 〔到達目標〕 ①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境について理解できる。 ②成人期にある人の健康状態と看護について、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解できる。
授業の概要	グループワークを通して、成人の理解、健康障害の特徴、成人を取り巻く環境について理解する。 成人看護の理解は、看護するうえで基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できるようにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境について理解できる。	◎	◎	◎	◎
②成人期にある人の健康状態と看護について、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解できる。	◎	◎	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション授業の受け方、予習・復習について、評価方法について、グループワークについて説明 【key words】 成人　経過別の看護 【授業概要】

		″科目のオリエンテーションにおいて、　授業の内容と進め方、科目目標と看護学DPとの関連について説明する。 今後の成人看護援助論Ⅰ～Ⅴに繋がる授業、又成人看護学実習に繋がる授業であることを認識する。「成人学習」とは何かを学ぶ。″ 【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63 参考文献：看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで、グループのメンバーと積極的に議論できるよう授業に臨むこと
	第２回	成人の生活と健康　（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）① 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題 【授業概要】 グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする 【教科書ページ・参考文献】 ・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63・看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にできるように臨む
	第３回	成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）② 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題 【授業概要】 グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする 【教科書ページ・参考文献】 ・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63　・看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にできるように臨む
	第４回	成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）③ 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題 【授業概要】 グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートする 【教科書ページ・参考文献】 ・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63・看護のための人間発達学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと　　ＧＷメンバーとのコミュニケーションを円滑にしてワークが活発にでき次回の発表に臨む
	第５回	成人の生活と健康（成人期にある人々を理解するためのグループワーク）④ 【key words】 成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題 【授業概要】

グループに分かれて、青年期、成人期の様々な特徴及び成人期に生じやすい健康問題の特徴を具体的に調べ、レポートしたものをグループ毎に発表する

【教科書ページ・参考文献】

・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63
・看護のための人間発達学

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

第６回　成人期にある人々の理解　成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題

【key words】

成人期　身体的特徴　精神的特徴　社会的特徴　健康問題

【授業概要】

成人期にある人々の理解　成人期にある人々の特徴と取り巻く環境、健康問題　グループ学習の総まとめ

【教科書ページ・参考文献】

・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第1章　成人と生活　第2章　生活と健康　P4～P63
・看護のための人間発達学

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

第７回　第3章　成人への看護アプローチの基本：成人看護の目的と特性、アプローチの基本

【key words】

大人の学習　行動変容　意志決定支援　チームアプローチ

【授業概要】

″成人を取り巻く健康問題と、看護の関わりについて学習する、中でも様々な看護のアプローチについて学習する。又、大人の健康行動のとらえ方を理解する。
患者の意思決定を支援するということはどのようなことか、又看護師の役割は何かを考える。　″

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料・系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　第3章P90～P148　・看護のための人間発達学

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

成人への看護アプローチの基本：成人看護の目的と特性、アプローチの基本

第８回　成人の健康レベルに対応した看護①　ヘルスプロモーションを理解するための演習：グループで共有

【key words】

成人看護の場　健康の保持増進　ヘルスプロモーション

【授業概要】

成人の健康保持、増進に関わる看護の考え方として代表的な概念であるエンパワメント、ヘルスプロモーションを取り上げその考え方を理解する。

″ヘルスプロモーションを理解 するための演習として「両親の生活習慣病予防対策」についてグループで話し合い共有する。生活習慣病予防対策のパンフレットを作成する。
″

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　1章、2章、第4章P152～P168
国民衛生の動向　　看護のための人間発達学

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと、今回はグループワークで「生活習慣病」についてまとめる、グループメンバーでPCを共有し、次回発表に向け準備する。

第９回　成人の健康レベルに対応した看護②　ヘルスプロモーションを理解するための演習：共有したことを発表

【key words】

成人看護の場　健康の保持増進　ヘルスプロモーション

【授業概要】

成人の健康保持、増進に関わる看護の考え方として代表的な概念であるエンパワメント、ヘルスプロモーションを取り上げその考え方を理解する。

″ヘルスプロモーションを理解 するための演習として「両親の生活習慣病予防対策」についてグループで話し合い共有し作成したパンフレット内容を発表する。
″

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　1章、2章、4章　国民衛生の動向　　看護のための人間発達学

【課題・予習・復習・授業準備指示】

グループで作成したパンフレット内容を発表すると同時に、両親あてにメッセージを準備する。

第１０回　成人の健康レベルに対応した看護③　成人期にある人々の健康逸脱：健康を脅かす要因と看護

【key words】

エンパワメント　ヘルスプロモーション

【授業概要】

健康を脅かす様々な要因について実態を知り、成人期の人々の健康逸脱・疾病時の看護について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　5章P170～P188

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

第１１回　成人の健康レベルに対応した看護④　健康生活の急激な破たんから回復を促す看護：（急性期の看護・救急医療）

【key words】

急性期・生命の危機状態・危機モデル

【授業概要】

急激な健康破綻から回復のために有効な看護とは何かを学ぶ。危機状況にある人々はどのような状況か、またどのような看護支援が必要かを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　6章P190～P212

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

第１２回　成人の健康レベルに対応した看護⑤　成人期にある人々の健康逸脱：疾病時の看護（慢性的な経過）

【key words】

セルフケア　セルフマネジメント　コンプライアンス　病みの軌跡　エンパワメント

【授業概要】

慢性的な経過をたどる病気になった成人の心理、身体的特徴、治療に取り組む姿勢、家族の様子などについて理解をする。

【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　7章P214～P231、10章P274～P292

【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキストを読んで授業に臨むこと

第１３回　成人の健康レベルに対応した看護⑥成人期にある人々の健康逸脱：疾病時の看護（生活とリハビリ、終末の経過）

【key words】

リハビリ　残存機能　アドバンスケアプランニング　トータルペイン　緩和ケア　グリーフケア

【授業概要】

障害のある人々を支援する看護の特徴、リハビリ看護についてその目的・特徴について学ぶ。死

	を迎える看護について、看護師の役割とは何か。又詞を迎えつつある人に対して看護師はどのような態度で接したらよいかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　8章P234～P248、9章P250～P270 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと 第１４回　成人の健康生活を促すための看護技術①　エンパワメント、治療過程の看護技術、症状マネジメント〞 【key words】 危機介入　急性期 【授業概要】 患者の主体的治療療養行動の重要性がわかり、早期回復促進のための看護技術を学ぶ。症状マネージメントに必要な知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　10章11章12章　P274～P369 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで授業に臨むこと 第１５回　成人の健康生活を促すための看護技術②　療養の場を移行する人々への支援　退院支援 【key words】 退院支援　在宅移行支援　地域包括ケアシステム 【授業概要】 〞退院支援が必要とされる理由を理解し、退院に向けた退院支援の方法を学ぶ。 成人期の発達課題のまとめと、成人期の看護援助がイメージできるよう今までの授業で学んだことを復習する〞 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料　系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学総論　　13章P372～P404 【課題・予習・復習・授業準備指示】 成人看護学総論から成人看護援助論Ⅰ～Ⅴへ、更に成人看護学実習へとつなぐ準備が完結する
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・この科目は成人看護学実習ⅠおよびⅡの履修要件となっている。 ・グループワークは、リーダーを決め、計画的にかつ主体的に取り組むこと ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと ［受講のルール］ ・・事前に、授業概要及びシラバスを必ず確認し、その授業での自己の達成目標を明確にしたうえで、積極的に授業に臨むこと。 ・この授業内では、従来のコメントカードに代わり、「シャトルカード」を使用する。活用の目的、記載方法については科目オリエンテーション時に説明する。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・講義で配布した資料は基本的に再配布等は行わない。欠席した者はクラスメートからコピーを取らせてもらうこと。 ・
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業で解決するよう努力すること。
オフィスアワー	各回、授業終了後から放課後18時までとする
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、グループワーク、課題レポート等20% 総合評価は、筆記試験、グループワーク、課題レポート等を合わせて60%を超えていることが前提となる。
教科書	1)　小松浩子他　系統看護学講座成人看護学〔１〕成人看護学総論　医学書院 2) 舟島なをみ　看護のための人間発達学　医学書院
参考書	1) 松本千明　健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に　医歯薬出版株式会社 2) 厚生労働統計協会　国民衛生の動向
実務経験のある教員による授業科目/ア	授業担当教員

クティブ・ラーニング	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院での看護師実務経験38年の教員が担当する。成人看護領域では約30年、うち領域管理15年の経験値があるが、成人看護総論を教授することは可能と考える。看護管理業務8年（病院管理に従事） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
樋口　キエ子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】高齢者看護を理解するための基礎知識を学ぶ。 【目標】①老いを生きる高齢者その人に焦点を当て、エイジングや発達課題について理解する事ができる。②今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深めていく。③高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について知り、考えることができる。④高齢者の自立と権利ついて知り、それらを阻む虐待や拘束などの実態を知って、高齢者を守るための諸制度について理解を深める。⑤高齢者のライフサイクルの最終章における死の概念と支援について知ることができる。⑥高齢者看護の理念・定義を先進国や日本の歴史的変遷を振り返り、高齢者を看護する立場に立って看護実践と責務について理解する。
授業の概要	今日の高齢社会の諸相を統計的側面で大局的にとらえ、人間の加齢過程を把握し、高齢者の発達段階・課題を知る。また、高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。それらを通して、高齢者看護の理念並びに高齢者看護の視点で洞察することができるようにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①①老いを生きる高齢者その人に焦点を当て、エイジングや発達課題について理解する事ができる。	◎	◎	◎	○
②今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深めていく。	◎	◎	○	○
③高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について知り、考えることができる。	◎	○	○	△
④高齢者の自立と権利ついて知り、それらを阻む虐待や拘束などの実態を知って、高齢者を守るための諸制度について理解を深める。	◎	○	○	△
⑤高齢者のライフサイクルの最終章における死の概念と支援	◎	○	○	△

について知ることができる。				
⑥高齢者看護の理念・定義を先進国や日本の歴史的変遷を振り返り、高齢者を看護する立場に立って看護実践と責務について理解する。	◎	○	○	△

授業計画

第１回　科目オリエンテーション①老いの概念

【Key Words】高齢者・加齢過程・発達段階
【授業概要】科目オリエンテーションを通して高齢者看護学の概要を知り授業に向かう姿勢を確認する。
はしがきを熟読し高齢者看護学の構造を知る。

【教科書ページ・参考文献】系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院ｐ１、２～３
【課題・予習・復習・授業準備指示】調べ学習「地域で生活する高齢者を知ろう」の整理、新聞や雑誌で関連課題を収集する。

第２回　②加齢過程と新しいモデル③高齢者の発達段階・課題

【Key Words】加齢と老化・生理的変化・病的変化
【授業概要】老いるということ・加齢と老化の関係・老化に関連する学説・生理的変化と病的変化
・新しい老化のとらえ方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　ｐ４～11
【課題・予習・復習・授業準備指示】調べ学習「地域で生活する高齢者を知ろう」の整理

第３回　高齢社会と社会保障①高齢社会の統計的輪郭（少子高齢化、高齢者の健康状態、暮らし等）②保健医療福祉の動向（ソーシャルサポート：フォーマル、インフフォーマル等）

【Key Words】統計的輪郭・ソーシャルサポート・フォーマル・インフフォーマル
【授業概要】①　高齢社会の統計的輪郭超高齢社会の現況、②高齢者と家族・高齢者のいる世帯・ひとり暮らし・子どもとの付き合い③高齢者の健康状態・自覚症状・受療の状況・要介護高齢者につて学習する。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　ｐ４～11
【課題・予習・復習・授業準備指示】調べ学習「地域で生活する高齢者を知ろう」の整理、新聞や雑誌で関連課題を収集する。

第４回　保健医療福祉システム構築①高齢者保健医療・福祉制度の変遷②高齢者福祉の創設

【Key Words】高齢者保健医療・福祉制度の変遷・高齢者福祉の創設
【授業概要】
高齢者保健医療・福祉制度の変遷・高齢者福祉の創設・保健医療福祉の連携と在宅サービス・高齢者医療制度改革 について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P36～39
【課題・予習・復習・授業準備指示】調べ学習「地域で生活する高齢者を知ろう」の整理

第５回　保健医療福祉システム構築③老人医療費の増加④保健医療福祉の連携と在宅サービス⑤高齢者医療制度改革

【Key Words】老人医療費の増加・地域包括ケアシステム
【授業概要】老人医療費の増加とその背景、地域包括ケアシステム、保健医療福祉の連携と在宅サービス
・高齢者医療制度改革について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P36～39
【課題・予習・復習・授業準備指示】　P36高齢社会における保健医療福祉の動向について整理、新聞や雑誌で関連課題を収集する。

第６回　保健医療福祉システム構築⑥介護保険制度創設⑦高齢者医療確保法　　小テスト①

【Key Words】介護保険制度・仕組み・サービス
【授業概要】介護保険制度創設とその背景、介護保険制度の理念・しくみについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P41～48
【課題・予習・復習・授業準備指示】　関心のある地域（地元含む）の介護保険制度パンフレットを入手、又教科書を参考にし関連課題について整理する。

第７回　保健医療福祉システム構築⑧介護保険制度の改正⑨介護保険制度の理念・しくみ・サービス・予防

【Key Words】介護保険制度の改正・介護予防
【授業概要】介護保険制度のサービス・介護予防サービス・介護保険制度の改正とその特徴について学習する。
【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P41～66
【課題・予習・復習・授業準備指示】　ゼミナール1～3について整理する。

第８回　保健医療福祉システム構築⑩高齢者を支える職種・活動の場・専門化⑪保健医療福祉施設⑫介護家族

【Key Words】
【授業概要】高齢者を支える多職種の種類・役割と連携、保健医療福祉施設の種類と特徴、介護を担う家族の実態、看護活動の多様化・活動の場、活動の場の広がり・高齢者とソーシャルサポートについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P50～66
【課題・予習・復習・授業準備指示】高齢者を支える多様な職種の種類とその役割について整理する。

第９回　高齢社会の権利擁護①スティグマと差別②エイジズム③権利擁護（アドボカシー）

【Key Words】権利擁護・スティグマと差別・エイジズム

	【授業概要】①高齢者に関連するスティグマと差別②エイジズム③権利擁護（アドボカシー）につい　　て学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P54～66 【課題・予習・復習・授業準備指示】新聞や雑誌で関連課題を収集する。 第１０回　高齢社会の権利擁護④高齢者虐待⑤身体拘束⑥権利擁護ための制度（成年後見制度、日常生活自立支援事業） 【Key Words】高齢者虐待・身体拘束・成年後見制度・日常生活自立支援事業 【授業概要】高齢者虐待、身体拘束、権利擁護ための制度（成年後見制度、日常生活自立支援事業）につて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P54～66 【課題・予習・復習・授業準備指示】新聞や雑誌で関連課題を収集する。ゼミナール4 - 5について整理する。 第１１回　高齢者看護の理念①老年看護の成り立ち②老年看護の定義と変遷　　小テスト② 【Key Words】老年看護の役割、老年看護における理論・老年看護に携わる者の責務 【授業概要】老年看護のなり立ち、老年看護の役割、老年看護における理論・概念の活用 老年看護に携わる者の責務について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P70～83 【課題・予習・復習・授業準備指示】ゼミナール１について整理する。 第１２回　高齢者看護の実践の特徴と責務 【Key Words】家族の看護・家族のアセスメント 【授業概要】治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護、家族の健康と生活・家族の形態と機能の変化、家族による介護・家族への援助　家族のアセスメント、介護家族への援助について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P373～385 【課題・予習・復習・授業準備指示】新聞や雑誌で関連課題を収集する。 第１３回　高齢者の健康問題とライフサイクルの最終段階における死の概念と支援 【Key Words】エンドオブライフケア・死の準備状況・意思決定への支援 【授業概要】高齢者におけるエンドオブライフケア、生ききることを支えるケア、死生観、死の準備状況、意思決定への支援、高齢者の尊厳を守るための支援、アドバンスケアプランニング、末期段階に求められる援助、家族への支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P353～358 【課題・予習・復習・授業準備指示】　P358のゼミナールについて整理をする。 第１４回　長寿社会を生きる社会生活の条件や地域資源を活用した看護の展開 【Key Words】ヘルスプロモーション・ヘルスプロモーション・地域包括ケア 【授業概要】高齢者とヘルスプロモーション、住み慣れた地域で最期までを実現する地域包括ケア 保健医療福祉施設および居住地域における看護、地域密着型サービスについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】老年看護学　P360～373 【課題・予習・復習・授業準備指示】新聞や雑誌で関連課題を収集する。 第１５回　高齢者看護に関する基礎的知識の統合 【Key Words】高齢者の特徴・健康問題とライフサイクル・生活者としての対象 【授業概要】高齢者の特徴・健康問題とライフサイクル・生活者としての対象に関連する内容の振り返りをを通じて高齢者看護の役割について整理する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身がとらえる高齢者像について整理をし、他者に伝えられる。
受講生に関わる情報および受講のルール	1回～15回の講義を通して高齢者看護を理解するための基礎を学びます。高齢者が抱える今日的な課題となっている諸問題を解説していきます。高齢者看護を保健・医療・福祉の側面から捉えその動向をを知ることが、高齢者看護をより深く理解できるようにくみ立てています。欠席しないで予習・復習をして講義に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業終了後から17：30まで
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト10%、課題レポート30%で総合評価する。レポートの内容については、オリエンテーション時に提示する。総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院
参考書	老年看護学関連出版物、随時資料を提示
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟・外来での高齢者看護の実務経験10年あり、地域に於いては、介護老人福祉施設、老人保健施設、訪問看護ステーションにおける同行訪問等の研修をしている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　海外語学研修（カナダ）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～４年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第1回　研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと 第2回　研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと 第3回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知

		識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること
	第6回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること
	第7回	英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること
	第8回	英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること
	第9回	英語研修(5)　日常英会話　危機管理 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業　　Meet with Program Team レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業　　Welcome &Program Orientation レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業　　Campus Orientation & Tour レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業　Language History ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業　Language History ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業　　Tour of Sａｓkatoon & Western Development Museum レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Sports ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）

	第26回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 第27回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 第28回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明） 第29回　研修成果　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	金曜日　16:00～17:30　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ヘルスカウンセリングの原理と方法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
橋本　広信　山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕一人一人のニーズに応じた支援を行うために、ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を学ぶ。 〔到達目標〕ヘルスカウンセリングの基礎的知識と技法を理解し、学校でできる支援の意義について理解を深める。
授業の概要	カウンセリングについて、もっとも基本的なことを検討し、ヘルスカウンセリングの基本技法と展開について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①ヘルスカウンセリングの基礎的知識と技法を理解し、学校でできる支援の意義について理解を深める。	◎	◎	◎	◎
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 第２回　ヘルスカウンセリングの意義 第３回　カウンセリングの方法 第４回　自己決定を効果的に促すヘルスカウンセリング法 第５回　ヘルスカウンセリングの基本技法と展開 【授業タイトル】 ヘルスカウンセリングの基本技法と展開 【key words】 カウンセリング、養護教諭、健康

	【授業概要】 保健室での日常的関わりについて、具体例を基に展開する。① 【教科書ページ・参考文献】 配付資料による。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健室の健康相談に関する情報を新聞や先行研究から収集しておく。 第６回　ケースに学ぶヘルスカウンセリング 【授業タイトル】 ケースに学ぶヘルスカウンセリング 【key words】 カウンセリング、養護教諭、健康 【授業概要】 保健室での日常的関わりについて、具体例を基に展開する。② ペアになってカウンセリングスキルの演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料による。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健室の健康相談に関する情報を新聞や先行研究から収集しておく。 第７回　様々な不適応を示す子どもたちへの対応① 【授業タイトル】 発達障害・精神疾患を理解する 【key words】 カウンセリング、養護教諭、健康 【授業概要】 発達障害・精神疾患を理解し、コーデイネーター的関わりについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料による。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健室の健康相談に関する情報を新聞や先行研究から収集しておく。 第８回　様々な不適応を示す子どもたちへの対応② 【授業タイトル】 様々な不適応を示す子どもたちへの対応 【key words】 カウンセリング、養護教諭、健康 【授業概要】 様々な不適応を示す子どもたちへの対応を理解し、コーデイネーター的関わりについて理解する。　ペアになってコ・カウンセリング（相互カウンセリング）を実施し、体験を通して児童生徒に寄り添うこと　を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料による。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健室の健康相談に関する情報を新聞や先行研究から収集しておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。 また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式　・　コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:00～12:40)
評価方法	筆記試験（客観・論述）７０％、レポート３０％（詳細な評価基準は授業シラバス参照） 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	配付資料による。
参考書	授業内で適宜紹介する。

実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 38年間養護教諭（小学校・中学校・高等学校）として勤務。　養護教諭として健康相談及び教育相談に携わる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　文学論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 日本文学（現代文学）の作品の中から、人間の感性・生き方・価値観等を表現した文や書物を選び、文学とは何か、文学をどのように楽しむか、文学から何を得るかについて学習することが出来る。 ［到達目標］ ①作品（文章）を読み、作者の意図することが把握できる。 ②すぐれた文章表現を学び基本的な文章記述の技法を身につけることができる。 ③作者特有の表現技術を理解できる。
授業の概要	４人の作家の作品をとりあげ、作家について調査研究を行なう。さらに作品を鑑賞してテーマに沿って思考し論述する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①豊かな人間性を身につけ実践出来ている。	◎	○	○	○
②思考力・判断力を身につけ適切な言動が出来ている。	○	◎	○	○
③人々の心身の健康についての知識を身につけ適切な会話によって伝えることが出来る。	○	○	◎	○
④仁愛の精神によって他者を理解し支援する力が身についている。	○	○	○	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション（授業計画・授業の具体・講義内容・講義方法・評価について） [キーワード] 講義の受け方 [授業概要] 文学論という授業（授業内容と計画、授業方法と講義の受け方、計画）について説明する。

		[教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 文学の本質、文学のジャンル、作家研究、作品受容、作品研究について考察する。 [アクティブラーニングについて] 文学は哲学すること、哲学カフェの手法で作品研究を行う。
	第２回	文学の本質・ジャンル、作家研究、作品受容、作品研究の仕方 [キーワード] 文学の本質、ジャンル、作家研究、作品受容、作品研究 [授業概要] 文学の本質・文学のジャンル、作家研究、作品受容、作品研究について「近代文学研究法」長谷川泉著によって考察する。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 夏目漱石の履歴を調べてレポートする。プリント「坊っちゃん」を読む。 [アクティブラーニングについて] 次回授業でレポート発表「坊っちゃん」について哲学する。
	第３回	「坊っちゃん」作品の研究 [キーワード] 夏目漱石、坊っちゃん [授業概要] 用意した「坊っちゃん」の抜粋文を読み、父母の「坊っちゃん」に対する接し方、清の「坊っちゃん」に対する接し方を比較する。さらにはその両者はどのような価値観の違いによるものなのかを考えてみる。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回授業で価値観の違いによって生じる人間の成長について話し合い、自己の生き方、人としての在り方について考えておく。 [アクティブラーニングについて] 「坊っちゃん」について哲学する。
	第４回	「坊っちゃん」を通して人としての生き方、在り方を探り、さらには文学作品としての漱石の文章の妙について哲学する。 [キーワード] 現代文学、慶応～大正という時代、夏目漱石、坊っちゃん [授業概要] 西洋化を急ぐ日本社会とその中に生きる人間の心理を分析・追究する漱石の作品「坊っちゃん」について人間のあり様を探る。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回授業　芥川龍之介「鼻」小説の抜粋資料を読んでおくこと [アクティブラーニングについて] 人の価値観、人としてのあり様を哲学する。
	第５回	「鼻」作品の研究 [キーワード] 芥川龍之介、鼻、明治25年～昭和2年 [授業概要] 用意した「鼻」の抜粋文を読み、最後に鼻が元の姿に戻って、「はればれとした心持ち」になった内供は、もはや長い鼻を気にかけることも無くなったのか、それとも以前のまま鼻にこだわる気持ちは続いたのか、内供のその後を考察する。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回授業で「鼻」が夏目漱石に絶賛されて作家としての地位を得たこと。さらには現実を理知によって再構築しようとした芥川龍之介にせまる。 [アクティブラーニングについて] 「鼻」特に現実を理知によって再度とらえようとする芥川について哲学する。
	第６回	「鼻」作品から内供のその後をシュミレーションしつつ現実を理知によって解き明かそうとする芥川について考察する [キーワード] 内供のその後、現実を理知によって再構築する

	[授業概要] 内供は長い鼻を気にかけることは無くなったのか、それともいまだ長い鼻にこだわりの気持ちをもっているのか。現実を理知によってとらえようとする芥川について考察する。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回授業　村上春樹「沈黙」小説の抜粋文資料を読んでおくこと [アクティブラーニングについて] 現代社会における人間の生き方について哲学する。 第７回　「沈黙」作品の研究 [キーワード] 怖い人間、人間に欠けているもの、生き方の価値観 [授業概要] 「僕が怖いのは青木のような人間ではありません。」と大沢さんは語るが、では本当に怖いのはどのような人間だろうか。またそのような人間に決定的に欠けているものは何であると大沢さんは考えているのか。彼自身がどのような生き方に価値を置いているのかを考察する。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回授業で「大沢さん」が価値を置いている人としての生き方を考察しつつ、現代社会に生きる人間の生き方を考察する。 [アクティブラーニングについて] 「人間の生き方」について哲学する。 第８回　「沈黙」作品から現代社会に生きる人間の生き方について考察する。 [キーワード] 人間の生き方、現代社会、村上春樹の作品 [授業概要] 「大沢さん」が価値を置いている人としての生き方を哲学しつつ、現代社会に生きる人間の生き方を考察する。 [教科書・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 多様な価値観を知り、共存しながら人間としての真の在り方、生き方を哲学する。 [アクティブラーニングについて] 村上春樹の価値観をもとにして相互の価値観を出して話し合い人間として有すべき思考を哲学する。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・人間としての在り方、生き方について深く考える。 ・文学作品を楽しむ [受講のルール] ①討論・発表を中心に授業を行うので欠席・遅刻はしない。 ②態度や身だしなみ等が整っていない場合は受講を認めない。 ③心を豊かにしておく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画に示されている作品は事前によく読み要旨の把握とともに自己の感想をまとめておく。 ・文章中の難解語句は辞書で調べておくこと。
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　課題の取り組み（レポートの内容・記述・提出）２０％　・発表（内容・方法・態度）１０％ 試験は小論文の提出　７０％
教科書	授業ごとに講義の内容、進行を資料として配布する。授業で取り上げる作品は事前に読んでおくこと
参考書	・　講義の中で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として36年間教育に携わった。 その経験をもとに教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 経済学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業ではマクロ経済学の基礎的な力を養成することを目標とする。 【到達目標】 学生がマクロ経済学の基礎を理解し、毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを到達目標とする。
授業の概要	マクロ経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。
	第２回	GDP 【key words】 ＧＤＰ、三面等価の原則 【授業概要】 GDPのデータの作成方法、データの読み方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民経済計算」（内閣府） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。
	第３回	経済成長

	【key words】 ソロー、労働、資本、技術進歩 【授業概要】 新古典派の経済成長理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済成長率の統計を確認する。 第４回　格差 【key words】 ジニ係数 【授業概要】 ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「格差と成長」（OECD） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計数値を確認する。 第５回　幸福の経済学 【key words】 幸福、相対所得仮説 【授業概要】 相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感に関係する統計を確認する。 第６回　ストック経済学 【key words】 株価 【授業概要】 株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本の株価を新聞で確認する。 第７回　金融 【key words】 貨幣ストック、金利、貨幣需要 【授業概要】 貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 金融に関係する統計数値を確認する。 第８回　財政政策・金融政策 【key words】 乗数、金融政策 【授業概要】 乗数の計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 財政政策・金融政策の種類を調べる。
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞やニュース等で経済情勢について問題意識を持ち、授業で学んだ内容と関連づけていく姿勢が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、 さまざまな文献やHP 等を参照して復習すると、理解がより深まる。
オフィスアワー	授業終了後30 分。
評価方法	試験（ 60%）、授業中の課題（ 40%）を総合して評価する。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	□プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育と学習の原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育の基本的概念、理念、歴史、思想を理解し、教育の課題に取り組み成果を報告する。 【到達目標】 ①教育の理念、歴史、思想を理解する。 ②教育の課題に取り組み、学習成果あるいは解決案をまとめる。 ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。.
授業の概要	教育とは何か、なぜ学ぶのか、教育および学校はどのように変遷してきたか、学習意欲はどうしたら高まるか？等々、日常生活の中で見過ごしている教育の諸問題を検討し解決方法を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 この授業の進め方、単位取得の条件について紹介し、続いて、教育において、人間観、学習支援、ガイダンスの重要性について学ぶ。
	第２回	子ども観と教育観 子ども観・教育観が教育や学習にどのように影響するかについて学ぶ。
	第３回	教育における人間像 古代、中世、近代、現代の教育はどんな人間像を理想としてきたかについて学ぶ。
	第４回	近代学校の誕生と発展 近代学校の誕生と進展にはどのような特徴があり、どのような問題点を持っているかについて学ぶ。
	第５回	日本における義務教育の成立と展開 日本における教育の歴史的変遷について学ぶ。
	第６回	多様化する学校・教育施設 職業訓練校、語学学校、学習塾・予備校、カルチャーセンター、院内学級、スポーツセンター等、多様化する学校、教育施設について、どのような観方、活用方法が考えられるか。
	第７回	教育実践を支える思想 二宮尊徳、吉田松陰、福沢諭吉、キューリー夫人、ペスタロッチ、モンテソリ、サリバン、シュタイナー等、テキストの中に紹介されている人物伝、思想などから教育の力、目的、方法を学ぶ。
	第８回	教育と学習をつなぐ 人間が学ぶ意味を心理学的視点から検討し、学習には様々な種類があることを知る。 また、人間の場合の学習が教育と強い関連があり、教えることで楽しく学ぶ効果的な学習方法を紹介する。
	第９回	発達段階に応じた教育、授業方法

	乳幼児期、学童期等の発達段階に即応した教育方法をシュタイナー教育等から学ぶ 第１０回　学習意欲を高める授業 意欲が高まる原理を、成功体験、失敗体験、心理学実験等の事例をもとにして検討し、意欲を高める授業方法として、成功への期待を高める方法、失敗体験を生かす方法をプログラム学習、仮説実験授業等から学ぶ。 第１１回　学習意欲を支援する自作教材作成法 プログラム学習や仮説実験授業の授業書の特徴を参考にして、楽しんで自作教材をつくる方法を紹介する。 第１２回　カリキュラムの歴史的変遷 カリキュラムの意味と歴史的変遷を知り、現在行われているユニークなカリキュラムの実践例を学ぶ。 第１３回　社会の変化と子ども 情報化、国際化等の社会の変化に教育はどう対処したらよいか、 いじめ、不登校などの問題に適切に取り組む方法を検討する。 第１４回　ガイダンス 進学、就職、対人関係の問題等をめぐって、効果的なガイダンスやカウンセリングの原理や方法について学ぶ。 第１５回　課題と発表 読書感想、　自叙伝、人物伝、自作教材等の発表から課題研究の工夫や発表方法等を学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（概要感想質問用紙（A4版））
授業外時間にかかわる情報	課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％
教科書	島田昌幸著「教育学習原論」研文社,2019年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 重要な教育心理学的な概念の学習を通して、課題解決に役立つ方法を学ぶ。 【到達目標】 ①発達、評価、学習、意欲、教材等の基本的概念を習得する。 ②教育心理学の課題について自分の解決案をまとめる。 ③課題解決への実践と成果を小論文等にまとめ、発表する。
授業の概要	教育評価、学習意欲、発達課題、教材作成、学習類型等々の重要なテーマについて教育心理学的な観方、解決方法を学習する。さらに学習した内容を使って課題解決に取り組み成果を発表または報告する。、

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画

第１回　授業案内および「教育心理学の特徴と課題」　課題１　読書感想

【key words】
発達、評価、ガイダンス、学習、教材

【授業概要】
教育心理学の特徴、興味深い研究課題等を紹介する

【教科書】
序章　授業案内　第１章　教育心理学への案内

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自分が取り組む課題を選択、検討する。

第２回　青年期の特徴と発達課題　課題２　自叙伝
青年期はどんな時期か。その特徴と発達課題を探る。

【key words】
形式的操作段階、仮説演繹的思考、命題間操作、　発達課題、アイデンティティ、

【授業概要】
青年期の特徴と発達課題を学ぶ
【教科書】
第２章　青年期の特徴と発達課題

第３回　障害者の心理、発達障害から何を学ぶことができるか。　課題３　小論文（障害者の心理と

	教育） 【key words】 障害者、発達障害、治療教育、情緒障害、多動、自閉、共同体運動 【授業概要】 シュタイナー治療教育を例にして、発達障害の意味と教育のありかたを検討する。 【教科書】 第３章　障害者の心理と教育
	第４回　効果的学習の方法　　教える活動の活用 人間の学習の特徴は何か。教育の視点から学習を考えてみる。 【key words】 学習、教育、学習の定義、学習の分類、信号学習、概念学習、自己講義法、自作教材、ガイダンス 【授業概要】 ひとはなぜ学ぶのか。動物の学習、人間の学習、教育の視点からみた学習等を検討する。 【教科書】 第４章　効果的学習の方法　第１節　学習とその指導
	第５回　学習意欲を支援する自作教材作成法　　課題４　自作教材の作成 意欲を高める自作教材の作成法について学ぶ。 【key words】 自己評価、自作教材、学習書、教師用プログラム 【授業概要】 学習意欲を高める自己評価の方法、自作教材の作成法を学ぶ。 【教科書】 第４章　効果的学習の方法　第２節　自作教材作成法
	第６回　学習の三類型（１）運動技能学習と（２）言語情報学習） （１）運動技能や（２）知識（言語情報）の学習を効果的に行うにはどんな方法があるか。 【key words】 運動技能、部分技能、正順法、逆順法、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、構造化、媒介結合、漸進的分習法、エビングハウス 【授業概要】 効果的な運動技能と知識学習の方法を検討する。 【教科書】 第４章　効果的学習の方法（その１）（運動技能学習）（その２）（言語情報学習）
	第７回　学習の三類型（３）（問題解決学習）　　課題５　小論文（効果的学習法について） 効果的学習法（３）日常生活で生ずるいろいろな問題を効果的に解決するにはどうしたらよいか。 【key words】 問題解決の過程、気づき、自由連想、発想法、記録法、自己評価 【授業概要】 効果的な問題解決の方法を、問題解決の過程をもとにして検討する。 【教科書】 テキスト　第４章　効果的学習の方法（その３）（問題解決学習）
	第８回　魅力的な課題研究発表の特徴は何か。　（課題研究発表と総括） 【key words】 発表の意義、発表の要点、振り返り 【授業概要】 自他の課題研究発表から学ぶ。 【教科書】 第６章　課題発表と総括
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	その他（概要感想質問用紙（A4版）））

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％
教科書	島田昌幸著「教育心理学」研文社, 2019年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	選択
担当教員			
島田　昌幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育方法の事例の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、独自の自作教材を開発する。 【到達目標】 ①教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発等の基本的概念を習得する。 ②自作教材の作成を行うことができる。 ③課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。
授業の概要	教育方法の事例（カウンセリング、ユニークな授業、情報化）の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、授業に役立てる自作教材開発の方法を学習し、独自の自作教材を開発する。。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	授業案内　教育方法の意義と内容（１）（カウンセリング、プログラム学習） ユニークな教育方法にはどんなものがあるか。 【key words】 来談者中心カウンセリング、共感的理解、学生中心の授業、プログラム学習、５つの原理 【授業概要】教育方法を個人的体験をもとにして振り返り、ユニークな教育方法（学生中心の授業、プログラム学習）について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 序章　授業案内　第１章教育方法の意義と内容（１）教育方法学とは（３）カウンセリング、（４）プログラム学習 【課題１】 教育方法について自分の個人的体験を「自叙伝」としてまとめる。
	第２回	教育方法の意義と内容（２）（仮説実験授業から学ぶ） 楽しい授業、教育方法の条件は何か。（仮説実験授業から学ぶ） 【key words】 仮説実験授業、授業書 【授業概要】 ユニークな教育方法（仮説実験授)業から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１章教育方法の意義と内容（３）仮説実験授業

第３回　教育方法の意義と内容（３）（情報化、CAI、参考書と課題）
現代社会の潮流である「情報化」は、教育にどんな利点と問題点をもたらしているか。それに対処するにはどうしたらよいか。
【key words】
テレビゲーム、ＣＡＩ，形成的評価、授業用のプログラム

【授業概要】
現代社会の潮流である「情報化」は、教育方法にどんな影響を及ぼしているか。その利点と問題点を検討する。また、この授業でに研究課題を紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
第１章教育方法の意義と内容　第６節　教育方法の潮流（情報化、ＣＡＩ），第７節　参考書と課題

第４回　教材開発の意義と方法（１）（教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材）
どんな自作教材が、作成しやすく、利用する人に喜ばれるか。

【key words】
自作教材、授業用のプログラム、学習書、一斉授業プログラム、教師用プログラム

【授業概要】
自作教材作成の意義と事例を紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
第２章　教材開発の意義と方法（１）（教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自分が課題として取り組む自作教材の内容と作成方法を検討する。

第５回　教材開発の意義と方法（２）（自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法）
教材の作成と改善を楽しくするには、どうしたらよいか。

【key words】
教材開発システム、開発目標、開発方法、形式的な特徴、評価

【授業概要】
自作教材の作成法、活用法、評価と改善の方法について検討する。

【教科書ページ・参考文献】
第２章　教材開発の意義と方法（２）（自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自分で実際に自作テキスト教材を作成してみる。

第６回　情報機器の活用の方法（１）（自作プレゼンテーション教材）
プレゼンテーションに、楽しく効果的にパワーポイントを活用するにはどうしたらよいか。

【key words】
プレゼンテーション教材、パワーポイント、画像、アニメーション、効果音

【授業概要】
自作プレゼンテーション教材を作成する際に利用するパワーポイントの特徴と、活用の事例を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（１）（自作プレゼンテーション教材）

【課題】
パワーポイントを使って、自作教材の一部を作成してみる。

第７回　情報機器の活用の方法（２）（自作CAI教材等）
パワーポイントで個別学習ができる自作教材をつくるにはどうしたらよいか。

【key words】
自作CAI教材、分岐のあるコース、ハイパーリンク、

【授業概要】
事例を参考にしてパワーポイントを使って自作CAI教材を作る方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（２）（自作ＣＡＩ教材等）

【課題】
学習書案をもとにして自作CAI教材の一部分を作成してみる。

第８回　情報機器の活用の方法（３）（作品例紹介と作成演習）

魅力的な自作CAI教材の特徴は何か。

【key words】
自作CAI教材、教材評価の視点
【授業概要】
作品例から学び、自分の自作CAI教材を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　情報機器の活用の方法（３）（作品例紹介と作成演習）

【課題】
作品例から学び、学習書案をもとにして自作CAI教材を作成する。

第９回　授業の構成法（１）（授業のシステム化）
ユニークな教育方法、授業はどんな魔法のシステムを持っているのか。

【key words】
システム、システム化、目的、要素（役割）、流れ、評価、完全習得学習システム、マイクロティーチング
【授業概要】ユニークな教育方法を授業システムという視点から検討する。また、長所と同時に問題点も考察する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　授業の構成法（１）（授業のシステム化と芸術的構成）

第１０回　授業の構成法（２）（授業の芸術的構成）
ユニークな教育方法、授業はどんな魔法の考え方、特徴を持っているのか。

【key words】
シュタイナー教育、発達期に応じた教育、授業の芸術的構成

【授業概要】
授業の芸術的構成という視点から、シュタイナー教育のユニークな特徴を紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　授業の構成法（２）（授業の芸術的構成）

第１１回　学習意欲を支援するガイダンス（1）（意欲の構造、魅力的目標）
学習意欲はどのようにして高めることができるか。

【key words】
意欲の構造、動機、目標、達成期待、満足感期待、成長動機、欠乏動機、内観療法、鈴木メソッド
【授業概要】
レストランでの食事を注文する行動を分析し、意欲の構造を明らかにする。続いて、学習活動への動機を高める方法、魅力的な目標設定の方法を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
第５章　学習意欲を支援するガイダンス（１）（意欲の構造、魅力的目標）

第１２回　学習意欲を支援するガイダンス（２）（達成期待、満足感期待）
学習意欲を高めるにはどのように計画したらよいか。

【key words】　達成期待、満足感期待、

【授業概要】
学習意欲を高める方法を、達成期待と満足感期待を高める視点から検討する。

【教科書ページ・参考文献】
第５章　学習意欲を支援するガイダンス（２）（達成期待、満足感期待）

第１３回　課題研究成果の発表（１）
魅力的な課題研究発表の特徴は何か。

【key words】
発表の意義、発表の要点、振り返り、発表内容中のキーワード

【授業概要】
自他の課題研究発表から学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第６章　課題研究成果の発表

	第１４回　　課題研究成果の発表（２） 魅力的な課題研究発表の特徴は何か。 【key words】 発表の意義、発表の要点、振り返り、発表内容中のキーワード 【授業概要】 自他の課題研究発表から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　課題研究成果の発表 第１５回　　総括 今回の一連の授業から学んだことは何か。 【key words】 教育方法、授業のシステム化、芸術的構成、評価と改善の方法、意欲、 【授業概要】 今回の一連の授業を振り返り、要点を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 第７章　総括 今回の一連の授業を振り返り、要点および印象に残ったこと等を整理する。
受講生に関わる情報および受講のルール	筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（概要感想質問用紙（A4版））
授業外時間にかかわる情報	課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことが必要になる。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験（客観、論述）４０％、課題レポート及び発表４０％、授業への参加度２０％
教科書	島田昌幸著「教育方法論」研文社,2019年
参考書	テキストおよび授業の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　健康教育論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 健康教育やヘルスプロモーションの考え方、行動変容を促す健康教育の理論と方法を理解する。 【到達目標】 健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。
授業の概要	ヘルスプロモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成し、模擬授業後の発表を行い評価につなげる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。	○	◎	○	○
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション「健康教育論」 【key words】 学校保健、健康教育 【授業概要】 科目オリエンテーション 学校保健、健康教育の概要について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) 第２回　ヘルスプロモーションの展開と方法 【key words】

		ヘルスプロモーション、健康信念モデル、健康教育プログラム、計画と評価 【授業概要】 ヘルスプロモーションの展開、健康信念モデルの考えを用いた健康教育および健康教育プログラムの計画と評価について解説する。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第３回	健康教育の展開と方法 【key words】 健康教育、指導法 【授業概要】 健康教育の実践例を提示し、健康教育の模擬授業を描けるように実践から学ぶ授業展開について説明する。保健指導の展開についてグループワークを行い、健康課題を解決するための効果的な方法を探る。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第４回	保健教育と学習指導要領 【key words】 保健教育、学習指導要領、学習指導案 【授業概要】 学習指導要領を基に学習指導案について説明する。健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践する準備を行う。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第５回	健康教育の実施1 【key words】 健康教育の展開、小学校学習指導要領 【授業概要】 （演習）健康教育の実施１ 模擬授業を行い、導入、展開、まとめにおいて、評価基準（意味のある教材、わかりやすさ、熱意）に照らして自己評価、他者評価を行う。（発表順は授業の際に示す。） 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、各グループの学習指導案 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第６回	健康教育の実施2 【key words】 健康教育の展開、中学校学習指導要領 【授業概要】 （演習）健康教育の実施１ 模擬授業を行い、導入、展開、まとめにおいて、評価基準（意味のある教材、わかりやすさ、熱意）に照らして自己評価、他者評価を行う。（発表順は授業の際に示す。） 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、各グループの学習指導案 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第７回	健康教育の実施3 【key words】 健康教育の展開、高等学校学習指導要領 【授業概要】 （演習）健康教育の実施3 模擬授業を行い、導入、展開、まとめにおいて、評価基準（意味のある教材、わかりやすさ、熱意）に照らして自己評価、他者評価を行う。（発表順は授業の際に示す。） 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、各グループの学習指導案 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第８回	健康教育の実施４ 【key words】 健康教育の展開、特別支援学校学習指導要領 【授業概要】 （演習）健康教育の実施4 模擬授業を行い、導入、展開、まとめにおいて、評価基準（意味のある教材、わかりやすさ、熱意）に照らして自己評価、他者評価を行う。（発表順は授業の際に示す。） 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、各グループの学習指導案 【課題・予習・復習・授業準備】

	予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) ・学校保健活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。その中から一つテーマを選び、その内容を要約し意見および感想をまとめる。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト20%、レポート発表20% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011 小学校学習指導要領解説　総則編、体育編、特別活動編、2017 中学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、特別活動編、文部科学省1、2017 高高等学校学習指導要領解説、総則編、保健体育編、文部科学省、2018
参考書	学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第４次改定版》、第一法規、2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、学校における保健教育について健康教育の実践例を提示し，自らが児童・生徒に主体的で対話的な学びを実践できるよう解説する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 教育状況の変化に伴い教育の改革が推進される中、教師には変化への対応が迫られ、さらに児童生徒同志、児童生徒と教師の人間関係の構築能力が求められる。授業づくり、生徒指導を中心とした教師の仕事、教えるということ、そして教師としてのあるべき姿、教職の意義、教師の制度的役割を理解しながら自らの教師像をつくっていくことができる。 [到達目標] ①教育職員としての在るべき姿を理解し、自らの教師像がつくれた。 ②教育職員関連法規を理解し、遵守しようとする態度を養うことができる。 ③教師に必要な資質を理解し、自らその涵養に努める態度を養うことができる。 ④より良い教師を目指して、職域の人間関係づくりや積極的実践研究必要性が考えられ、実行しようとする意識が生まれた。
授業の概要	・　求められる教師像について研究し理解し、知力とともに実践力を養う

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①教師の仕事の専門性について基礎知識と教養を身につけている。	◎	○	○	○
②教育の方法、児童・生徒の発達の知識や教授法について考える力がある。	○	◎	○	○
③子どもの心に寄り添い、適切なコミュニケーションができる教育実践に触れて技術を身につけようとする。	○	○	◎	○
④教師として子どもを育む心を持ち、生涯にわたって自己の研鑽に心掛け課題を解決しようとする。	○	○	○	◎
⑤				
⑥				
授業計画				

	第１回	オリエンテーション（授業計画・内容、授業形態、授業方法、評価について） ［キーワード］ 授業について（授業の受け方等） ［授業概要］ ・初回の授業に授業の受け方について学生と相互に授業を創り出すことについて確認する。その他、授業計画・内容、授業形態、授業方法、評価について説明確認する。 ・2人1組で教育の現状をとらえ、どのようでなければならないのか考察し発表する（発表と討論と評価） ［教科書ページ・参考文献］ 教師作成の資料配布 ［課題・予習・復習・授業準備指示］ ・教育に関して（教育情報） ・教職の意義（教職とは何か）、専門家としての教師（社会から期待されている仕事・他の職業との違い） ［アクティブラーニングについて］ 教師と学生相互で授業活動を創る。
	第２回	専門家としての教師、教職という仕事の性格、情動的実践としての教職 ［キーワード］ 教職・情動的実践 ［授業概要］ ・専門家としての教師について考察する。 ・教師の仕事の性格、情動的実践としての教職について考察する。 ［教科書ページ・参考文献］ 配布資料（教師に対する揺るぎない信頼を確立する　－教師の質の向上－　文部科学省） ［課題・予習・復習・授業準備指示］ 上毛新聞「ニッポンの人づくり1～7」 ［アクティブラーニングについて］ 教育事情・教育課題の発表と討論30分
	第３回	教師として子どもの心に寄り添う、子どもの言葉を受け取る ［キーワード］ 子どもに寄り添う、子どもの心を受け取る ［授業概要］ ・子どもの心に寄り添うとは、子どもの言葉を受け取るために子どもに接する際の心構え ・教育事情・課題等レポート発表と討論 ［教科書ページ・参考文献］ 教師自作資料配布、上毛新聞「ニッポンの人づくり」―哲学する、世界が変わる―（対話を通じ思考を深める・発言よりも傾聴を重視・多様な意見を踏まえ討論・選択科目になる「倫理」・モラルジレンマ・職場で対話研修・不登校減少肯定感を育む） ［課題・予習・復習・授業準備指示］ 配布資料を熟読する。難解な語句を調べる。 ［アクティブラーニングについて］ 教育事情・教育課題の発表と討論30分
	第４回	子どもを育む。守りの器を作る。 ［キーワード］ 陥りやすい罠・守りの器 ［授業概要］ ・教師がカウンセラーになる難しさ。罠に陥らない為には。教師のメンタルヘルスの問題について実践をとらえて考察する。 ・教育事情・課題等レポート発表と討論 ［教科書ページ・参考文献］ 教師作成配布資料　上毛新聞「オピニオン２１－実践を重ね個に向き合う－ ［課題・予習・復習・授業準備指示］ 次回授業「教育実習から新任教師へ」（資料）を読む ［アクティブラーニングについて］ 教育事情・教育課題の発表と討論30分
	第５回	教育実習から新任教師へ ［キーワード］ 教育実習・新任教師 ［授業概要］ ・教育実習の経験はどのようなものか「衝撃」と「感動」について見る。実習を修了して新任教師の実践を通した体験について具体的に考察する。 ・教師に５つの資質が必要 ・教育事情・課題レポート発表と討論 ［教科書ページ・参考文献］ 教師作成配布資料、教師には５つの資質が必要（堀裕嗣）

		[課題・予習・復習・授業準備指示] 次回授業の配布資料を熟読し、難解な事は調べておく。 [アクティブラーニングについて] 教育に関する事情・課題発表と討論30分
	第６回	・学習指導ー子どもとのふれあいを求めてー　・教師力をアップする（よりよい自分であるために・よりよい授業をするために） [キーワード] 学習指導、教師力をアップする。 [授業概要] ・教壇に立つ心構え、教師力アップ（よりよい自分であるために・よりよい授業をするために）を考える。 ・教育事情・課題レポート発表と討論 [教科書ページ・参考文献] 教師作成資料、学習指導・教師力アップ・教育者としてのあり方 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料を読む。 教職員の不祥事、労働基本権と職員団体、学校の規則と子どもの権利他 [アクティブラーニングについて] 教育に関する事情、課題発表と討論30分
	第７回	同僚とともに学校を創る、時代の中の教師 [キーワード] 同僚と創る学校、時代を生きた教師 [授業概要] ・同僚と学校の仕事を分担したり、授業のことについて意見を交わしたり、児童・生徒のことについて心配しながら同僚と一緒に仕事をする。 ・時代の中の教師、現代の教師はどのような時代性を背負って生きているのか。 ・教育事情・課題レポートの発表と評価 [教科書ページ・参考文献] 教師作成配布資料 同僚とともに学校を創る・時代の中の教師 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布の資料を熟読する。 [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポート発表・評価30分
	第８回	第7回講義から本時。学校における同僚性、教師文化を形成するものについて考察する [キーワード] 同僚性、教師文化、人間関係 [授業概要] ・教育活動の過程を共有して協働で何かを創り出していく営みが共同性の絆を強くすることについて考察する。不可欠なのが職場の人間関係であり、どのようにつくり出すのか ・教育事情・課題レポート発表と評価 [教科書ページ・参考文献] 前回授業で配布した資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料（「授業をつくる」）を読解しておく [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポート発表と評価30分
	第９回	「授業をつくる」について実践から考察する。 [キーワード] 3年B組金八先生 [授業概要] ・授業実践を読み解き、授業をどのように作るかを考察する。 ・授業の構成、授業を構成してるもの ・教育事情・課題レポート発表と評価 [教科書ページ・参考文献] 先時配布資料「授業をつくる」 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時使用の資料の読解を進めておく [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１０回	「授業をつくる」から「授業をデザイン」することについて考察する [キーワード] 授業のデザイン [授業概要]

		・第9回講義から本時。授業はテーマを巡って展開されるコミュニケーションを通して、参加者間で認識が共有される過程であると考えられる。授業の過程における教師の仕事を考える。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価 [教科書ページ・参考文献] 前回講義で配布した資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料「授業のデザイン」を読解する。 [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１１回	「授業のデザイン」をテーマを設定する・コミュニケーションを組織するから考察する [キーワード] テーマを設定、コミュニケーションを組織 [授業概要] ・第10回講義から本時。「授業のデザイン」について考察する。「願い」を明確化する、子どもの事実から考える、子どもや学校を取り巻く環境を踏まえる、ことからコミュニケーションを組織することについて考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価 [教科書ページ・参考文献] 前回講義配布資料を使う [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料「授業のデザイン」を読解する。 [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１２回	「授業のデザイン」を認識を共有することから考察する [キーワード] 授業のデザイン [授業概要] ・授業のデザインを「認識を共有する」ことから考える。子どもの論理につきあう、課題解決を方向付ける、子どもの発話を学級で共有する、そして授業デザインを支える教師の知識と思考について考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う [教科書ページ・参考文献] 前回講義で配布した資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料「教師の役割と仕事」を読解する。 [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１３回	「授業デザイン」を支える教師の知識と思考についてから考察する [キーワード] 知識と思考 [授業概要] ・ここまでは授業をデザインするという教師の仕事について見てきた。この教師の仕事はどのような知識に支えられているのか。そして教師はその知識をどのように身につけて成長していくのか考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う。 [教科書ページ・参考文献] 前回講義で配布した資料、本時配布「授業のデザイン」 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布「教師の役割と仕事」を読解する [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１４回	教育の役割と仕事について考察する [キーワード] 法的役割、役割意識、生涯学習社会 [授業概要] ・教師の法的役割と役割意識、教師の仕事の特徴と内容、教師の仕事の実際、生涯学習社会における教師への期待について考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う。 [教科書ページ・参考文献] 前回講義で配布した資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料「教育実習の意識と心得」を読解する。 [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
	第１５回	・教育実習の意義と心得について考察する　・授業の総括

	[キーワード] 教育実習、総括 [授業概要] ・「教育実習の意義と心得」について、実習の意義と方法、実習の実際、学習指導案の作成を中心に考察する。 ・教育事情・課題レポートの発表・討論・評価を行う ・授業アンケートを行う [教科書ページ・参考文献] 前回の講義で配布した資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布資料 ・「新しい時代の教職入門」秋田喜代美・佐藤学著より 「未来に備える教師はどのようであればよいのか」 ・教育者の名言　斎藤喜博（群馬県の生まれ。「島小教育」の著者） [アクティブラーニングについて] 教育事情・課題レポートの発表・討論・評価30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　積極的に自己表現ができること ・　授業中の迷惑行為（遅刻・居眠り、私語、メール作成等）は厳禁する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　教職に関する教育現場での社会的問題について検証し、自らの考えを論ずることで、教師としての在り方を考察する
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　提出物１０％、発表（内容、方法、態度）２０％、定期試験７０％によって評価
教科書	・　新しい時代の教職入門 改訂版（有斐閣アルマ）　秋田 喜代美、 佐藤 学
参考書	・　授業において紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として36年間教育に携わった。その経験をもとに教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育課程論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 教育課程の制度と内容が理解でき、児童・生徒の発達課題に応える教育課程のあり方について考察する。また、「確かな学力」とは何かについて研究し、教育課程の編成について考えを深める。 [到達目標] ①教育に関する法令を把握することができる。 ②教育という営みの必然性が理解できる。 ③教育課程が設置される理由が理解できる。 ④カリキュラムと教育課程の関係を理解し、積極的な編成のための思考を養うことができる。 ⑤学習指導要領を理解し、教育課程における教育方法の諸課題を考察することができる。
授業の概要	・　教育課程編成の意義と教育の目的及び目標について学習し研究し実践に役立てる

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①教育課程の制度と内容について基礎知識を理解できている。	◎	○	○	○
②教育課程の編成について研究し、要点が把握できて解決できる。	○	◎	○	○
③教育の営みの必然性について基礎的な知識と技術が身についている。	○	○	◎	○
④児童・生徒、学校の現状を把握して実践に即した教育課程をつくり出す態度がある。	○	○	○	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション（授業計画・授業方法と授業内容、評価方法等説明） [キーワード] 講義の受け方 [授業概要]

		授業の計画・授業の方法と授業内容・評価方法などについて説明する。 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] ・次回授業の配布資料に目を通し、難解な単語（専門用語等）について事前に調べておく ・教育について興味関心を持ち、教育の現状を考えて分析して検証したことについて発表を行う。（2人1組） [アクティブラーニングについて]
	第２回	教育課程編成の意義・教育課程の概念と意味 [キーワード] 教育課程編成の意義・教育目的及び目標 [授業概要] 教育課程の性質、なぜ教育課程の編成が必要なのか、教育の目的、目標が具体的に生かされる教育課程の編成 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 次回講義の配布資料を熟読し、教育に関する専門的な単語や法令等を事前に調べる。 [アクティブラーニングについて] 発表と討論と総括（評価）
	第３回	教育と言う営みの必然性、教育課程が設置された理由、カリキュラムと教育課程 [キーワード] 教育とは、なぜ教育課程が必要なのか、学習指導要領、カリキュラムと教育課程 [授業概要] 教育とは（教育の必然性）、教育課程の方式、カリキュラムと教育課程の関係、学習指導要領の性格 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] ・次回講義資料を熟読し、難解な単語や法的規定について調べておく。 ・本時発表の内容を復習し、全体討論を整理して自己の考えをまとめておく。 [アクティブラーニングについて] 発表と討論と総括（評価）
	第４回	教育課程の概念と意味（公的カリキュラムと潜在的カリキュラム）、学習指導要領の特徴と変遷 [キーワード] 公的カリキュラムと潜在的カリキュラム、学習指導要領の特徴と変遷 [授業概要] ・教育課程の性質について教育活動における公的・潜在的カリキュラムによって理解を深める ・学習指導要領の歴史的変遷をとらえて教育課程の変化を理解する。 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] ・次回講義資料を熟読して難解なところを調べて理解しておく。 ・本時の発表について再度全体の討論を整理し、自論を総括する。 [アクティブラーニングについて] 発表と討論と総括（評価）
	第５回	教育課程編成の教育目的および目標、改正教育基本法における教育の目的と目標、改正学校教育法と同施行規則における教育課程の目的と目標 [キーワード] 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則と教育課程 [授業概要] 教育基本法、学校教育法、同施行規則と学習指導要領の関係、学習指導要領と教育方法 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 次回講義資料を熟読して難解な部分について調べて理解する。 [アクティブラーニングについて] 発表と討論を全体総括をもとに自己の論をまとめる。
	第６回	カリキュラムの構造と類型・教科カリキュラムと経験カリキュラム他 [キーワード] カリキュラムの構造と類型、教科・相関・融合・統合・広域・コア・経験カリキュラム [授業概要]

	「カリキュラム」の構造と類型を知る、「カリキュラム」を教科・相関・融合・統合・広域・コア・経験カリキュラムによってとらえる。 [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時配布の次回講義資料を熟読し、難解な部分をまとめ調べておく。さらには次回授業で質問事項をまとめておく [アクティブラーニングについて] 発表と討論を全体総括をもとに自己の考えをまとめておく 第７回　今なぜ「教育課程」なのか [キーワード] 教育課程、学力問題 [授業概要] 教育課程という問い、学力問題と教育課程（学力水準・学力格差・学力構造・学習意欲） [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 次回講義資料を熟読して難解部分を調べ、質問事項をまとめておく。次回授業で質問できるようにする。 [アクティブラーニングについて] 発表と討論の全体総括をもとに、自己の論をまとめる 第８回　教育課程の歴史的展開と教育方法 [キーワード] 教育課程の歴史、教育方法 [授業概要] ・教育目的と教育方法（方法と目的の関係・教育方法の基礎）教育方法の歴史（教育方法の歴史を近代以前と近代以降に分けて概観する） ・授業アンケート実施（授業を振り返り総括する） [教科書ページ・参考文献] 配布資料 [課題・予習・復習・授業準備指示] 本時で授業終了。この講義全体を通して確認しておくべきことをまとめる。この授業を受講しての感想の発表（全員）、授業アンケートの実施 [アクティブラーニングについて]
受講生に関わる情報および受講のルール	・　意欲的な学習態度であること ・　教師としてのあるべき姿をイメージし、日常生活の中での実践をとおして意識を養うことに努める ・　授業中の迷惑行為（遅刻、居眠り、私語、メール作成等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・　教育に関わる社会状況や学校現場での取り組み情報を収集し、教育問題・課題の解決のための学校の あるべき姿を具体的にイメージして考察すること
オフィスアワー	・　月、火、木曜日の９時～１７時　授業のない時間帯
評価方法	・　レポート提出１０％、筆記試験７０％、発表（内容、方法、態度）２０％
教科書	・　新しい時代の教育課程 第3版（有斐閣アルマ）　田中 耕治、水原 克敏、三石 初雄、西岡 加名恵
参考書	・　授業において紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校の教師として36年間教育に携わった。その経験をもとに、教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生徒指導論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 　将来養護教諭として学校で生徒を指導する側に立つ事を想定して、生徒指導の基本理念を身につけて児童生徒理解が出来るようにし、かつ生徒指導が実践できる資質能力をつける。 ［到達目標］ ①生徒指導の意義と原理について理解できる。 ②生徒指導と教科、道徳、特別活動、総合等との関係、地域や関係機関との連携等について理解する。 ③いじめ、不登校、非行問題等児童・生徒の問題と今日的な保護者あり方などについての課題と対応策について理解したり、養護教諭としての関わり方について理解する。 ④Ｃ＆Ｓアンケートや発達障害スクリーニングテスト、構造的グループエンカウンターやロールレタリング等の実技を伴う生徒指導技術の知識を得る。
授業の概要	（１）授業形態は講義とグループ学習で行う。講義は基本理念を、グループ学習は学生が学ぶ意味を持つことが出来るようにするため演習的な課題解決学習とする。 （２）生徒指導の教育課程との関係や地域連携など具体的事例を多く取り入れ実践的資質の向上を図る学習とする。 （３）現在学校で行われているアンケートやテストなど具体的技術を実践し、活用方法を身に付ける学習とする。 （４）生徒指導は人間教育であることを理解し、学生自身の自己指導能力を高める学習とする。 （５）第８回は全員参加方式のシンポジウム形式による意見交換、情報交換、質疑により教育実習前の準備学習とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ①生徒指導論オリエンテーション、（指導計画とレポートについて） ②生徒指導提要第１章１，２節講義、「生徒指導の意義と原理」アイスブレーキング、グループ作り、 第２回 ①生徒指導提要第１章３，４，５節「教育課程と生徒指導」Ⅰ ②第3回授業課題提示（生徒指導提要第２章から） 第３回 ①生徒指導第２章１，２，３，節「教育課程と生徒指導」Ⅱについて課題発表と講義、 ②実習「学級の雰囲気と自己肯定感（C&Ｓ）アンケート実践１質問、C&Sの意義と活用、 第４回 ①生徒指導提要第２章４節後半　第３章１節　「児童生徒の心理と生徒指導」 ②Ｃ＆Ｓアンケートの実践２（集計）,第5回授業課題提示（生徒指導提要第３章から） 第５回 ①生徒指導提要第３章２節　「生徒指導のための児童生徒理解」について課題発表と講義、

	②スクリーニングテストについて 第６回 ①生徒指導提要第３章「青年期の心理と発達」 ②ロールレタリングの手法、ロールレタリング１、第７回授業の課題提示（生徒指導提要第４章から） 第７回 ①生徒指導提要第３章４節「生徒指導の為の資料収集」第４章１，２節「生徒指導のための学校の指導体制」について課題発表と講義、 第８回 ①生徒指導提要第４章３，４，５，６，７節「生徒指導のための指導体制」 ②スクリーニングテストの実践活用　第９回授業の課題提示（生徒指導提要第５章から） 第９回 ①生徒指導提要第５章１，２，３節「教育相談」について課題発表と講義 ②（実践事例１）、 第１０回 ①生徒指導提要第５章「教育相談」３，４節 ②教育相談実践事例Ⅱ　第１１回授業の課題提示（生徒指導提要第６章Ⅰから） 第１１回 ①生徒指導提要第６章Ⅰ　１，２，３，４，節「生徒指導の進め方」課題発表と講義、 ②構成的エンカウンターについて、 第１２回 ①生徒指導提要第６章Ⅰ　４，５，６，７，節「生徒指導の進め方Ⅰ」課題発表と講義、 ②自己指導能力（基本的生活習慣、特に食生活）レポートについて、 第１３回 ①生徒指導提要第６章Ⅱ１～４節　生徒指導の進め方Ⅱ個別の課題、課題発表と講義、 ②Ｃ＆Ｓ第２界質問紙調査 第１４回 ①生徒指導提要第６章Ⅱ５～１３節、個別の課題をかかえる児童生徒の指導 シンポジウム課題提示とグループ分け、Ｃ＆Ｓ実践３質問２回目検証 第１５回 シンポジウム（全員が３課題のうちの一件についてシンポジストとして発言）課題１、児童生徒の命、いじめの根絶　課題２、教育実習への不安と期待　課題３、若者の未来づくり　Ｃ＆Ｓ第２回の集計結果
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生にかかわる情報］ ・授業の中でグループでの課題発表を行います。第2回より１4回の間で必ず１回は実施します。 ［受講のルール］ ・発表、手紙、実習などを多く取り入れた授業です。積極的に授業参加して下さい。 ・生徒指導をする教師には人間的資質の高さが必要です。講義を通じて人間力向上を目指して下さい。 ・相互に（講師と受講者）尊敬しあえる人間関係を築き、学べる事に感謝して、社会に出る心構えを作りましょう ・テキスト「生徒指導提要」は一括購入し第1回授業で手交
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	いじめ、自死事件、不登校、ニート、ＳＮＳ等情報関連、特別支援教育などの新聞記事を積極的にスクラップしておくこと。
オフィスアワー	質問等はコメントカードで受け付ける他、授業終了後に講師室にて受付ます。
評価方法	①試験（論述）５０％　②レポート２０％　③グループ発表３０％
教科書	「生徒指導提要」　　著作・出版　　文部科学省　　３００円（送料10円含む）
参考書	子供・若者白書（内閣府）　入手方法等は１回目講義にて指示します
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 学校における教育相談の意義と役割がわかる。養護教諭が行う健康相談活動の重要性を認識して、さまざまな課題について理解する。 〔到達目標〕 エビデンスに基づく分析ができ、人権や主体性を尊重しながら、養護教諭として児童生徒とかかわることができる。
授業の概要	学校における教育相談の役割と意義を概説し、学校現場で健康相談活動の理論に基付く実践が行えるように、不登校や発達障害・反社会的な行動・被虐待などさまざまな事例を通して、臨床的背景の理解と効果的な支援方法を教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①エビデンスに基づく分析ができ、人権や主体性を尊重しながら、養護教諭として児童生徒とかかわることができる。	◎	◎	◎	◎
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション・学校における教育相談の意義と役割 【key words】 科目オリエンテーション、教育相談、養護教諭 【授業概要】　科 目の位置づけとシラバスの説明。 全授業形態としてグループワークおよびペアワークにて実施する。 学校における教育相談の意義と役割について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 生徒指導提要：文部科学省 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育相談について、養護の定義を調べておく。

第２回　教育相談に活用できる理論やスキル①

【key words】
カウンセリング、受容・共感・自己一致、信頼関係、自己理解、他者理解

【授業概要】
児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。
カウンセラーの基本的態度について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代の児童生徒の健康問題について、国民衛生の動向を基に調べておく。

第３回　教育相談に活用できる理論やスキル②

【key words】
ピア・カウンセリング、8つの誓約、積極的傾聴、信頼関係

【授業概要】
児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。　ピア・カウンセリングの概念（理念・定義）、8つの誓約について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代の児童生徒の健康問題について、国民衛生の動向を基に調べておく。

第４回　教育相談に活用できる理論やスキル③

【key words】
ピア・カウンセリング、8つの誓約、積極的傾聴

【授業概要】
児童生徒の心身の健康問題の現状と背景を理解し、カウンセリング理論に基づき授業を展開する。
ペアになり積極的傾聴を実習し、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代の児童生徒の健康問題について、国民衛生の動向を基に調べておく。

第５回　教育相談に活用できる理論やスキル④

【key words】
児童、生徒、アセスメント、感情、保健室、健康相談活動

【授業概要】
保健室における健康相談活動の初期対応について理解する。
感情に焦点を当て児童生徒に寄り添うことについて理解する。（グループワークにて感情の言葉探し）

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身の小学生、中学生、高校生の頃の保健室における思い出を振り返り、相談活動に視点を当てて、考　えられることを記述して授業に臨む。

第６回　児童生徒理解とアセスメント　　健康相談活動に必要な資質・能力・技能

【key words】
児童、生徒、アセスメント、健康相談活動、コ・カウンセリング

【授業概要】
児童生徒理解におけるアセスメントを中心に、健康相談活動に必要な資質・能力・技能について理解する。　相互カウンセリング（ペア）でカウンセリングの実際について理解する。。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒を理解する際に必要な、求められる人間性について、自分自身の考えをまとめておく。

第７回　健康相談活動の実際①　保健室を想定したロールプレイ

【key words】　児童、生徒、アセスメント、健康相談活動、コ・カウンセリング

【授業概要】
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
生徒指導提要：文部科学省
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。

第８回　健康相談活動の実際②　保健室を想定したロールプレイ
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携

【授業概要】
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。

第９回　健康相談活動の実際③　保健室を想定したロールプレイ　チーム支援
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携、チーム支援

【授業概要】
チーム支援について理解を深める。事例検討を通して児童生徒理解と対応を学ぶ。
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
グループ発表

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。

第１０回　健康相談活動の実際④　保健室を想定したロールプレイ　チーム支援
【key words】
アセスメント、カウンセリング、連携、チーム支援

【授業概要】
チーム支援について理解を深める。事例検討を通して児童生徒理解と対応を学ぶ。
保健室を想定したロールプレイを通して、カウンセリングの実際について理解する。
グループでロールプレイのシナリオを作成し養護教諭の役割を理解する。
グループ発表

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒の健康問題の現状と背景について調べる。

第１１回　育てる教育相談で活用できる手法①　グループエンカウンター
【key words】
育てる教育相談、グループエンカウンター

【授業概要】
グループエンカウンターの理論と実際について理解する。
グループで価値討論を実施し、コンセンサスや価値観の違いについて理解する。
お互いの価値観を尊重する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
構成的エンカウンターについて調べる。

第１２回　育てる教育相談で活用できる手法②　ソーシャルスキルトレーニング
【key words】
ソーシャルスキルトレーニング

【授業概要】
ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際について理解する。
教育総合実習を想定し自己紹介を考える。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童生徒に必要なソーシャルスキルについて調べる。

	第１３回　育てる教育相談で活用できる手法③　アサーショントレーニング 【key words】 アサーショントレーニング、アサーション権、エゴグラム 【授業概要】　ア サーショントレーニングの理論と実際について理解する。 エゴクラムから自己理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒に必要なアサーションスキルについて調べる。 第１４回　育てる教育相談で活用できる手法④　ピア・サポート 【key words】 ピア・サポート 【授業概要】 ピア・サポートの理論と実際について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校で実施されているピア・サポート活動について調べる。 第１５回　まとめと振り返り 【key words】 教育相談・健康相談・養護教諭・信頼関係 【授業概要】 ワールドカフェについて理解する。 ワールドカフェにて授業を振りかえり、教育相談における養護教諭の役割を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。 また、配付資料や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態 度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・学校現場における不登校など相談活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。内容を要約し、意見、感想を 述べられるよう努力するすること。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日12時から12時40分
評価方法	筆記試験（客観・論述）７０％、レポート３０％（授業内で課題を示す） 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第4次改定版》、第一法規、　2017
参考書	生徒指導提要：文部科学省、2012 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引：文部科学省、2011 新養護概説（第10版）　少年写真新聞社　2018
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 38年間養護教諭として勤務。小学校・中学校・高等学校経験あり。教育相談に携わる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職実践演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
樺澤　俊			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕学校教育について教職の意義および教員の役割と職務内容について理解し、学習指導案を立案し模擬授業を実践する。 〔到達目標〕教職に関する科目と、養護に関する科目の学校保健Ⅰ・学校保健Ⅱ・養護概説で学んだ内容の統合を図り、使命感や責任感に裏付けられた確実な実践的指導力および対応力を有する養護教諭としての資質能力を身に付けることができる。
授業の概要	学校教育における諸活動を通じて、養護教諭の確実な実践的指導力および対応力が身に付くように、講義や演習、ロールプレイやプレゼンテーションなどを組み合わせて、実際の学校教育の場を想定した教育課題を取り扱う。また、専門的な事項や現場における諸活動についての理解を深めることができるように構成する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 科目オリエンテーション　養護教諭と教職実践 第２回 教職の意義および教員の役割と職務内容 第３回 教育の本質と教育に関する考え方 第４回 発達段階に応じた学習や指導の過程 第５回 子どもの権利条約と養護教諭学校教育の制度と教育課程の編成 第６回 学校教育の制度と教育課程の編成 第７回 教育方法と技術

	第８回 特別活動・総合的な学習の時間などにおける養護教諭の関わり 第９回 生徒指導・キャリア教育・教育相談と養護教諭 第１０回 教職実践から捉えた養護教諭の役割 第１１回 教職実践から捉えた養護教諭の役割 第１２回 習熟度別少人数指導・特別支援教育 第１３回 PTA・学校評議員・学校保健会委員・地域活動諸団体などとの連携 第１４回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（演習） 第１５回 養護教諭の視点から構想する学校づくり（発表）
受講生に関わる情報および受講のルール	1・2年次および3年次前期で学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 〇授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・新聞記事やインターネット、本などから学校教育に関する教育課題を取り上げ、その課題に関する情報収集を行い、グループ討議で発表する。
オフィスアワー	授業終了後の時間
評価方法	評価方法　筆記試験５０％　課題レポート４０％　出欠状況10％
教科書	教職実践演習テキスト：樺澤　俊、2015 文部科学省：小学校学習指導要領解説　総則編、体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008 文部科学省：中学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、特別活動編、総合的な学習の時間編、2008 文部科学省：高学校学習指導要領解説　総則編、保健体育編、2009
参考書	思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習：日本学校保健会、2009 小学校保健学習の指導と評価：日本学校保健会、2004 実践力を育てる中学校保健学習のプラン：日本学校保健会、2005
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育総合実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	2単位(90)	選択
担当教員			
丸井　淑美　山下博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「養護実習」をより効果的に行うための事前指導と事後指導を行う。養護教諭としての実践能力を高めるために、養護教諭の仕事を体験し、養護教諭の役割・機能を体験を通してまとめる。 【到達目標】 (1)学童・生徒の健康問題を知ることができる。 (2)養護教諭および保健室の役割、機能を理解し説明することができる。 (3)事前指導をとおして、養護実習における目的や方法、心構えを理解することができる。 (4)事後指導において、学生同士が学びを発表し、実習での学びを共有することができる。
授業の概要	養護実習を有意義なものにするために各教科で学習した内容を再度事前指導で要点を押さえ学習し、事後指導では養護実習の体験を振り返り養護教諭の役割及び保健室の機能についてまとめる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①学童・生徒の健康問題を知ることができる。	◎	○	○	○
②養護教諭および保健室の役割、機能を理解し説明することができる。	○	◎	○	○
③事前指導をとおして、養護実習における目的や方法、心構えを理解することができる。	○	○	◎	○
④事後指導において、学生同士が学びを発表し、実習での学びを共有することができる。	○	○	○	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション 【key words】 オリエンテーション、授業計画、実習の意義と目的 【授業概要】 オリエンテーション 授業内容と計画を説明する。

		教育総合実習実習の目標と目的について説明し、教育者としての自覚を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第2回	実習内容Ⅰ 【key words】 実習の概要、実習校事前打ち合わせ 【授業概要】 教育総合実習を履修するにあたっての留意点と実習の概要について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第3回	実習内容Ⅱ 【key words】 実習校の概要、健康課題 【授業概要】 実習校および実習地域についての理解を深めるとともに、児童生徒の健康課題を探る。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第4回	実習内容Ⅲ 【key words】 学校保健活動、養護教諭の職務、学校保健計画、学校環境衛生、定期健康診断、救急処置 【授業概要】 学校保健活動のすすめ方、学校保健計画の作成、学校環境衛生について解説する。 養護教諭の職務について理解し、定期健康診断、救急処置、児童生徒への対応について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第5回	実習内容Ⅳ 【key words】 学習指導案、模擬授業 【授業概要】 学習指導案細案の作成と模擬授業の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第6回	実習内容Ⅴ 【key words】 学習指導案、模擬授業 【授業概要】 作成した学習指導案に基づいて模擬授業の準備を実施し、自己および他者による相互評価を行う(1回目)。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第7回	実習内容Ⅵ 【key words】 学習指導案、模擬授業 【授業概要】 作成した学習指導案に基づいて模擬授業の準備を実施し、自己および他者による相互評価を行う(2回目)。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
	第8回	実習直前指導 【key words】 実習日誌、学校職員としての心構え 【授業概要】 実習日誌の記入方法、礼儀、実習における態度、言葉遣い、学校職員としての心構え、諸注意等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。

	第9回　実習評価Ⅰ 【key words】 実習に対する自己評価、実習結果報告 【授業概要】 実習に対する自己評価、実習後の感想、実習日誌を活用した結果報告をまとめさせる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第10回　実習評価Ⅱ 【key words】 事例検討、発表 【授業概要】 実習で学んだ事例をまとめ、テーマごとのグループに分かれてディスカッションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第11回　今後の学習の課題Ⅰ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（1回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第12回　今後の学習の課題Ⅱ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（2回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第13回　今後の学習の課題Ⅲ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（3回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第14回　今後の学習の課題Ⅳ 【key words】 実習報告会 【授業概要】 実習報告会での発表と、自己および他者からの相互評価を行う（4回目）。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 第15回　まとめ 【key words】 目指す養護教諭像、まとめと評価 【授業概要】 目指す養護教諭像、求められる養護教諭像について考える。 教育総合実習のまとめと評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、教育総合実習要項 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)実習要件 3年次までに養護教諭１種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。 (2)基本姿勢 実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。 (3)実習校の教職員に対して 実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。

	(4)教師としての自覚と責任 実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。 (5)「学ぶもの」としての自覚 実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。 (6)実習のピア支援 一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。（リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布される資料を熟読し復習する。（所要時間60分程度） 授業後に学習内容の振り返りレポートや書類などを所定の期限までに提出すること。 実習先自治体の教育方針や実習校の概要等を事前に理解して実習に臨むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	(1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①実習内容、実習目的・目標に対する理解状況 ②実習に向けた態度 ③実習記録・レポート提出についての理解度 (2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 レポート・記録60%、発表・討論20%、提出物20% 総合評価はレポート・記録、発表・討議、提出物を総合して60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県、埼玉県で養護教諭として実務経験のある教員が科目を担当する。実務経験を活かし、教育総合実習に必要な学校教職員としての資質や、学校保健活動における保健管理と保健指導について、具体的な事例を用いて解説する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育総合実習Ⅱ（養護実習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	2単位(90)	選択
担当教員			
丸井　淑美　山下博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学教育で習得した一般教養・教職教養および養護に関する専門的知識・技術を学校教育の場で実際に適用あるいは応用するとともに、実習の経験に基づいて理論的裏付けを確認する。また、学校教育に影響を及ぼす社会的事象や生活環境の変化等を理解して、現代的課題に応える教育者としての自覚を高める。 【到達目標】 (1)児童生徒の発育や発達段階について学習した内容を、学校教育の場で確認することができる。 (2)児童生徒の教育に必要な、養護教諭の専門的技術や能力を身に付けることができる。 (3)教室での学習活動の状況と、保健室に来室する児童生徒の実態を比較して、児童生徒の発達段階における特徴を理解することができる。 (4)学校の組織や運営を理解した上で、保健室経営に参画するすることができる。また、学校保健の視点を通して、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を体験する。 (5)養護教諭と学級担任や他の教職員との連携や協働のあり方を理解することができる。 (6)学校における救急体制を確認し、校内・校外での連携のあり方を養護教諭の体験した救急体制に関わる事例等の資料や講話を通して理解することができる。
授業の概要	養護実習をとおして学校保健、養護教諭の職務について具体的に学ぶことが主たる目的ではあるが、学校における教職員の役割や学級内外での児童生徒の様子もよく観察し、学びを深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①児童生徒の発育や発達段階について学習した内容を、学校教育の場で確認することができる。	◎	○	○	○
②児童生徒の教育に必要な、養護教諭の専門的技術や能力を身に付けることができる。	○	◎	○	○
③教室での学習活動の状況と、保健室に来室する児童生徒の実態を比較して、児童生徒の発達段階における特徴を理解することができる。	○	◎	○	○

④学校の組織や運営を理解した上で、保健室経営に参画するすることができる。また、学校保健の視点を通して、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を体験する。	◎	○	○	○
⑤養護教諭と学級担任や他の教職員との連携や協働のあり方を理解することができる。	○	○	◎	○
⑥学校における救急体制を確認し、校内・校外での連携のあり方を養護教諭の体験した救急体制に関わる事例等の資料や講話を通して理解することができる。	○	○	○	◎

授業計画	第１回　　各学校での実習 教育総合実習要項を参照
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)実習要件 3年次までに養護教諭１種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。 (2)基本姿勢 実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。 (3)実習校の教職員に対して 実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。 (4)教師としての自覚と責任 実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。 (5)「学ぶもの」としての自覚 実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。 (6)実習のピア支援 一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。（リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用
授業外時間にかかわる情報	実習先自治体の教育方針や実習校の概要等を事前に理解して実習に臨むこと。 実習日誌や振り返りレポート等は所定の期限までに提出すること。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	(1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①出席状況 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況 ③実習態度 ④実習記録・レポート (2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 ③上記評価票により、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階で総合的に評価する。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県、埼玉県で養護教諭として実務経験のある教員が科目を担当する。その経験を活かし、学校教職員としての資質や自覚、実習生としての態度、礼儀等について指導するとともに、実習が滞りなく進められるよう支援する。

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　健康障害児・生徒支援論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育の意義、在り方等の理解に基づき、健康障害を抱える幼児、児童及び生徒の自立と社会参加の促進、健康の維持・増進、安全の保障を目指した支援に必要な基本的知識・技術を習得する。 【到達目標】 ①健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援における基本理念を理解することができる。 ②健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族の特徴を身体・心理・社会的、発達的、教育的、治療的側面から理解し、健康障害の特性、ライフステージ等に応じた個別的、かつ生涯を見通した支援を進める中で必要な基本的知識・技術を得ることができる。 ③健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援において、諸分野との連携をはじめとした一体的な取り組みの重要性を理解することができる。
授業の概要	健康障害を抱える幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を学び、特別な支援に必要な知識、理解、教育的対応等について解説する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援における基本理念を理解することができる。	◎	○	○	○
②健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族の特徴を身体・心理・社会的、発達的、教育的、治療的側面から理解し、健康障害の特性、ライフステージ等に応じた個別的、かつ生涯を見通した支援を進める中で必要な基本的知識・技術を得ることができる。	○	◎	○	○
③健康障害を抱える幼児、児童及び生徒とその家族への支援において、諸分野と	○	○	◎	○

の連携をはじめとした一体的な取り組みの重要性を理解することができる。				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション「健康障害児・生徒支援論」 【key words】 科目オリエンテーション、特別支援教育、子どもの権利、ノーマライゼーション 【授業概要】 科目オリエンテーション 特別支援教育の現状・統計、子どもの権利、ノーマライゼーション、特別支援教育の理念・基本方針について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P17～、P24～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第２回	特別支援学校の教育 【key words】 小学校・中学校における特別支援教育 【授業概要】 特別支援学校および小学校・中学校における特別支援教育について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P49～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第３回	各障害に応じた教育の基本① 【key words】 視覚障害、聴覚障害、知的障害、 【授業概要】 各障害に応じた教育の基本(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P89～、P126～、P153～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第４回	各障害に応じた教育の基本② 【key words】 肢体不自由、病弱・身体虚弱、重複障害 【授業概要】 各障害に応じた教育の基本(肢体不自由、病弱・身体虚弱、重複障害)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P187～、P218～、P244～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第５回	各障害に応じた教育の基本③ 【key words】 言語障害、情緒障害、発達障害 【授業概要】 （演習）健康教育の実施１ 各障害に応じた教育の基本(言語障害、情緒障害、発達障害)について発表と評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015、P275～、P303～、P313～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第６回	現代的な健康課題と保健教育① 【key words】 性の多様性、人権、学校教育 【授業概要】 性の多様性と人権の観点から、児童生徒への支援の実際と支援者の役割を考える。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第７回	現代的な健康課題と保健教育② 【key words】 性の多様性、人権、保健室における児童生徒への支援の実際 【授業概要】 性の多様性と人権の観点から、保健室における児童生徒への支援の実際と養護教諭の役割について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料

	【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) 第８回　特別支援教育における養護教諭の役割 【key words】 特別支援学校における養護教諭の役割 【授業概要】 特別支援学校における養護教諭の役割について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行う。(所要時間60分程度) ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）70%、発表30%、 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	特別支援教育の基礎・基本新訂版、ジアース教育新社、2015
参考書	はじめての特別支援教育、柘植 雅義、渡部 匡隆、二宮 信一、納富 恵子 編、有斐閣、2014 特別支援教育の理論と実践、武田契一、上野一彦著、一般財団法人協会、2012 特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部、文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)、文部科学省
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、学校における特別支援教育及び健康上支援の必要な児童生徒について、自らが児童・生徒に主体的で対話的な学びを実践できるよう解説する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育社会学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　将来養護教諭として学校で児童生徒を指導するに当たって、必要な資質を身につけることを目的とする。その必要な資質として教育社会学の側面から学校、家庭、地域社会、関係機関などの教育機能や課題を理解し、社会、文化、経済など社会の諸機能との相互の関係をつかむ。そして未来社会を作る教育のあり方を創造する養護教諭の資質能力をつける。 ［到達目標］ ①教育社会学を学ぶ意義がわかる。 ②学校と家庭・地域との連携による教育機能の連携を考え、その効果を理解する。 ③喫緊の学校課題、学校安全への対応や食育、防災教育等の現状と今後の方策を考える。 ④青少年を取り巻く教育問題をとらえ、その対応策について自己の考え方を探求する。 ⑤教育がいかにあるかを理解した上で、教育がいかにあるべきかについて探求する。
授業の概要	＊授業形態は講義で現状分析し、グループ討議で今後のあり方を考える、という形式を取りながら、各自が積極的な授業参加を図る。１１回以降はテキストをグループや個人で分析し授業者の立場で課題発表する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 オリエンテーション（授業方法、授業計画、）教育社会学を学ぶ意義、各自の成育に関わった社会環境を洗い出し本授業の意義を確かめる。（説明、講義、課題探求） 第２回 教育がいかにあるか（学校の機能、家庭の教育機能、地域社会の教育機能を確かめ、3機能の連携を考える）講義　教育がいかにあるべきか（今日の授業から教育のどんな側面が見えるか）グループ討議、グループ発表 第３回 教育がいかにあるか（学校の機能、特色ある教育活動、スクールオブザイヤー最優秀・優秀校の実践を知る。）講義、教育はいかにあるべきか（教育活動に必要なものは何か）グループ討議・発表 第４回 教育がいかにあるか（社会教育が担う活動を知る、少年の船、おいっきり冒険隊のＶＴＲ、プログラム。社会教育団体の活動）講義　教育がいかにあるべきか（コミュニティースクールとの連携を考える）グループ討議・発表 第５回 教育がいかにあるか（生涯学習時代の意味するもの、地域社会の教育機能、草刈り十字軍、山村留学、通学合宿、農業学校、自然塾等）講義　　教育がいかにあるべきか　（体験活動は何をもたらすか、）グループ討議、発表 第６回 教育がいかにあるか（喫緊の学校課題である学校安全への対応、さらに食育、防災、消費者、

	キャリア、伝統文化、情報、シティズンシップ、人権教育等の現状・課題）講義。　教育がいかにあるべきか（学校と社会はどう連携できるか）グループ討議・発表 第７回 教育がいかにあるか（人類が求めるめる教育機能、ユニセフ、ユネスコ、ＥＳＤ、ネルソン・マンデラ、マララ・ユフザイ）講義　教育がいかにあるべきか（学校は社会の要請にどう応えるか）グループ討議・発表 第８回 教育がいかにあるか（行政の子育て支援や青少年育成、図書館、博物館、美術館、青少年施設等の教育的機能）講義　教育がいかにあるべきか（これから必要な子どもや青少年のための施設等）グループ討議・発表 第９回 教育がいかにあるか（特別支援教育を知る、学校、施策、民間の活動）　１つの教育技術「エコグラム」に挑戦、　教育がいかにあるべきか（特別支援教育にどう関われるか）グループ討議、発表 第１０回 教育がいかにあるか（子供・若者白書特集と２部第１章の統計資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 第１１回 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第２章２，３，４節の統計資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 第１２回 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第３章１節の統計資料等から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の現状から問題をつかみ今後の姿を想定する）グループ発表 第１３回 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部、第３章２節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表 第１４回 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部第４章１，２節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表 第１５回 教育がいかにあるか（子供・若者白書２部第４章３，４，５，６，節の資料から青少年の現状をつかむ）グループ発表、　教育がいかにあるべきか（白書の施策から課題をつかみ今後のあり方を探求する）グループ発表
受講生に関わる情報および受講のルール	＊各自授業中に行うアイスブレーキングを１つ考えておき、急な指名に答えられるようにしておくこと。＊教育に関する様々なニュースを日々確認しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	＊各自授業中に行うアイスブレーキングを１つ考えておき、急な指名に答えられるようにしておくこと。＊教育に関する様々なニュースを日々確認しておくこと。
オフィスアワー	コメントカードにて受付ます。授業後講師室にて質問受け付けます。
評価方法	①試験（論述）５０％　②レポート（授業プレゼン資料）３０％　③授業の討議資料２０％
教科書	「子供・若者白書」内閣府を使用します。事前購入は不要、授業中に詳細連絡します。
参考書	小学校指導要領、中学校指導要領　　水谷修著「約束」「ありがとう」
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　医療英会話　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	選択
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】看護現場で患者やスタッフと意志疎通をはかることができるようになる。 【到達目標】　①看護現場で使用頻度の高い単語・語いを聞きとれ、発音することができる。 ② 会話に必要な基本的な文法を理解し、応用できる。 ③ 覚えた表現を応用して様々な場面での会話に対応できるようになる。
授業の概要	医療現場で想定される様々な会話表現を、授業で身につけた表現を使って実際に会話を練習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	Unit1 Asking Basic Question　基本的な質問をする　文法：be動詞、一般動詞 自己紹介の仕方を学ぶ。基本的な動詞の使い方を確認する。
	第２回	Unit2 A Patient's First Vist　患者の情報を聞き出す　文法：疑問文と受け答え 初診の患者が訪れたときに使う表現をいくつかの事例で学ぶ。
	第３回	Unit3 Where's Internal Medicine　病院内を案内する　文法：命令形 病院内で患者に正確な道案内ができるようにするための表現を学ぶ。
	第４回	Review Unit1～3　文法：動詞の使い方、疑問詞の復習 Unit１～３で扱った内容の中で重要な表現を練習する。
	第５回	Unit4 Admisson to the Hospital　入院患者に病院の説明をする　文法：前置詞 入院患者に入院時の注意事項・設備の利用方法を説明する表現を学ぶ。
	第６回	Unit5 Giving Information　病院の規則を説明する　文法：量を表す表現 病院の規則を説明する表現を学ぶ。
	第７回	Unit6 Symptoms　患者から病状を聞き出す　文法：haveの使い方 患者の症状・症状が続いている期間・症状の起こる頻度などを尋ねる表現を学ぶ。
	第８回	Review Unit4～6　文法：頻出基本動詞、前置詞、(不)可算名詞 Unit4～6で扱った内容の中で重要な表現の練習をする。
	第９回	Unit7 Injuries and Emergencies　緊急外来での会話　文法：過去形 緊急外来での事例をいくつか想定して対応に必要な表現を学ぶ。
	第１０回	Unit8 How Are You Feeling　現在の病状を聞き出す　文法：進行形 朝の病棟ラウンドのときによく使う表現を学ぶ。
	第１１回	Unit9 A Patient Medical History　患者の病歴を尋ねる　文法：時を表す表現 患者の病歴を尋ねる時に必要な表現を学ぶ。主要な病気を表す単語を覚える。
	第１２回	Unit10 Medicine　処方された薬について説明する　文法：頻度の副詞

	薬の用法の説明に必要な表現と「頻度」の聞き方と答え方を学ぶ。 第１３回　Unit11 I'm Going to Give You an IV　様々な処置の説明をする　文法：未来形 手術の手続き・手術前後の注意事項の説明に必要な表現を学ぶ。 第１４回　Unit12 Congratulations!　妊娠、出産前後の注意事項を知らせる　文法：代名詞 妊娠・出産に関する診療・入院・分娩時によく使う表現を学ぶ。 第１５回　まとめ　重要な文法事項の復習をし、頻出会話表現を練習する Unit1～12で学んだ重要表現をAppendix1～12を使って練習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	音声重視の授業です。会話練習、発音練習は大きな声を出して積極的に取り組むこと。 会話の基礎になる文法の練習は各自しっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当ページの予習（会話の部分のCDを聞く）をして授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	期末筆記試験（客観、論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	Speaking of Nursing　南雲堂
参考書	講義の中で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　韓国語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(30)	選択
担当教員			
朴　恵蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 第２回 ハングルの母音、出会いの挨拶 第３回 ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶 第４回 ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話 第５回 ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話 第６回 ハングルのパッチム、お願いの時の会話 第７回 ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶 第８回 ハングルの発音の法則　弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化 第９回

	ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記 第１０回 パソコンでのハングルの入力の仕方 第１１回 ～は～ですの文型、自己紹介 第１２回 ～は何ですか？の文型　指示代名詞 第１３回 疑問詞を用いての分の表現　（いつ、どこ、なに、だれ） 第１４回 ある、ない、分かる、分からないの表現 第１５回 読み書きのまとめ、日常会話の復習
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　レクリエーション活動援助法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）　として、実践できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。 2.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。 3.レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。 4.安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目　オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】

これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。

第２回　レクリエーションへの期待

【key words】
生活者　支援者　人を支える

【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。

第３回　コミュニケーション・ワーク　（ アイスブレーキング）

【key words】
同時発声・同時動作　合図出し

【授業概要】
アイスブレーキングを、単に「素材を楽しませる」ものではなく、一体感、安心感を提供するための方法とし展開するための基本的な技術が同時発声・同時動作であることを理解する。また同時発声・同時動作に含まれる合図出し中心に技法を体験的に学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P250～255

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P254～255の演習を解いておくこと。

第４回　日常生活におけるレクリエーションのとらえ方

【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活

【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと

第５回　生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化

【key words】
生活のレクリエーション化

【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化の違いについて復習しておくこと。またボランティア活動をとおして日常のレクリエーションとは何かを理解すること。

第６回　個々のアセスメントに基づいたの実際　(A-PIEプロセス)

【key words】
A-PIEプロセス

【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45

【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストに出ている事例を確認し、自らがこのプロセスに基づいて計画が立てられるようにしておくこと。

第７回　治療的意味合いを含めたレクリエーション　（セラピューティックレクリエーションサービス）

【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション

【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168

【課題・予習・復習・授業準備指示】
過去、現在、未来と結びつけて対象者の主体性を引き出すレクリエーションサービスとはどのようなものか考えておく

	第８回　　レクリエーション計画発表およびまとめ（ ふりかえり・評価 ） key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。　また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	授業の前後30分は対応可能
評価方法	ﾚﾎﾟｰﾄ試験　70%　　グループワーク及び発表　　30%　　(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域スポーツクラブでの指導経験あり アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
奥泉　宏康　金子　由夏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②脳神経系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	運動器系・脳神経系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ガイダンス、運動器系の疾患の理解と治療1： 骨折①上肢の骨折(上腕骨顆上骨折、橈骨骨折、鎖骨骨折など) 第２回 運動器系の疾患の理解と治療2： 骨折②下肢の骨折(大腿骨頸部骨折、大たい骨骨折、脛骨・踵骨骨折など) 第３回 運動器系の疾患の理解と治療3：脊椎の疾患①椎間板ヘルニア、側弯症他 第４回 運動器系の疾患の理解と治療4：脊椎の疾患②脊髄損傷、脊髄腫瘍 第５回 運動器系の疾患の理解と治療5：神経麻痺 第６回 運動器系の疾患の理解と治療6：先天性疾患(内反足、先天性股関節脱臼等) 第７回 運動器系の疾患の理解と治療7：骨腫瘍 第８回 脳神経系の疾患の理解と治療1：脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(内科的治療) 第９回 脳神経系の疾患の理解と治療2：脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血（外科的治療） 第１０回 脳神経系の疾患の理解と治療3：脳腫瘍 第１１回 脳神経系の疾患の理解と治療4：パーキンソン病、ALS

	第１２回 脳神経系の疾患の理解と治療5：脊髄小脳変性症、髄膜炎など 第１３回 脳神経系の疾患の理解と治療6：認知症 第１４回 脳神経系の疾患の理解と治療7：脱髄性疾患、脳性まひ他 第１５回 脳神経系の疾患の理解と治療8：その他
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（脳神経50点、運動器50点）
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　脳・神経　医学書院、ナースのためのやさしくわかる整形外科　ナツメ社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
金井　希斗　松本　吉郎　高玉　篤　松山　敏之　笹澤　武史			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①感覚器系（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②精神神経系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③歯科領域の疾患と人間の反応について概説できる。
授業の概要	感覚器領域（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科）ならびに精神神経系と歯科領域の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ガイダンス、感覚器系疾患1　眼科の疾患の理解と治療①遠視、近視、老視、白内障 第２回 感覚器系疾患2　眼科の疾患の理解と治療②緑内障、感染性疾患他 第３回 感覚器系疾患3　耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療①喉頭部の疾患 第４回 感覚器系疾患4　耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療①鼻腔の疾患 第５回 感覚器系疾患5　耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療①耳の疾患 第６回 感覚器系疾患6　皮膚科の疾患の理解と治療①皮膚炎、湿疹、感染性疾患 第７回 感覚器系疾患7　皮膚科の疾患の理解と治療②皮膚悪性腫瘍、褥瘡 第８回 精神疾患の理解と治療1：精神疾患の特徴 第９回 精神疾患の理解と治療2：精神発達遅滞、パーソナリティ障害 第１０回 精神疾患の理解と治療3：不安障害(神経症）、心身症・身体表現性障害、 第１１回

	精神疾患の理解と治療4：統合失調症 第１２回 精神疾患の理解と治療5：躁うつ病 第１３回 精神疾患の理解と治療6：児童期の精神疾患、老年期の精神疾患 第１４回 精神疾患の理解と治療7：アルコール依存症、薬物依存と中毒 第１５回 歯科領域の疾患の理解と治療：齲蝕、歯周病、保存治療、補綴治療
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後30分
評価方法	筆記試験100％（眼15点、耳鼻15点、皮膚15点、歯5点、精神50点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　眼、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　耳鼻、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　皮膚 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　歯・口腔：医学書院 精神看護学Ⅰ「精神保健学」、精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」：ヌーベルヒロカワ
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
栗原　卓也　多田　真和　林　博			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①生殖器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③高齢者特有の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	1.　生殖器系疾患の病態生理と治療について学ぶ。 2.　小児期にある子どもおよび高齢者に特有な疾患を取り上げ、各疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について教授する。これらの疾患の治療に伴う看護を考える基礎知識とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ガイダンス、生殖器系疾患の理解と治療1：子宮筋腫・子宮がん 第２回 生殖器系疾患の理解と治療2：卵巣のう腫・卵巣がん、不妊 第３回 生殖器系疾患の理解と治療3：乳がん 第４回 生殖器系疾患の理解と治療4： 第５回 ■代謝・内分泌疾患　：　新生児マススクリーニング対象疾患、１型糖尿病など ■免疫・アレルギー性疾患　：　アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、若年性関節リウマチなど 第６回 ■感染症　：　急性乳幼児下痢症、麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘・帯状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、急性灰白髄炎、日本脳炎、インフルエンザなど 第７回 ■呼吸器疾患　：　気管支喘息、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、仮性クループなど ■腎・泌尿器疾患　：　ネフローゼ症候群など 第８回 ■循環器疾患　：　先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、ファロー四徴症など）、後天性心疾患（川崎病、リウマチ性弁膜症など） 第９回 ■消化器疾患　：　口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞、腸重積症、ヒルシュスプルング

	病、直腸肛門奇形・鎖肛、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症など 第１０回 ■血液疾患：血友病、血管性紫斑病、突発性血小板減少性紫斑病など ■腫瘍性疾患：神経芽腫、ウイルムス腫瘍、急性リンパ性白血病、脳腫瘍など ■神経疾患：髄膜炎、てんかん、水頭症、熱性けいれん、憤怒けいれん、脳性まひ、進行性筋ジストロフィー、二分脊髄症など ■運動器・骨格器疾患：先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、脊柱側弯症、骨折、合指症など 第１１回 ■皮膚疾患 ： 色素性母斑，熱傷など ■眼疾患 ： 結膜炎，全色盲，先天性白内障・緑内症，斜視など ■耳鼻咽喉疾患 ： 外耳奇形，中耳炎，副鼻腔炎，アデノイド増殖症，口蓋扁桃肥大など 第１２回 老年特有の疾患の理解と治療1： 第１３回 老年特有の疾患の理解と治療2： 第１４回 老年特有の疾患の理解と治療3： 第１５回 老年特有の疾患の理解と治療4：
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（生殖器25点、小児50点、老年25点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論：医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】人々の基本的生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。 【到達目標】日本の今の現状、特に人口動態、失業率、所得、余暇、婚姻、家族機能などを公衆衛生学という学問から学んでいってほしいと思います。公衆衛生の概念と疫学的手法、特にコホート研究、患者対照研究、無作為化比較対照試験の基礎を学び、研究マインドを持つ看護師としての活躍してほしいと思います。また地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、日本の高度経済成長期に起こった公害、現在の地球環境問題などを学び、地球人として何ができるかを考えるきっかけをつかんでください。
授業の概要	公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれることがわかる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ 第２回 家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ 第３回 公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ 第４回 疫学的方法による健康の理解について学ぶ 第５回 人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ 第６回 母子保健統計について学ぶ 第７回 地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ 第８回 ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

受講生に関わる情報および受講のルール	講義の全資料は、初回の講義で配布するので、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポートを次回講義までに提出すること。 ３）
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	配布した講義資料を活用して加筆し、定期試験のときに持ち込み可とします。定期試験結果（80%）や講義中の質疑応答など（20%）で総合的に評価する。
教科書	テコム編集委員会編集　みるみるナーシング　健康支援と社会保障制度　最新版　テコム
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疫学・保健統計の実際　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
種村　菜奈枝			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　疫学研究の情報を収集し、結果を吟味し、実際の保健活動に応用することができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①看護師国家試験・保健師国家試験の過去問を確実に解答できるようになる。 ②研究データを収集し、批判的吟味を加えることができる。 ③科学的根拠に基づいた保健活動を具体的に計画できる。
授業の概要	保健活動を行う上で、科学的根拠に基づいて計画を立案することが必須である。この授業では、基礎編の復習から開始し、将来科学的根拠に基づいて行動できる保健師・看護師・養護教諭となることができるように、その考え方と手法を具体的に学ぶ。高校過程での統計学の未履修者に対しても配慮しながら、授業を進める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 授業のガイダンス、成績評価の方法、疫学的な見方とは何か 第２回 文献の集め方、読み方 第３回 疫学研究における倫理 第４回 第１回から第３回に関する復習および演習 第５回 保健活動に必要な疫学の実践（１）：遡り調査による原因の推定　※電卓持参 第６回 保健活動に必要な疫学の実践（２）：生活習慣病予防対策の評価　※電卓持参 第７回 第４回から第６回に関する復習および演習　※電卓持参 第８回 保健活動に必要な疫学の実践（３）：感染症予防対策の評価　※電卓持参 第９回 保健活動に必要な疫学の実践（４）：スクリーニング検査結果の評価と保健指導　※電卓持参 第１０回 第７回から第９回に関する復習および演習　※電卓持参

	第１１回 保健活動に必要な疫学の実践（５）：疫学統計、疾患登録の意義　※電卓持参 第１２回 統計ソフト紹介、データのまとめ方　※パソコン持参 第１３回 Rを用いた統計演習１：記述統計　※パソコン持参 第１４回 Rを用いた統計演習２：２群の比較（カイ２乗検定）　※パソコン持参 第１５回 Rを用いた統計演習３：２群の比較（ｔ検定及びMann-Whitney U検定）、多変量解析　※パソコン持参
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・1日3コマの集中講義で行うため、1日欠席すると内容についてこれなくなる可能性がある。 ・実際に計算を行う実習もあるため、ノートパソコン、電卓が必要な授業もある。 〔受講のルール〕 課題提出に関して、他人の課題あるいはウエブ情報などの丸写しに対しては厳しく望む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	ほぼ毎回課題を出す。
オフィスアワー	講義終了後30分
評価方法	テスト100%、総合評価は60%を超えていることが前提となる。
教科書	1. 基本からわかる　看護疫学入門　第３版　医歯薬出版株式会社　2017 2. フリー統計ソフトEZR（Easy R）で誰でも簡単統計解析　南江堂　2014
参考書	1. 基礎から学ぶ楽しい疫学　第３版　医学書院　2012 2. 保健統計・疫学 第５版　南山堂 2014 3. 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計　第２版　南山堂　2013
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護関連法規　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】看護師の身分・業務に関する法令を理解すると共に看護領域の法令との関連が把握できるための基礎知識が理解できる。 【目標】 １．看護師の法的身分・業務に関する法令が理解できる ２．看護師の業務に関する法令を学習し、その必要性が理解できる ３．看護師の業務に関する法令に関しての関心を持ち発展させることができる
授業の概要	看護師として活動するにあたって必要な法規について、関連領域との「関連を含めて理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①１．看護師の法的身分・業務に関する法令が理解できる	◎	◎	◎	○
②２．看護師の業務に関する法令を学習し、その必要性が理解できる	◎	◎	◎	○
③３．看護師の業務に関する法令に関しての関心を持ち発展させることができる	◎	◎	◎	○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　・看護と法の関連　・　第1章法の概念 【授業概要】科目オリエンテーションを通して自身の学習姿勢を確認する。 法の概念、看護と関連法規、関連法規を取り巻く社会背景について学ぶ。 【key words】法の概念、看護と関連法規、関連法規を取り巻く社会背景 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ1～3．2～18 【課題・予習・復習・授業準備】法に関連する概念、衛生法について調べ学習をしてくる。授業計画を確認する。 第２回　・　第２章　看護法 【授業概要】・保健師助産師看護師法について ・目的・定義　・構造と付属法令　・免許　・研修　・義務・試験・学校養成所について学ぶ。 【key words】保健師助産師看護師法・目的・定義　・免許

	【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ20～50 【課題・予習・復習・授業準備】 保健師助産師看護師法に関するワークシートについて調べ学習をする。 保健師助産師看護師法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第３回　・　第２章　看護法 【授業概要】・保健師助産師看護師法について ・医療過誤　・罰則　・沿革について学ぶ。 【key words】保健師助産師看護師法・医療過誤　・罰則　・沿革 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ20～50 【課題・予習・復習・授業準備】 保健師助産師看護師法に関するワークシートについて調べ学習をする。 保健師助産師看護師法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第４回　・3章　医事法 【授業概要】医療法、主な医療関係法、保健医療資格法、医療を支える法について学ぶ。 【key words】医療法・主な医療関係法・保健医療資格法・医療を支える法 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ52～74 【課題・予習・復習・授業準備】医事法に関するワークシートについて調べ学習をする。 医事法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第５回　・４章　保健衛生法 【授業概要】共通保健法、分野別保健係法、食品に関する法について学ぶ。 【key words】共通保健法、分野別保健係法、食品に関する法医療法 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ120～157 【課題・予習・復習・授業準備】保健衛生法に関するワークシートについて調べ学習をする。 保健衛生法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第６回　・５章　薬務法　・7章　社会保険法 【授業概要】薬事一般に関する法、麻薬・毒物、社会保険法などについて学ぶ。 【key words】薬務法・麻薬・毒物・社会保険法 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ162～210 【課題・予習・復習・授業準備】薬務法、社会保険法に関するワークシートについて調べ学習をする。 薬務法、社会保険法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第７回　・8章　福祉法　・9章　労働法と社会基盤整理 【授業概要】福祉法、福祉の基盤、児童分野、障害分野、労働法と社会基盤整理、労働法、社会基盤整 備について学ぶ。 【key words】福祉法・労働法・社会基盤整理 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院Ｐ212～252 【課題・予習・復習・授業準備】福祉法・労働法のワークシートについて調べ学習をする。 福祉法・労働法薬務法に関して記入したワークシートについて復習をする。 第８回　看護学実習と看護に関する法規との関連 【授業概要】此れまで体験した看護学実習と関連する法律との関連を整理、考察し報告する。 他のグループの発表を通して看護学実習と看護に関する法規との関連の学びを深める。 【key words】看護活動・看護に関する法規 【教科書ページ・参考文献】看護関係法令　健康支援と社会保障制度④医学書院 【課題・予習・復習・授業準備】体験した実習場面と関連する法律に関して個人ワークをして臨む。
受講生に関わる情報および受講のルール	・予習復習は必ず行う、テーマに関しては主体的に学び参加する。 ・グループワークに於いてはメンバー間の尊重、各々役割を発揮する。 ・遅刻、早退については担当教員に申し出る。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業時間内及び終了後の質問時間の活用、コメントカードの利用
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する
オフィスアワー	在室時を利用する
評価方法	1．筆記試験（80%）　2．グループワークへの参加度（20%）
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野「健康支援と社会保障制度」　④看護関係法令　医学書院　2017年版
参考書	・田村やよい著：私たちの拠りどころ、保健師助産師看護師法第2版、日本看護協会出版会、2015 ・今西晴彦著：「健康支援と社会保障」医療関係法規、メデイカ出版、2016
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟・外来実務経験19年、看護管理者経験あり。訪問看護ステーション同行訪問、老人保健施設、介護老人福祉施設等における研修体験がある。

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　チーム医療論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 　チームケア・チーム医療に関する基礎的知識技術態度について学び、　対象者へのチームケア・医療のあり方について修得 【到達目標】 　①チームケア・チーム医療の目的・意義・方法・各職種の役割について理解できる。 　②対象に必要なチームケア・チーム医療のアセスメントが理解できる 　③地域包括ケアシステム、退院支援における円滑なチーム医療提供の方法が理解できる 　④事例展開を通じてチームケア・チーム医療のあり方を学ぶと共に、チームケア・チーム医療への関心がもてる。
授業の概要	看護を取り巻くチームケア・医療の現状を把握し、多様なニーズに対応できるために必要な知識技術態度を理解する。ケアの実践ができるために多様な状況・状態にある事例展開を通して実践力、チーム医療に必要な態度を養う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①①チームケア・チーム医療の目的・意義・方法・各職種の役割について理解できる	◎	◎	◎	○
②対象に必要なチームケア・チーム医療のアセスメントが理解できる	◎	◎	◎	○
③地域包括ケアシステム、退院支援における円滑なチーム医療提供の方法が理解できる	◎	◎	◎	○
④事例展開を通じてチームケア・チーム医療のあり方を学ぶと共に、チームケア・チーム医療への関心がもてる	◎	◎	◎	○
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　科目のオリエンテーション　・チームケア・チーム医療の概念			

	[授業概要]本科目のオリエンテーションを通じて自身の科目に向かう姿勢を確認する。 チームケア・チーム医療の目的・意義、チーム医療の歴史、背景について学ぶ。 [key words]チームケア・チーム医療・チームケアの背景 [教科書ページ・参考文献]チームケア論　ぱる出版　P3－43、資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]新聞記事、雑誌等からチームケア・チーム医療に関する話題を収集してくる。授業計画を確認する。 第２回　チームケアの可能性、チーム医療と当事者参画 [授業概要]チームケアの可能性、チーム医療と当事者参画について学ぶ。 [key words]チームケアの可能性、当事者参画 [教科書ページ・参考文献]チームケア論　ぱる出版　P60－78、資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]本日の授業内容について復習する。 次回授業の課題・事例展開について調べ学習をする。 第３回　健康段階に応じたチームケア・チーム医療 [授業概要]健康段階に応じて編成されるケアチームの特徴（関連する職種含む）、ケアの目標、生活 の質について学ぶ。 健康段階に応じて編成されるケアチームについて演習を通じて学習する。 [key words]健康段階・健康段階に応じて編成されるケアチーム・健康段階と関連職種 [教科書ページ・参考文献]チームケア論　ぱる出版　P87－111、資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]　授業の課題・事例展開について調べ学習をする 第４回　健康段階に応じて編成されるケアチームの特徴 [授業概要]健康段階に応じて編成されるケアチームの特徴（職種とその役割）について事例展開を通 じて学習する。 [key words]健康段階・健康段階に応じて編成されるケアチーム・ケアチームの特徴 [教科書ページ・参考文献]チームケア論　ぱる出版　P114－159、資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]次回授業の課題・事例展開について調べ学習をする。 第５回　退院支援におけるチームケア・チーム医療　、医療と福祉の接点 [授業概要]退院支援（在宅療養移行支援時）におけるチームケア・チーム医療につて学ぶ。 [key words]退院支援・チームケア・事例展開 [教科書ページ・参考文献]チームケア論　ぱる出版　P114－159、資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]次回授業の課題・事例展開について調べ学習をする。 第６回　多様な状態にある対象のチームケア・医療の実際（アセスメント計画立案） [授業概要]多様な状態（脳血管疾患後遺症の事例・ターミナル期）にある対象へのチーム医療の方法 在宅療養移行支援時のチームケアについて事例展開を通して学習する。 [key words]多様な状態にある対象・在宅療養移行支援 [教科書ページ・参考文献]　資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]授業の課題・事例展開について調べ学習をする。 第７回　多様な状態にある対象のチームケア・医療の実際（アセスメント計画立案） [授業概要]多様な状態にある対象へのチーム医療の方法 在宅療養移行支援時のチームケアについて事例展開を通して学習する。 [key words]多様な状態にある対象・在宅療養移行支援・チームケア [教科書ページ・参考文献]　資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]授業の課題・事例展開について調べ学習をする。 第８回　多様な状態にある対象のチームケア・医療の実際（アセスメント計画立案） [授業概要]多様な状態にある対象へのチーム医療の方法 在宅療養移行支援時のチームケアについて事例展開を通して学習する。 事例展開の報告を聞き学びを深める。 [key words]多様な状態にある対象・在宅療養移行支援・チームケア [教科書ページ・参考文献]　資料配布 [課題・予習・復習・授業準備]本科目での学びを振り返り記録をする。事例展開について調べ学習 をする。
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・欠席や遅刻をする場合は必ず担当者に連絡をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・チームケア・医療、地域包括ケアシステム、退院支援に関するトピックス、看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨む。グループワークにおける自身の役割が、チームケア・医療における態度につながることを認識してワークに取り組む。
オフィスアワー	授業終了日　17迄
評価方法	課題レポート７0%、授業の取り組み30%
教科書	鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.
参考書	１．日本看護協会編：平成26年度版看護白書　地域包括ケアシステムと看護　２014. 2．樋口キエ子・式恵美子著退院支援から在宅ケアへ，筒井書房，2010. 3．川島みどり著：チーム医療と看護，看護の科学社，2014. 4．嶋崎謙二：看護白書、平成26年版、日本看護協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟・外来実務経験19年、看護管理者経験あり。訪問看護ステーション同行訪問、老人保健施設、介護老人福祉施設等における研修体験がある。多職種連携に関する研究複数、地域お

	ける他職種連携研修の企画実施3年間経験ある。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　リハビリテーションの基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	選択
担当教員			
小島　俊文　山口　智晴　牛込　裕樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 リハビリテーションの理念について理解するとともに、理学療法および作業療法を中心としたリハビリテーション専門職についても理解することで、看護との関係について考え、多職種連携の必要性についても理解することを目的とする。 【到達目標】 ①リハビリテーションとは何か、その定義を理解して説明ができる。 ②理学療法について興味を持ち、職業内容について理解して説明ができる。 ③作業療法について興味を持ち、職業内容について理解して説明ができる。
授業の概要	本講義では、医療医療分野におけるリハビリテーションについて理学療法および作業療法の分野から説明を行う。リハビリテーションは常にチーム医療として実施されるため、看護との関わりや、リハビリテーション専門職としての役割をわかりやすく説明する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 リハビリテーションの定義と目的・障害の捉え方（ICF） 第２回 理学療法とは　～理学療法の定義と治療手段について学ぶ～ 第３回 作業療法とは　～作業療法の定義と専門領域について学ぶ～ 第４回 作業療法の手段　～作業療法の具体的な関わりについて学ぶ～ 第５回 理学療法の実際①（本町キャンパスにて） 第６回 理学療法の実際②（本町キャンパスにて） 第７回 作業療法の実際①（本町キャンパスにて） 第８回 作業療法の実際②（本町キャンパスにて）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁です。 学生者としての態度、自ら考え学ぶための学習方法とその習慣について、大学生としての基本的な姿勢についてしっかり築きあげていって下さい。受講にあたり、以下の授業時間外学習を進めて下さ

	い。 なお、4～8回目はリハビリテーション学部で開講されます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	受講にあたって事前に、日本理学療法士協会のホームページ（http://www.japanpt.or.jp/）と、日本作業療法士協会のホームページ（http://www.jaot.or.jp/）を閲覧し、理学療法士と作業療法士の仕事内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	授業内小テスト50%･提出課題（理学療法と作業療法について事前と事後に調べたことを提出）：50%
教科書	指定なし
参考書	栢森良二(著)：学生のためのリハビリテーション医学概論-第2版-，医歯薬出版，2015. 鈴木憲雄（著）：人間作業モデルで読み解く作業療法，シービーアール，2017. 山口晴保・山口智晴（編）：認知症の本人・家族の困りごとを解決する医療・介護連携の秘訣．協同医書出版社．2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保健医療福祉政策論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久保　裕樹　吉村　健佑			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 我が国における保健医療福祉政策の骨子としくみについて理解し、諸施策が国民の生活をどのように支えているのかを学ぶ。 我が国の国民動態から保健医療福祉政策がどのような歴史的変遷を辿ったのかを踏まえながら、我が国が現在抱えている社会保障に関わる諸問題について熟考し、論議を展開できる。 【到達目標】 保健医療福祉に関わる主要な諸政策について、概要を理解できる。 国民生活において、社会保障はどのような機能を果たしているかを理解できる。 人口統計をはじめとする国民動態統計から、今後の日本の社会保障がどのような社会的ニーズを満たすべきかを推論できる。 現状の社会保障のしくみとなりたちを踏まえた上で、今後の社会保障のあり方について自分なりの考えを持ち、伝えることができる。 グループ討議とプレゼンテーションを通して、学びを他者に伝え共有し、チームとして目標達成するスキルを身につける。
授業の概要	人々の生活と福祉を護る諸制度の仕組みを、歴史的な流れ及び世論の動向で概説し、看護活動の実践に向けて、適用するための方法を教授する。また、保健医療福祉制度の課題と制度の変化の現状についても論究する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 イントロダクション/保健医療福祉と住民・医療従事者の関係性 第２回 保健医療福祉政策各論①医療介護連携とそれにまつわる現場の声 第３回 保健医療福祉政策の看護職の課題：グループワーク・課題設計 第４回 保建医療福祉政策総論①：保健医療福祉制度の関係性（各医療機関・福祉機関の役割、各職種の役割と連携） 第５回 保健医療福祉政策総論②：国・都道府県・市区町村の保健医療福祉制度 第６回 保建医療福祉政策総論②：保健医療福祉制度の変遷・改革（法改正・省庁通知・ガイドライン） 第７回 保健医療福祉政策総論③:社会保障の理念・役割・意義

	第８回 保健医療福祉政策総論③:地域包括ケアと医療機関の取り組み・地域医療構想 第９回 保健医療福祉政策各論④:診療報酬制度の変化による医療・福祉機関への影響 第１０回 保健医療福祉政策各論④我が国の保険医療福祉政策の課題（人口動向・高齢化・地方格差など） 第１１回 保健医療福祉政策総論⑤保険医療福祉行政の仕組みと法体系 第１２回 保健医療福祉政策各論⑤保険医療福祉政策の現状 第１３回 保健医療福祉政策の看護職の課題②：グループワーク・課題解決 第１４回 保健医療福祉政策の看護職の課題③：グループワーク・課題解決発表 第１５回 保健医療福祉政策の看護職の課題④：グループワーク・課題解決発表
受講生に関わる情報および受講のルール	人々の病気、健康問題は医療・保健・福祉分野にとどまらず国及び地方、世界の政治、経済、社会情勢などと密接に関連しているので、常に新聞、テレビ等のニュース、記事を収集し自らの問題の所在、方策を考える習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	「受講生に関わる情報および受講のルール」を参照。
オフィスアワー	E-mailでの質問等は随時対応する
評価方法	出席状況、課題グループワークの参加、課題グループワークプレゼンテーション、課題レポートにより評価する。 グループワーク課題「看護職としてテーマに対して何ができるか？」 テーマ①地域包括ケア②医療介護連携③保健師と医療機関連携④医療福祉制度の課題
教科書	なし
参考書	「看護職者のための政策過程入門―制度を変えると看護が変わる」日本看護協会出版会 「【経営感覚】と【看護の心】を両立させる！ 組織づくりとマネジメントの鉄則: 経営に貢献できる」　メディカ出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　母性看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
島田　壽美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 母性看護の目的や対象の理解を行い、社会のニーズに即した看護の役割機能について考察することができる。　[到達目標] １．母性看護の対象について理解することができる。 ２．母性を取り巻く環境や社会制度について理解することができる。 ３．ウィメンズヘルスの立場からリプロダクティブヘルス・ライツについての認識を高める。 ４．母性看護の現状と今後の展望を考えることができる。
授業の概要	「母性とは、現に子どもを産み育てているもののほか、将来子どもを産み育てるべき存在及び過去にその役目を果たしたもの」というWHOの定義の視点から、各ライフステージにおける母性について理解する。また、各期にある母性を取りまく制度・環境についても理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①母性看護の対象について理解することができる。	◎	△	○	△
②母性を取り巻く環境や社会制度について理解することができる。	◎	○	○	△
③ウィメンズヘルスの立場からリプロダクティブヘルス・ライツについての認識を高める。	○	◎	○	○
④母性看護の現状と今後の展望を考えることができる。	○	△	○	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　母性看護学概論および母性看護学領域の授業についてのガイダンス、母性看護学とは、母性とは 【key words】 母性とは　母性の概念　母性看護の目的 【授業内容】 科目の位置づけとシラバスの説明。母性とは何かを幅広く考え、母性をめぐるさまざまな定義を理解し、母性看護学における母性の捉え方について理解を深める。母性の概念と母性看護の対象さらに母性看護の視点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

		p2～p1 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母性をめぐる定義について予習を行って臨む。
	第２回	母性看護の基盤となる概念：母子関係、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス・ライツ、ヘルスプロモーション、生命倫理 【key words】 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス・ライツ、ヘルスプロモーション 【授業概要】 人間の性を示すセクシュアリティについて学ぶ。リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、母性看護を含む今後のヘルスケアの課題を学ぶ。母性看護の対象者を看護する上で重要な概念であるヘルスプロモーションの考え方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p20～p44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス／ライツについて予習を行って臨む。
	第３回	対象の理解（１）：生殖機能・形態、内分泌環境など 【key words】 生殖器、　性周期　、性染色体、　性分化 【授業概要】 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化より母性看護の対象を理解する。生殖器の形態および機能について理解し、特に女性については月経周期による変化について理解する。性分化のしくみと生殖器の発育過程を理解し、おもな性分化疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p96～p124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体構造機能学の生殖器系を復習しておく。
	第４回	対象の理解（２）：母性の発達、家族の発達 【key words】 愛着、　母子相互作用、　家族機能、　世代間伝達、　親役割 【授業概要】 母性の発達や家族の発達を理解することにより、母性看護の対象の特徴を理解する。愛着行動・母子相互作用から母子関係形成について理解する。家族機能や家族の発達課題について理解する。母性の世代間伝達における内的作業モデルについて理解し、現代社会における「親になること」の課題について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 p13～p19　、　p130～p144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着、母子相互作用について理解する。母親役割について書かれた論文を事前に読んで臨む。
	第５回	母性の健康と社会（１）：母性保健の変遷と現状、母子保健統計、母子保健行政 【key words】 出生率、　妊産婦死亡、　死産率、　周産期死亡、　母子保健法　、労働基準法、　妊娠の届け出、　母子健康手帳 【授業概要】 母性を取り巻く環境の特徴と、それらが母性の役割に及ぼす影響について理解する。母性を取り巻く現状として、出生・死産・周産期死亡・新生児死亡・乳児死亡・妊産婦死亡について社会の変化と関連させて理解する。わが国と海外の主要国の母子保健の特徴について理解できる。安全な妊娠・分娩を確保するためにさまざまな法律や施策を理解する。安心して子育てができるための諸制度を知り、看護活動に生かす。 【教科書ページ・参考文献】 p54～ｐ85 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードについて定義を理解しておく。
	第６回	母性の健康と社会（２）：社会環境、労働環境、子育て環境、国際化社会と育児、など 【key words】 婚姻の動向、　地域社会、　　生物学的環境、　社会文化的環境、　男女共同参画社会 【授業概要】 母性を取り巻く環境の特徴と、それらが母性の役割に及ぼす影響について理解する。母性を取り巻く現状として、社会環境、労働環境、子育て環境、国際化社会と育児、などについて社会の変化と関連させて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p86～p93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードについて定義を理解しておく。
	第７回	ウイメンズヘルス（１）：女性のライフサイクルと健康、ライフステージ（思春期・成熟期）における健康問題と看護 【key words】 思春期、　成熟期、　性周期、　月経異常、　性感染症、　人工妊娠中絶、　性教育 【授業概要】 女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する。思春期・成熟期それぞれの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、各期の看護問題および看護について理解を深める。月経に伴う異常を理解する。性感染症について理解する。人工妊娠中絶が与える影響について理解する。避妊法とそれぞれの特徴について説明できる。ドメスティック・バイオレンス(DV)被害が女性の健康に影響を及ぼす影響を理解する。性暴力被害にあった女性への看護の原則を理解する。思春期の性に関する健康教育について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p180～217 【課題・予習・復習・授業準備指示】 性周期とホルモンは必ず国家試験に出るので予習、復習を行い知識の定着をはかる。
	第８回	ウイメンズヘルス（２）：女性のライフサイクルと健康、ライフステージ（更年期・老年期）における健康問題と看護 【key words】 更年期、　更年期障害、　健康教育

【授業概要】
女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する。更年期・老年期それぞれの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、各期の看護問題および看護について理解を深める。健康問題を認識し、看護の在り方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p217～p245
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１回から７回までの小テストを行う（30分）。　更年期障害の女性に処方されるHRT（ホルモン補充療法）の薬理作用について調べて臨む。

第９回　リプロダクティブヘルスにおける健康問題と看護（１）：家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、など
【key words】
家族計画　性感染症　人工妊娠中絶
【授業概要】
リプロダクティブヘルスにおける健康問題を検証し看護の在り方を学ぶ。受胎調節法の種類と、それぞれの特徴について理解する。主な性感染症について、その概要及び診断・治療、潜伏期、症状、妊娠や胎児・新生児への影響について理解し、その予防のための方法や感染した妊婦への看護について理解説明できる。妊娠中絶と女性の健康について、その現状および看護職者としての対応について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
p250～p282
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習後、避妊方法の利点と欠点についてまとめておくこと。

第１０回　リプロダクティブヘルスにおける健康問題と看護（２）：喫煙、暴力、児童虐待、など
【key words】
喫煙女性、　性暴力、　児童虐待
【授業概要】
リプロダクティブヘルスにおける健康問題を検証し看護の在り方を学ぶ。妊娠中の喫煙による胎児への影響を理解し、女性の喫煙や家族の喫煙は次世代にも影響することを理解する。暴力、児童虐待、などの実態について理解する。児童虐待の対策と予防について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
p283～p307
【課題・予習・復習・授業準備指示】
乳幼児虐待のハイリスク要因について予習を行い、要因から虐待防止への看護援助を理解すること。

第１１回　出生前からのリプロダクティヘルスケア（１）：遺伝相談
【key words】
遺伝　出生前診断　着床前診断　胎児治療　遺伝子治療　遺伝カウンセリング
【授業概要】
子どもを産み育てるにあたり生じる遺伝の問題について、クライアントの自己決定を助けるために提供する情報やクライアントに接する態度について理解する。出生前診断・着床前診断の方法および母体・胎児のリスク、倫理的な問題点についても学ぶ。出生前診断の適応や出生前診断を受けるカップルへのケアを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
母性看護学各論　p12～26
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機理論について学習しておく。

第１２回　出生前からのリプロダクティヘルスケア（２）：不妊治療と看護
【key words】
不妊　、不妊検査、　生殖補助医療、　不妊夫婦
【授業概要】
子どもを産み育てるにあたり生じる不妊の問題について、クライアントの自己決定を助けるために提供する情報やクライアントに接する態度について理解する。不妊となる因子と、それぞれに対する検査法および治療法について理解し、不妊治療を受ける女性の心理・社会的特徴を理解し、不妊治療の看護への理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
母性看護学各論　　p27～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
不妊治療を受けている女性の心理的特徴について事前学習して臨むこと。

第１３回　母性看護の課題と倫理（１）：卵子凍結、非配偶者間人工授精、代理母
【key words】
倫理、　卵子凍結、　非配偶者間人工授精　、代理懐胎
【授業概要】
母性看護は、女性のライフサイクル全般を通じて、性と生殖に関する健康や家族の健康の視点から看護の必要性を考えるため、生命倫理的問題は避けて通れないことである。従って、近年、生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴って、着床前診断限定導入・NIPTの導入、代理懐胎をめぐり議論がされている。ディベートを通して倫理的問題を考察し、母性看護と関連付ける。
【教科書ページ・参考文献】
p45～p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
母性看護領域にある倫理的問題について事前に学習して臨むこと。

第１４回　母性看護の課題と倫理（２）：人工妊娠中絶、出生前診断、児童虐待
【key words】
倫理　、人工妊娠中絶、　出生前診断、　児童虐待
【授業概要】
母性看護は、女性のライフサイクル全般を通じて、性と生殖に関する健康や家族の健康の視点から看護の必要性を考えるため、生命倫理的問題は避けて通れないことである。リプロダクティブヘルス・ライツの概念から、女性の意思と胎児のジレンマが生じた場合、女性の自己決定と胎児の権利についてディベートを通して倫理的問題を考察し、母性看護と関連付ける。
【教科書ページ・参考文献】
p45～p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	母性看護領域にある倫理的問題について事前に学習して臨むこと。 第１５回　周産期の死を体験した家族の理解と看護 【key words】 喪失、　悲嘆、　喪の仕事、　グリーフケア 【授業概要】 周産期の死を体験した女性や家族の心理プロセスを理解し、周産期の死を体験した女性や家族のケアについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 母性看護学各論　p497～p502 【課題・予習・復習・授業準備指示】 危機理論について学習しておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講のルール] 授業計画を確認し、事前に教科書は読んでから授業に臨むこと。母性看護に関する社会の事象や政策などに関心を持ち、常に情報収集を行い、自分としての考えや意見を持って授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	母性看護は女性の一生についての心身の変化、またそれに関わるパートナーの健康、新生児と政策、法律など幅が広く学習量が多く、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。法律や政策などは細部まで授業の中で行うのは困難であるため予習が必要です。まとめての学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。
オフィスアワー	火、木12:00～12:40
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト20%、課題レポート20%で総合評価する。　レポートの内容については、オリエンテーション時に提示する。　総合評価は筆記試験・課題レポート・小テストの60%を超えることが大前提である。
教科書	森恵美他：系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学概論　、母性看護学各論　　医学書院
参考書	国民衛生の動向　厚生統計協会　2017/2018
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として、大学病院や総合病院の産婦人科病棟での勤務経験を有する。助産師としての実務経験を活かし、リプロダクティブヘルス・ライツおよび女性のライフサイクルにおける特徴と健康課題および健康支援について理解できるように教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　母性看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
島田　壽美子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期にある女性及び新生児の身体的、心理的変化について理解する。また、それらを取り巻く家族への看護を理解する。 [到達目標] ①妊娠期、分娩期、産褥期にある女性に起こる生理的な身体の変化や心理的特徴についての基本的知識を得る。 ②新生児の身体特徴や生理についての基本的知識を得る。 ③母子関係や愛着の形成について理解できる。 ④妊婦、産婦、褥婦及び新生児と家族に必要な看護が理解できる。
授業の概要	周産期にある女性の身体に起こる生理的変化や心理的変化、新生児の特徴や母子関係について理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①妊娠期、分娩期、産褥期にある女性に起こる生理的な身体の変化や心理的特徴についての基本的知識を得る。	◎	○	△	△
②新生児の身体的特徴や生理についての基本的知識を得る。	◎	○	△	△
③母子関係や愛着の形成について理解できる。	◎	○	△	△
④妊婦、産婦、褥婦及び新生児と家族に必要な看護が理解できる。	◎	○	△	△
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション、妊娠期の身体的特性 【key word】 妊娠、胎児、生殖器、ホルモン 【授業概要】 ・妊娠期にある女性に起こる生理的な身体の変化について基本的な知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】

パワーポイント資料、授業概要、教科書①pp58-77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人体構造機能学の女性生殖器を復習して臨む

第２回　妊娠期の心理・社会的特性
【key word】
ストレス、アンビバレンス、親役割
【授業概要】
・妊娠期にある女性に起こる心理的特徴と社会的特徴について基本的な知識を得る。
・妊娠期の社会的特性を知る。
・妊婦と家族及び会について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp78-86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1回の内容を復習して臨む

第３回　妊婦と胎児のアセスメント
【key word】
妊婦健康診査、ヘルスアセスメント、グループワーク
【授業概要】
・妊娠の診断方法について学ぶ。
・グループワークを行い、妊娠期に行う検査とその目的を調べ理解できる。
・妊娠期の正常な経過について学ぶ。
・胎児の発育と健康状態の診断方法を知り、妊婦と胎児の診断とアセスメントについて理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp87-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp87-125をよく読んで予習して臨む

第４回　妊婦と家族の看護
【key word】
日常生活動作、マイナートラブル、母親学級、バースプラン、グループ発表
【授業概要】
・妊娠期に行なう検査とその目的についてまとめたことをグループ毎に発表する。
・妊婦の看護について理解できる。
（日常生活における健康管理・保健指導の必要性を根拠を含めて理解できる。）
・親になるための準備教育について学び、必要性と内容について考えることができる。
・家族役割について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp126-176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp126-176をよく読んで予習して臨む

第５回　分娩各期の看護の実際①分娩の要素、分娩の経過
【key word】
分娩の三要素、分娩各期
【授業概要】
・分娩の3要素、胎児と子宮および骨盤との関係、分娩の機序について理解できる。
・正常分娩の生理と経過について（胎児の健康状態含む）理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp177-205
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp176-205をよく読んで予習して臨む

第６回　分娩各期の看護の実際②産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護
【key word】
産痛緩和法、リラクゼーション、呼吸法
【授業概要】
・分娩各期の産婦・胎児・家族のアセスメントを学ぶ。
・安全、安楽な分娩、出産体験が肯定的になるための看護について学ぶ。
・分娩経過に伴う看護、産痛緩和および産婦とその家族への看護について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp205-251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書①pp205-251をよく読んで予習して臨む

第７回　分娩各期の看護の実際③分娩の進行に伴う産婦・胎児のリスク
【key word】
破水、帝王切開、胎児機能不全、出血、分娩誘発
【授業概要】
・分娩各期の母体と胎児へのリスクについて学ぶ。
・和痛・無痛分娩のメリット、デメリットについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①ｐｐ401-455
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第８回　妊娠期、分娩期のまとめ
【key word】
妊娠、分娩
【授業概要】
・妊娠期～分娩期までの継続的な経過のアセスメントと看護の必要性が理解できる。
・母児の相互作用について考えることができる。
・妊娠期～分娩期そして産褥期へとつながっていくことが理解できる。
【教科書ページ・参考文献】
パワーポイント資料、教科書①pp58-251、pp401-455
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1回から第7回までの資料を復習して臨む

	第９回　産褥期における身体的、心理社会的変化 【key word】 子宮復古、子宮復古不全、乳房の状態、セルフケア、産褥熱 【授業概要】 ・産褥期における生殖器および全身の変化を理解できる。 ・産褥期における心理社会的変化について理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp320-331、教科書②pp8-17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp320-331をよく読んで予習して臨む 第１０回　褥婦のアセスメント 【key word】 子宮復古、子宮復古不全、乳房の状態、セルフケア、産褥熱 【授業概要】 ・褥婦の健康状態のアセスメントの視点を理解し、観察方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp320-331、教科書②pp8-17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp320-331をよく読んで予習して臨む 第１１回　褥婦と家族の看護 【key word】 セルフケア、身体の回復、母乳育児、児との関係、家族関係 【授業概要】 ・身体機能の回復、および進行性変化の看護について学ぶ。 ・児との関係確立への看護について学ぶ。 ・育児に関わる看護について学ぶ。 ・家族関係再構築への看護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp331-351、教科書②pp18-32、100-126 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp293-3133をよく読んで予習して臨む 第１２回　施設退院後の看護 【key word】 育児不安、社会資源 【授業概要】 ・育児不安と育児支援について学ぶ。 ・産褥期の心理を踏まえたケアについて学ぶ。 ・産褥期のまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp351-355　、教科書②pp130-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第9回から第11回までの資料を復習して臨む 第１３回　新生児の生理 【key word】 新生児、子宮外適応現象、生理的変化 【授業概要】 ・新生児の定義について理解する。 ・子宮外環境への適応過程について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp254-270 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp222-238をよく読んで予習して臨む 第１４回　新生児のアセスメント 【key word】 ハイリスク児、アプガースコア、フィジカルアセスメント 【授業概要】 ・新生児の健康状態のアセスメントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp270-293 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①pp270-293をよく読んで予習して臨む 第１５回　新生児の看護 【key word】 出生直後、新生児の栄養、医療安全 【授業概要】 ・出生直後の看護について学ぶ。 ・出生後から退院時までの看護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、教科書①pp294-306、教科書②pp34-53、pp56-69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新生児のフィジカルアセスメントについて復習して臨む。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講のルール] 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の生理的変化とアセスメント、各期の看護ケアなど学ぶ範囲が広いため、授業計画を参考に教科書を読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	母性看護援助論は妊娠期、分娩期、産褥期、新生児と生理的に変化していく過程の身体的特徴、また新生児の身体的特徴、母子関係などと幅が広く学習量が多い為、国家試験でも点数の獲得が難しい科

	目です。まとめての学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。
オフィスアワー	講義終了後18時まで。その他、メールでの時間調整後に対応する。
評価方法	筆記試験（定期試験）80%、小テスト20%で総合的に評価を行う。合わせて60%を超えることが前提となる。
教科書	①森恵美他著：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　医学書院　最新版 ②平澤美恵子監修：写真でわかる母性看護技術　インターメディカ　最新版
参考書	①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本　母性看護学１　メディカ出版 ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術　母性看護学２　メディカ出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院などに勤務し、周産期にある女性と新生児の看護に関わった経験を基に母性看護について講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　母性看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	1単位(30)	必修
担当教員			
堀越　摂子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期における母子および家族の心身の変化、健康ニーズ、適応過程に応じた看護過程の展開方法を理解できる。 母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。 [到達目標] ①母性看護における看護過程の特徴について理解できる。 ②妊産褥婦および胎児・新生児の経過を根拠に基づきアセスメントできる。 ③ウエルネスの視点から看護診断・看護目標が挙げられ、個別性のある看護計画の立案ができる。 ④褥婦および家族の特性をふまえた保健指導を立案できる。 ⑤妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助技術について理解し、実施できる。
授業の概要	母性看護援助論Ⅰを踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①母性看護における看護過程の特徴について理解できる。	◎	◎	○	○
②妊産褥婦および胎児・新生児の経過を根拠に基づきアセスメントできる。	◎	◎	○	◎
③ウエルネスの視点から看護診断・看護目標が挙げられ、個別性のある看護計画の立案ができる。	◎	◎	○	◎
④褥婦および家族の特性をふまえた保健指導を立案できる。	◎	◎	○	◎
⑤妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助技術について理解し、実施できる。	◎	◎	○	◎
⑥				
授業計画	第１回　　科目オリエンテーション/母性看護における看護過程 【key words】			

		看護過程、ウエルネス 【授業概要】 ・科目の位置づけとシラバスの説明。看護過程の基本的な考え方と母性看護における看護過程・ウエルネス看護診断の考え方についての説明。 【教科書ページ・参考文献】 パワーポイント資料、参考書③pp2-28 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第２回	妊娠期の情報収集とアセスメント 【key words】 妊婦健康診査、事例、アセスメント 【授業概要】 ・妊娠期の事例を用いて、妊婦健康診査における情報収集の内容を理解し、アセスメントを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp58-176、358-400 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに妊婦健診の外来記録のアセスメントを完成させること。
	第３回	分娩期の情報収集とアセスメント 【key words】 産婦、事例、アセスメント 【授業概要】 産婦の事例の情報を分娩記録に記入し、分娩期の経過をアセスメントする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp178-250、401-456 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに分娩経過記録のアセスメントを完成させること。
	第４回	産褥期の観察項目とアセスメント 【key words】 褥婦、アセスメント、ウエルネス 【授業概要】 事例を用いて、褥婦をケアするために必要な観察項目を理解し、産褥1日目の褥婦の状態についてアセスメントを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp308-355、484-510 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに、事例（褥婦）の日々の記録のアセスメントを完成させること。
	第５回	新生児期の観察項目とアセスメント 【key words】 褥婦（新生児）、アセスメント、ウエルネス 【授業概要】 事例を用いて新生児をケアするための観察項目を理解し、生後3日目の新生児のアセスメントを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp308-355、484-510 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに、事例（新生児）の日々の記録のアセスメントを完成させること。
	第６回	産褥期・新生児期の看護過程：ウエルネスの視点に基づいたアセスメント 【key words】 褥婦、新生児、看護過程、ウエルネス 【授業概要】 ウエルネスの母性看護過程を基に事例のアセスメントを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp308-355、484-510 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに事例の看護過程の記録を進めておく。
	第７回	産褥期・新生児期の看護過程：看護診断、看護計画、診断の統合 【key words】 褥婦、新生児、看護過程、ウエルネス 【授業概要】 ウエルネスの母性看護過程を基に事例のアセスメントを行い、看護診断を挙げ、看護計画の立案を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp308-355、484-510 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の看護過程の記録を完成させ、期日までに提出すること。
	第８回	母性看護に必要な看護技術：看護技術の実施目的と意義 【key words】 妊婦健康診査、新生児、褥婦、観察、看護技術 【授業概要】 妊婦健診時の観察項目と方法、新生児期、産褥期の看護技術の実施目的・方法・留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書①pp98-113　②pp18-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 妊婦、新生児、褥婦の観察項目と基準値について復習しておくこと。
	第９回	母性看護に必要な看護技術：看護技術の方法 【key words】 褥婦、新生児、観察方法、看護技術 【授業概要】 褥婦及び新生児の健康状態の観察項目と方法、新生児の清潔ケアの目的・方法・留意点について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書②pp8-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の演習時に看護技術のレポートを提出すること。 第１０回　母性看護に必要な看護技術：妊娠期・産褥期 【key words】 妊婦健康診査、褥婦、看護技術 【授業概要】 妊婦健康診査における計測と観察、産褥期の子宮復古や乳房の観察について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書②pp8-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：ユニフォームを着用し、髪を束ね、爪を切っておくこと。　第12回、第13回の講義内容を復習しておくこと。 第１１回　母性看護に必要な看護技術：新生児期 【key words】 妊婦健康診査、新生児、褥婦、看護技術 【授業概要】 新生児のバイタルサイン測定と全身の観察、沐浴について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書②pp8-70、83-117、124-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：ユニフォームを着用し、髪を束ね、爪を切っておく。 第１２回　母性看護における保健指導：産褥期の特徴を踏まえた保健指導 【key words】 産褥期、保健指導、グループワーク、パンフレット 【授業概要】 母性看護における保健指導の意義・目的・方法について説明する。　グループに分かれて保健指導のテーマについて検討する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書②pp20-29、56-70、87-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までにグループ毎にパンフレット作成のための参考文献や資料を準備しておくこと。 第１３回　母性看護における保健指導：保健指導パンフレットの作成（グループワーク） 【key words】 産褥期、保健指導、グループワーク、パンフレット 【授業概要】 各テーマに応じた保健指導のパンフレット作成のためにグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書②pp20-29、56-70、87-143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業までに保健指導のパンフレットを作成し、発表できるようにしておくこと。 第１４回　母性看護における保健指導：グループ発表 【key words】 保健指導、発表 【授業概要】 グループ毎にパンフレットをＯＨＰで写し、保健指導を発表（実演）する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間内に発表でき、分かりやすい指導が行えるように練習しておくこと。 第１５回　母性看護における保健指導：グループ発表とまとめ 【key words】 保健指導、発表 【授業概要】 グループ毎にパンフレットをＯＨＰで写し、保健指導を発表（実演）する。教員からの講評を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時間内に発表でき、分かりやすい指導が行えるように練習しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報とルール]①技術演習の時はユニホームの着用、髪を束ねる、爪を切るなどの準備を行う。準備が出来ていないものは受講できない。②看護技術の演習はＡ，Ｂクラスを分けて行うため、計画表を見て忘れ物をしないように注意する。③看護技術のレポートの提出が無い場合は演習の授業は受講できない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、その他（周産期各期のアセスメントや看護の課程の展開は、課題毎に内容を確認し、質問等にも応じていく）
授業外時間にかかわる情報	援助論Ⅱは、実習に出る為に大切な授業となる。講義形式の授業ではないので、自ら進んで学習に取り組む事が必要になる為、疑問点は教員に質問し、学習を進める。レポート提出が多くあるため、空き時間を上手に活用し、期限を守って提出を行うこと。
オフィスアワー	授業終了から当日の18時まで。その他、メールでの時間調整後に対応する。
評価方法	妊娠期・分娩期のアセスメント、産褥期の看護過程のレポート　40%、褥婦への保健指導パンフレットの作成と発表　10%、演習への取り組み　10%、　筆記試験　40% 総合評価はレポート、パンフレットの作成と発表、筆記試験それぞれ60%を超えていることが前提となる。
教科書	①森恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学２　医学書院　最新版 ②平澤美恵子・村上睦子他：写真でわかる母性看護学技術　インターメディカ　最新版

参考書	①大田操：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程　医歯薬出版 ②立岡弓子他：写真とＣＤでわかる　周産期ケア・マニュアル　改訂版　医学芸術社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として総合病院等に勤務し、周産期にある女性と新生児の看護に関わった経験をもとに母性看護について講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　母性疾病論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
大嶋　寛　林　博　島田　壽美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] 周産期における異常について理解することができる。 [到達目標] ①妊娠期の経過の異常について理解することができる。 ②妊娠に合併する疾患について理解することができる。 ③異常出血など症状に特徴のある疾患について理解するすることができる。 ④帝王切開術とその適応について理解することができる。 ⑤ハイリスク新生児について理解するすることができる。 ⑥不妊の原因と治療について理解することができる。
授業の概要	妊娠、出産、産褥、新生児の各期に起因する異常な状態、主な疾患について学び、看護を理解する基本とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①妊娠期の経過の異常について理解することができる。	◎	○	△	△
②妊娠に合併する疾患について理解することができる。	◎	○	△	△
③異常出血など症状に特徴のある疾患について理解するすることができる。	◎	○	△	△
④帝王切開術とその適応について理解することができる。	◎	○	△	△
⑤ハイリスク新生児について理解するすることができる。	◎	○	△	△
⑥不妊の原因と治療について理解することができる。	◎	○	△	△

授業計画	第１回　　妊娠期の異常について 【key words】 流産、早産、切迫流産・早産、妊娠高血圧症、前期破水、感染症 【授業概要】 ・妊娠期に大きな影響を及ぼす疾患・病態の理解

		・妊娠経過の異常 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P369-392、　393-400　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科２版　メディックメディカ平成２１年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第２回	妊娠と合併症について 【key words】 妊婦貧血、心疾患合併症、腎疾患合併症、妊娠糖尿病 【授業概要】 ・妊娠と合併症が相互に与える影響 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P358-369、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第３回	異常出血を伴う疾患について 【key words】 常位胎盤早期剥離、前置胎盤、弛緩出血、播種性血管内凝固、産科ショック 【授業概要】 ・出血という産科特有の症状を持つ疾患の理解 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P401－427、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第４回	帝王切開術について 【key words】 異常分娩、産科ショック、分弱陣痛、遷延分娩、分娩停止 【授業概要】 ・帝王切開の適応とリスク、術後の経過 【教科書ページ・参考文献】 教科書P427-455、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第５回	産褥期の異常について 【key words】 産褥、産後うつ、産褥熱、子宮復古、マタニティブルーズ、乳腺炎 【授業概要】 ・産褥期に発症しやすい異常とその病態の理解 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書　484－508　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第６回	ハイリスク新生児について 【key words】 ・低出生体重児、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、新生児心配肺蘇生 【授業概要】 ・ハイリスク新生児の病態生理学的特徴 ・ハイリスク新生児に対する治療の目的、方法 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P456－482、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験に多く出題されます。実習では病態を理解した観察が必要になります。予習復習を行い知識の定着をはかる。
	第７回	不妊とその原因について、不妊検査について 【key words】 不妊治療、子宮卵管造影、ヒューナーテスト、高度生殖医療、基礎体温、精液検査 【授業概要】 ・不妊の原因やその病態、検査方法 ・現在の不妊治療の動向 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書P27－33、　　配布資料、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高度生殖医療は倫理と合わせ、国家試験に出題される傾向があります。予習、復習を行い知識の定着をはかる。
	第８回	不妊治療について 【key words】 高度生殖医療、ＡＩＨ,配偶者間人工授精、AID非配偶者間人工授精 【授業概要】 ・不妊の原因と治療方法 【教科書ページ・参考文献】 教科書P33－41、　　参考書：病気が見えるvol.⑩　産科　２版　メディックメディア 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高度生殖医療は倫理と合わせ、国家試験に出題される傾向があります。予習、復習を行い知識の定着をはかる。

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 不妊、帝王切開などは社会のニーズに伴い、国家試験の出題も必ず予想されてる。疾患として学ぶ事はもとより、倫理や法律なども合わせての学習が必要となる。 〔受講のルール〕 授業計画を確認し、事前に教科書又は配布プリントを読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	周産期に起きる異常な症状や、原因を理解することで、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の観察や予防が理解しやすくなるので、知識の定着を図るように復習を行うこと。また、法律、倫理的な考えなど合わせて学習をしてください。
オフィスアワー	火、木12:00～12:40
評価方法	筆記試験により評価する。授業回数1, 5回は25%、2,3,4,6回は50%、7,8回で25%の割合で出題し,合算し60%以上を超えていることが前提となる。
教科書	①系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②　　医学書院 ②末岡浩他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学９　女性生殖器　医学書院
参考書	①医療情報科学研究所編集：病気が見えるvol.10産科　メッディックメディア ②正津晃監修：新図説臨床看護　母性看護（含婦人科）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 疾患の領域は医師として大学病院や総合病院の産婦人科病棟、さらに開業医の経験を有している医師が看護の基盤となる知識を教授している。また、周産期に異常が予測される看護に関しては、助産師として総合病院の産婦人科病棟での実務経験がある、助産師が実務経験を活かし、看護が展開できるように事例をとおして教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　母性看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
島田　壽美子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［実習の目的］ 妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から妊娠および出産に関わる健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的実践力と看護職としての態度・姿勢を養う。 ［到達目標］ 1）妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的な経過と特徴を踏まえ、母子および家族を総合的に理解できる。 2）妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象に対して、ウェルネスの観点から看護を展開できる。 ①妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象をウェルネスの観点からアセスメントし、看護上の課題を明確にできる。 ②看護上の課題を解決するための看護計画を立案できる。 ③看護計画を実施し、評価できる。 3）対象を支える家族への支援の必要性を理解できる。 4）周産期にある母子をとりまく環境や社会資源の活用方法を知り、母子の継続看護の必要性について考えることができる。 5）母性看護の対象を通して、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任課題について理解できる。 6）母性看護学実習を通して、自己の親性観（母性・父性観）を深めることができる。 7）母性看護の役割や看護の本質を考察し、自己の課題を明確にできる。
授業の概要	母性看護学実習を医療機関等において2週間実施する。既修の知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者および実習担当教員のもとで実施する。周産期にある母子の心身の特徴を理解し、対象に必要な看護援助を実践する。その際は受け持ち母子の身体的・心理的・社会的状況についての情報収集とアセスメント、ウエルネスの看護診断、看護計画の立案といった看護過程の展開を行う。さらに、実習を通して母性看護の役割や本質を考察し、自己の課題を明らかにする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的な経過と特徴を踏まえ、母子および家族を総合的に理解できる。	◎	○	○	○
②妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象に対して、ウェルネスの観点から看護を展開できる。	◎	◎	○	◎

③対象を支える家族への支援の必要性を理解できる。	◎	◎	○	◎
④周産期にある母子をとりまく環境や社会資源の活用方法を知り、母子の継続看護の必要性について考えることができる。	◎	◎	○	◎
⑤母性看護の対象を通して、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任課題について理解できる。	◎	◎	◎	◎
⑥母性看護学実習を通して、自己の親性観（母性・父性観）を深めることができる。	◎		◎	◎

授業計画	第１回 母性看護学実習を医療機関等において2週間実施する。既修の知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者および実習担当教員のもとで実施する。周産期にある母子の心身の特徴を理解し、対象に必要な看護援助を実践する。その際は受け持ち母子の身体的・心理的・社会的状況についての情報収集とアセスメント、ウエルネスの看護診断、看護計画の立案といった看護過程の展開を行う。さらに、実習を通して母性看護の役割や本質を考察し、自己の課題を明らかにする。
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 実習要項を参照し実習に臨む。 2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。 3. 既修学習内容を復習して実習に臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習中および学内実習日に実習指導教員が質問に応じ、学習状況などを確認する。
授業外時間にかかわる情報	自己の健康管理を行い、感染症予防行動を厳守する。 事前に実習場所の交通・所要時間を確認しておく。
オフィスアワー	実習終了後30分および学内日の8：50～17：30
評価方法	1. 実習時間の5分の4以上の出席が評価の前提である。 2. 実習目標の到達度として保健指導課題の実施、受け持ちの看護展開記録、事前学習および提出を求められたレポートの期日内提出などにより評価を行う。 3. 実習要項参照。
教科書	①森恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学２　医学書院　最新版
参考書	①大田操：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程　医歯薬出版 ②立岡弓子他：写真とＣＤでわかる　周産期ケア・マニュアル　改訂版　医学芸術社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 助産師として、総合病院等に勤務し、周産期にある女性と新生児の看護に関わった経験したもとに、実習指導を行なう。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　在宅看護学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	1単位(15)	必修
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 疾病や障がいを持ちながら、生活する人々とその家族が生活を継続していくための支援に必要な在宅看護の基礎的能力を養う。 [到達目標] ①在宅看護の目的、対象、活動の場、位置づけが理解できる。 ②在宅看護の変遷、背景が理解できる。 ③在宅看護の特徴が理解できる。 ④療養者とその家族の特徴が理解できる。 ⑤在宅における主な社会資源、連携、チームケア、地域包括ケアシステムの基礎知識が理解できる。 ⑥在宅における倫理の特徴、展望が理解できる。
授業の概要	疾病や障がいを持ちながら、生活する人々とその家族が生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎的能力を養う。在宅ケアが推進される少子高齢化や保健・医療・福祉施策の動向と在宅療養者の健康上の課題・問題が生活に及ぼす影響を理解し、在宅療養者及び家族介護者が、安全・安楽Ⅱ生活を継続していくために必要な在宅看護における看護師の機能と役割を学ぶ。更に在宅療養を支える在宅看護に関連する制度やシステム、他職種との連携及び社会資源の活用について総合的に理解し、在宅での看護活動における倫理的課題について考える。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①①在宅看護の目的、対象、活動の場、位置づけが理解できる。	◎	◎	◎	○
②②在宅看護の変遷、背景が理解できる。	◎	◎	◎	○
③③在宅看護の特徴が理解できる。	◎	○	○	△
④④療養者とその家族の特徴が理解できる	◎	○	○	△
⑤⑤在宅における主な社会資源、連携、チームケア、地域包括ケアシステムの基礎知識が理解できる。	◎	○	○	△

⑥⑥在宅における倫理の特徴、展望が理解できる。	◎	○	○	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　在宅看護の概念 [授業概要] ①科目オリエンテーションを通し、本科目の学習内容と方法の説明をする ②在宅看護の概念について、これまでの学習を想起しながら本科目の基盤となる基礎知識を講義する [key words]　在宅看護、訪問看護・継続看護　地域看護　公衆衛生看護 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P12-31　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 授業資料にある授業計画を再度読み、授業全体のイメージをつかむ。次回課題-教科書P12－24を整理しておく。 第2回　在宅看護の社会背景・変遷 [授業概要]① 在宅看護を取り巻く社会背景と在宅看護の役割② 在宅看護の歴史的変遷と現状について学ぶ [key words]在宅看護を取り巻く社会背景・ 在宅看護の歴史的変遷 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケアP12-31　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]　講義で取りあげた箇所について使用テキストを読み,理解を深めておく、次回課題 医療機関内看護との相違　　教科書PP26-35、49-51を整理しておく。 第3回　在宅看護の特徴・機能 [授業概要]① 医療機関内看護との相違、② 在宅看護の特徴、③ 訪問看護師が行う看護活動 ④ 在宅看護を可能にする要件について学ぶ。 [key words]在宅看護の特徴・在宅看護を可能にする要件 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケアPP26-35、49-51　　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]　授業資料にある授業計画を再度読み整理、配布した新聞記事を熟読する。 次回課題　在宅看護の対象の特徴、家族についてのイメージを整理する　PP42-49、136 第4回　在宅看護の対象の特徴 [授業概要]① 在宅看護を必要とする対象の発達段階・健康段階の特徴、② 対象の抱える課題・問題③ 疾患・障害・状態状況別、ICFの概念と対象の捉え方、④ 地域社会における生活者として在宅看護を必要とする対象の特徴、抱える課題・問題について学ぶ。 [key words]在宅看護の対象・療養者・利用者 [教科書ページ・参考文献]　メデイカ出版　地域療養を支えるケア　　P38-64　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 講義で取りあげた箇所について使用テキストを読み,理解を深めておく 次回課題　教科書PP52-67　P53-64【メデイカ】読んで対象者の特徴、また家族について考えてくる。 第5回　在宅看護の対象としての家族 [授業概要]① 家族の定義、② 家族の機能・家族の特質、③ 家族介護の現状と課題、④ 家族援助の特徴について学ぶ。 [key words]家族とは・家族の機能・家族介護・家族アセスメント・家族援助 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P52-67　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 在宅看護における家族援助について使用テキストを読み,理解を深める。次回課題「「地域包括ケアシステム・多職種連携・チームケア]教科書P70 - 109を読みまとめておく。 第6回　療養生活を支える社会資源 [授業概要]① 在宅生活を支える保健医療福祉資源　定義、目的、② 在宅看護における主な保健医療福祉制度とその特徴、・医療保険制度・介護保険制度・障害者福祉制度・公費負担制度などについて学ぶ。 [key words]地域包括ケアシステム・連携・チームケア・ケアマネジメント [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケア　P70 - 109　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]次回課題「関心のある社会資源について」例介護保険制度について 教科書P112 - 162を読みまとめておく。 第7回　地域包括ケアシステム・多他職種連携、チームケア [授業概要]① 地域包括ケアシステムの概要・多職種連携、② 関連機関・職種とその特徴、③ チームケア、④ 看護と介護、⑤他職種連携と看護職の役割について学ぶ。 [key words]社会資源・医療保険・介護保険制度・障害者福祉・公費負担制度 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケアP112 - 162　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 次回課題「在宅看護における倫理」について教科書を読み整理する。 夏休み中の調べ学習提示：社会資源一覧配布・地元の地域特性について調べ学習をする。 （後期在宅援助論で活用する） 次回課題「在宅看護における倫理」教科書P36-39を読んでおく。 第8回　在宅看護における倫理、展望と課題 【授業概要】 ① 障害者福祉制度・医療保険制度・公費負担制度、② 在宅看護における倫理的課題、③ 在宅看護の課題・展望について学ぶ。 [key words]在宅看護に於ける倫理的課題・在宅看護の課題 [教科書ページ・参考文献]メデイカ出版　地域療養を支えるケアP36-39、P112 - 162　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備] 試験、夏休み中の調べ学習に関する説明。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ①予習：教科書を読んでくる。指示された事前学習レポートを整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント、資料を読み返す。 [受講のルール] ①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱いとする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱

	いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載する事。記載する事で表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	☑コメントカード方式　□シャトルカード方式　　□ICT利用（Webフォームやメールなど） □その他（　　）
授業外時間にかかわる情報	授業計画、紹介された文献・資料は必ず確認する。在宅医療、保健・福祉に関する新聞、広報紙に関心を持ち積極的に収集する姿勢を持つ。
オフィスアワー	授業終了後18時まで
評価方法	①筆記試験　80%(教科書、講義内容全般から出題する）。 ②演習課題　20%(提出期限を厳守する）。 ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提(詳細な評価基準は授業概要参照)
教科書	台　有桂　他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018
参考書	台　有桂　　他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版 2018 樋口キエ子、式惠美子：退院支援から在宅ケアへ - 看護職種はライフサポーター、筒井書房、2010 国民衛生の動向　2018／2019　厚生統計協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟・外来勤務19年、在宅看護学が看護教育に設置された平成8年度以降、訪問看護ステーションでの同行訪問研修、在宅看護学に関する研修会、勉強会、研究、著書等を積み重ね現在にいたっている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　在宅看護援助論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(15)	必修
担当教員			
藤原美津子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕在宅療養者とその家族の特徴について学び、在宅看護の援助方法とケアマネジメントについて理解できる。 〔到達目標〕 ①在宅療養、在宅における看護活動の特徴が理解できる。 ②訪問看護制度、訪問看護事業所の特徴が理解できる。 ③在宅看護における看護過程の特徴・展開方法が理解できる。 ④在宅における日常生活援助、医療処置管理の特徴・方法が理解できる。 ⑤在宅での日常生活援助、医療処置管理を要する対象の事例展開を通して看護活動の特徴が理解できる ⑥社会資源の活用とケアマネジメントの特徴・方法が理解できる ⑦退院支援の意義と方法が理解できる
授業の概要	訪問看護活動の特徴、･療養者とその家族とのコミュニケーションの取り方・在宅における療養生活支援の知識技術および看護過程展開･社会資源の活用とケアマネージメントの実際を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①在宅療養、在宅における看護活動の特徴が理解できる。	◎	◎	◎	◎
②訪問看護制度、訪問看護事業所の特徴が理解できる。	◎	◎	◎	○
③在宅看護における看護過程の特徴・展開方法が理解できる。	◎	◎	◎	○
④在宅における日常生活援助、医療処置管理の特徴・方法が理解できる。	◎	◎	◎	○
⑤在宅での日常生活援助、医療処置管理を要する対象の事例展開を通して看護活動の特徴が理解できる	◎	◎	○	△
⑥社会資源の活用とケアマネジメントの特徴・方法が理解で	◎	◎	○	○

きる					
授業計画	第１回	科目オリエンテーション　訪問看護制度・訪問看護事業所 【Key Words】 在宅看護、継続看護、訪問看護制度、訪問看護事業所 【授業概要】 1) 科目オリエンテーションを通し、本科目の学習内容と方法の説明をする。 2) 訪問看護制度、訪問看護事業所について、概論での学習を想起しながら本科目の基盤となる基礎知識を講義する。 3) 訪問看護活動の特徴、訪問看護制度利用の流れの説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38 －P91 【課題】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38 －P91を読んでおくこと			
	第２回	訪問看護過程、初回訪問・介護保険制度と訪問看護 【Key Words】 家庭訪問、インテーク、アセスメント・計画・実践・評価、介護保険制度と訪問看護サービス 【授業概要】 1)家庭訪問の意識・準備・マナー、在宅看護過程についてアセスメントの視点、ニーズの明確化について説明する 2)ケアプランの実施・評価について説明する 3)在宅療養者と家族介護者の生活の在り方に焦点を当てた看護過程を理解する 4)介護保険制度における訪問看護サービスの特徴を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38-91 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P14～38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38-91 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P14～38を読んでおくこと			
	第３回	在宅看護と社会資源・在宅看護におけるマネジメント 【Key Words】 社会資源、介護保険・医療保険・後期高齢者医療制度、障害者総合支援法、難病特別対策推進事業、法定外サービス 【授業概要】 医療依存度の高い療養者の在宅において活用できる社会資源について、地域特性を踏まえて説明する。同時にその社会資源活用するマネジメントの方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P142～P180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P142～P180を読んでくること。 概論で学習した地域特性のワークシートを見直てくること。			
	第４回	在宅看護と社会資源・在宅看護におけるマネジメント 【Key Words】 社会資源、介護保険・医療保険・後期高齢者医療制度、障害者総合支援法、特定疾病治療研究事業、プロトコール、難病特別対策推進事業、法定外サービス 【授業概要】 医療依存度の高い療養者の在宅において活用できる社会資源について、地域特性を踏まえて説明する。同時にその社会資源活用するマネジメントの方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P142～P180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P142～P180を読んでくること。 概論で学習した地域特性のワークシートを見直てくること。			
	第５回	在宅における日常生活援助・医療処置管理 【Key Words】 在宅での医療処置管理と制度、医療保険、介護保険、在宅経腸栄養、胃瘻、訪問入浴介護、訪問看護指示書・報告書・訪問看護記録 【授業概要】 医療依存度の高い在宅療養者への看護について実践の立場から講義をする。在宅で療養生活する上で療養者と家族・介護者に予測される食事・移動・清潔に関する困難に対してアセスメントの視点と多職種と連携しながら実施する援助方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P56～162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P56～162の関係個所と概論で学習した課題学習ノート及び地域特性ワークシートを読んでくること			

	第６回	在宅における日常生活援助・医療処置管理 【Key Words】 在宅療養者の排泄ケア、人工肛門処置管理、人工膀胱処置管理、インスリン自己注射、在宅CAPD管理、服薬管理、特別訪問看護指示書 【授業概要】 医療依存度の高い在宅療養者への看護について実践の立場から講義をする。在宅で療養生活する上で療養者と家族・介護者に予測される廃排泄、服薬管理、医療機器管理に関する困難に対してアセスメントの視点と多職種と連携しながら実施する援助方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P56～162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、56～162の関係個所と概論で学習した課題学習ノート及び地域特性ワークシートを読んでくること
	第７回	在宅における日常生活援助・医療処置管理 【Key Words】 中心静脈栄養管理、褥瘡処置管理、DEZAIN分類、 【授業概要】 医療依存度の高い在宅療養者への看護について実践の立場から講義をする。在宅で療養生活する上で療養者と家族・介護者に予測される中心静脈栄養、褥瘡、医療処置管理に関する困難に対してアセスメントの視点と多職種と連携しながら実施する援助方法について法と制度との関連付けながら説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P56 ～162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P56～162の関係する箇所と概論で学習した課題学習ノート及び地域特性ワークシートを読んでくること
	第８回	在宅における日常生活援助・医療処置管理(担当：黒澤) 【Key Words】 在宅での医療処置管理と制度、医療保険・介護保険、特定疾患治療研究事業、プロトコール、ストーマケア、 【授業概要】 在宅療養を継続する療養者・家族が人工呼吸器などの医療処置・管理をする際のアセスメントの視点と援助方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38～133、P188～236 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P38～133、P188～236 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ　在宅看護論　在宅療養を支える技術、メディカ出版、2018、P92～162 概論で学習した課題学習ノート及び地域特性ワークシートを読んでくること
	第９回	在宅における日常生活援助・医療処置管理　演習① 【Key Words】 事例展開、在宅人工呼吸器管理、在宅酸素療法、在宅経腸栄養、在宅中心静脈栄養管理、バルン留置管理、服薬管理、褥瘡(予防)管理 【授業概要】 医療依存度の高い事例の医療処置管理についての看護過程展開　アセスメント・計画立案 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188-242 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8～10回の授業資料、教科書範囲を読んで、事例展開に必要な知識を復習しておくこと 課題学習ノート持参する
	第１０回	在宅における日常生活援助・医療処置管理　演習② 【Key Words】 事例展開、在宅人工呼吸器管理、在宅酸素療法、在宅経腸栄養、在宅中心静脈栄養管理、バルン留置管理、服薬管理、褥瘡（予防）管理 【授業概要】 医療依存度の高い事例の医療処置管理についての看護過程展開　アセスメント・計画立案 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188-242 【課題・予習・復習・授業準備指示】 8～10回の授業資料、教科書範囲を読んで、事例展開に必要な知識を復習しておくこと 課題学習ノートを持参する
	第１１回	在宅における日常生活援助・医療処置管理　演習③ 【Key Words】 事例展開、在宅人工呼吸器管理、在宅酸素療法、在宅経腸栄養、在宅中心静脈栄養管理、バルン留置管理、服薬管理、褥瘡（予防）管理

	【授業概要】 医療依存度の高い事例の医療処置管理についての看護過程の展開　アセスメント計画立案 【教科書ページ・参考文献】事例を用いて看護過程の展開をする。 教科書：臺台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188-242 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8～10回の授業資料、教科書範囲を読んで、事例展開に必要な知識を復習しておくこと 課題学習ノートを持参する 第１２回　在宅における日常生活援助・医療処置管理　演習④ 【Key Words】 事例展開　在宅人工呼吸器管理、在宅酸素療法、在宅経腸栄養、在宅中心静脈栄養管理、バルン留置管理、服薬管理、褥瘡(予防)管理 【授業概要】 医療依存度の高い事例についての医療処置管理についての看護過程の展開　アセスメント計画立案・発表 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P188-242 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8～10回の授業資料を読んで、事例展開に必要な知識を復習しておくこと 課題学習ノートを持参する 第１３回　退院支援と在宅看護(担当：樋口) 【Key Words】 退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時の課題アセスメント、退院支援部門、外来看護 【授業概要】 1)退院支援の背景・目的 2)退院支援のプロセス 3)退院支援における看護職の役割 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P94-118 教科書：樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010 【課題、予習・復習・授業準備指示】 教科書：樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2010を読んでおく 第１４回　退院支援と在宅看護(担当：樋口) 【Key Words】 退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時の課題アセスメント、退院支援部門、外来看護 【授業概要】 退院する場合に必要な援助について整理した事例について、講義と関連させて退院支援の過程について整理する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版2018、P94-118 教科書：樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房 第１５回　退院支援と在宅看護(担当：樋口) 【Key Words】 退院支援、ライフサポーター、療養生活支援、在宅移行時の課題、アセスメント、退院支援部門 【授業概要】 退院する場合に必要な援助について整理した事例について、講義と関連させて退院支援の過程について整理する 事例展開　多職種との連携により退院調整・退院支援と看護の役割・機能について考える 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺　有桂他：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P94 -118 教科書：樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 【課題、予習・復習・授業準備指示】 教科書：樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 有桂他：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2018、P94 -118を読んでおく
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習：教科書を読んでくる。指示された事前学習レポートを整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①受講態度の望ましくない場合は、退出させ、当該授業を欠席扱とする。 ②私語・携帯電話の使用を禁ずる。私語・携帯電話の使用を見つけた場合は当該授業について欠席扱いにする。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守する。提出期限を過ぎたレポート等の課題は受理しません。 ④授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	授業のあった日の放課後18時まで（ただし、実習指導等で学内に不在時以外は除く）
評価方法	①筆記試験80%、（教科書、講義内容全般から出題する）。 ②演習課題20%（提出期限を遵守する）。

	③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提（詳細な評価基準は授業概要参照）
教科書	台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017 台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論②　地域療養を支える技術、メディカ出版、2017
参考書	岡崎美智子、正野逸子編：根拠がわかる在宅看護援助技術第２版．メヂカルフレンド社．2010 樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 国民衛生の動向　2015/2016　厚生統計協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・担当する教員は臨床現場において看護管理者任の際に退院支援等に関する業務にかかわっている。また、訪問看護の同行訪問等を通し現状を体験している。 ・訪問看護ステーションの管理者の体験者が授業の一部を担当して実務経験を利用している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　在宅看護援助論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(15)	必修
担当教員			
塚越八重子　ほか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　疾病や障害を持ちながら在宅で生活をする療養者とその家族の特徴を学び状態・状況に応じた支援ができるための基礎的知識技術を修得する。 〔到達目標〕 ①疾病や障害を持つ療養者とその家族の特徴が理解できる ②疾病や障害を持つ療養者とその家族が必要とする援助が理解できる ③療養者とその家族への指導ができる知識・技術を習得する ④訪問看護の一連を学内で模擬的に実践し、面接技法と在宅看護活動に必要な知識技術の習得をする ⑤在宅療養移行時における援助の意義・方法が理解できる ⑥在宅における終末期の看護の特徴・援助方法が理解できる
授業の概要	学内演習により、在宅で療養する患者に対して行う基礎的な看護技術を学ぶ。また、在宅生活を可能にする医療機器などを用いた治療法における看護の役割を学習し、医療処置の目的・内容を理解する。さらに必要に応じ家族に対するこれらの技術の相談・指導を受けることができるよう修得した知識技術の整理をする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①疾病や障害を持つ療養者とその家族の特徴が理解できる	◎	◎	◎	○
②疾病や障害を持つ療養者とその家族が必要とする援助が理解できる	◎	◎	◎	○
③療養者とその家族への指導ができる知識・技術を習得する	◎	◎	○	○
④訪問看護の一連を学内で模擬的に実践し、面接技法と在宅看護活動に必要な知識技術の習得をする	◎	◎	○	○
⑤在宅療養移行時における援助の意義・方法が理解できる	◎	◎	○	○
⑥在宅における終末期の看護の特徴・援助方法が理解できる	◎	◎	○	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　認知症在宅療養者とその家族への援助 【key words】 アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、認知症の症状－中核症状・周辺症状、地域ネットワーク、家族支援、精神障害、精神障害者と社会資源、訪問看護指示書、訪問看護計画書 【授業概要】 本科目の進め方を示す。授業の中で説明するが、本科目は演習が多い。講義で理論的知識をい習得し、演習を通して実践的な学習をすることによって、知識の定着と思考力、技術の習得をねらう。 １）認知症の現状と中核症状と行動・心理症状を説明する。 ２）認知症高齢者・家族の特徴とその支援について説明する。 ３）認知症予防、認知症療養者に関するネットワークについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p43-45、p118-133、p247-250、p276 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域における認知症に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。 授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論Ｉの授業資料を持参する。
	第２回	外部講師（角田氏）：難病を持つ方からのお話 【key words】 難病友の会　関節リュウマチ　当事者　家族 【授業概要】 難病友の会を運営している当事者を招き、難病友の会の活動、当事者として難病と共に生きること、療養者の気持ち、家族の思いなどを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p120-133、p251-254 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義後レポート提出 復習：学習したことを復習し、知識の整理、定着を図る。図書館の関連書籍を読むことも推奨する。
	第３回	精神障害を持つ療養者とその家族への援助 【key words】 精神障害、精神障害者と社会資源、地域ネットワーク、家族支援、訪問看護指示書、訪問看護計画書 【授業概要】 １）在宅における精神障害者の動向を説明する。 ２）精神障害を抱える療養者とその家族の特徴とその支援について説明する。 ３）精神障害を抱える療養者に関連するネットワークについて説明する。 ４）精神障害者を取り巻く社会資源について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p118-133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：精神障害を抱える療養者に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。
	第４回	難病療養者(児)とその家族への援助 【key words】 難病療養者(児)の特徴、特定疾患治療研究事業、公費負担、難病患者居宅生活支援事業、訪問看護と医療保険、医療的ケアと関連職種 【授業概要】 難病を抱える療養者(児)と家族の特徴、我が国の難病対策に関する基礎的知識を踏まえたうえで、フォーマル、インフォーマルな社会資源によるサービスを使いながら難病療養者(児)の生活を支援する看護について考える。 １）難病の在宅看護の指針を説明する。 ２）社会資源の活用と、在宅保健・医療看護チームの調整について説明する。 ３）難病を持つ在宅看護における看護師の役割について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p118-133、p251-254 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：難病療養者(児)に関するサポートシステム、地域における取り組みについて調べてくる。 授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ＩⅡの授業資料を持参する。
	第５回	在宅療養児とその家族への援助 【key words】 養育医療、小児慢性特定疾患治療研究事業、重症心身障害児　家族支援　社会資源 【授業概要】 １）在宅療養児を取り巻く動向、社会資源について説明する。 ２）在宅で療養児とその家族の特徴について説明する。 ３）在宅で療養児とその家族への援助について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p118-133、p266-271

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：地域における療養児に関連するネットワーク、地域の取り組みについて事前に調べてくる。
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

第６回　訪問看護過程①　アセスメント・計画立案　演習

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　計画・立案

【授業概要】
事例について訪問看護の計画を立てる。事例の訪問看護指示書とケアプラン、サービス提供表から、訪問看護で把握すべき情報とその収集方法をグループで考える

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、 p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。

第７回　訪問看護過程②　アセスメント・計画立案　演習

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　計画・立案

【授業概要】
事例について訪問看護の計画をグループで考える。
１）訪問看護における面接のための情報収集ができる。
２）訪問時に必要なアセスメント計画が立案できる。
３）訪問看護における看護師の役割を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。

第８回　訪問看護過程③　アセスメント・計画立案　〔ロールプレイ演習準備〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　アセスメント　計画・立案

【授業概要】
事例について訪問看護の計画をグループで考える。
１）訪問看護における面接のための情報収集ができる。
２）訪問時に必要なアセスメント計画が立案できる。
３）訪問看護における看護師の役割を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
事前課題：あらかじめ提示してある課題を持参する。

第９回　訪問看護過程④　〔ロールプレイ演習〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　　療養者への支援　訪問看護の実際

【授業概要】
１）各グループで展開した訪問計画に沿ってロールプレイを行う。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じることでそれぞれの立場の気持ちを理解する。
３）立案した計画のポイントを説明する。
４）見学し、気づいたこと、学んだことを共有する。
５）訪問看護の基本を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

第１０回　訪問看護過程⑤　〔ロールプレイ演習〕

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　　療養者への支援　訪問看護の実際

【授業概要】
１）各グループで展開した訪問計画に沿ってロールプレイを行う。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じることでそれぞれの立場の気持ちを理解す

る。
３）立案した計画のポイントを説明する。
４）見学し、気づいたこと、学んだことを共有する。
５）訪問看護の基本を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
課題：事後レポートを提出する。

第１１回　訪問看護過程⑥　ロールプレイ演習の振り返り

【key words】
訪問看護　訪問マナー　日常生活援助　　療養者への支援　訪問看護の実際

【授業概要】
演習の振り返りをまとめ、グループ発表し、学びを統合する。
１）訪問事例の看護過程展開をグループで振り返り、要点をまとめ、学びを共有する。
２）看護師役、看護学生役、療養者役、家族役を演じて気づいたこと、感じたことを発表する。
３）訪問時に必要なマナー、家庭訪問の基本的態度、訪問看護計画、訪問間看護師の役割、今後の自己の課題について振りかえる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p79-92

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。
課題：提示された課題を提出する。
発表の準備は各グループで行う。

第１２回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助①

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア

【授業概要】
１）在宅ターミナルケアを取り巻く現状を説明する。
２）在宅ターミナルもおける身体的・心理的・社会的特徴と経過について説明する。
３）在宅ターミナルケアの条件、疼痛コントロール、チームケアの特徴について説明する。
４）在宅ターミナルケアにおける家族支援について説明する。
５）在宅ターミナルケアに関わる訪問看護師の役割について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p236-242

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

第１３回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助②　外部講師：訪問看護師からの話

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア

【授業概要】
１）訪問看護師から在宅看取りの実際の話を聞く。療養者の思い、家族の思い、訪問看護師の役割、多職種連携、困難事例などの紹介を通じて在宅看取りのあり方を考える。
２）事例を通して在宅ターミナルケア（必要な援助）をグループで考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p236-242

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

第１４回　在宅ターミナル期の療養者とその家族への援助③〔発表〕

【key words】
終末期　緩和ケア　ターミナルケア　看取り　グリーフケア

【授業概要】
１）療養者と家族の意思決定支援の意味を考える。
２）在宅ターミナルケア（必要な援助）をグループで考える。
３）グループ発表を通して学びを共有する。
４）事例を通して在宅ターミナルケアに関わる訪問看護師の役割が理解できる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、p236-242

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。

第１５回　療養者とその家族への援助　まとめ

【key words】
マインドマップ　振り返り

	【授業概要】 １）在宅看護についてグループで振り返りを行い、マインドマップを作成し、発表する。 ２）在宅看護における知識・技術・態度の修得について、これまでの在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡを振り返り整理する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：臺有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：在宅看護学概論、在宅看護援助論ⅠⅡの授業資料を持参する。 復習：在宅看護のまとめについて再度整理する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・演習はジャージ、ナースシューズ着用。髪型等身だしなみは実習に準じる。 ・指定された事前学習及び事後レポートの提出をする 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基 本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。
オフィスアワー	授業のある日の放課後～18時まで
評価方法	①筆記試験80%、（教科書、講義内容全般から出題する）。 ②演習課題20%（提出期限を遵守する）。 ③総合評価は、筆記試験とレポート課題を合わせて60%以上を超えていることが前提（詳細な評価基準は授業概要参照）
教科書	臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版、2017 臺　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論②　地域療養を支える技術、メディカ出版、2017
参考書	岡崎美智子、正野逸子編：根拠がわかる在宅看護援助技術第２版．メヂカルフレンド社．2010 樋口キエ子他編：退院支援から在宅ケアへ、筒井書房出版、2011 国民衛生の動向　2015/2016　厚生統計協会 杉本正子、眞舩拓子：在宅看護論　実践をことばに．ヌーベルヒロカワ．2011
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院病棟や訪問看護ステーション勤務、介護支援専門員資格取得し、在宅看護学に関する研修会、勉強会、研究を行っている。 難病当事者からの語り、訪問看護ステーション管理経験者からの講義が一部含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　在宅看護学実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	2単位(90)	必修
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕健康上の問題を持ちながら家庭で生活する対象を理解し、看護の実際を学ぶ。 1．自宅あるいは自宅以外の居宅（グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームなど）における療養者とその家族の多様な生活を理解できる。 2．在宅の看護過程を理解できる。 3．訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を理解できる。 4．在宅療養・外来通院治療時における（退院支援部門含む）における在宅療養支援の重要性を理解できる。 5．訪問看護ステーションの特徴・機能が理解できる。 6．在宅ケアサービス及び関係機関・関係職種の関わりを理解できる。 7．看護者としての自己の役割を理解できる。
授業の概要	健康上の問題を持ちながら家庭で生活する対象を理解するために、群馬県内訪問看護ステーションにおける看護師との同行訪問を通じて、自宅あるいは自宅以外の居宅（グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームなど）における療養者とその家族の多様な生活をする人々への看護の実際を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　別紙実習要項参照
受講生に関わる情報および受講のルール	1)在宅看護論実習では生活の場や保健福祉行政機関等、様々な住民がいる場につくため、施設の内外を問わず言動には十分注意し、不用意に対象者の話をしない等、社会人として責任ある態度で臨むこと。 2)訪問看護では対象者・家族がホスト、看護師がゲストという立場である。常に対象者・家族の了解

	と協力を得るよう務め、言葉づかいや身だしなみに注意を払うこと。 3)訪問看護ステーションから提供された情報や実習記録等、個人のプライバシーに関わる記録物については取り扱いに十分注意し、放置・紛失しないこと。 4)服装・身だしなみは他家を訪問するマナーに見合ったもの、看護行為の提供に支障のないものに心掛けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、午後は、実習のまとめと翌日の準備とする。
授業外時間にかかわる情報	当日のまとめと考察、翌日の体験内容について調べ学習をして臨む。
オフィスアワー	実習日の14 - 16時。
評価方法	①出席状況。 ②実習内容:実習目的･目標に対する達成状況。 ③実習態度。 ④実習記録･レポート。 ※実習時間の4/5以上の出席を要する。
教科書	教科書:台　有桂他編：ナーシンググラフィカ、在宅看護論　地域療養を支えるケア、メディカ出版 2018
参考書	樋口キエ子、式恵美子：退院支援から在宅ケアへ-看護職はライフサポーター、筒井書房、2010 国民衛生の動向　2018 /2019　厚生統計協会
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　訪問看護ステーション等経営管理論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
小澤　かほる			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 地域の病院や診療所と提携し、地域ケアを支える訪問看護ステーション等における 看護サービスと事業の経営・管理について理解できる。 [到達目標] ①訪問看護の歴史が理解できる。 ②訪問看護の役割が理解できる。 ③訪問看護ステーションの経営が理解できる。 ④他機関との連携が理解できる。
授業の概要	地域ケアを支える訪問看護ステーション等の経営・管理を理解するために、 訪問看護や訪問看護師及び訪問看護ステーションや他の関連機関について学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①訪問看護の歴史が理解できる。	◎	○	○	
②訪問看護の役割が理解できる。	◎	○	○	
③訪問看護ステーションの経営が理解できる。	◎	○	○	
④他機関との連携が理解できる。	◎	○	○	
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション / グループワーク「在宅看護論実習の振り返り」 【key words】 訪問看護、訪問看護師、訪問看護ステーション 【授業概要】 在宅看護論実習を振り返り、グループワークにより他者の学びを知り、グループとして提供したい訪問看護について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 各自在宅看護論実習記録持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人で行いたい訪問看護とグループで行いたい訪問看護についてレポートにまとめ提出。

第２回　訪問看護の歴史　/ グループワーク「仮設：市場調査」
【key words】
訪問看護制度、訪問看護市場動向、地域

【授業概要】
地域のニーズとグループで提供したい訪問看護が関連するのかを検討することができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・まえがき、ｐｐ１～３３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第３回　訪問看護の役割 / グループワーク「仮設：訪問看護ステーション立ち上げ」
【key words】
訪問看護に必要な資金・人材・設備、労務管理、開設準備、申請手続き

【授業概要】
地域のニーズを反映した仮設の訪問看護ステーションをグループで設立することができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ３４～９６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回講義前日までに、各グループは発表原稿を学生数＋1部を印刷し、教務事務に預けておく。

第４回　訪問看護ステーションの概要 / グループワーク発表「仮設：訪問看護ステーション立ち上げまでの経緯」
【key words】
訪問看護ステーションの現状と未来、サービス情報の公開、個人情報の保護規定

【授業概要】
全グループが訪問看護ステーションの開設経緯を発表し、異なる開設経緯を共有することができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１～５、ｐｐ９７～１０６

【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ発表により気づいたことを、各自レポートにまとめ、次回講義前日までに提出

第５回　地域における訪問看護ステーションの役割 / グループワーク「仮設：対象者の選定」
【key words】
利用者主体、訪問看護サービス、役割

【授業概要】
訪問看護ステーションの地域での役割を考えることができる。

【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１０７～１６１

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第６回　訪問看護と事業経営 / グループワーク「仮設：訪問看護ステーションの年間収支予測」
【key words】事業、経営、介護報酬、診療報酬、収支予測

【授業概要】訪問看護ステーションの年間収支を検討する中で、安定した経営について考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１６３～１７９、ｐｐ２１０～２６８

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第７回　訪問看護ステーションの経営管理 / グループワーク「仮設：訪問看護ステーションの年間収支予測」
【key words】収支予測、経理、税金、評価、管理

【授業概要】訪問看護ステーションの年間収支を検討し、安定した経営や管理について考えることができる。

【教科書ページ・参考文献】
「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ１７２～２６８

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回講義前日までに、各グループは発表原稿を学生数＋1部を印刷し、教務課に預けておく。

第８回　他機関との連携 / グループワーク発表「仮設：訪問看護ステーションの設立・経営・管理からの学び」

	【key words】 他機関・他職種との連携、訪問看護ステーションの多機能化 【授業概要】 訪問看護ステーションの経営や関連する他機関について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 「新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第３版」日本看護協会出版・・・ｐｐ２６９～３０７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	テキストは「訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル」日本看護協会出版を使用。資料は適宜配布する。 ただし授業で配布する資料の予備は保管しませんので、各自準備し出席すること。 授業時適宜レポートの提出を求める。レポート用紙は各自準備し出席すること。 受講態度は、看護学生にふさわしい態度で臨む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	筆記試験70%、レポート評価（誤字脱字がなく、自分の考えが述べられている）30% 総合評価は筆記試験とレポート評価の合計点が60%を超えることが前提となる。
教科書	「新版　訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル　第3版」日本看護協会出版会
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　地域看護学活動論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	2単位(30)	必修
担当教員			
中川　陽子・勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　看護師の活動対象が病気・障害のある人々から健康な人々まで広がっている現状において、多様な健康支援の方法を理解する。 【到達目標】 ①地域で暮らす人々の健康とQOLの維持向上を目指す地域看護活動のあり方がわかる。 ②ライフステージ別対象（母子、成人、高齢者）及び健康課題別対象（精神、難病、感染症）に対する保健活動の概要と支援方法がわかる。 ③多職種と協働・連携しながら地域看護活動に取り組む必要性について考察できる。
授業の概要	地域に生活する様々なライフステージの対象者の健康の保持増進、疾病予防、回復の促進について地域で展開される看護活動について、看護職として必要な基本的な知識と技術を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①地域で暮らす人々の健康とQOLの維持向上を目指す地域看護活動のあり方がわかる。	◎	◎	◎	○
②ライフステージ別対象（母子、成人、高齢者）、健康課題別対象（精神、難病、感染症）に対する保健活動の概要と支援方法がわかる。	◎	◎	◎	○
③多職種と協働・連携しながら地域看護活動に取り組む必要性について考察できる。	◎	◎	◎	○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　①個人および家族の発達段階と保健活動、②母子保健概論 【key words】 講義の受け方、発達段階、保健活動、母子保健 【授業概要】

		１）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期の6段階に分けた各階層の発達と健康課題及びその時期に伴う保健活動について学ぶ。個人のライフサイクルと同じように、家族にも一定の周期的な変化の過程がある。家族の発達段階と課題について概説する。 ３）母子保健の理念と変遷について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.227～241 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域看護学概論の復習をして授業に臨む。教科書：p.227～241をよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第２回	母子保健施策・母子保健活動の実際　母子保健活動と保健師の役割 【key words】 母子保健、乳幼児の健康、健やか親子21（第2次）、児童虐待 【授業概要】 １）主な母子保健施策と健やか親子21（第2次）や子ども・子育て支援新制度等の母子保健計画と保健師の役割について学ぶ。 ２）妊産婦、乳幼児、生涯を通じた女性の健康支援について理解を深める。 ３）児童虐待をはじめ、健康上のリスクをもつ母子への保健指導等、母子保健活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.242～261 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.242～261をよく読む。 課題：児童虐待に関するレポート課題を提出する。
	第３回	成人保健概論　成人保健施策 【key words】 成人保健、健康日本21（第2次）、健康増進 【授業概要】 １）地域における成人保健活動を支える理念・概念及び成人保健の動向について学ぶ。 ２）健康日本21（第2次）、健康増進法、特定健康診査・特定保健指導等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.262～269 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.262～269をよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第４回	成人保健活動の実際　成人期の主な生活習慣病と保健指導 【key words】 成人保健、生活習慣病、メンタルヘルス 【授業概要】 １）成人期の対象者のセルフケア能力の向上（一次予防）を図るための取り組みについて学ぶ。 ２）成人期の主な生活習慣病と保健指導について学び、日々の食生活と運動習慣の重要性について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.269～282 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.269～282をよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第５回	高齢者保健概論　高齢者保健施策 【key words】 高齢者保健、介護保険制度、地域包括ケアシステム 【授業概要】 １）高齢者保健活動の理念・高齢者保健医療福祉の変遷について学ぶ。 ２）高齢者保健の現状、高齢者保健施策と保健師の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.283～292 参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.283～292をよく読む。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第６回	高齢者保健活動の実際　要支援・要介護高齢者および介護者の特性と保健師活動 【key words】 高齢者保健、要支援・要介護、認知症、高齢者虐待 【授業概要】 １）高齢者保健活動の理念、高齢者保健医療福祉の変遷について学ぶ。

２）介護保険制度及び後期高齢者医療制度について学ぶ。
３）高齢者の健康と生活特性を理解し、高齢者の健康と生活を支える保健活動について学ぶ。
４）要支援・要介護高齢者及び介護者の特性と保健師活動について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.292～306
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.292～306をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第７回　難病保健概論　難病保健施策　地域の難病療養者の生活と地域のサポートシステム
【key words】
難病保健、難病療養者、難病支援活動、地域ケアシステム

【授業概要】
１）難病保健の理念と定義、国・都道府県・市町村での具体的な難病対策について学ぶ。
２）症状の進行に伴う困難や受容に関する困難、社会生活の変化に関する困難等、地域で生活する難病療養者に対する支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.307～320
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.307～320をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第８回　障害者（児）保健概論　障害者（児）保健施策　障害者（児）の生活特性と自立支援
【key words】
障害者（児）保健、障害者総合支援法、障害者理解

【授業概要】
１）障害者保健の理念、障害者の定義や分類について学ぶ。
２）障害者（児）保健施策の変遷及び現在の障害者（児）保健施策について学ぶ。
３）障害者（児）の生活特性について学び、地域で生活する障害者（児）に対する保健師活動について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.307～320
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.307～320をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第９回　精神保健概論　地域における精神保健に関する健康課題　精神障害者の生活特性と保健師活動
【key words】
精神保健、精神疾患、社会復帰

【授業概要】
１）精神保健の基本理念、精神保健施策の変遷について学ぶ。
２）家庭、学校、職場等の場によって特有の精神保健上の問題が生じる。そのような地域集団の健康問題に対する支援について理解を深める。
３）統合失調症、パーソナリティ障害、神経症性障害等の生活特性と保健師活動について学ぶ。また、うつ病や自殺などの問題、嗜癖・依存症や発達障害、社会的引きこもりに対する支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.339～358
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.339～358をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第１０回　感染症保健概論　感染症にかかわる保健師の活動　主な感染症　結核対策
【key words】
感染症保健、感染症類型、結核対策

【授業概要】
１）感染症保健の理念と変遷、感染症法の対象となる疾患、患者等の人権への配慮について学ぶ。
２）主な感染症の最近の動向を学び、感染症における疫学的視点をもつことの重要性について理解を深める。
３）わが国における重要な振興・再興感染症や性感染症、結核等、主な感染症と保健師活動について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.359～394
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.359～394をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第１１回　健康危機管理（定義と現状）　災害保健概論　災害と保健師活動

【key words】
健康危機管理、災害保健活動

【授業概要】
１）健康危機管理の定義について理解し、健康危機管理の現状及び健康危機管理システムと保健所における健康危機管理業務について学ぶ。
２）災害の定義と分類、被災者への迅速な保健活動等、災害と保健師活動の実際について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.407～430
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.407～430をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第１２回　歯科口腔保健概論　歯科口腔保健施策　主な歯科疾患の保健指導

【key words】
歯科口腔保健、歯科疾患と保健指導

【授業概要】
１）歯科口腔保健の理念及びう歯や歯周病、摂食・嚥下障害等の歯科口腔保健の現状について学ぶ。
２）8020運動等、生涯を通じた歯科口腔保健対策について学ぶ。
３）母子歯科保健、学童歯科保健、成人・高齢者の歯科保健活動の実際について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.395～403
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.395～403をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第１３回　歯科口腔保健（演習）

【key words】
歯科口腔保健、歯科衛生士、歯磨き指導

【授業概要】
歯科衛生士による歯科口腔保健の講話、歯磨き指導の演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.395～403
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.395～403をよく読む。
持ち物：手鏡、タオルを持参すること。

第１４回　学校保健

【key words】
学校保健、養護教諭、不登校

【授業概要】
１）学校保健の理念、学校保健の歴史と現状及び学校保健のしくみについて学ぶ。
２）保健室の機能と保健室経営等、養護教諭の職務内容について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.433～446
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.433～446をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

第１５回　産業保健

【key words】
産業保健、労働安全衛生管理、ワーク・ライフ・バランス

【授業概要】
１）産業保健の概念と労働者の健康を支援するための制度について学ぶ。
２）産業保健の現状について理解する。また、産業活動に伴う健康問題と保健活動の実際について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018　p.447～469
参考書：厚生統計協会：国民衛生の動向.2017/2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.447～469をよく読む。
復習：教科書及び配布資料を復習する。

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

	・携帯電話を机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習として教科書を読んで授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。 教科書、配布資料をよく読み復習すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記試験（客観・論述）90% レポート 10%
教科書	データ更新第4版　公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル. 2018
参考書	国民衛生の動向 2017/2018
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護学原論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
中川　陽子・勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生看護活動に必要な基本的知識を習得する。 【到達目標】 ①地域保健活動過程の一連の流れがわかる。 ②地域診断の意義と目的がわかる。 ③地域保健計画、事業計画と保健師の役割がわかる。
授業の概要	公衆衛生看護活動の基本となる公衆衛生看護過程、地域診断、事業計画、予算、評価（疫学的評価方法を含む）、行政保健師に必要な自治体に関する基本的知識を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①地域保健活動過程の一連の流れがわかる。	◎	◎	○	○
②地域診断の意義と目的がわかる。	◎	◎	○	○
③地域保健計画、事業計画と保健師の役割がわかる。	◎	◎	◎	◎
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　地域診断の概念　地域保健活動に用いる理論 【key words】 講義の受け方、公衆衛生看護、地域診断、地域保健活動 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）患者に対する看護過程の展開と同様に、地域保健活動においては、地域保健活動過程を実践する。保健師が地域保健活動過程を実践する意義と目的について学ぶ。 ３）プリシード・プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル等の地域保健活動に用いる理論について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.97～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】

予習：教科書p.97～102をよく読む。
復習：地域診断の概念及び地域保健活動に用いる理論について復習する。

第２回　地域保健活動の方法、地域診断の過程（情報収集と地域アセスメント）【演習①】

【key words】
地域診断、既存の資料、情報収集、地域アセスメント

【授業概要】
次年度、おくたのげんき隊としてボランティア活動を担うにあたり、既存の資料からA町の地域診断を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.103～117
参考文献:佐伯和子編著:地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版.医師薬出版株式会社.2018 p.6～36

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書p.103～117をよく読む。
課題：次年度、おくたのげんき隊として活動するにあたり、A町の地域診断を行う。

第３回　地域診断の過程（情報収集と地域アセスメント）【演習②】

【key words】
地域診断、既存の資料、情報収集、地域アセスメント

【授業概要】
次年度、おくたのげんき隊としてボランティア活動を担うにあたり、既存の資料からA町の地域診断を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.103～117
参考文献:佐伯和子編著:地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版.医師薬出版株式会社.2018 p.6～36

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書及び配布資料をよく読み、地域アセスメントに活用する。
課題：A町の地域診断を実施し、提出する（締め切り厳守）。

第４回　疫学概論　疫学の指標、疫学調査法

【key words】
疫学概論、疫学の指標、疫学調査法

【授業概要】
疫学がなぜ公衆衛生看護に必要かを考える。疫学の指標、疫学調査法について学び、疫学の問題を解いて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.97～127

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書p.97～127をよく読む。
復習：配布資料の演習問題を復習する。

第５回　活動・事業計画と保健師の役割

【key words】
地域保健活動計画、地域保健活動過程、保健師活動

【授業概要】
地域保健活動計画の意義と活動計画作成の過程を学び、地域保健活動過程と保健師活動について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.128～134

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書p.128～134をよく読む。
復習：配布資料の演習問題を復習する。

第６回　地域保健活動計画のモニタリング・評価

【key words】
地域保健活動計画、事業、モニタリング、評価

【授業概要】
地域保健活動計画のモニタリングと評価を実施する必要性について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.134～137

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書p.134～137をよく読む。
復習：配布資料の演習問題を復習する。

第７回　地方自治体における計画策定・施策化と予算のしくみ

【key words】

	地方自治体、保健福祉政策、予算 【授業概要】 地方自治体における保健福祉政策と保健師の役割について学ぶ。また、保健事業の実施に要する費用計上の例を用いて、予算のしくみについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル. 2018 p. 138～147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書p. 138～147をよく読む。 復習：配布資料の演習問題を復習する。 第８回　地域におけるグループ支援、地区組織化活動 【key words】 地域保健活動計画、事業、モニタリング、評価 【授業概要】 地域で生活する上で、一人ひとりでは気づきや解決が困難な健康上の課題に対して、グループのもつ力を活用することの意義について学ぶ。また、保健師によるグループの育成支援と組織化、地区組織化活動の実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル. 2018 p. 148～165 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書p. 148～165をよく読む。 復習：配布資料の演習問題を復習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・携帯電話は机上に置かないこと。 ・レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業に関わる事柄について予習をして授業に臨むこと。 終了した授業に関しては必ず復習をすること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	筆記試験（客観的）80%、レポート課題 20%
教科書	データ更新第4版　公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル. 2018
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
中川　陽子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 地域住民の健康課題のアセスメントと活動支援方法について理解する。 〔到達目標〕 ①地域に顕在化・潜在化しているヘルスニーズを捉えるために地域診断を実施できる。 ②個人・集団が自らの健康課題に対して主体的に取り組める支援方法を考察できる。
授業の概要	既存資料（国、県、市町村の資料）を使い、地域診断の演習及び発表を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①地域に顕在化・潜在化しているヘルスニーズを捉えるために地域診断を実施できる。	◎	◎	◎	◎
②個人・集団が自らの健康課題に対して主体的に取り組める支援方法を考察できる。	◎	○	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション （11/12） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について ２）エイズ予防啓発活動について ３）群馬ダルクの依存症患者に対する取り組み ４）地域診断の進め方 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書:第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117を熟読しておくこと。 第２回　【講義】エイズ予防啓発活動と保健所（1限　担当：藤岡保健福祉事務所　保健師　田中裕加）

	(11/13) 【key words】 感染症、AIDS、HIV、性感染症、世界エイズデー 【授業概要】 １）感染症とは ２）AIDS・HIVの基礎知識 ３）性感染症について ４）AIDS・HIVの現状 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.359-394 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書:第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.359-394を熟読しておくこと。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第３回 (11/13) 【演習】エイズ予防啓発活動①（2限　担当：中川陽子） 【key words】 AIDS、HIV、世界エイズデー、予防啓発活動 【授業概要】 藤岡保健福祉所と連携し、エイズ予防啓発活動に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.359-394 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書:第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.359-394を熟読しておくこと。 課題：活動を通して学んだことをレポートにまとめる。
	第４回 (11/27) 【演習】エイズ予防啓発活動②（2限　担当：中川陽子） 【key words】 AIDS、HIV、世界エイズデー、予防啓発活動 【授業概要】 藤岡保健福祉所と連携し、エイズ予防啓発活動に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.369-371 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書:第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.369-371を熟読しておくこと。 課題：活動を通して学んだことをレポートにまとめる。
	第５回 (11/27) 【講義】 コミュニティアズパートナーモデル、地域診断（3限　担当：中川陽子） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、コミュニティ・アズ・パートナーモデル 【授業概要】 １）既存のデータの収集・分析、実態調査による情報収集について ２）課題の抽出と明確化、目標設定、解決方策の検討、住民への周知について ３）地域アセスメント項目と情報の分析 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117を熟読しておくこと。 復習：教科書及び配布資料を復習する。
	第６回 (1/7) 【演習】地域診断①（情報収集）（3限　担当：中川陽子） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、コミュニティ・アズ・パートナーモデル 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル. 2018. p.97-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117を熟読しておくこと。 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集を行う。
	第７回 (1/7) 【演習】地域における連携と協働②（情報収集・分析）（4限　担当：中川陽子） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル. 2018. p.97-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117を熟読しておくこと。 課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行う。
	第８回 (1/14) 【演習】地域における連携と協働③（情報収集・分析）（3限　担当：中川陽子） 【key words】 地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題 【授業概要】 実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.97-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.97-117を熟読しておくこと。
課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。

第９回
（1/14）
【演習】地域における連携と協働④（情報収集・分析）（4限　担当：中川陽子）

【key words】
地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題
【授業概要】
実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.97-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.97-117を熟読しておくこと。
課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。

第１０回
（1/21）
【演習】地域における連携と協働⑤（情報収集）（3限　担当：中川陽子）

【key words】
地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題
【授業概要】
実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.97-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.97-117を熟読しておくこと。
課題：既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。

第１１回
（1/21）
【演習】地域における連携と協働（地域診断のまとめ）（4限　担当：中川陽子）

【key words】
地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題
【授業概要】
実習地域に関する既存の資料から情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.97-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.97-117を熟読しておくこと。
課題：①既存の資料から、実習地域の情報収集・分析を行い、健康課題を抽出する。②発表用資料をまとめる。

第１２回
（1/28）
【講義】薬物依存自助グループ①（3限　担当：群馬ダルク）

【key words】
依存症、群馬ダルク
【授業概要】
１）依存症患者に関する群馬ダルクの取り組み（講話）
２）群馬ダルク スタッフの体験談
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.353-355
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.353-355を熟読しておくこと。
課題：依存症患者に関する講話・演習から考えたことについてレポートにまとめる。

第１３回
（1/28）
【演習】薬物依存自助グループ②（4限　担当：群馬ダルク）

【key words】
依存症、群馬ダルク
【授業概要】
１）依存症患者に関する群馬ダルクの取り組み（演習）
２）群馬ダルク スタッフの体験談
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.353-355
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.353-355を熟読しておくこと。
課題：依存症患者に関する講話・演習から考えたことについてレポートにまとめる。

第１４回
（1/31）
【演習】地域診断の発表　（1限　担当：中川陽子）

【key words】
地域診断、情報収集、地域アセスメント、健康課題
【授業概要】
実習地域に関する地域診断の発表を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル．2018．p.97-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp．インターメディカル．2018．p.97-117を熟読しておくこと。
課題：他のグループの発表を聞き、自分のグループが不足していた情報や分析について修正・追加する。

	第１５回 （1/31） 【演習】地域診断の発表　（2限　担当：中川陽子） 【授業概要】 実習地域に関する地域診断の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp.インターメディカル. 2018. p.97-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書：第4版 公衆衛生看護学 Jp. インターメディカル. 2018. p.97-117を熟読しておくこと。 課題：他のグループの発表を聞き、自分のグループが不足していた情報や分析について修正・追加する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①予習をして臨むこと。 ②自身や家族･身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講する。 ③教科書･プリント等は毎回持参する。 ④遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡すること。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ②私語・携帯電話・スマートフォンの使用を禁ずる。携帯電話・スマートフォンは許可がない場合は机上に置かない。 ③レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	振り返り用紙またはミニレポート。
授業外時間にかかわる情報	授業後30分
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①筆記試験（客観・論述）30%、 ②演習課題・発表、取り組みの態度 70%、内訳は以下に示す。 ・地域診断課題（提出物）30% ・地域診断発表　40%
教科書	教科書：データ更新第4版　公衆衛生看護学. jp.インターメディカル. 2017
参考書	参考書：中谷芳美：標準保健師講座対象別公衆衛生看護活動. 医学出版. 2014 参考書：中村裕美子他編：標準保健師講座2. 地域看護技術. 医学書院. 2013
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護活動論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	2単位(30)	選択
担当教員			
中川　陽子・勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 ①おくたのげんき隊の活動を通して、個人や家族、集団等を対象に、そこで生活している人々の健康やQOLの向上を目指す支援方法を理解する。 ②課題解決のための健康教育を実施し、評価することができる。 〔到達目標〕 ①おくたのげんき隊の活動（脳若教室）において、認知症予防活動に取り組むことができる。 ②実習予定地域で実施する健康教育を計画、発表、評価することができる。
授業の概要	・おくたのげんき隊のボランティア活動（脳若教室）を通して、地域住民と交流を図りながら認知症予防活動に取り組む。 ・実習予定地域の地域の実状を踏まえ、健康教育を計画し媒体を作成・修正する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①おくたのげんき隊の活動（脳若教室）において、認知症予防活動に取り組むことができる。	○	◎	◎	◎
②実習予定地域で実施する健康教育を計画、発表、評価することができる。	◎	◎	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション 【key words】 公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、認知症予防 【授業概要】 １）講義の受け方、予習・復習、評価方法について説明する。 ２）おくたのげんき隊（脳若教室）における役割と目標設定を行う。 ３）おくたのげんき隊の任命式について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018

p.299～305

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書p.299～305をよく読む。
課題：おくたのげんき隊（脳若教室）において実施する運動について検討する。

第２回　おくたのげんき隊　任命式①

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、任命式

【授業概要】
おくたのげんき隊の任命式に出席する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018
p.299～305
脳若ドリル No.2

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルを予習する。
課題：おくたのげんき隊（脳若教室）における目標を記載し、提出する。

第３回　おくたのげんき隊　任命式②

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、任命式

【授業概要】
おくたのげんき隊の任命式に出席する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018
p.299～305
脳若ドリル No.2

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルを予習する。
課題：おくたのげんき隊（脳若教室）における目標を記載し、提出する。

第４回　おくたのげんき隊　脳若教室①

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル

【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（1日目）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（１日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

第５回　おくたのげんき隊　脳若教室②

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル

【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（2日目）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（２日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

第６回　おくたのげんき隊　脳若教室③

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル

【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（3日目）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（３日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

第７回　おくたのげんき隊　脳若教室④

【key words】

公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル

【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（4日目）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（４日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

第８回　おくたのげんき隊　脳若教室⑤

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、脳若ドリル

【授業概要】
１）おくたのげんき隊（脳若教室）に出席し、地域住民と交流を図る。
２）脳若ドリル及びiPadを用いた認知症予防活動に取り組む。
３）脳若教室において、学生が考案した体操を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2（5日目）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳若教室で使用する脳若ドリルNo.2（５日目）を予習して臨む。
課題：活動を振り返り、ボランティア活動報告書をまとめる。

第９回　おくたのげんき隊（脳若教室）活動の振り返り

【key words】
公衆衛生看護活動、おくたのげんき隊、脳若教室、振り返り

【授業概要】
１）脳若教室における、各自の目標達成度についてまとめる。
２）脳若ドリルの修正点について、具体的に検討する。
３）脳若教室での活動報告をまとめ、発表する（おくたのげんき隊の反省会・交流会）。

【教科書ページ・参考文献】
脳若ドリル No.2

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：活動を振り返り、最終レポートをまとめる。

第１０回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備①】（健康教育指導案作成）

【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、指導案作成

【授業概要】
公衆衛生看護学実習Ｉの実習地域の実状を踏まえ、健康教育の指導案を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018
p.199～202

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.199～202をよく読む。
課題：健康教育指導案を実習グループ毎に検討する。

第１１回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備②】（健康教育指導案作成の続き、教育媒体作成）

【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、指導案・媒体作成

【授業概要】
実習グループ毎に、健康教育の指導案及び媒体を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018
p.203～207

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書 p.203～207をよく読む。
課題：健康教育指導案及び媒体を実習グループ毎に作成する。

第１２回　【公衆衛生看護学実習Ｉの準備③】（教育媒体作成の続き）

【key words】
公衆衛生看護学実習Ｉ、健康教育、媒体作成

【授業概要】
発表会に向けて、実習グループ毎に健康教育の媒体を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018
p.203～207

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	予習：教科書 p.203～207をよく読む。 課題：発表会に向けて、媒体を完成させ準備する。 第１３回　【公衆衛生看護学実習Ⅰの準備④】（健康教育の実施） 【key words】 健康教育、発表、評価 【授業概要】 健康教育の発表会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.206～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.206～207をよく読む。 課題：健康教育指導案・媒体を修正する。 第１４回　【公衆衛生看護学実習Ⅰの準備⑤】（健康教育の実施） 【key words】 健康教育、発表、評価 【授業概要】 健康教育の発表会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.206～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.206～207をよく読む。 課題：健康教育指導案・媒体を修正する。 第１５回　【公衆衛生看護学実習Ⅰの準備⑥】（健康教育の実施） 【key words】 健康教育、発表、評価 【授業概要】 健康教育の発表会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:荒賀直子・後閑容子編:第4版データ更新 公衆衛生看護学.Jp.インターメディカル.2018 p.206～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 p.206～207をよく読む。 課題：健康教育指導案・媒体を修正する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ①演習時の服装は、普段着又は大学指定ジャージとする。 ②自身や家族･身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講する。 ③おくたのげんき隊の活動へは積極的な姿勢で臨むこと。 〔受講のルール〕 ①授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ②携帯電話の使用を禁ずる。携帯電話は机上に置かない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式及びボランティア活動報告書
授業外時間にかかわる情報	履修者全員が、おくたのげんき隊の任命式に出席する。 オープンキャンパスにおいて、健康教育を発表する。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	①おくたのげんき隊の活動における目標達成度・レポート課題　50%、 ②健康教育　50%、内訳は以下に示す。 ・健康教育指導案 20% ・健康教育の発表 30%
教科書	教科書：第4版データ更新　公衆衛生看護学.Ｊｐ.インターメディカル.2017
参考書	参考書：中谷芳美：標準保健師講座対象別公衆衛生看護活動.医学出版.2014 参考書：中村裕美子他編：標準保健師講座2.地域看護技術.医学書院.2013
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理について講じる。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　産業保健論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
廣田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 産業の場で働く人々が、健康と労働の調和を図り、幸福な生活を送るための看護の役割及び支援の方法を理解できる。 【到達目標】 １．産業保健活動の理念と目的が説明できる。 ２．我が国の労働衛生に関する現状から健康課題が説明できる。 ３．我が国の労働衛生管理体制と対策が説明できる。 ４．産業における健康課題と看護の役割及び支援の方法が説明できる。
授業の概要	産業保健の目的を理解し、近年の労働衛生に関する現状から健康課題を明らかにする方法を学習する。更に、課題解決の対策として法律、施策から衛生管理体制を理解し、看護の役割と具体的な看護支援活動を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 オリエンテーション、産業保健・産業看護の考え方と我が国における変遷 第２回 産業保健活動を推進するための体制 第３回 産業保健の現状 第４回 産業保健における健康課題 第５回 産業保健活動の基本、職業性疾病と予防対策における産業看護の役割 第６回 作業関連疾患と予防対策、　産業看護活動の実際①　過重労働対策、メンタルヘルス対策 第７回

	産業看護活動の実際②　VDT作業による健康影響への対策、職場巡視 第８回 産業保健活動の実際③　多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動
受講生に関わる情報および受講のルール	毎回の授業では、コメントカードにより内容の理解を判断するため、学んだ内容と考察を記載することを求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業で提示された授業資料及び教科書にて該当箇所を復習をする。コメントカードの考察には、以前の授業の復習で理解している内容が基盤となっていることが重要。
オフィスアワー	授業前後20分は対応可能
評価方法	定期試験（90%）、コメントカードによる各回での考察（10%）
教科書	公衆衛生看護学. JP：インターメディカル、国民衛生の動向2019/2020.
参考書	河野啓子、産業看護学2017年版、日本看護協会出版会（2017）. 荒木田美香子編、公衆衛生看護学テキスト４　公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業看護、医歯薬出版株式会社（2014）.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ☐実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ☐協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　養護概説　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山下　博子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割について理解する。 〔到達目標〕 学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割を理解し、子どもの現代的課題について情報の収集ができ、養護教諭の専門 性について示すことができる。
授業の概要	学校教育の場で、養護教諭の職務が円滑に進められるように、具体的で実践的な内容を基に次のような講義を行う。 養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割。学校における保健管理・保健教育の内 容と養護教諭の役割。 保健室の役割と保健室経営計画。養護教諭の関連職種・関連機関との連携方法。子どもの現代的課題について情報の収 集。 以上の学習を踏まえて、養護教諭の専門性について先行研究等を確認しながら検討を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割を理解し、子どもの現代的課題について情報の収集ができ、養護教諭の専門性について示すことができる。	◎	◎	◎	◎
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション・養護教諭の概念と職務の変遷 【key words】 養護教諭、職務 【授業概要】

科目の位置づけとシラバスの説明。
第１章　教育関係法令と教育行政、第２章　学校教育と学校保健、第３章　養護教諭

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校保健安全法の目的について、確認し覚える。
学校保健の領域構造について理解し、覚える。
養護教諭の職業倫理について考える。

第２回　学校教育における養護教諭の役割１

【key words】
養護教諭、職務、役割

【授業概要】
第４章　養護教諭の職務　養護教諭の職務に関するこれまでの経緯と職務内容に関する解説。現代的な健康　課題への対応をふまえ、これからの学校保健に求められている養護教諭の役割について概説する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
養護教諭の職務内容をまとめ、これまでの小学校、中学校、高等学校での養護教諭との関わりを振り返る。

第３回　学校教育における養護教諭の役割２

【key words】
養護教諭、職務、役割、文献

【授業概要】
中央教育審議会答申（平成２０年１月）及び学校保健安全法等から、養護教諭の主な役割を考察する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説　　(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】

中央教育審議会答申（平成２０年１月）内容を文部科学省ホームページから調べておく。

第４回　保健管理１　救急処置と健康観察

【key words】
保健管理、救急処置、健康観察

【授業概要】
第５章　保健管理　学校における救急処置、健康観察について概説する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
保健管理について、学校保健の領域の中の位置付けについて理解しておく。

第５回　保健管理2　健康診断と疾病管理

【key words】
健康管理、健康診断、疾病管理、

【授業概要】
第５章　保健管理　健康診断、疾病管理について概説する。
児童生徒の健康診断マニュアルにそって健康診断項目について理解する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018
日本学校保健会　編：児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
健康診断について理解し、正しい方法で実施できるようにすること。

第６回　保健管理3　学校環境衛生

【key words】
保健管理、学校環境衛生、基準

【授業概要】
第５章　保健管理　学校環境衛生について概説する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校環境衛生基準について定められている基準を覚える。

第７回　保健教育１　教科における保健教育

【key words】
教科保健（保健学習）・保健指導

【授業概要】
保　健教育の領域とそれぞれの特質を理解する。

教科保健（保健学習）・保健指導の領域を理解する。
保健教育における養護教諭の役割を理解する

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第８回　保健教育２　特別活動などにおける保健指導
【key words】
保健教育、特別活動、保健指導

【授業概要】
第６章　保健教育　保健教育には、教育課程に基づく教科保健をはじめとする関連教科等での学習と、特別　活動等における保健指導及び保健管理に伴う保健指導があることを理解する。
【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第９回　保健室の機能と役割
【key words】
保健室の機能、役割、健康相談、保健室経営

【授業概要】
第７章　健康相談、第８章　保健室経営　について概説する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】

保健通信を考え構想する。
第１０回　保健室経営における具体的な計画と実践
【key words】
保健室経営

【授業概要】
保健室の機能と保健室経営について、養護教諭の職務や保健室の機能を十分考慮した上で、効果的な計画を　立てることが重要であることを概説する。授業担当者が小学校、中学校、高等学校で実践した事例を基に、　計画の立案、実施、評価、改善のマネジメントサイクルについて概説する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
養護教諭の視点で保健室経営案を構想する。
第１１回　学校保健に関わる組織活動
【key words】
学校保健、組織、連携

【授業概要】
第９章　組織活動
学校における組織活動の主となる学校保健委員会の実施にあたっての手順とポイントについて概説する。ま　た、保健主事は、学校保健委員会の運営や学校保健活動にかかわる組織が円滑に活動できるよう調整にあた　る役割をもち、養護教諭の協力のもとに学校保健計画の策定の中心となることを理解する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１２回　子どもの現代的な課題と対策
【key words】
健康課題、対応、対策

【授業概要】
第１３章　子どもの現代的な健康課題とその対応　子どもの健康問題の推移について概説する。　子どもの現代的な健康課題とその対応について理解する。

【教科書・参考文献】
采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
子どもの健康に視点を当て、現代的健康課題について考える。
第１３回　学校における教育相談の基本的な考え方
【key words】
教育相談、信頼関係、アセスメント

【授業概要】

	第１５章　学校における教育相談 学校における教育相談の基本的な考え方を理解する。また、学校におけるカウンセリングは、子どもとの信　頼関係の中で、子どもの内面や周囲の人々との関係性をアセスメントしながら、学校生活の中で出会う問題　を解決しようとするものであることを理解する。 【教科書・参考文献】 采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校、中学校、高等学校を通して、養護教諭との関わりの中で、支えられた内容について振り返る。 第１４回　学校における安全管理と危機管理 【key words】 学校、安全管理、危機管理 【授業概要】 第１０章　安全管理と危機管理　学校における危機管理の意義と基本的な考え方について概説し、危機管理　の進め方について、事前の危機管理（リスク・マネジメント）と事後の危機管理（クライシス・マネジメン　ト）の二つの側面について演習をする。 【教科書・参考文献】 采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１５回　養護教諭の専門性と研修の姿勢　　まとめ 【key words】 養護教諭、専門性、研修、自己の省察 【授業概要】 １６章　養護教諭養成と現職研修　　第１７章　調査・研究・プレゼンテーションの進め方 養護教諭の免許取得に必要な科目と単位数について理解する。また、教員免許更新制の導入についても文部　科学省ホームページの資料を基に理解をする。 【教科書・参考文献】 采女智津江　編：新養護概説(第10版) 少年写真新聞社、2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。 また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。 ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り 方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:00～12:40)
評価方法	筆記試験（客観・論述）７０％、課題学習・提出物３０％によって評価する。 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに６０％を超えていることが前提となる。
教科書	采女智津江　編：新養護概説(第１１版)、少年写真新聞社
参考書	学校保健・安全実務研究会：新訂版　学校保健実務必携《第4次改定版》、第一法規、　2017 日本学校保健会　編：児童生徒の健康診断マニュアル（平成27年度改訂版）、2016
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 38年間養護教諭として勤務（小学校・中学校・高等学校）経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学校保健活動論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校保健の歴史に基づき、制度や組織について理解する。 【到達目標】 学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができる。 養護教諭に必要な児童生徒に関する知識や教育に関する専門的な知識と技能を身に付け、実際の学校保健の場で活用できる。
授業の概要	学校保健の歴史・制度組織について概観し、学校保健活動における中核としての保健管理と保健指導について論じる。また、学校安全と食育を加えながら、具体的な学校保健活動を通じて、関連機関や人的資源との連携について解説する。また、学校保健における今日的な課題を演習し、課題の解決に向けた取り組みについても理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができる。	◎	○	○	○
②養護教諭に必要な児童生徒に関する知識や教育に関する専門的な知識と技能を身に付け、実際の学校保健の場で活用できる。	○	○	○	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション「学校保健」 【key words】 科目オリエンテーション 【授業概要】 授業の内容と日程の確認，学校保健についての現時点での理解度についての確認する。 【教科書ページ・参考文献】

		学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P5～P59 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第２回	学校保健の概説・構造及び健康の評価 【key words】 学校保健の領域と構造、健康の評価 【授業概要】 保健調査，健康診断，健康観察，健康相談について解説する。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P165～、P397～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第３回	感染症とその対応 【key words】 感染症の予防、出席停止と臨時休業、感染症発生時の対応 【授業概要】 児童生徒に見られる感染症とその対応・予防について解説する。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P165～、P397～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第４回	保健室の役割と学校内外の連携 【key words】 保健室の役割、保健室利用状況、保健室経営、養護教諭の役割 【授業概要】 学校における保健センターとしての保健室の役割について解説する。 学校保健システム、学校保健組織活動を支える人々・機関の役割と機能について解説する。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P520～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第５回	保健指導・保健学習 【key words】 学校保健と教育課程、学習指導要領、各校種にける保健教育 【授業概要】 特別活動，学級活動，学校行事等における保健指導と小学校，中学校，高等学校の保健学習について説明する。 小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P550～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第６回	現代的な健康課題と保健教育 【key words】 性に関する指導、エイズ教育、未成年者における喫煙・飲酒・薬物乱用の減じようと課題 【授業概要】 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育，性に関する指導等について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P774～、P857～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第７回	学校安全 【key words】 学校安全、学校安全計画、学校における危機管理、安全教育 【授業概要】 学校安全、安全管理と安全教育，学校の危機管理について説明する。 学校保健講話に関するグループワーク。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P983～ 【課題・予習・復習・授業準備】 学校保健講話発表の準備を行う。予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第８回	まとめと振り返り 【key words】 学校保健講話発表、学校保健の評価

	【授業概要】 学校保健講話発表、学校保健の評価とまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P972～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度) ・学校保健活動に関する情報（新聞記事、文献等）を収集する。その中から一つテーマを選び、その内容を要約し意見および感想をまとめる。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	筆記試験（客観・論述）60%、小テスト20%、発表20% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック、文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小・中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、学校保健活動における保健管理と保健指導について、具体的な事例を用いて関連機関や人的資源との連携について解説する。また、学校保健における今日的な課題について、収集したデータ，体験等を基に，グループ・ディスカッション等を行うことで，個人の学びを深める。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学校保健活動論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校保健計画・学校安全計画・保健室経営計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面を理解する。 【到達目標】 健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などのに関する知識や実技を身に付け、学校保健の場で活用することができる。
授業の概要	学校保健活動論Ⅰで学んだ概論に基づいて、学校保健計画・学校安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるように、項目ごとに具体例を上げながら解説する。また、具体的な項目ごとの、健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技が身に付くように演習を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などのに関する知識や実技を身に付け、学校保健の場で活用することができる。	○	○	○	◎
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション「学校保健活動論Ⅱ」 【key words】 学校教育、学校保健計画・学校安全計画、保健室経営計画 【授業概要】 科目オリエンテーション 学校教育と学校保健の概要、学校保健計画・学校安全計画、保健室経営計画の立案について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P63～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)

	第２回	学習指導要領と指導案 【key words】 学習指導要領、学習指導案 【授業概要】 学習指導要領及び指導案作成の留意事項について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P550～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第３回	定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患に対する取り組み 【key words】 定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患、アドレナリン自己注射 【授業概要】 定期健康診断、学校環境衛生検査の目的と実際について解説する。 学校のアレルギー疾患に対する取り組みについて解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P167～、P80～、P480～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第４回	定期健康診断、学校環境衛生検査 【key words】 定期健康診断、学校環境衛生検査、アレルギー疾患、アドレナリン自己注射 【授業概要】 定期健康診断諸検査の会場設営と検査、記録、事後措置の演習を行う。 学校環境衛生検査の意義について学び、実習を行う。（水質検査・照度検査・各種検査等） エピペントレーナーを用いてアドレナリン自己注射(エピペン)の実習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P167～、P80～、P480～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第５回	小学校保健教育の実践① 【key words】 小学校学習指導要領、学習指導案細案と略案、保健科指導法 【授業概要】 小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説体育編に沿って、保健学習の主題を設定し、目標・内容を考え学習指導案を立てる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P564～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。模擬授業の準備を行う。(所要時間60分程度)
	第６回	小学校保健教育の実践② 【key words】 小学校保健学習、模擬授業、評価 【授業概要】 作成した小学校保健学習指導案を基に、グループごとに養護教諭の特性を生かした模擬授業を実施する。 模擬授業の発表後に相互評価を行い学習指導案を再検討する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P564～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第７回	中学校保健教育の実践③ 【key words】 中学校学習指導要領、学習指導案細案と略案、保健科指導法 【授業概要】 中学校学習指導要領及び中学校学習指導要領解説体育編に沿って、保健学習の主題を設定し、目標・内容を考え学習指導案を立てる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P588～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行うこと。(所要時間60分程度)
	第８回	中学校保健教育の実践④ 【key words】 中学校保健学習、模擬授業、評価 【授業概要】 作成した中学校保健学習指導案を基に、グループごとに養護教諭の特性を生かした模擬授業を実施する。 模擬授業の発表後に相互評価を行い学習指導案を再検討する。 【教科書ページ・参考文献】

	配付資料、学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第4次改訂版》、第一法規、2017、P588～ 【課題・予習・復習・授業準備】 予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・授業時間内外でグループで準備・作業する時間があるので、互いに協力し計画的に取り組むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱ及び総合演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む姿勢、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に復習を行う。(所要時間60分程度) ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
オフィスアワー	授業前後45分
評価方法	レポート試験（客観・論述）70%、保健教育発表30% 総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	学校保健・安全実務研究会編：新訂版　学校保健実務必携《第４次改訂版》、第一法規、2017
参考書	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会、2016 保健室経営計画の手引、日本学校保健会、2015 保健主事のための実務ハンドブック、文部科学省、2011 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育、文部科学省、2012 学校環境衛生マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践、日本学校保健会、2018 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版、2011
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 埼玉県内の公立小・中学校に養護教諭として29年間勤務した。その経験を活かし、養護教諭が行う具体的な活動の場面を理解できるようにするため、学校における定期健康診断、環境衛生検査、保健教育等について、項目ごとに事例を上げながら解説する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域実習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	3単位(135)	選択
担当教員			
中川　陽子・勅使川原　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 地域の健康課題とその地域で展開されている公衆衛生看護の実際を知り、行政を活動の場とする保健師の活動方法及び役割を学ぶ。 [到達目標] ①公衆衛生行政（特に一般衛生行政）の組織と機能、そこでの保健師活動がわかる。 ②実習地域の健康課題と保健事業との関連について理解できる。 ③個人・家族・集団・地域社会に対する公衆衛生看護の展開方法がわかる。 ④個人・家族・集団を対象とした保健活動を実践し、評価することができる。 ⑤保健・医療・福祉・教育・産業の連携によって地域住民の健康問題解決を図る意義と方法がわかる。 ⑥保健師の倫理的実践について考察し、行動規範の向上を目指す。
授業の概要	臨地実習要項参照 ■実習時期及び実習日数・時間 実習時期：平成31年8月26日（月）～10月11日（金）3週間 2クール 実習日数・実習時間：15日間（135時間）（3単位） 実習施設：群馬県内の保健所/保健福祉事務所、市町村保健センター

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①公衆衛生行政（特に一般衛生行政）の組織と機能、そこでの保健師活動がわかる。	◎	◎	◎	◎
②実習地域の健康課題と保健事業との関連について理解できる。	◎	◎	◎	◎
③個人・家族・集団・地域社会に対する公衆衛生看護の展開方法がわかる。	◎	◎	◎	◎
④個人・家族・集団を対象とした保健活動を実践し、評価す	◎	◎	◎	◎

ることができる。				
⑤保健・医療・福祉・教育・産業の連携によって地域住民の健康問題解決を図る意義と方法がわかる。	◎	◎	◎	◎
⑥保健師の倫理的実践について考察し、行動規範の向上を目指す。	◎	◎	◎	◎
授業計画	＊＊＊＊　　臨地実習要項参照			
受講生に関わる情報および受講のルール	■実習履修資格者 （1）保健師課程履修を許可されていること。 （2）施設・病棟統合実習を除く３年次までの看護学臨地実習の単位を全て修得していること。 （3）3年次までの保健師必修科目の単位を全て修得していること。 （4）4年次前期の保健師必修科目の単位認定の資格要件を満たしていること。 以上（1）～（4）の条件をすべて満たしていること。 ■実習上の注意 ・臨地実習要項「公衆衛生看護学実習Ⅰ」にそって実習を行う。 ・社会人としての責任ある振る舞いを要求される。 ・制服もしくは指示された服装で実習すること。 ・靴はローヒールで音のしないものであること。 ・髪は他の実習と同様にまとめる。アクセサリーはつけない。 ・実習中は名札を着用する。 ・事前学習をしないで実習することはできない。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	臨地実習要項参照			
授業外時間にかかわる情報	臨地実習要項、実習オリエンテーション資料参照			
オフィスアワー	臨地実習要項参照			
評価方法	公衆衛生看護学実習Ⅰの目標を評価基準として、実習内容、実習中の態度、課題、記録物、出席状況等を基に総合的に評価する。 詳細は臨地実習要項を参照のこと。			
教科書	公衆衛生看護活動論で使用した教科書			
参考書	公衆衛生看護活動論で使用した参考書			
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県保健師、市町村保健師としての実務経験を活かし、保健師として必要な知識、技術、価値、倫理面について指導する。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない			

講義科目名称：　公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健実習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(45)	選択
担当教員			
山下　博子　　丸井　淑美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 学校保健活動および養護教諭の活動の実際を学び、地域と学校との連携のあり方を通して包括的健康支援を考える。 〔到達目標〕 1)学童・生徒の健康問題を知ることができる。 2)養護教諭および保健室の役割、機能を学ぶことができる。 3)地域保健活動と学校保健との連携を学ぶことができる。 4)就学期における子どもたちの健康問題を、乳幼児期から成人期、老年期までの一貫したライフサイクルの中で捉え、健康支援のあり 方を考えることができる。
授業の概要	実習時期：2019年9月　・10月 実習日数・実習時間：1週間（45時間）事前指導2日、事後指導1日間 実習施設：藤岡市内の公立学校 ＊実習方法の詳細は「臨地実習要項　公衆衛生看護学実習Ⅱ」に提示する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①学童・生徒の健康問題を知ることができる。	◎	◎	○	◎
②養護教諭および保健室の役割、機能を学ぶことができる。	○	◎	◎	○
③地域保健活動と学校保健との連携を学ぶことができる。	◎	◎	◎	○
④就学期における子どもたちの健康問題を、乳幼児期から成人期、老年期までの一貫したライフサイクルの中で捉え、健康支援のあり方を考えることができる。	○	◎	◎	◎
⑤				
⑥				
授業計画	第１回　　学内および各学校での実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）要項参照			

受講生に関わる情報および受講のルール	地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲおよび地域看護学実習Ⅳともに以下の要件をすべて満たしている者が、地域看護学実習に臨むことができる。 1)基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習およびすべての領域別看護学実習の単位修得 2)地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論および学校保健活動論Ⅰの単位修得 3)地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしていこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	事前学習及び準備をしっかりして、学校での実習に取り組むこと
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項に沿って実習する。 1)評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。 ①出席状況 ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況 ③実習態度 ④実習記録・レポート 2)評価手順と方法 ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。 ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。 ③上記評価票により、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階で総合的に評価する。
教科書	臨地実習要項 配布資料
参考書	公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル. 2017 学校保健実務必携．第一法規．第4次改訂版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 38年間養護教諭として勤務（小学校・中学校・高等学校）経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 施設・病棟統合実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	４年次	2単位(90)	必修
担当教員			
看護学部専任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【目的】 あらゆる健康段階における対象とその家族への看護活動のあり方を学び、保健・医療・福祉チームにおける看護専門職の役割と責任を理解し、総合的な看護実践能力を高めるための知識・技術・態度を習得する。 【目標】 １．施設および病院組織における看護の機能と役割を理解する。 1) 看護部・病棟の組織と役割について説明できる。 2) 看護部・病棟の組織としての医療安全管理について説明できる。 3) 医療・看護倫理の重要性について考えられる。 4) 病棟看護管理者の役割について説明できる。 ２．チーム医療における看護職間・多職種との協働・連携について理解する。 1) 患者に関わる多職種の役割を説明できる。 2) チーム医療における多職種との連携の必要性を説明できる。 3) リーダーシップ、メンバーシップについて説明できる 4) 看護活動におけるマネジメントの必要性について説明できる。 ３．地域包括ケアシステムにおける看護活動のあり方を理解する。 1) 退院支援における地域包括ケアシステムの必要性について説明できる。 2) 社会資源の活用や在宅生活に向けての退院支援・調整における看護師の役割を説明できる。 3) 医療・看護・保健・福祉・行政の支援ネットワークの必要性を説明できる。 ４．看護専門職を目指す者として、看護活動する上での自己の課題を明確にする。 1) 事前学習を行い自己の学習目標を明確にできる。 2) 実習や自己学習に主体的に取り組むことが出来る。 3) グループメンバーの一員として協働・協力・連携を図ることができる。 4) 他者の意見を聴き、自己の意見を伝え、学びを深められる。 5) 実習の学びを通して自己の課題を記述できる。
授業の概要	実習要項に準じる

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①施設および病院組織における看護の機能と役割を理解する。 1) 看護部・病棟の組織と役割について	◎	◎	◎	◎

説明できる。 2）看護部・病棟の組織としての医療安全管理について説明できる。 3）医療・看護倫理の重要性について考えられる。 4）病棟看護管理者の役割について説明できる。				
②チーム医療における看護職間・多職種との協働・連携について理解する。 1）患者に関わる多職種の役割を説明できる。 2）チーム医療における多職種との連携の必要性を説明できる。 3）リーダーシップ、メンバーシップについて説明できる 4）看護活動におけるマネジメントの必要性について説明できる。	◎	◎	◎	◎
③地域包括ケアシステムにおける看護活動のあり方を理解する。 1）退院支援における地域包括ケアシステムの必要性について説明できる。 2）社会資源の活用や在宅生活に向けての退院支援・調整における看護師の役割を説明できる。 3）医療・看護・保健・福祉・行政の支援ネットワークの必要性を説明できる。	◎	◎	◎	◎
④看護専門職を目指す者として、看護活動する上での自己の課題を明確にする。 1）事前学習を行い自己の学習目標を明確にできる。 2）実習や自己学習に主体的に取り組むことが出来る。 3）グループメンバーの一員として協働・協力・連携を図ることができる。 4）他者の意見を聴き、自己の意見を伝え、学びを深められる。 5）実習の学びを通して自己の課題を記述できる。	◎	◎	◎	◎
⑤				
⑥				
授業計画	第１回			
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の要件をすべて満たしている者が、施設・病棟統合実習に臨むことができる。 　臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、看護活動におけるメンバー・リーダーシップの単位を修得している者			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。			
授業外時間にかかわる情報	実習に臨むにあたり、既習知識の復習及び事前学習は必須である。4月から事前学習に臨む事。事前学習の時間確保について、その他実習に関わる課題や実習記録を記載する上で必要な自己学習の時間は、各自で確保する必要がある。			

オフィスアワー	原則、臨地実習時間及び学内実習時間内に実習担当教員に相談し、指導を受けること。 事前学習についての時間確保は、担当教員の指示を受けることもある。
評価方法	1) 実習時間の5分の4以上の出席を単位認定の条件とする。 2) 出席状況・実習への取り組み・実習記録・レポート等の記載内容を評価対象とし、評価基準に基づいて総合的に評価する。
教科書	臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習に使用した全ての教科書、系統看護学講座看護の統合と実践①「看護管理」系統看護学講座看護の統合と実践②「医療安全」
参考書	上記の教科書以外で教員から指示された参考書
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 施設病棟統合実習は、学部全体で多彩な教授陣の指導の基で行っている。教員は其々大学病院、総合病院、地域中核病院の出身者で実務経験は豊富である。臨地に赴き、臨地実習指導者と情報交換をしながら実習指導に携わっている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
源内　和子　堀越　摂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 看護活動の場において展開される看護マネジメントの基礎と原則を習得し、将来看護活動の場で活用できるための基礎を学ぶ。 [到達目標] ①看護マネジメントの基礎と原則について理解できる。 ②看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。 ③実習体験を通して気付いた自己のメンバーシップ・リーダーシップの傾向を理解する。
授業の概要	看護の機能するあらゆる場における看護マネジメントの基本ならびに看護管理者の役割機能及び、メンバーシップ・リーダーシップの役割について、講義・グループワーク等の方法を用いて理解を深める。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護マネジメントの基礎と原則について理解できる。	◎	◎	◎	◎
②看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。	◎	◎	◎	◎
③実習体験を通して気付いた自己のメンバーシップ・リーダーシップの傾向を理解する。	◎	◎	◎	◎
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第1回 1.マネジメントとは　看護におけるマネジメントの考え方 2.サービスとは　看護サービスマネジメント 3.看護マネジメントの考え方の変遷 第2回 1.病院・看護部組織について 2.組織目標達成のマネジメント 3.人材マネジメント

	4. チーム医療・多職種協働 5. 看護職のキャリアマネジメント 第3回 1. 看護サービス提供のしくみ 看護単位・看護提供方式・ 2. 看護ケア提供システムと看護基準・手順 第4回 1. リーダーシップ 2. メンバーシップ 3. タイムマネジメント 第5回 グループワーク①「多様なチームケアの事象を通じて、チームケアにおける看護の役割を考える」 チーム医療とは何か、又チーム医療における看護職の責任と役割は何か、グループで討議する。 第6回 グループワーク②「多様なチームケアの事象を通じて、チームケアにおける看護の役割を考える」 チーム医療とは何か、又チーム医療における看護職の責任と役割は何か、グループで討議した結果を発表する。 第7回 グループワーク③「領域実習の中で、どのようなリーダーシップを発揮したか（指導者との関わり、教員との関わり、メンバーとの関わり、その他の場面で）グループで討議する。 第8回 グループワーク④「領域実習の中で、どのようなリーダーシップを発揮したか（指導者との関わり、教員との関わり、メンバーとの関わり、その他の場面で）グループで討議した結果を発表する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・グループワークや発表等いずれにもメンバーシップ・リーダーシップの学びを活用しながら進めていく。 ・グループワークが多い授業のため、積極的に参加されることを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・「看護管理」に関する情報（実習体験・新聞記事等）を積極的に収集する。 ・疑問な点は自分で調べ、授業で問題解決するように努力すること。
オフィスアワー	授業終了日18時まで
評価方法	筆記試験（60%）、課題レポート（40%）。授業態度、出席状況により総合的に評価する。
教科書	上泉和子他：系統看護学講座：看護の統合と実践①看護管理　医学書院、2018
参考書	①P・Fドラッカー著：マネジメントー基本と原則、ダイヤモンド社、2013 ②森田一寿編著：医療福祉マネジメントの実際、日本図書刊行会、2004 ③井部俊子編著：実践家のリーダーシップー現場が変わる、看護が変わるー、ライフサポート社、2009 ④高橋みなみ著：リーダー論、講談社、2015
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 病棟・病院看護管理の実務経験（病棟看護管理15年）病院看護管理（8年）、看護のトップマネージメントの経験は本授業に活かせる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護学教育論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	選択
担当教員			
樋口　キエ子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 看護基礎教育の制度と変遷を学び、看護教育に携わる上での知識技術態度を修得する。 【到達目標　】 ①看護基礎教育の目的と社会における看護学の関連が理解できる ②看護基礎教育の制度と変遷ができる。看護の関連が理解できる。 ③看護基礎教育課程の考え方、内容と方法が理解できる ④学習理論と学習方法、臨地実習における教育方法・評価の考え方が理解できる。 ⑤此れまでの学びを考察すると共に、継続教育への関心・課題が理解できる
授業の概要	①看護基礎教育課程の概要を把握し、基礎看護教育において培う知識技術態度について理解する ②看護基礎教育の目的を理解し、社会における看護職へのニーズに対応できる看護職のあり方について考えられる

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護基礎教育の目的と社会における看護学の関連が理解できる	◎	○	○	○
②看護基礎教育の制度と変遷ができる。看護の関連が理解できる。	◎	○	○	○
③看護基礎教育課程の考え方、内容と方法が理解できる	◎	○	○	○
④学習理論と学習方法、臨地実習における教育方法・評価の考え方が理解できる。	◎	○	○	○
⑤此れまでの学びを考察すると共に、継続教育への関心・課題が理解できる	◎	○	○	○
⑥				

授業計画	第１回　　科目のオリエンテーション　看護基礎教育の概念 [授業概要]①科目オリエンテーションにより、本科目の学習内容と方法の説明をする ②看護基礎教育の意義・目的・教育の特徴（学ぶ・共育）・看護基礎教育を取り巻く

	背景 について学ぶ。 [key words]　看護基礎教育・教育の特徴 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P12-31　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]看護教育に関して新聞、雑誌などから関心のある話題を収集してくる。 第２回　看護学教育と看護の概念 [授業概要]　看護学を構成する概念の意義、人間、社会、健康、看護、教育について学ぶ。 [key words]　看護学を構成する概念の意義、人間、社会、健康、看護、教育 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]此れまで学習した看護論者の文献、雑誌などから課題について調べ学習をし てくる　ワークシートにまとめたものを復習する。 第３回　看護教育制度の変遷 [授業概要]看護教育制度の変遷、看護基礎教育の現状と課題について学ぶ。 [key words]　看護教育制度の変遷、看護基礎教育の現状と課題 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P42-92 [課題・予習・復習・授業準備]課題に関して新聞、雑誌などから関心のある話題を収集してくる。 課題について読んでくる。 第４回　看護学教育の基盤 [授業概要] 看護学教育の基盤の意義、アイデインティティ、クリテイカルシンキングについて学ぶ。 [key words]　アイデインティティ、クリテイカルシンキング [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P93-116　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]課題に関して新聞、雑誌などから関心のある話題を収集してくる。 課題について読んでくる。 第５回　看護学教育の基盤 [授業概要] リフレクション、キャリアマネジメントについて学ぶ。 [key words]　リフレクション、キャリアマネジメント [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P117-140　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]課題に関して新聞、雑誌などから関心のある話題を収集してくる。 課題について読んでくる。 第６回　カリキュラム・カリキュラムデザイン・カリキュラム評価 [授業概要]カリキュラムに関する基本的知識、カリキュラムデザイン・カリキュラム評価について学習する。 [key words]　カリキュラム・カリキュラムデザイン・カリキュラム評価看護基礎教育・教育の特徴 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P141－162　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]課題に関して教科書を読んでくる。 課題に関して新聞、雑誌などから関心のある話題を収集してくる。 第７回　学習理論と学習方法・臨地実習における教育と学習・教育評価 [授業概要]学習理論と学習方法・臨地実習における教育と学習、教育評価について学ぶ。 [key words]学習理論・学習方法・臨地実習・教育評価 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　南江堂　P163－218　配布資料 [課題・予習・復習・授業準備]課題に関して教科書を読んでくる。 此れまでの学習の復習をする。 第８回　看護教育課程構築 [授業概要]カリキュラムデザイン（育ちたい学生像・科目設定等）の具体化を学習する。 方法はグループワーク [key words]カリキュラムデザイン・育ちたい学生像・授業科目 [教科書ページ・参考文献]看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う　　南江堂　P141－162 [課題・予習・復習・授業準備]　作成したカリキュラムデザインを振り返る。 此れまでの学習を振り返り、「看護を学ぶ自分について」まとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業シラバスを確認し、内容について事前に整理し、主体的に授業に臨むこと ・グループワークが多いのでメンバーシップ・リーダーシップを発揮する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・看護学教育に関するトピックス、看護に関する法律用語は事前学習をして授業に臨むと理解しやすい。 分からない部分は授業の中で解決するよう努力する
オフィスアワー	授業終了日18時まで
評価方法	課題レポート80%、授業の取り組み20%
教科書	グレッズ美鈴：看護教育学　看護を学ぶ自分と付き合う　　南江堂
参考書	小山眞理子　看護教育の原理と歴史　医学書院 講義の中で適宜提示する
実務経験のある教員による授業科目/ア	授業担当教員

クティブ・ラーニング	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護大学（短期大学含む）教育経験20年あり、此れまで教育に関する勉強会、研修会に複数回参加している。教育関連の研修会講師として基礎教育、卒後教育に継続して携わっている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　クリティカルケア特論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
多田　真和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生命の危機的状況にある人間に対する救命医療の場において、将来適切な看護を行えるようになるための知識を修得することを目的とする。 〔到達目標〕 目の前で生じている生命の危機的状況に対し、学んだ内容を基に問題点を明らかにし、その病態生理をふまえた上で解決策が立てられ、さらにクリティカルケアが実践できるようになることを目標とする。
授業の概要	クリティカルケア看護の特性、取り巻く環境を理解した後に、クリティカルな状況にある患者へのアセスメントの意義、目的、方法およびその実際を学習する。その上で、クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア、過大侵襲を伴う手術患者の特徴とケア、クリティカルケア看護に必要な看護技術等について学ぶ。さらに、クリティカルケア看護の実践にあたっての倫理、チーム医療体制およびその実践に必要なマネジメントについても修得する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護とは　（クリティカルケア看護の特性、クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴）
	第２回	クリティカルな患者のアセスメント クリティカルな患者のアセスメント　（アセスメントの意義・目的、方法、　系統別アセスメントの実際）
	第３回	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（Ｉ） クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（Ｉ）
	第４回	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（ II ） クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア　（ II ）
	第５回	過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア（Ｉ） 過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア（Ｉ）
	第６回	過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア（ II ） 過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア（ II ）
	第７回	クリティカルケア看護に必要な看護技術 クリティカルケア看護に必要な看護技術
	第８回	クリティカルケアの看護実践を支える枠組み、クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント クリティカルケアの看護実践を支える枠組み、クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント

受講生に関わる情報および受講のルール	未来の医療従事者として、だれからも信頼を得られるような真摯な姿勢で授業にのぞむこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	クリティカルケアは実践的な学問であり、実際にクリティカルケアを実践できるようになるには相応の経験を積むことが必要である。経験のない現状においては、充分な予習（テキストの読み込み等）を行い、また自身がクリティカルな場面に直面していることをイメージし、その上で生じた多くの疑問点や理解できない部分を、授業中および授業後の質問等により解決してゆくことが重要である。
オフィスアワー	授業終了後30分程度は対応可能です。
評価方法	全授業終了後に行う筆記試験　100％
教科書	系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　第1版　医学書院
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　家族援助論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	４年次	1単位(15)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 医療従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。
授業の概要	講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重 要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　自己紹介カード 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 第２回　障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について） 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【keywords】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付

	【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 第３回　対人援助技術の原則 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの７原則について学ぶ 【keywords】 ソーシャルワーカー　バイスティック 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの７原則に関する資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 バイスティックについて事前に調べておくこと ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する 第４回　コミュニケーションスキルを磨こう　DVD 視聴 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【keywords】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 第５回　情報を共有し合意するということ 【授業概要】 グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる 【keywords】 コンセンサス 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける 第６回　家族について考える　DVD 視聴 【授業概要】 映像を見て家族について考える 【keywords】 エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 家族についてあらためて考えてみよう 第７回　人の一生と社会福祉 家族援助事例検討 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ 【keywords】 相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう 第８回　援助の基本原則　まとめ 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習 【keywords】 バイスティックの７原則 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8 回の授業なので、欠席が3 回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	２回に１回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業後20分間
評価方法	筆記試験（レポート試験）80％と授業中に出すレポート課題等の提出物20％により評価する。レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニン	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

グ	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護研究概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	３年次	1単位(15)	必修
担当教員			
西山　智春　　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　看護研究の意義、目的、看護実践としての看護研究の特徴やあり方について理解し、看護研究を実施 するために必要な基礎的能力を習得する。 〔到達目標〕 ①看護研究の特徴（定義、種類、方法、一連の過程）を理解できる。 ②看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な 　研究者としての態度や行動を考察できる。 ③上記①・②の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察できる。 ④看護研究に研究的・主体的態度で臨むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための 　自らの課題を明確にできる。
授業の概要	看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上で、看護研究は必要不可欠である。本科目では、看護研究の意義や目的、看護研究における倫理、実践科学としての看護研究のあり方について論及し、看護研究を行う上で必要な知識を教授するとともに、看護学の初学者として看護研究とどのように関わっていく必要性があるのかについて考える機会とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護研究の特徴（定義、種類、方法、一連の過程）を理解できる。	◎	◎	◎	◎
②看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な研究者としての態度や行動を考察できる。	◎	◎	◎	◎
③上記①・②の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察できる。	◎	◎	◎	◎
④看護研究に研究的・主体的態度で臨	◎	◎	◎	◎

むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための 自らの課題を明確にできる。				
⑤				
⑥				
授業計画	第１回	科目オリエンテーション／研究とは何か、看護研究の必要性、実践の中から発見する研究課題 【key words】 看護研究　意義　看護学　実践科学 【授業概要】 シラバスに基づき、授業の進め方とその内容、評価の方法について説明をする。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 看護研究の定義、意義、看護実践と看護研究の関係について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎演習ⅠⅡで学んだ研究の基礎的知識を活用し、積極的に看護研究に関する文献を読む。			
	第２回	研究の種類と特徴、事例研究の重要性 【key words】 研究の種類・特徴、事例研究 【授業概要】 研究の種類と特徴、事例研究の重要性その特徴について理解する。 事例研究の意義と方法について理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。			
	第３回	看護研究における倫理[1]：看護研究における倫理上の原則、研究において擁護されるべき権利 【key words】 看護研究　倫理指針　倫理の原則　アドボカシー（擁護）　倫理的配慮 【授業概要】 看護研究における研究倫理について学習し、看護専門職者・研究者としての倫理、あるべき姿を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。			
	第４回	看護研究における倫理[2]：研究対象者に対する倫理、研究倫理審査委員会 【key words】 研究倫理　研究計画書　研究倫理審査　研究説明書　同意書 【授業概要】 看護研究プロセスの各段階における研究倫理について教授する。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　P19～20 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。			
	第５回	看護研究のタイプ[1]：看護研究における量的研究 【key words】 量的研究 【授業概要】 ・看護研究における量的研究について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。			
	第６回	看護研究のタイプ[2]：看護研究における質的研究 【key words】 質的研究 【授業概要】 ・看護研究における質的研究について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会			

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 第７回　看護研究における文献検討：文献検討の意義、文献の読み方（クリティーク）、文献整理の方法（文献カード作成） 【key words】 文献検討　文献の読み方　クリティーク　文献の整理　文献の活用法 【授業概要】 看護研究における文献検討について理解する。 文献検討の意義と文献の読み方（クリティーク）、文献の整理の方法、文献の活用法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを読んで講義に臨む。 第８回　看護研究トピックス　　総括 【key words】 看護研究　EBN（Evidence　Based　Nursing） 【授業概要】 看護研究の最新情報およびEBN（Evidence　Based　Nursing）の発展のための課題を理解する。 看護研究に対する自らの課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 ①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの復習をして講義に臨む。興味ある関連文献をよみ、看護研究テーマを考える。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・上記「授業計画」を参考に、教科書の該当箇所を精読し、予習を行う。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ～Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・授業中に提示された課題の提出期限は必ず厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。 ・授業中に提示された課題には真剣に取り組むこと。 ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。
オフィスアワー	授業終了後～２時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	レポート試験80%、課題学習（授業中レポート）20%により総合的に評価する。
教科書	①川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
参考書	随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 博士（看護学）の学位を有し、看護研究活動（科学研究費助成含む）の経験を活かして、看護専門職としての看護研究の基礎的知識、研究的態度、研究倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護研究方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	３年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春　　他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 看護専門職を目指す者として、看護研究方法論の基礎を学び、研究疑問を科学的に探究する能力を養う。 〔到達目標〕 ①看護研究に関する基本的な知識、研究方法、研究の倫理について理解できる。 ②研究計画書を作成し、各自の研究テーマに基づく論文作成（看護研究セミナー）に活用できる。
授業の概要	看護研究の基礎となる研究プロセスと研究方法を学ぶ。研究計画書の書き方、データ収集・分析の方法、研究の倫理的配慮、文献クリティーク、論文のまとめ方、研究発表の仕方について教授する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護研究に関する基本的な知識、研究方法、研究の倫理について理解できる。	◎	◎	◎	◎
②研究計画書を作成し、各自の研究テーマに基づく論文作成（看護研究セミナー）に活用できる。	◎	◎	◎	◎
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　看護研究プロセスの概要　　文献検討の意義　　文献検索の方法 【key words】 オリエンテーション　　研究プロセス　　文献検討 【授業概要】 今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について説明をする。 特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。 自らの興味関心のある研究テーマを設定、文献検索を行い、各自研究をすすめる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　ｐ2-41 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018ｐ10-25

③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第２回　文献講読とクリティーク
【key words】
文献講読　　クリティーク
【授業概要】
文献（研究論文）を読みながら、文献の読み方及びクリティークの方法について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　ｐ215-220
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018　ｐ118-124

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第３回　研究と倫理
【key words】
看護研究　　研究倫理

【授業概要】
看護研究における研究倫理について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　ｐ20-30
③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
ｐ72-83　p187-202　ｐ398-431

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第４回　研究課題と研究デザイン　　研究デザインの種類と特徴、概念枠組み
【key words】
看護研究　研究デザイン　概念枠組み

【授業概要】
看護研究における研究デザイン、概念枠組みについて概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　　ｐ80-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第５回　量的研究　　量的研究のデータ収集と分析
【key words】
看護研究　量的研究　　データ収集
【授業概要】
看護研究における量的研究のデータ収集と分析について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　　p136-204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第６回　量的研究　　質問紙調査票の作成
【key words】
看護研究　量的研究　質問紙調査
【授業概要】
看護研究における質問紙調査票の作成について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　　p249-255

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第７回　質的研究　　質的研究のデータ収集と分析　　事例研究と事例検討
【key words】
看護研究　質的研究　データ収集　　データ分析

【授業概要】
看護研究における質的研究の特徴と質的研究のデータ収集と分析について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　　p222-240
【課題・予習・復習・授業準備指示】

テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第８回　論文のまとめ方①　研究論文の構成要素

【key words】
看護研究　論文作成　論文の構成
【授業概要】
看護研究における論文の構成及びその要素について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018　p 206-214

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第９回　論文のまとめ方②　論文・抄録の書き方（ガイドライン）

【key words】
看護研究　データ分析

【授業概要】
看護研究における論文・抄録の書き方（ガイドライン）について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018

②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本学の研究論文ガイドライン及び抄録ガイドラインを熟読する。

第１０回　論文発表の仕方、プレゼンテーション

【key words】
看護研究　研究発表　プレゼンテーション

【授業概要】
看護研究における研究発表及びプレゼンテーションの基本について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第１１回　研究計画書の作成①【演習】研究テーマの設定、研究動機、関連文献の講読

【key words】
看護研究　研究計画書

【授業概要】
研究計画書の作成に必要な構成要素について解説する。
各自研究計画書の作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第１２回　研究計画書の作成②【演習】研究目的・研究方法

【key words】
看護研究　論文作成　　抄録作成
【授業概要】
各自研究計画書の作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第１３回　研究計画書の作成③【演習】倫理的配慮

【key words】
研究倫理　　倫理的配慮

【授業概要】
各自研究計画書の作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。

第１４回　研究計画書の作成④【演習】研究計画書のまとめ、文献引用

【key words】
看護研究　研究計画書

	【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 第１５回　　総括 【key words】 研究発表　研究計画書 【授業概要】 各自研究計画書の作成に取り組む。 研究計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
受講生に関わる情報および受講のルール	自己の研究課題に対し主体的に取り組み、研究計画書を作成し、4年次の論文作成（看護研究セミナー）につなげる。 興味関心のある事項について文献を読む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自己の研究課題に関連する研究論文を読み、文献学習を積極的に行うこと。
オフィスアワー	授業終了後～2時間　　火曜日16：30～17：45
評価方法	筆記試験（客観・論述）　70%、課題学習・提出物30%により総合的に評価する
教科書	①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 ③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2016　日本看護協会出版会
参考書	随時紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 博士（看護学）の学位及び教育研究業績を有し、看護研究活動（科学研究費助成含む）を活かして、看護専門職として必要な看護研究の基礎的知識、看護研究の方法論、研究倫理について論じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　看護研究セミナー　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	４年次	1単位(30)	必修
担当教員			
西山　智春　　他専任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　必修科目「看護研究概論」「看護研究方法論」での学習内容を活用し、自己の研究テーマに基づき看護研究の一連の過程を実施することを通じ、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。 〔到達目標〕 ①看護研究として取り組みたい研究課題を明確化し、研究テーマを決定できる。 ②自己の研究テーマ、研究目的に基づき、研究計画書の作成ができる。 ③研究計画書に基づき、データ収集・分析を実施し、基礎的知識を得る。 ④研究結果を論述し、考察することができる。 ⑤実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述できる。 ⑥実施した一連の看護研究の過程を研究発表の方法に則って発表できる。 ⑦看護研究の過程を通して、看護研究に必要な基礎的知識と研究的態度を身につける。
授業の概要	看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上で、看護研究は必要不可欠である。　本科目では、一年から三年次のボランティア活動、看護実習での実践活動から抽出した看護問題、各々の研究疑問を研究テーマとし、担当教員の指導を受けながら、文献検討、研究テーマの吟味・決定、研究計画書の作成、データー収集・分析、論文及び抄録作成、研究成果の発表などの看護研究の一連のプロセスを実際に経験し学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①看護研究として取り組みたい研究課題を明確化し、研究テーマを決定できる。	◎	◎	◎	◎
②自己の研究テーマ、研究目的に基づき、研究計画書の作成ができる。	◎	◎	◎	◎
③研究計画書に基づき、データ収集・分析を実施し、基礎的知識を得る。	◎	◎	◎	◎
④研究結果を論述し、考察することができる。	◎	◎	◎	◎

⑤実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述できる。	◎	◎	◎	◎
⑥実施した一連の看護研究の過程を研究発表の方法に則って発表できる。	◎	◎	◎	◎

授業計画

第１回　科目オリエンテーション／研究テーマの決定

【key words】
オリエンテーション　研究テーマ　EBN　量的研究　質的研究

【授業概要】
今後の授業の進め方とおおよその内容、評価の方法について説明をする。
特に、当該科目の目標と看護学部DPとの関連について説明をする。
自らの興味関心のある研究テーマを設定、文献検索を行い、各自研究をすすめる。
担当指導教員を決定する。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018
③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第２回　研究計画書の作成

【key words】
研究計画書　研究倫理　EBN　量的研究　質的研究

【授業概要】
各自研究計画書の作成に取り組む。
【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018
③日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第３回　研究データの収集の実践

【key words】
看護研究　データ収集

【授業概要】
自己の研究テーマにおける研究データの収集に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第４回　研究データの整理

【key words】
看護研究　データ収集　データの整理

【授業概要】
自己の研究テーマにおける研究データの収集に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第５回　研究データの分析

【key words】
看護研究　データ分析

【授業概要】
自己の研究テーマにおける研究データの分析に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第６回　研究データの分析結果の文章化
【key words】
研究データ　分析結果　　文章化
【授業概要】
収集した研究データの結果を文章化し、論文作成に繋げる。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第７回　研究論文の作成[1]緒言、研究目的
【key words】
看護研究　論文作成

【授業概要】
論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第８回　研究論文の作成[2]研究方法
【key words】
研究論文　研究方法

【授業概要】
論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第９回　研究論文の作成[3]研究結果
【key words】
研究論文　　研究結果

【授業概要】
論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第１０回　研究論文の作成[4]考察、結論
【key words】
研究論文　　考察　　結論

【授業概要】
論文作成の手引きに基づき、各自論文作成に取り組む。

【教科書ページ・参考文献】
①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018
②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。
担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。

第１１回　研究論文の抄録作成
【key words】
看護研究　論文作成　　抄録作成
【授業概要】

	作成した各自論文について、ガイドラインに沿って抄録作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 第１２回　研究発表会の準備[1]：発表原稿の作成 【key words】 研究発表　　発表原稿の作成 【授業概要】 研究発表するための発表原稿及びパワーポイント（研究発表用）を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト及び研究に関する文献を読み活用する。 担当教員（アドバイザー）とアポイントを取り、指導を受ける。 第１３回　研究発表会の準備[2]：予行演習、プレゼンテーション 【key words】 看護研究　発表準備　プレゼンテーション 【授業概要】 研究発表の準備として、パワーポイントを用いた発表の予行演習を行う。 必要に応じて、修正を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自、研究発表のための準備をする。 第１４回　研究成果の発表 【key words】 研究発表　研究成果　プレゼンテーション 【授業概要】 学内研究発表会において、研究発表を行う。 質疑応答を行い、研究に対する理解を深め、自己課題を明確にする。 （研究発表会に２年生及び３年生が参加する） 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 抄録を読み研究発表会に参加する。 第１５回　総括 【key words】 グループワーク　看護専門職者としての態度 【授業概要】 これまでの研究のプロセスを通して学んだこと及び看護専門職者としての態度について、自身の考えをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ①南裕子、野嶋佐由美編集　看護における研究(第2版)　日本看護協会出版会　2018 ②川村佐和子編集：ナーシング・グラフィカ　看護研究　MCメディカ出版　2018 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークに参加し見識を広め、専門職者としての研究的能力を高める。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講に関わる情報〕 ・上記「授業計画」はあくまでも目安であるため、学生は、主体的に担当教員の指導を求め、その指導に基づき課題に 　取り組む。 〔受講のルール〕 ・指導教員にアポイントメントをとり、指導を必ず受けること。 　・担当教員から提示された課題には主体的に取り組み、提出期限は必ず厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式、その他
授業外時間にかかわる情報	・担当教員から提示された課題には真剣に取り組むこと。 　・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

オフィスアワー	火曜日16：30〜17：45　・各指導担当教員と相談の上、日時を決定し指導を受ける
評価方法	研究論文及び抄録、研究成果の発表（プレゼンテーション）、研究に取り組む姿勢について、看護研究セミナー評価表に 基づき、単位認定教員が評価、判定する。
教科書	①南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会，2018 ②日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集　2018　日本看護協会出版会
参考書	随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 博士または修士の学位を取得し、教育研究業績を活かし、看護職者が看護専門職として必要な看護研究のプロセス、論文・抄録の書き方、研究成果発表（プレゼンテーション等）、研究的態度について学生を担当し指導する。 学内にて看護研究発表会を開催し、学生は各自の研究テーマについて研究を発表する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　哲学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとうてみる学問をねらいとしている。 【到達目標】 教科書「咸有一徳」を熟読し、本学の「建学の精神」「教育理念」を理解し、それについての自分の考えを述べることができること。 ①人への思いやりの心を育む。 ②人間としての道徳や、礼儀を身につける。 ③「論語」から紐解く人の在り方とは何かを知る。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいので は虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子･荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両社は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。 第２回 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 第３回 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 第４回 大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章） 第５回 至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章） 第６回 家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が

	道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序） 第７回 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章） 第８回 顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章） 第９回 国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回 孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回 よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回 老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、筆記試験･レポート･出席状況を鑑み、総合的に評価する。出欠席状況を重視し、出席常なる学生には、それ相当の評価をする。欠席・遅刻は事前に必ず連絡すること。理由なき無断の欠席、遅刻が多い者は成績評価を受ける資格を失うことがある。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は、それまでの出席も欠席とみなされ、単位が認められない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	成績評価は、筆記試験･レポート･出席状況を鑑み、総合的に評価する。筆記試験・レポートの評価に加え、授業への積極的な参加態度やコメントカードの提出等も評価に加味する。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）・咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ☐実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ☐協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　法学（日本国憲法を含む）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 現代社会では、人は法の保護と規制のもとで生活している。 わが国の基本法である憲法、民法、刑法を中心に医療過誤を含め、判例等を参考にして、法的な考え方を学び、問題解　決能力を身に付ける。 ［到達目標］ ①社会生活をしていく上での基本的法律を理解する。 ②法的思考、考え方を身につける。 ③医療従事者としての問題解決能力を身につける。
授業の概要	法の特質を学び、憲法の基本原理、統治機構、人権保障の具体的事例を取り上げる。また、生活に直接かかわる民法、刑法の理解を深めるとともに、医療過誤、国際法等についても触れる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	オリエンテーション　　法と社会生活・道徳・目的 法は社会生活でどのような機能を果たしているか解説する。
	第２回	法と裁判、裁判の基準、法の解釈 事件や紛争の裁判で法はどのように適用されるのか。法の解釈とはいかなるものかを解説する。
	第３回	日本国憲法（基本原理・統治機構１） 国家の最高規範である日本国憲法の特徴を解説する。
	第４回	日本国憲法（統治機構２） 国会、内閣、裁判所の地位と役割。地方自治の在り方を考える。
	第５回	日本国憲法（人権保障１） 基本的人権を保障を担保するための憲法の組織体系と人権の種類を概観する。
	第６回	日本国憲法（人権保障２） 民主主義に基礎となる知る権利や個人尊重の理念に基づくプライバシーの権利等を考える。
	第７回	民法（総則・物権） 信義誠実、個人の尊厳と両性の平等の基本原則。物権の種類と対抗要件を解説する。
	第８回	民法（債権） 契約、事務管理、交通事故等による不法行為、借地借家法、利息制限法、製造物責任等を解説する。
	第９回	民法（親族） 親族、婚姻、実子、養子、親権、後見を概観する。
	第１０回	民法（相続）

	相続人、相続分、遺言、遺留分を概観する。 第１１回　刑法（総論） 罪刑法定主義の下で、何故刑罰を科すのか。正当防衛、緊急避難等を含め刑法の役割を考える。 第１２回　刑法（各論） 個人法益、社会法益、国家法益の犯罪の種類を解説し、特に尊属殺人や未必の故意等を解説する。 第１３回　労働法、社会保障法 労働者として就業した場合の賃金、労働時間、有給休暇 第１４回　医療と法 医療過誤の民事、刑事、行政上の責任や安楽死の問題を判決を基礎に検討する。 第１５回　国際社会と法 国際紛争を国際法に基づき、解決しようとしていることや最近話題の領海、EEZ、宇宙について解説する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・板書、口述の内容はノートに整理しておくこと。 ・小論文、レポートは必ず提出すること。 ・欠席が、５回を超えると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習復習は、予習を重点に行うこと。 法律問題の新聞・テレビ等に関心を持つこと。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	定期試験、レポートを総合的に評価する。　（目安）　定期試験７０％、レポート３０％
教科書	「現代法学入門」　伊藤正己・加藤一郎編　有斐閣
参考書	小六法（小型版）で有斐閣「ポケット六法」」。　担当者配付の「新しい人権の判例」　、他は授業中に紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティアと自己省察　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
佐藤充子、中山洋子、他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業目的] ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度を学び、身につける。 幅広い視点・視野・協調性・行動力などを培うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度やボランティアの必要性を理解し、実践することができる。 ②医療福祉施設の現場におけるボランティア活動を体験することで、医療従事者を目指す者として省察することができる。 ③医療福祉施設等を含めた様々なボランティア活動を通して、自己課題を見出すことができる。
授業の概要	ボランティアの意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習すす。 医療福祉施設を含むボランティア体験を通して、自己を省察する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①ボランティア活動を通して、医療従事者としての基本的態度やボランティアの必要性を理解し、実践することができる。	◎	◎	◎	◎
②医療福祉施設の現場におけるボランティア活動を体験することで、医療従事者を目指す者として省察することができる。	◎	◎	◎	◎
③医療福祉施設等を含めた様々なボランティア活動を通して、自己課題を見出すことができる。	◎	◎	◎	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション/ボランティア活動とは/本学・本学部におけるボランティアの位置づけ 【keyword】ボランティア活動 【授業概要】科目オリエンテーション/ボランティア活動とは/本学・本学部におけるボランティアの位置づけ。第1回～第15回の授業概要の説明をする。 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む

	第２回	ボランティアに臨む態度・心構え/ボランティア活動実践に向けてのオリエンテーション 【keyword】ボランティア、礼儀・心構え、マナー 【授業概要】ボランティアに臨む態度・心構え。ボランティア活動実践に向けてのオリエンテーション 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第３回	ポートフォリオの目的・作成方法・活用方法/本学の学生ボランティア活動の紹介およびボランティア体験報告 【keyword】ポートフォリオ・ボランティア活動 【授業概要】ポートフォリオの目的・作成方法・活用方法/本学の学生ボランティア活動の紹介 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第４回	ポートフォリオの活用：自己目標の設定と評価 【keyword】ポートフォリオ・目標 【授業概要】ポートフォリオの活用：自己目標の設定と評価 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第５回	ボランティア活動をどう考えるか①：グループディスカッション 【keyword】ボランティア活動 【授業概要】①各自でボランティア活動をどう考えるか、②グループディスカッション 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第６回	ボランティア活動をどう考えるか②：グループ発表 【keyword】ボランティア活動 【授業概要】ボランティア活動をどう考えるか。グループ発表 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第７回	ボランティア体験と臨床との関連 【keyword】ボランティア体験・臨床との関連 【授業概要】ボランティア体験と臨床との関連（卒業生4名の講話からの学びと今後の課題） 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第８回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践 【keyword】医療福祉施設等・ボランティアの実践 【授業概要】各自の計画に沿った医療福祉施設等におけるボランティアの実践 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第９回	医療福祉施設等におけるボランティアの実践 【keyword】医療福祉施設等・ボランティアの実践 【授業概要】各自の計画に沿った医療福祉施設等におけるボランティアの実践 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む
	第１０回	医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り 【keyword】ボランティア活動・振り返り 【授業概要】医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。
	第１１回	医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り 【keyword】ボランティア活動・振り返り 【授業概要】医療福祉施設等におけるボランティア活動実践後の振り返り 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。
	第１２回	ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【keyword】ボランティア活動・自己省察 【授業概要】ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。
	第１３回	ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【keyword】ボランティア活動・自己省察 【授業概要】ボランティア活動を通しての自己省察（グループワーク） 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。
	第１４回	1年間の振り返り（グループ発表）

	【keyword】ボランティア活動・学び 【授業概要】1年間の振り返り（グループ発表） 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。 第１５回　1年間の振り返り（グループ発表）/まとめ 【keyword】ボランティア活動・学び 【授業概要】1年間の振り返り（グループ発表）、まとめ 【教科書・参考文献】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」 【課題・予習・復習・授業概要】ボランティア活動ハンドブック、「ボランティアのすすめ基礎から実践まで」を読む。ボランティア実践資料等。ボランティア活動簿。
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講のルール］ A4ファイルを用意 〔受講のルール〕 この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどのように成長したかまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。依頼ボランティアや医療福祉施設でのボランティア参加方法について十分理解し、先方とトラブルのないように配慮してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に提示する
オフィスアワー	授業終了後18:00まで
評価方法	ポートフォリオ40%、ボランティア参加状況40%、授業内発表20%
教科書	岡本栄一監修　守本他編集「ボランティアのすすめ　基礎から実践まで」ミネルヴァ書房 鈴木利定監修　ボランティア活動ハンドブック　学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学看護学部ボランティア委員会編集　別冊　ボランティア活動記録簿　学校法人昌賢学園
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 看護師として大学病院または総合病院での実務経験のある教員による授業を展開する。 教員自身、地域貢献活動の経験を有する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 論語　　授業コード：

英文科目名称： Analects of Confucius

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。仁とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige ”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか、を考察していく。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に出てくる術語を使用して自己の意見を説明できる。
授業の概要	・各時代の知識人がどのように『論語』を理解したか具体例を挙げ解説していく。論語という古典を用いて、「考える（思想）」とは何かを考察する。「己が思索するとはどういうことか？」を受講生に問います。 ・孔子の発言、あるいは弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間世界の那辺に興味関心を抱き、どう分析していたのか、当時の社会情勢を絡めて説明する。そのことにより、孔子の考えていたことが我々にも共通する関心事であることが窺えるでしょう。 ・講義の後半より（７回目）、『論語』をより深く理解するために、副本として中島敦「弟子」を併用して読んでいきます。（副本はこちらで用意します）中島が理解した『論語』と原『論語』を比較し、論語の持つ解釈の幅を実感してください。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①礼儀・挨拶・ボランティア活動・環境美化活動を理解し、積極的に習得することができる。	◎	△	◎	◎
②基礎学習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用、レポート作成など学習スキルを身につける。	◎	△	◎	◎
③昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養う。	○	△	○	○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説（『論語』とは？孔子ってどんな人？） 【講義概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。その前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。 【Key Word】 論語　孔子　仁 【教科書ページ・参考文献】 教科書の付録（地図・孔子弟子年齢表）に目を通してください。 【課題・予習・復習・授業準備】 ブリタニカ・オンライン・ジャパンで「孔子」を調べておいてください。
	第２回	孔子の政治思想Ⅰ 【授業概要】 孔子を祖とする「儒家」の政治思想は、一言で表すと「徳治主義」になります。徳治主義とは、為政者が自己の身を正し、道徳性を高め、そのことにより周囲を感化・教導することが可能であると考える思想です。弟子たちや当時の貴族が孔子に政事（政治上の事柄）について尋ねています。孔子は政治をどのように考えていたのか。また-これは現在にも繋がりますが-政治と道徳の関係をどのように捉えていたのか考えてみましょう。 【Key Word】 政治　儒家　徳治主義 【教科書ページ・参考文献】 教科書P5・34・79 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館にある『大漢和辞典』で儒家を調べておいてください。
	第３回	孔子の政治思想Ⅱ 【授業概要】 孔子の政治思想を語る上で見逃せない言葉が一つあります。それが「正名」です。正名とは名実（名前と実態）がともなっているかどうかを図る思想です。名実の均衡がとれていないと国が乱れる原因になると孔子は考えています。この名実の考えは今の我々にも受け継がれていますし、哲学的問題としても議論がなされています。このことについて考察していきます。 【Key Word】 正名　五倫　五常 【教科書ページ・参考文献】 教科書P86 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館にある『大漢和辞典』で正名・五倫・五常を調べておいてください。
	第４回	孔子の倫理思想Ⅰ 【授業概要】 芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となつたことにはじまつてゐる」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。 【課題】 図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。 【Key Word】 四端　孝 【教科書ページ・参考文献】 教科書P6・7・22 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館にある『大漢和辞典』で四端を調べておいてください。
	第５回	孔子の倫理思想Ⅱ 【授業概要】 孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。 【Key Word】 仁　道 【教科書ページ・参考文献】 教科書P77・84 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・の言葉の意味を調べておいてください。
	第６回	孔子の学問観 【授業概要】 「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのでしょうか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます 【Key Word】 学　習 【教科書ページ・参考文献】 教科書P1・2 【課題・予習・復習・授業準備】 図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。
	第７回	「弟子」1・2を読む 【授業概要】 今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路

の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』の語句についても解説します。
【Key Word】
子路　孔子
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」1・2
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」1・2を読んでおいてください。

第８回　「弟子」3・4を読む
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたでしょうか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
子路　人の噂
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」3・4を読んでおいてください。

第９回　「弟子」5・6を読む
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのでしょうか（５）孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
子路　放浪
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」5・6を読んでおいてください

第１０回　「弟子」7・8を読む
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでみましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
天道　伯夷
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」7・8を読んでおいてください

第１１回　「弟子」9・10を読む
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのでしょうか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
政事　松柏の操
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」9・10を読んでおいてください。

第１２回　「弟子」11・12を読む
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
道　社会
【教科書ページ・参考文献】
中島敦「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備】
「弟子」11・12を読んでおいてください。

第１３回　「弟子」13・14を読む
【授業概要】
孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【Key Word】
政治家としての子路
【教科書ページ・参考文献】

	中島敦「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 第１４回　「弟子」15・16を読む 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【Key Word】 死に方 【教科書ページ・参考文献】 中島敦「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「性善説」を、『荀子』の中から性悪説を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか追跡していきます。 【Key Word】 鰥寡孤独　性善説　性悪説 【教科書ページ・参考文献】 この回は当日プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備】 孟子の性善説と性悪説の相違に着目し、何を使っても構わないので調べておいてください。
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加してください。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎んでください。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べてください。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に教卓で１人１分で発表をしてもらいます。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論してもらいます。また課題について自分で調べてもらいます。要するにアクティブラーニングを促します。 ・自分は何ができるのか。自問自答してみてください。それが倫理観の形成に繋がります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・論語を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学に於ける学問様式を理解するよう努めてください。 ・授業計画に示されている章は必ず一読して授業に臨んでください。また不明の部分は授業中に理解できるよう積極的な姿勢で臨んでください。
オフィスアワー	講義終了後
評価方法	期末試験70%、課題提出15%、発表内容15%
教科書	鈴木利定監修・中田勝編著『注解　書き下し　論語全文〈付・原文〉』明治書院、平成16年10月
参考書	宇野哲人『論語新釈』講談社学術文庫、1980年1月。金谷治『論語』新訂版、岩波文庫、1999年11月。他は講義中に適宜紹介する。中島敦『山月記・李陵』岩波文庫、1994年7月（この中に「弟子」が収録されています）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人間の心理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人の心を成立させている機能や基本的なメカニズムを理解し、幅広く人間を理解する知識と視点を得る。 【到達目標】 ①知覚と認知のメカニズムの理解を通し、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習と記憶の仕組みの理解を通し、人の人格や生活世界の心理的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職として出会う患者の心理を直接当事者から学ぶことで、学びへの姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。
授業の概要	広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学や、人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション：人らしさを生む、見えない働きを考える 【授業概要】 ・8回の授業全体のオリエンテーションを行います。 ・この科目は、心を成立させている様々機能や、心理に関する現象の基本原理について幅広く学ぶことを理解します。 ・シラバス、シャトルカードの扱いについて解説します。 ・最初の学習テーマとして、「人が環境とどのように向き合っているか」ということを考える手がかりとして、感覚、知覚、認知の基本メカニズムを学びます。 【キーワード】 感覚器官、適刺激、刺激閾、弁別閾、順応、知覚の体制化、図と地、プレグナンツの法則、錯視等

【教科書・参考文献】
（2-12ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・第2回講義該当部分を予習しておくこと
【アクティブラーニング】
・錯視図を見ながら、周囲で互いの見え方について意見交換をする

第２回　学習の理論と記憶の基礎

【授業概要】
・経験を通して何かが出来るようになったり、わかるようになることはすべて「学習」が成立したという心理学の考え方を理解する。
・一つの形だけではなく、多様な形で学習が生じることを学ぶ。
・代表的な学習理論を学ぶことで、人が新しい行動様式や知識を習得するメカニズムを理解する。
・成立した学習を保持しておく過程としての記憶の基礎について理解する。
【キーワード】
・レスポンデント条件付け（パブロフ）、汎化、消去、オペラント条件付け（スキナー）、強化、強化子、観察学習（バンデューラ）、記憶、再生、想起、感覚情報保存、短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ（作動記憶、作業記憶）、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶
【教科書・参考文献】
（16-26ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・たくさん出た用語を復習して整理しておくこと
【アクティブラーニング】
・記憶実験を多く行いながら、なぜ結果がそうなるのかについて意見をグループで交換する

第３回　思考

【授業概要】
・物事を認識し、考え、推理し、日違反し、想像したり、時には何かを創造する「思考」の働きについて理解する。
・そもそも「考える」ということは、どういうことかを理解する。
・（思考による）問題解決には、どのような過程や方法があるかを知る。
・思考は行動に進化した、人の合理的・適応的行動の基盤であることを理解する。
【キーワード】
知識の階層的ネットワークモデル、概念、カテゴリー、推論、素朴理論、問題解決、認知的学習
【教科書・参考文献】
（16-26ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・たくさん出た用語を復習して整理しておくこと
【アクティブラーニング】
・絵を描いたり、問題を解いたりしながら、グループ内で互いの推論過程を振り返る

第４回　感情と防衛機制

【授業概要】
・人に備わる感情の役割について、基礎的な理論を学ぶ
・人が感情を持って生きる意味を理解する。
・特に、負の感情が強く働く状態について理解し、その対処の在り方について、防衛機制を中心に学ぶ。
【キーワード】
・プルチック、ジェームズ・ランゲ説、愛着（アタッチメント）、顔面フィードバック説、コンフリクト、フラストレーション、ストレス、ストレス・コーピング、感情労働、バーンアウト、防衛機制（適応規制）
【教科書・参考文献】
（40-52ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・たくさん出た用語、特に防衛機制について、すべて身近な例を考えて整理しておくこと
【アクティブラーニング】
・

第５回　パーソナリティ

【授業概要】
・ひとそれぞれに備わる心の個性や形をパーソナリティと呼ぶこと、また、それを捉える基本的な見方について学ぶ
・パーソナリティを調べる代表的な検査について学び、基本的な特徴を理解する。
【キーワード】
・主我、客我、自己知識と自己概念、対話的自己論、類型論と特性論、クレッチマー、ユングの内向性・内向性、ビッグファイブ、ＹＧ検査、ＭＭＰＩ、クレペリン検査、ロールシャッハテスト、ＴＡＴ、ＳＣＴバウムテスト、風景構成法　等
【教科書・参考文献】
（54-66ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・たくさん出た用語、特に心理検査について整理しておくこと
【アクティブラーニング】
・心理検査の簡易版を実施しながら、それぞれの答え方の違いについてグループで話し合う

第６回　発達①　発達段階論：児童期まで

【授業概要】
・二回に分けて、誕生から死に至るまで一連の発達の過程（ライフサイクル）を学んでいく。
・全生涯を俯瞰する発達段階説として、エリクソンのびジェネティック・チャートを前半4段階まで学ぶ。
・後半は、言語と認知の発達の過程を概観する。
【キーワード】
・発達段階説、エリク・エリクソン、自我親和感、自我異和感、新生児模倣、ボウルビー、アタッチメント、母性剥奪、ピアジェの認知発達段階説、自我体験　等
【教科書・参考文献】
（97-110ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・範囲の広い部分になるので、あらかじめ教科書該当部分を読み、用語調べに取り組むこと

	【アクティブラーニング】 第７回　発達②　大人であるということ、自分と人生を終えること 【授業概要】 ・青年期、子ども時代を総括すると同時に、アイデンティティの課題と向き合ううちに、一人の大人としての生活と人生が始まることを解説する。 ・成人期から老年期にかけても、ライフサイクルの変化に次々と出会いながら、変化に適応する課題を負いながら生きる、人のライフサイクルの姿を学び、人間を見る視点を深める。 【キーワード】 ・モラトリアム、コミットメント、アイデンティティ・ゲーム、アイデンティティ拡散、中年期の危機、悲哀の仕事、喪の仕事、ＰＴＧ等 【教科書・参考文献】 （112-124㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・映画や小説をたくさん紹介するので、一つ以上実際に視聴する努力をすること 【アクティブラーニング】 ・思考実験的に、次回の授業の準備も含め「死を意識せざるを得ない病に自分（家族）がなったら、何を一番優先して生きたいか」について考え、グループで討論をする。 第８回　患者と家族の心の支援：がん哲学外来の取り組みと挑戦 【授業概要】 ・ここまで学んだように、人はそれぞれの個性を基に人生を生き、それぞれのライフサイクルの途上で、様々な問題と出会い、悩みを抱えながら生きていく。最終講義として、実生活において病や障害を得たことにより、深く医療と関わる経験をされた方やその家族、またそうした方々を支える医療者にお越しいただき、「患者と家族の心理」についてお話をいただきます。 【キーワード】 ・がん、がん哲学外来 【教科書・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ、ワークシートを完成させ提出する。（がんについての意識や体験のアンケート含む） 【アクティブラーニング】 ・一人一つ以上、登壇される方々に質問ができるように準備をし、時間があれば対話的な交流をできるようにしておくこと
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・医療・福祉職を目指す者にとって、人とは何かという人間観の基礎教養を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式（疑問・質問に限らず、聞いてみたい伝えてみたいことはなんでも書いてよいので、積極的に書いて下さい）
授業外時間にかかわる情報	・多くの用語が出てくるので、概要に基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。 ・用語調べをしてＡ４用紙などにまとめて授業時に提出するなどの努力に対しては、1回1点の加点をする。 ・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。 ・図書や映画などの感想文を提出した場合も、1回1点の加点をする。
オフィスアワー	金曜日　13：30～16：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定2回）＝１提出物得点（１回15点満点：提出により得点）） ※別に感想文や用語調べなどにより、最高15点まで加点あり
教科書	・二宮克美編著『ベーシック心理学　第2版』（医歯薬出版、2016）
参考書	・鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編『心理学（第５版）』（東京大学出版会、2015）　他適宜指示をする
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　論理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。 〔到達目標〕 ①基本的な記号の意味と使い方が分かる。 ②主要な論理法則の意味を理解し、日常で正確に使うことが出来る。 ③論理式の簡単な変形ができる。
授業の概要	最初にアリストテレス以来の三段論法中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学ぶ。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	オリエンテーション、思考の原理 論理学は学問の基礎で、正しい思考の原理であることを解説する。
	第２回	概念 直感と思考、概念の内包と外延、上位概念と下位概念を考える。
	第３回	判断と命題 基本的判断となる全称、特称、単称、肯定、否定判断と定義を学ぶ。
	第４回	直接推理① 既知の判断を根拠として新しい判断を導き出す推理を学ぶ。
	第５回	直接推理② 命題の真偽表に基づいて対当関係の特徴を学ぶ。
	第６回	直接推理③ 命題形式を変えることによって同一の意味を持つ新しい命題を導き出す方法を学ぶ。
	第７回	間接推理① 二つ以上の命題を前提に新しい命題を導き出す三段論法の基礎を解説する。
	第８回	間接推理② 仮言三段論法の妥当、非妥当を考え、何の誤びょうに当たるかを解説する。
	第９回	間接推理③ 選言三段論法や両刀法等を使用して、文章を作成する。
	第１０回	ベン図を適用する方法① 伝統論理学の対当推理、定言三段論法をベン図を使用して論ずる。
	第１１回	ベン図を適用する方法② 定言三段論法の正誤を、具体例を挙げてベン図で考える。

	第１２回　帰納法 ベーコンとミルの機能法を知り、科学の飛躍的進歩に役立つことを学ぶ。 第１３回　命題論理① 命題のを単位とした推理が正しいかどうか。何故、形式論理から記号論理に移行してきたかを概観する。 第１４回　命題論理② 命題が恒信、恒偽、総合命題のいずれに属するかを考える。 第１５回　述語論理 現代論理学の中心的成果である量化の理論を解説する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・ 板書、口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。 ・小論文、レポートは必ず提出すること ・５回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習復習は、予習を重点に学習すること。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	定期試験、レポートを総合的に判断する。　（目安）定期試験７０％、レポート３０％
教科書	「論理学の初歩」　大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中川浩一著　梓出版社
参考書	授業の中で紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　芸術論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
2019年度　休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、作りだす喜びを味わう。 造形的な創造活動の能力を培い豊かな情操を養うことを目的とする。 [到達目標] ①美しい物や優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高めることができる ②発想や構想の能力を高めることができる ③日常での着実な研究心と探究心を培うことができる ④日々の生活の中で何かを表す意識をもったときそれが表現の原点にあることを身につけることができる
授業の概要	人は生きている限り様々な体験をし様々な生活感情を持つ命ある人間がその生活感情に基づき何か表そうとする意識をもったときそれが表現の原点であることを身につけ芸術論を通して美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学びドライポイント、メゾチント、エッチング等の実技を学ぶ授業である。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 オリエンテーション　芸術論を考える 第２回 発想表現鑑賞について描き作ることの意味 第３回 版画の歴史について考える 第４回 版画の種類について学ぶ 第５回 版画の基本技法について 第６回 製版の準備 第７回 製版の実践・刷り 第８回 製版の実践・刷り

受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・実技制作が多いので、汚れても構わぬ服装で受講すること。　・はさみ、２Bまたは４Bの鉛筆を用意すること。 ・簡易清掃は当番制で行い、机拭き、床掃き等を行う。 ［受講のルール］ ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話・スマートフォン利用）は慎むこと。 ・実技制作後、ゴミ、消しゴムのカス等の後始末をきちんと行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキスト等予習・復習をすること
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	課題作品７０％、作品の構成（バランス・プロポーション・コントラスト・アクセント・ムーブマン）等で評価します。試験（レポート）３０％総合評価します。
教科書	設定なし
参考書	授業時に随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	2単位(30)	選択
担当教員			
*時田詠子、高坂　駿、山下博子他			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション／「支援するってどんなこと？」　―介護福祉からの対人援助―を考える 「支援」ということばと、援助・応援・お手伝いなどはどのように違うと思いますか?　医療・福祉職はまず「支援」とは何かを理解する必要があります。そのため、「支援」という言葉について介護福祉の視点から考えていく授業です。知識を身につけるのはもちろんですが、体験型学習を通して探求的な学習を行います。 第２回　学校におけるコミュニケーションの不思議 授業を活性化し、子どもに考える力をつけるための必須アイテムである発問とは何か。質問との違いは何か。具体例を通して発問と質問の違いに触れ、実際の学校現場の様子を体感することで、学校におけるコミュニケーションの不思議を学ぶ。 第３回　社会福祉士の専門性とコミュニケーション 社会福祉士とは、どのような職業なのか概要を講義します。また、社会福祉士として連絡・調整を行なう時に必要なスキルは何かを演習を通して考え、社会福祉士を理解することを目的とします。 第４回　人を科学する　―臨床心理学の世界― 「心」を科学的に分析するのが心理学です。人に関わる諸領域における多様な援助には、心理学的視点が重要となります。他者理解には自己理解が前提ですが、自分を知るのは、実はとても難しいことです。科学的に自分を知る方法の一つに人と人との交流パターンを分析する「エゴグラム」という心理テストがあります。授業では実際にやってみましょう。また，臨床現場（保険医

	療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野）における心理師の専門技能と役割を学びましょう。 第５回　生きているってどういうこと～生命徴候を知ろう～ 看護師を目指す者として、命の尊さや大切さを講義を通して学びます。また、バイタル測定から生命徴候を観察する方法を習得し、緊急時における救命処置を、本授業により身につけます。 第６回　認知症高齢者の心をつかむコミュニケーション技法を学ぼう 認知症の特徴を理解した上で効果的なコミュニケーション技術と根拠について学習する。 第７回　健康な小児の成長発達　～アニメキャラクターを通して小児の発達を学ぼう～ 新生児から中学までの成長発達を言語・遊び・運動をポイントにアニメキャラクターを通して学んでいく 第８回　ピア・カウンセリング入門！ ピア・カウンセリングスキルを使った、支援の方法を学ぶ。 グループまたペアになってピア・カウンセリングスキルを学ぶ。 第９回　リハビリテーションと理学療法のこれから リハビリテーションの言葉の意味から始まり、リハビリテーションの根幹となる思想や活動を紹介します。リハビリテーションの多様さと、それを支える専門職、さらにチームで活動する必要性についても説明します。そしてリハビリテーションの中核となる、理学療法についても、将来の方向性も含めて紹介してい行きます。 第10回　理学療法士が担う治療と患者との関わり 理学療法士が担う治療についての知識を深め，多くの選択肢から治療をしていることを学ぶ。また，セラピストの知識や技術が患者さんに与える影響が大きいということや，マネージメント力がどのように問われているなどについて紹介する。 第11回　「作業」って何だろう？ 「作業」という言葉には、少し泥臭いようなイメージをもつ方もいるかと思います。しかし、作業療法の観点から捉える「作業」は、ひとの幅広い生活行為そのものを指します。人が健康的な生活を送るために、作業療法士はどのようなことを考え、どんな支援をしているのか、作業療法の概要についてご紹介します。 第12回　作業療法における治療支援と活躍の場 作業療法の基本的な知識を学んだ上で、具体的な作業療法における治療支援について説明します。また、作業療法の中にも様々な専門性があり、各領域における特徴を説明し、作業療法に関する理解を深めることを目的とします。 第13回　受診時、保険証はなぜ必要？ 医療機関受診時、保険証の提示で自己負担分3割で治療が受けられる仕組み（保険診療の仕組み）を学び、医療保障制度について理解を深める 第14回　子どもの虐待はどうして起こるの？ 児童虐待の現状をお話しします。その中で、予防、発見防止、支援について、現在の対応システムに沿って理解していきたいと思います。また、専門職の役割についても考えてみたいと思います。 第15回　教師の専門性と指導技術 初め、2020年度からの新しいカリキュラムや教師の仕事等基礎的知識について、具体的事例で話します。次に、その知識を受け、「魅力的な先生」とは、どんな力量を持つ人なのか、グループワーク及び全体発表を行い、共有します。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 各学部オムニバスにて実施 看護学部（看護師・養護教諭実務経験者） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　化学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
猪熊　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 物質についての知識を得るとともに、科学的な見方や考え方を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①さまざまな物質について構成や状態、性質の違いを表現することや説明することができる。 ②化学反応の種類や表し方を説明し、量的な関係について計算することができる。 ③今後の生化学・医学・薬理学等の学習にあたって必要な、化学の基本的知識を得る。
授業の概要	私たちのまわりのあらゆる物質は原子からできている。その原子がどのような仕組みで結びついて物質が構成されているかを最初に学ぶ。次に、化学反応に伴う量的な扱い方及び基本的な化学反応の種類を学ぶ。最後に有機化合物の構造、性質を学ぶことで将来の他分野への基礎とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画

第１回　はじめに　１　物質の構成

【key words】
自然科学、化学、元素、原子、単体、化合物、周期表、有効数字、陽子、中性子、電子、原子番号、質量数、電子殻、電子配置、最外殻電子、価電子、希ガス

【授業概要】
「自然科学」及び「化学」とは何か。「元素・原子」と「単体・化合物」について。原子量測定の歴史について。「元素」の「周期表」について。化学で使う数字のルール（物理量と単位、有効数字）について。「原子」のモデル、「陽子・中性子・電子」、「原子番号」と「質量数」について。「電子」の運動、「電子殻」と「電子配置」について。「希ガス」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp１－１４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業であつかえなかったプリントの練習問題を解いておくこと（以下毎回同じ）。用語とその意味をまとめておくこと（以下毎回同じ）。主な元素名と元素記号を覚えること。

第２回　２　化学結合

【key words】
分子、イオン結合、閉殻、組成式、共有結合、電子式、共有電子対、不対電子、構造式、共有結合の結晶、金属結合、自由電子

【授業概要】
「イオン結合」について。「組成式」の書き方について。「共有結合」について。「分子式・電子式・構造式」について。「分子」の立体構造について。「金属結合」について。以上のことを説明し、それぞれの結合での物質の性質の違いをまとめる。練習問題を解く。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp１５－２２　pp２８－２９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
代表的なイオン、組成式の書き方と名称、構造式の書き方と分子の形について復習しておくこと。第３章章末問題を復習すること。

	第３回　３　物質量と化学反応式 【key words】 原子量、同位体、相対質量、分子量、式量、物質量(mol）、アボガドロ定数、アボガドロの法則、（気体の）標準状態、化学変化、化学反応式、量的関係、反応物、生成物、標準状態 【授業概要】 「原子量・分子量・式量、物質量(mol）」の意味と求めかたについて。「化学反応式」が意味することについて。「化学反応式」の書き方及び「化学反応式」を用いて質量や気体の体積を求めることについて。以上のことを説明し、例題を解説する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp２３－２７　pp３０－３４　p３９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第４章章末問題を復習すること。第５章章末問題①～⑤を復習すること。 第４回　４　物質の状態 【key words】 溶液、質量パーセント濃度、モル濃度、蒸気圧、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式 【授業概要】 「溶液」の「濃度」について。「気液平衡」と「蒸気圧」について。「水溶液の性質（沸点上昇・凝固点降下・浸透圧）」について。気体について成り立っている法則について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp３５－３６　pp７５－７９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第９章章末問題⑤～⑦を復習すること。 第５回　５　酸と塩基 【key words】 酸、塩基、価数、電離度、水のイオン積、ｐＨ（水素イオン指数）、強酸、弱酸、強塩基、弱塩基、中和滴定、塩、指示薬、緩衝液 【授業概要】 「酸」と「塩基」の定義について。「酸」と「塩基」の「価数」と強弱について。「水素イオン濃度」と「ｐＨ」の意味、及びその求め方について。「中和反応」とその量的関係について。「塩」の性質について。「緩衝液」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp４０－４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 酸・塩基の定義及び代表的な酸・塩基を覚えること。ｐＨの計算ができるようになること。第６章章末問題(④e～ｇを除く）を復習すること。 第６回　６　酸化と還元　　７　化学反応と熱 【key words】 酸化、還元、酸化数、酸化剤、還元剤、熱化学方程式、発熱反応、吸熱反応、燃焼熱、生成熱、エネルギー図、ヘスの法則、結合エネルギー 【授業概要】 「酸化」と「還元」の定義と「酸化数」の求め方について。「酸化剤」と「還元剤」の反応と「半反応式」のつくり方について。「熱化学方程式」について。「反応熱」の種類について。「ヘスの法則（総熱量保存の法則）」とその応用について。「結合エネルギー」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp５０－５３　pp６０－６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 酸化数の求め方、酸化還元反応の仕組み、熱化学方程式の書き方、ヘスの法則を利用した計算について復習しておくこと。第７章章末問題①～③を復習すること。第８章章末問題①～③を復習すること。 第７回　８　化学平衡　　９　有機化合物(1) 【key words】 活性化エネルギー、可逆反応、化学平衡、平衡定数、電離平衡、緩衝液、酵素、平衡移動の原理（ルシャトリエの原理）、炭化水素、官能基、異性体 【授業概要】 化学反応の速さの表し方と速さが変わる条件について。「化学平衡」の意味と「平衡移動の原理（ルシャトリエの原理）」について。有機化合物の特徴と分類について。以上のことを説明をする。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp６９－７４　pp７９－８１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 官能基や異性体についてまとめをするとともに、覚えておくこと。　第９章章末問題①～②を復習すること。 第８回　10　有機化合物(2)　　おわりに 【key words】 脂肪族化合物、数詞、アルカン、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル 【授業概要】 「脂肪族化合物（アルカン、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）」の構造や性質・反応について説明する。最終回であるので第１回～第８回の授業についての質問を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp８２－９９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で解説したすべての用語とその意味、法則の名称とその内容をまとめておくこと。また、化学反応式を書くことや計算問題などもできるようにしておくこと。第10章章末問題①～④を復習すること。第11章章末問題①～③を復習すること。試験に備えて、授業で扱った問題や章末問題が解けるようにしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を用いて、予習復習を必ず行うこと。

	〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・教科書を使用して、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。 ・授業中に理解が不十分なことがあった場合はいつでも質問してよい。授業時間内に質問できなかった場合は、コメントカードに書くか授業後に質問すること。わからないことをそのままにしておかないこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習では教科書を読むとともに、用語の意味を確認すること。復習では授業の内容を筋道をたどって理解できたかを確認すること。その際、授業で扱った問題を自分でもう一度解き直し、教科書の章末問題を解いておくこと。また、覚えなくてはならないことは確実に覚えておくこと。
オフィスアワー	・授業終了後３０分間　　・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験　７０％、レポート　３０％
教科書	松岡雅忠：まるわかり！基礎化学. 南山堂, 2013
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　物理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	選択
担当教員			
猪熊　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 物理学を通して自然科学の基本的な見方や考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、放射線等について知り、その表し方や法則を説明できる。
授業の概要	物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、人間生活の多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、放射線等について概説する。 また、物理学は「自然界を理解しようとする人間の古くからの知的営み」である。この「知的営み」に参加する面白さと喜びを味わってもらえるように、ニュートン、キュリー、レントゲン等の業績について触れながら授業を進めていく。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	はじめに　　１　物理を理解するための道具とルール 【key words】 物理量、単位、有効数字、累乗、三角関数 【授業概要】 「自然科学」及び「物理学」とは何か。物理量に必要な「単位」について。測定値の「有効数字」と計算の方法について。三角関数について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 三角定規一組と電卓（新たに買う場合は加減乗除ができるものであればよい。関数電卓は必要ない。）を用意すること（以下毎回同じ）。授業であつかえなかったプリントの練習問題を解いておくこと（以下毎回同じ）。用語とその意味をまとめておくこと（以下毎回同じ）。第１章章末問題を復習すること。
	第２回	２　力学の基本 【key words】 速度、等速直線運動、ベクトル、加速度、等加速度直線運動、落下運動 【授業概要】 「速さ」と「速度」の違いについて。「等速直線運動」の式とグラフについて。「ベクトル」の表し方と計算について。「加速度」の定義と「等加速度直線運動」の式及びそのグラフについて。「等加速度直線運動」の例である、「自由落下運動、鉛直投げ上げ運動、斜方投射運動」について。以上のことを説明する。練習問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp９－１７

【課題・予習・復習・授業準備指示】
第２章章末問題を復習すること。

第３回　３　物体の運動と力の関係

【key words】
力、運動方程式、ニュートン、慣性の法則、力のつりあい、作用反作用の法則、運動の法則、質量と重さ
【授業概要】
「力」の表し方について。「ニュートンの運動の３法則」について。「運動方程式」について。「質量」と「重さ」の違いについて。「力のつり合い」と「作用反作用の法則」について。身のまわりにある「力」とその名前について。以上のことを説明する。練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp１８－２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第３章章末問題を復習すること。

第４回　４　圧力のはたらきと物を回転させる力

【key words】
圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心
【授業概要】
「圧力」を定義する。「気圧」及び「水圧」について。「浮力」と「アルキメデスの原理」について。「力のモーメント」について。物体の「重心」の求め方について。以上のことを説明する。練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp２６－３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第４章章末問題を復習すること。

第５回　５　エネルギーとその保存法則

【key words】
仕事、ジュール、仕事の原理、仕事率、ワット、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存、エネルギー保存の法則
【授業概要】
「仕事」を定義する。「仕事の原理」について。「仕事率」を定義する。「運動エネルギー」と「位置エネルギー」及び「力学的エネルギーの保存」について。以上の説明をする。練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp３４－４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第５章章末問題を復習すること。

第６回　６　気体分子の運動と熱エネルギー

【key words】
熱運動、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則、可逆変化、不可逆変化、熱力学第二法則
【授業概要】
「熱運動」について。「温度」と「熱」の違いについて。「比熱」と「熱容量」の定義と「熱量保存の法則」について。「ボイルの法則」と「シャルルの法則」について。「内部エネルギー」の定義と「熱力学第一法則」について。「可逆変化」と「不可逆変化」について。「熱力学第二法則」について。以上の説明をする。練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp４８－５６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第７章章末問題を復習すること。

第７回　７　波の性質と音・光

【key words】
振幅、波長、周期、振動数、横波、縦波、反射、屈折、回折、重ね合わせの原理、定常波、干渉、音波、うなり、ドップラー効果、光波、光の干渉、凸レンズ、凹レンズ
【授業概要】
「波」を定義する。媒質の振動の様子や「波」の進み方について。「波」の「周期・振動数・速さ」の関係を表す式について。「縦波」と「横波」について。「波」の「回折」と「反射」及び「屈折」について。「波」の「重ね合わせの原理」と「定常波」について。「波」の「干渉」について。「音の三要素」について。「うなり」と「ドップラー効果」について。「光の分散」、「光の干渉」、「光の反射・屈折及び全反射」について。「凸レンズ・凹レンズ」の利用について。「光の散乱」について。以上の説明をする。練習問題を解く。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp５７－７８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第８章章末問題を復習すること。第９章章末問題を復習すること。

第８回　８　原子の構造と放射線　　まとめ

【key words】
半導体、集積回路、放射線、放射性崩壊、半減期、キュリー、レントゲン
【授業概要】
「原子の構造」について。「半導体」と「集積回路」について。「放射線」と「放射性崩壊」及び「半減期」について。以上の説明をする。練習問題を解く。最終回であるので第１回～第８回の授業についての質問を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp１０９－１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で解説したすべての用語とその意味、法則の名称とその内容をまとめておくこと。試験に備えて、授業で扱った問題や章末問題が解けるようにしておくこと。

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を用いて、予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

	・教科書を使用して、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。 ・授業中に理解が不十分なことがあった場合はいつでも質問してよい。授業時間内に質問できなかった場合は、コメントカードに書くか授業後に質問すること。わからないことをそのままにしておかないこと。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習では教科書を読むとともに、用語の意味を確認すること。復習では授業の内容を筋道をたどって理解できたかを確認すること。その際、授業で扱った問題を自分でもう一度解き直し、教科書の章末問題を解いておくこと。また、覚えなくてはならないことは確実に覚えておくこと。
オフィスアワー	・授業終了後３０分間　　・コメントカードに書いた質問については次の授業の最初に答える。
評価方法	筆記試験　７０％、レポート　３０％
教科書	桒子　研：まるわかり！基礎物理．南山堂，2015
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　情報処理演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる ④Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる
授業の概要	授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使ってレポートなどの各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	(概論)オリエンテーション、パソコンの基本操作 ・講義のオリエンテーション ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用
	第２回	(Word)基本的な文章の入力 ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存 ・ファイルを開く
	第３回	(概論)ホームページの利用と情報セキュリティ ・ホームページの見方 ・Googleを利用したホームページの検索 ・ファイルのダウンロードと保存 ・よく見るホームページのブックマーク ・インターネットのセキュリティ(ウィルス対策、各種詐欺対策等)
	第４回	(Word)各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式) ・ページレイアウトの設定（用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き／横書き） ・文字書式の設定（太字、斜体、下線、フォント、色） ・段落書式の設定（揃え、行間、インデント）
	第５回	(Excel)Excelの基本操作 ・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等) ・行、列の操作(行／列の挿入、削除等) ・データのコピーと貼りつけ ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)
	第６回	(PowerPoint)プレゼンテーション作成の基本 ・プレゼンテーションの作成 ・スライドの作成と編集（コピー、移動、削除等）

	・レイアウトの変更 ・インデントとアウトライン ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く) 第７回　(Word/PowerPoint共通)表を含む文書の作成 ・表の作成とデータ入力 ・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作) ・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など) 第８回　(Word/Excel/PowerPoint共通)図形や写真を含む文書の作成 ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 第９回　(Word)複数ページ文書の作成 ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 第１０回　(Excel)グラフの作成 ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの 第１１回　(Excel)基本的な計算 ・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け) ・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など) ・よく使う関数（COUNT,ROUND,IF　など) 第１２回　(PowerPoint)画面切り替えとアニメーション ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画と音声の利用 第１３回　(PowerPoint)プレゼンテーションに関する機能 ・フッターとスライド番号の挿入 ・ノートの作成 ・スライドショーの実行 ・リハーサル機能 ・資料の配布 第１４回　(Word/Excel/PowerPoint共通)アプリケーションにまたがる操作とファイル操作 ・アプリケーション化のコピーと貼り付け ・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念 ・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など) 第１５回　課題説明・作成 ・課題内容の説明 ・課題作成実習 ・課題を作成して期限までに提出
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること。
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%)
教科書	PowerPointによるスライド資料(当科目のホームページで配布)
参考書	できるWord&Excel 2016 Windows 10/8.1/7対応、インプレス、2015年 できるPowerPoint 2016、インプレス、2015年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　統計の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 近年のコンピューターの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。授業の目的は統計学の基礎的な力を養成することにある。 【到達目標】 看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。また統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 無作為抽出、相関、分布 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 1頁～208頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第２回	データの性質と分布の代表値 【key words】 量的変量、質的変量、平均値、中央値、最頻値 【授業概要】 データの分類方法と平均値、中央値、最頻値について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 16頁～19頁、24頁～29頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第３回	分布の散布度

【key words】
分散、標準偏差
【授業概要】
分散と標準偏差の計算方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
24頁～29頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第４回　無作為抽出
【key words】
無作為抽出
【授業概要】
無作為抽出の方法について、実例を通じて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
80頁～83頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第５回　散布図と相関
【key words】
散布図、相関
【授業概要】
散布図の描き方、相関の計算方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
39頁～40頁、151頁～153頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第６回　クロス集計
【key words】
クロス集計
【授業概要】
クロス集計の作成の仕方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
145頁～147頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第７回　保健統計
【key words】
公衆衛生、保健統計
【授業概要】
保健統計の見方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
168頁～194頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第８回　統計数字の読み方
【key words】
公衆衛生、保健統計
【授業概要】
保健統計の解釈の方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
168頁～194頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第９回　確率分布
【key words】
正規分布
【授業概要】
確率分布表の見方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
67頁～70頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１０回　標準化
【key words】
標準化
【授業概要】
標準化のための計算方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
31頁～32頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１１回　excelを用いたデータ処理
【key words】
excel
【授業概要】
excelを用いた初歩的なデータ分析の方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
20頁～34頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１２回　excelを用いたグラフ作成

	【key words】 excel、グラフ 【授業概要】 excelを用いてグラフ作成の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 35頁～44頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第１３回　excelを用いた統計的検定 【key words】 ｔ検定 【授業概要】 excelを用いて統計的検定の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 104頁～166頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第１４回　excelを用いた回帰分析 【key words】 excel、回帰分析 【授業概要】 回帰分析の理論を学び、さらにexcelを用いて回帰分析の操作方法を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 151頁～157頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第１５回　統計学の利用法 【key words】 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、無作為抽出、相関、クロス集計、正規分布、エクセル、グラフ 【授業概要】 実例に沿って統計的手法の活用方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 1頁～208頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	パソコンを用いた演習も行うため、指定した日にノートパソコンの持参が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	必要とされる予備知識については、教科書を通読して事前に理解することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP 等を参照して復習すると、理解がより深まる。
オフィスアワー	授業終了後30 分。
評価方法	試験（60%）、授業中の課題（40%）を総合して評価する。
教科書	高木晴良「統計学」（医学書院）最新版
参考書	ロウントリー「新・涙なしの統計学」（新世社）2001
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生活科学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
篠原　しづか			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 幸福な家庭生活を運営できるようになることを目的とする。 ［到達目標］ 衣生活、食生活、住生活を科学的な視点から学び、快適康な生活ができるようにするとともに、精神的にも豊かで安定した日常生活が送れるようになる。
授業の概要	家庭生活を営む上に必要な衣食住と健康について、科学的視点からの理解と選択ができるようにする。また精神の研鑽も大切なので、古典、童話、歌劇、小説、心学などに触れ、人としての心と科学の両立を目指す。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	家庭生活１ 健全な家庭生活運営のために必要な理念を石田梅厳「斉家論」・大學「修身齊家治国平天下」を引用して説明する。
	第２回	家庭生活２ 思想家アンドレモロア、宇野千代等の言葉を参考に、幸福な結婚と家庭の土台となる条件を説明する。
	第３回	家庭経済 報徳仕法にみる家庭経済の在り方及び時代に艦みた老後の設計と消費者問題を詳説する。
	第４回	食生活１ 季節の滋養は祈りと感謝で食す行事食にある。家族愛、健康、食文化の重要性を説明する。
	第５回	食生活２ 健康長寿を約束する内臓助成の食生活の考えと新時代に対応した食の安全と衛生について説明する。
	第６回	衣生活１ 学生個々の不感蒸泄を計測し皮膚の科学を学ぶとともに、皮膚の汚れと木綿肌着の重要性を説明する。
	第７回	衣生活２ 各種繊維の性質と取り扱い方、ヒートテックや太陽光蓄熱保温素材など新素材を実験、検証する。
	第８回	衣生活３ 古事記に見る洗濯から酵素洗剤までの洗浄文化史を概説し、各種洗剤の簡易実験を通して洗浄効果を検証する。
	第９回	衣生活４ 被服の漂白としみ抜き法を学ぶ。手入れ、虫干し、保存及び環境に配慮した日本古来の天然防虫剤を概説する。

	第１０回　住生活１ 教室内の微気候を測定し、換気の重要性を検証する。埃とダニ・カビの住生活に及ぼす影響について説明する。 第１１回　住生活２ 清潔な住生活のための掃除法、環境保全への対応と太陽エネルギー利用について概説する。 第１２回　健康生活１ 着衣着火等の危険性、起毛繊維の表面フラッシュ現象の実際、繊維燃焼時の有害ガスの危険性を説明する。 第１３回　健康生活２ 民間薬草湯や入浴剤の健康効果を説明。皮膚の保湿度測定と平均皮膚温の算出を試みる。 第１４回　健康生活３ 被服素材による皮膚障害と静電気障害の防止策及び柔軟仕上げ剤の効果を説明する。 第１５回　まとめ 幸福な家庭生活運営のための衣、食、住、家庭経済及び健康生活を総括する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業内容を実生活にも活かすこと。 ・板書以外にも各自メモを取り「生活の中の雑学」も身に付けるように心掛けること。 ・５回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	復習を重点に学習すること。学んだことを実生活に活かすこと。
オフィスアワー	授業前３０分
評価方法	試験６０％、授業の中の課題４０％で総合して評価する
教科書	「生活科学概論」　建帛社
参考書	授業中に配布する資料
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎英語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】医療の現場で看護師として必要な英語を「読み、聞き、話せる」ことを目的とする。 【到達目標】　①英文の情報を早く正確に理解できる。 ②英語表現に必要な基本的な文法を理解し応用できる。 ③授業で身につけた「単語、表現」を使って日常会話が行える。
授業の概要	医療関連の記事の読解練習をしながら読解に必要な文法、表現、医療系単語を学ぶ。 看護現場で使用頻度の高い会話練習をする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	Unit1 大学での友達との会話　Grammar：命令文　Words：医療関係の職業 日常の様々な場面で使う基本的な言い方を練習する。簡単なResume、履歴書を英語で書けるようにする。
	第２回	Unit2 ガン治療の副作用について　Grammar：be/have動詞　Words：身体（外側） 医療現場でよく使われる表現をbe動詞、haveを中心に学ぶ。ガン治療に関する英文を読みながら、修飾語の働きを学ぶ。
	第３回	Unit3 健康診断で使われる表現　Grammar：現在分詞　Words：身体（骨、筋肉） 身体の不調、変調を知らせる時に使う表現を学ぶ。お見舞いのカードを英語で書けるようにする。
	第４回	Unit4 脳の働きについて　Grammar：疑問詞　Words：身体（内臓） 脳の働きについて述べた英文を読み、各段落ごとの要旨をまとめる練習をする。食品成分表を読めるようにする。
	第５回	Unit5 応急手当の手順、基本　Grammar：名詞の形　Words：病院の科の名称 応急手当についての箇条書きの英文を正しく読めるようにする。救急処置の行動を英語で言えるようにする。
	第６回	Unit6 ＬＧＢＴとは何か　Grammar：句動詞　Words：病院関連 LGBTについての英文を題材にして関係代名詞のある文の訳し方の練習をする。診察の時に使う会話練習をする。
	第７回	Unit7 虐待について　Grammar：動名詞　Words：痛みなど 段落のつながり方を考えながら英文を読み「虐待とはどういうことか」をまとめる。
	第８回	Unit8 血液型と輸血の関係　Grammar：文型　Words：病気① 血液型と輸血について述べた英文を読みながら、SVO、SVOCの文を学ぶ。
	第９回	Unit9 健康なライフスタイルとは　Grammar：関係代名詞　Words：病気② 「健康的なライフスタイルとは」の英文をKey Wordに注目して読んでいく。日常生活で使う数字の読み方を学ぶ。
	第１０回	Unit10 国ごとの治療の仕方の違い　Grammar：現在完了と過去完了　Words：病気③

	現在完了、過去完了による時間の流れを考えながら英文を読んでいく。 第１１回　Unit11 「Cure」という語の意味　Grammar：thatの様々な用法　Words：病気④ 接続詞thatの様々な使われ方に注意しながら英文を読んでいく。認知症初期症状チェックリストを訳してみる。 第１２回　Unit12 「やせていること」と「健康であること」　Grammar：時制　Words：治療、手術 現在、過去、未来の動詞の形で時間の関係を理解しながら英文を読んでいく。 第１３回　Unit13 乳ガンの自己検診　Grammar：前置詞　Words：薬剤関連 乳がんの自己検診の手順を前置詞（句）を中心に読みまとめる。病院内での道順の尋ね方と答え方の会話を練習する。 第１４回　Unit14 外国人看護師の日本語の必要性　Grammar：受動態　Words：医療関係の道具 P.86の英文で、くり返される単語に注目して文の意味を推測し、全体を理解する練習をする。 第１５回　Unit1～14のまとめ Unit1～14の医療系英単語、重要表現を復習する。よく使う会話表現を練習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	読解の基礎になる医療系単語の復習は各自じっかり行うこと。 会話練習、発音練習、音読の時は大きな声を出して積極的に取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	あらかじめ授業予定の範囲のListeningをしてくること。
オフィスアワー	授業終了後30分間
評価方法	期末筆記試験（客観、論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	Take Care！　三修社
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　医療英語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
森　佳江			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】共通語としての英語を使って看護現場で意思疎通ができるように、聴く、話す、読む、書くの技能を向上させるのが目的である。 【到達目標】　１）相手の訴えが聴き取れる。 ２）伝えるべきことを過不足なく伝えられる。 ３）英文記事から必要な情報を早く正確に把握する。 ４）医学用語の短縮形や単語の特殊な構成を学び、新出用語や単語の意味を類推することができる。
授業の概要	毎時間CDを使用して聴き取り訓練を行う。 読解を行う場合でも音読を重視する。 看護現場で使用頻度の高い医療系単語・構文を学び、会話練習をする。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	＜科目オリエンテーション／診療科の名前／受診受付＞ 初診の患者の案内をする際の語いや表現を学ぶ。診療科の名称を確認する。
	第２回	＜登録票・診察申込書の記入／英文読解：患者とのコミュニケーション＞ 登録票・診察申込書の記入の仕方を学ぶ。患者とのコミュニケーションについての英文を読む
	第３回	＜生活習慣を尋ねる／体の部位①＞ 患者の生活習慣を尋ねる時の応答練習をする。体の部位（頭部）の単語を確認する。
	第４回	＜症状について尋ねる／体の部位②＞ 患者の症状を尋ねる時の応答練習をする。体の部位（人体）の単語を確認する。
	第５回	＜測定の際の表現／医学用語の構成Ⅰ＞ 脈拍・血圧・体重などを測定する時の表現を学ぶ。医学用語（接頭辞＋語幹）について学ぶ。
	第６回	＜検査の際の表現／体の部位③／病院のスタッフ 血液・尿検査などをする時の表現を学ぶ。体の部位（臓器）・病院のスタッフの単語を確認する。
	第７回	＜検査結果の説明に必要な表現／英文読解：糖尿病①＞ 検査結果を説明する時に必要な表現を学ぶ。糖尿病についての英文を読む。
	第８回	＜症状についてより詳しく尋ねる／英文読解：糖尿病②＞ 様々な症状について詳しい表現の仕方を学ぶ。糖尿病についての英文を読む。
	第９回	＜痛みを細かく表現する／医学用語の構成Ⅱ＞ 痛みの様々な表現法を学ぶ。医学用語（語幹＋接尾辞）について学ぶ。
	第１０回	＜薬の働きについての説明／医学英語によく使われる動詞＞ 薬がどのような働きをするかを説明する表現を学ぶ。医学英語に頻出する動詞とその使い方を学

	ぶ。 第１１回　＜薬の服用の仕方の説明／英文読解：脳卒中①＞ 薬の服用の仕方を教える時の表現を学ぶ。脳卒中についての英文を読む。 第１２回　＜症状の起きた原因を尋ねる／看護師の携行品の名称 患者にその症状の起きた原因を尋ねる時の表現を学ぶ。看護師の日常携行品の名称を学ぶ。 第１３回　＜ＭＲＩ検査の説明／英文読解：脳卒中②＞ ＭＲＩ検査をするための準備・方法等を説明する表現を学ぶ。脳卒中についての英文を読む。 第１４回　＜手術前後の説明／病気の名称＞ 手術前の検査や手術後の注意等を説明する表現を学ぶ。代表的な病名を覚える。 第１５回　＜まとめ＞ Unit1～15までの重要事項を復習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書の音声ファイル無料ダウンロードを活用し、聴き取りの自主訓練を心がけること。 会話練習・発声練習は大きな声をだして積極的に取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で出てきた英単語・構文を復習しておくこと。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	期末筆記試験（客観・論述）85%　学習確認小テスト15%
教科書	First Aid！ (Kinseido)
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　スポーツ科学原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】日常生活を通じたスポーツ知識を学び、心身ともに健康で豊かな生涯を送ることのできる基礎的教養を身につける。【到達目標】①ライフステージにある自己の心身の諸機能の特質とその発達の仕組みを理解する。②諸機能の合理的･教育的な形成方法を学び、自らの健康を保持･増進していくための基本的なスポーツ方法論を修得する。③スポーツを通じて自分自身の健康的･社会的な自己信頼性を高めていくとともに、将来にわたって家庭や職場や地域社会での健康的な生活を設計し実践していくための基礎的な力量を身につける。
授業の概要	身体･運動･スポーツに関する諸学問の成果を学ぶとともに、健康に関する社会的な諸問題を捉え、健康と運動の科学的原理についての研究成果を学ぶ。それによって健康と運動の価値と重要性について理解を深め、自分自身のよりよい健康つくりの内容と方法を習得するとともに、生活実践の中にその知識を活かして自己形成の健康的な基盤を整えることを学ぶ。。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　（　スポーツとは：スポーツの概念と歴史、文化としてのスポーツ） 【key words】　スポーツ　文化　規範 【授業概要】「スポーツとは何か」の定義および現代スポーツの考え方を理解する。特に「スポーツの文化性」に基づく、スポーツ観やスポーツ規範（スポーツマンシップ、フェアプレー他）の重要性について学ぶ。【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体力」について学んでおく。 第２回　スポーツと体力・健康つくり　（トレーニング論：体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類） 【key words】　体力　トレーニング 【授業概要】スポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高めるためにおこなうトレーニング全般について学習する。その実践に求められる基礎知識および、トレーニングの形態別、体力要素別の分類に基づき、それぞれの効果を正しく学学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「スポーツと医学」について学んでおく。 第３回　スポーツと基礎的医学　（スポーツに必要な医学的基礎：スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急措置） 【key words】　スポーツ　健康　ケガや病気

	【授業概要】スポーツ活動と健康との密接なかかわりをはじめ、活動中に多いケガや病気の理解と対処法、救急時の処置など、スポーツ医学に関する基礎知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指「栄養」に関して学んでおく。示】 第４回　スポーツと栄養　（スポーツと栄養） 【key words】　栄養　栄養素　トレーニング 【授業概要】健康の保持･増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取について基礎的な知識を学ぶ。また、正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントするでの第一歩であることも学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「障がい者スポーツ」について学んでおく。 第５回　スポーツと社会福祉　（障がい者スポーツ：意義と原則、障がいの理解、全国障がい者スポーツ大会） 【key words】　障がい　身体障がい　知的障がい　精神障がい 【授業概要】ノーマライゼイション社会を推進するうえで障がいの有無を問わずスポーツに親しめる社会環境つくりを学ぶ。特に、各障がいの特徴とスポーツ活動について理解し、障がい者スポーツの現状とこれからの方向性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「子どもの発育･発達」について学んでおく。 第６回　スポーツと発育･発達　（ジュニア期のスポーツ：発育･発達期の心身の特徴、ケガや病気、プログラムの作成） 【key words】　発育　発達　スキャモンの発育曲線 【授業概要】子どもの発育発達特性を知り、スポーツ活動・運動が子どもの心身に与えるさまざまな影響とケガや病気を正しく学ぶ。また、発育ステージに応じたプログラムつくりを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「スポーツ基本法」について調べておく。 第７回　スポーツと地域振興　（スポーツ振興施策：スポーツ基本法、総合型地域スポーツクラブ） 【key words】　スポーツ基本法　地域社会　スポーツ振興 【授業概要】国、地方自治体等の行政とスポーツ振興方策とのかかわりの現状と課題についての認識を深める。そのうえで、地域住民主体の総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団についての関わり方を学ぶ。【教科書ページ・参考文献】資料プリント対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「指導する立場」についても万でおく。 第８回　スポーツと指導者の役割　（スポーツ指導者とは:倫理観、心構えと視点、アスリートの発掘･育成の重要性）　まとめ 【key words】　スポーツ観　倫理観 【授業概要】スポーツ指導者が社会に求められる背景と役割（倫理観や心構え）を学ぶ。日本スポーツ界の現状と目指すべき方向性を正しく理解し、「スポーツ科学」や「トップアスリートの育成」などの基本的なフィールドを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】８回配布済みの資料プリントで対応 【課題・予習・復習・授業準備指示】「スポーツ科学原論」での講義内容をまとめておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	【情報】授業は資料プリント・ＰＰで実施する。出席を常とし積極的に授業に参加すること。【受講のルール】遅刻、授業中の私語、携帯電話等の使用は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	日常生活の中に自分に適応したスポーツを取り入れ、積極的に身体活動を実践して、心理的に安定した豊かな生活を送る。
オフィスアワー	曜日・時間は講義初日に周知する。講師室　時間帯が合わないときは連絡をいただく。
評価方法	筆記試験（レポート）７０％、学習意欲３０％　（受講態度・積極性等）を総合評価する
教科書	資料プリントで対応
参考書	日本体育協会編　スポーツリーダー養成テキスト（日本体育協会）　平成30年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教職（保健体育科教諭）管理職、スポーツ行政（県教委体育課、スポーツ振興課）福祉行政（障害福祉課、社会福祉課、保健福祉課）社会福祉事業団・県立ふれあいスポーツプラザ（障害者スポーツセンター）次長・指導課長等の経験（のべ52年）を元に指導を行っている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　スポーツ演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	選択
担当教員			
長津　一博			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	目標： 明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。 到達目標： 幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出しせるようになる。
授業の概要	各種運動の実践を通して身体統御の方法を身につけ、チームの一員、仲間としての自覚をもち、社会生活のなかで規則やルールを守り、精神力や体力を養い、人間関係の円滑化を図れるようになる。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	オリエンテーション（ 班づくり　A、Ｂ２班に分ける ・ コミュニケーションゲーム ） 演習選択者が多数の場合，Ａ・Ｂの２班に分け、さらに４つのグループづくりを行い、各班のリーダー選出。 全体でコミュニケーション・ゲームを実施。 科目の位置付けとシラバスの説明。　近年スポーツの概念は広くなったことを理解することで、今後の授業に興味・関心を持たせる。また身体におよぼす影響について学習する。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第２回	A班バレーボール　・　Ｂ班 ソフトボール　①
		グループとして活動開始、各自のグループへの関わり方を学び、種目のルールを守り、楽しんで行けるようにする。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バレーボールは３回目にサーブの試験をする。 Ｂ班：ソフトボールは毎回打率を記録する。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第３回	A班バレーボール　・　Ｂ班ソフトボール　②
		グループこどに楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バレーボール Ｂ班：ソフトボール 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第４回	A班バレーボール　・　Ｂ班 ソフトボール　③
		Ａ班：バレーボールのサーブの試験を実施。 Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バレーボール（サーブの試験) Ｂ班：ソフトボール 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。

	第５回	A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　① 種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：ソフトボール毎回打率を記録する Ｂ班：バレーボール３回目にサーブの試験にのことを伝える。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第６回	A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　② グループごとに楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：ソフトボール Ｂ班：バレーボール 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第７回	A班ソフトボール　・　Ｂ班バレーボール　③ Ａ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。 Ｂ班：バレーボールサーブの試験 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：ソフトボール Ｂ班：バレーボール（サーブの試験） 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第８回	A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　① 種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バスケットボール３回目にフリースローの試験する。 Ｂ班：フットサル 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第９回	A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　② Ａ班：フリースローの試験のため練習時間を有効に使う。 Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。 Ａ・Ｂ班とも一人ひとりの動きを確認しあう。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バスケットボール Ｂ班：フットサル 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第１０回	A班バスケットボール　・　Ｂ班フットサル　③ Ａ班：バスケットボールフリースローの試験実施。 Ｂ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：バスケットボール（フリースローの試験） Ｂ班：フットサル 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第１１回	A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　① 種目を交代する。慣れていないので怪我に注意することを促す。またどのようにしたら上手くできるのかグループこどに話し合う。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：フットサル Ｂ班：バスケットボール３回目にフリースローの試験をする。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第１２回	A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　② グループでの楽しくコミュニケーションをとり対戦相手への敬意を忘れないこと。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：フットサル Ｂ班：バスケットボール 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第１３回	A班フットサル　・　Ｂ班バスケットボール　③ Ｂ班：バスケットボールフリースローの試験実施。 Ａ班：復習及び応用を実践しゲームにつなげる。 出席確認・ウォーミングアップ・基礎練習・後対戦ゲーム Ａ班：フットサル（フリースローの試験） Ｂ班：バスケットボール 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
	第１４回	成果発表　種目別実践　① 授業の総括を行うとともに集団で行うスポーツの理解を深め実践につなげる。 仲間意識が強くなり、熟達したグループの成果の発表を行う。 出席確認・ウォーミングアップ後、授業の成果発表と交流の場を実施 自分自身の成長をふりかえり確認し評価する。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。

	第１５回　　成果発表　種目別実践　② 授業の総括を行うとともに集団で行うスポーツを行う上で対象者にあわせた支援を考え援助につなげる。 仲間意識が強くなり、熟達したグループの成果の発表を行う。 出席確認・ウォーミングアップ後、授業の成果発表と交流の場を実施 自分自身の成長をふりかえり確認し評価する。 準備：指定ジャージ・体育館シューズ着用・髪の毛の長いものは後ろで縛ること。
受講生に関わる情報および受講のルール	目標：　明るく豊かな人生を送るために生涯にわたって実施できる運動やスポーツの楽しさと必要性を体験を通して学習する。 到達目標：　幼児から高齢者・障がい者までの、健康・体力・興味・関心など様々な要求に応じた運動やスポーツが、日常生活の中で継続的に行えるような状態を創り出しせるようになる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（授業終了後に口頭確認）
授業外時間にかかわる情報	日常生活の中に自分に合った、スポーツを取り入れ継続する。そのためには生活時間を有効に工夫し、積極的に身体活動を、実践することを期待する。
オフィスアワー	授業の前後３０分は対応可能
評価方法	学習した種目の実技テスト　　８０％　　学習意欲　２０％　（グループ内での関わり方等）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて照会する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
神谷　誠			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解する。 【到達目標】 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 看護の対象者の構造と機能について述べることができる。
授業の概要	1．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 2．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 3．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。 4．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 5．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 解剖学・生理学とは，解剖学的用語 第２回 ホメオスタシスとフィードバック機構 第３回 細胞の構造 第４回 細胞の機能 第５回 上皮組織 第６回 支持組織 第７回 筋組織 第８回 神経組織 第９回 体内の膜 第１０回

	皮膚 第１１回 体温産生と体温 第１２回 血液の成分と機能 第１３回 造血，凝結と線溶，血液型と輸血 第１４回 自然免疫機構 第１５回 獲得免疫機構
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を必ず読んで講義に参加すること。 テキストで予習をすること。 授業中に生じた疑問はそのままにせず、調べる、質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	出席状況，授業態度と定期テスト（筆記試験）で総合的に評価する。
教科書	林正健二編集：人体の構造と機能①　解剖生理学、メディカ出版　林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂２版、ジーサプリ編集委員会編
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　筋系、骨格器系、循環器系、呼吸器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 骨と骨格 第２回 頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格 第３回 関節の構造と機能 第４回 筋の種類 と機能 第５回 骨格筋の解剖生理 第６回 筋、骨格筋系のまとめ 第７回 心臓の構造 第８回 心臓の機能

	第９回 血管の形態と機能 第１０回 リンパ系の器官と機能 第１１回 循環器系の確認テストと解説 第１２回 呼吸器系の構造と機能 第１３回 肺の名称と肺胞の構造と機能 第１４回 呼吸のプロセスと調節 第１５回 呼吸器系の確認テストと解説
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の目的・到達目標
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能ー解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　消化器系、泌尿器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 食欲の調節機構 第２回 口腔の構造と機能 第３回 咽頭・食道の構造と機能 第４回 胃の構造と機能 第５回 小腸の構造と機能 第６回 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 第７回 糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収 第８回 排泄　大腸の構造と機能

	第９回 消化器系の確認テストと解説 第１０回 腎臓の構造と機能 第１１回 尿の生成、血液成分の調節 第１２回 尿管・膀胱・尿道の構造と機能 第１３回 排尿の生理 第１４回 泌尿器系の確認テストと解説 第１５回 消化器系及び泌尿器系のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の資料は、Web上で配布するので、各自必要な箇所を予習・印刷し、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能一解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　内分泌系、生殖器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 内分泌系とホルモンの作用機序 第２回 脳にあるホルモン分泌器官I 第３回 脳にあるホルモン分泌器官II 第４回 甲状腺のホルモンの機能 第５回 上皮小体のホルモンの機能 第６回 副腎のホルモンの機能 第７回 膵臓のホルモンの機能 第８回 消化管のホルモンの機能

	第９回 内分泌系の確認テストと解説 第１０回 生殖と生殖器の概念と特徴 第１１回 女性生殖器の構造と性周期 第１２回 妊娠と出産 第１３回 男性生殖器の構造と機能 第１４回 勃起と射精 第１５回 生殖器系の確認テストと解説
受講生に関わる情報および受講のルール	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能一解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体構造機能学Ⅴ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹　一男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １．看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。 ２．人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。 ３．看護の対象者の構造と機能について述べることができる。 【到達目標】　神経系、感覚器系を構成する各器官の構造とその機能について説明できる。更に勉強の深さと広さを看護学国家試験の既出問題集を解くことによって確かめる。正解の文章はそのまま理解して、誤っている文章は正しく直すとともに関連する事項についてノートにまとめておく。教科書の学習到達チェックの記述式問題は、おおよそ300字程度で記載できるように、教科書と問題集をじっくり読み込み、ノートに要約と模式図を作成する（丸暗記しないこと）。模式図には色鉛筆などでわかりやすくすると良いが時間をかけすぎないようにする。
授業の概要	１．看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。 ２．日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。 ３．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。　４．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 ５．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 神経組織の構造と機能に基づく分類　　神経組織の構造と機能（神経細胞） 第２回 神経組織の構造と機能（情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射） 第３回 中枢神経系の構造と機能（大脳・間脳・脳幹） 第４回 中枢神経系の構造と機能（小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織，伝導路） 第５回 末梢神経系の構造と機能（脳神経） 第６回 末梢神経系の構造と機能（脊髄神経・体性神経系） 第７回 末梢神経系の構造と機能（自律神経系）　　生体のリズム 第８回 神経系の確認テストと解説

	第９回 感覚器の種類と特徴 第１０回 視覚・聴覚の構造と機能 第１１回 平衡覚器の構造と機能　嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能 第１２回 体性感覚器と内臓感覚器の構造と機能 第１３回 感覚器系の確認テストと解説 第１４回 神経系と感覚器系のまとめ 第１５回 解剖実習
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の資料は、Web上で配布するので、各自必要な箇所を予習・印刷し、持参して講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	１）教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。 ２）講義毎に指定する課題レポート（主にスケッチ、まとめ）を次回講義までに提出すること。 ３）確認テスト（テキスト内から出題）を必ず受けること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能
評価方法	確認テストやノート作成を評価（20%）に加え、定期試験（80%）とあわせて総合的に評価する。
教科書	１）林正健二編集：人体の構造と機能一解剖生理学、メディカ出版 ２）日本生理学会教育委員会編：看護師国家試験　解剖生理学クリアブック　第2版　医学書院
参考書	坂井建雄編集：カラー図鑑　人体の正常構造と機能全１０巻縮刷版、日本医事新報社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論総論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
川手　進　荒川　和久　竹吉　泉　吉田　大作　柴　ひとみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 疾病治療論で学ぶ病態の基礎として、共通してみられる病態の特徴について学び、その診断、治療に関する基本事項を学び看護につなげることができる。 【到達目標】 ①細胞・組織に生じる変化について概説できる。 ②個体の変化に影響する条件について概説できる。 ③手術治療を概説できる。 ④放射線治療を概説できる。 ⑤リハビリテーションを概説できる。
授業の概要	疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、手術療法などについて学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 細胞・組織に生じる変化１　代謝障害 第２回 細胞・組織に生じる変化２　循環障害 第３回 細胞・組織に生じる変化３　炎症と免疫、膠原病 第４回 細胞・組織に生じる変化４　腫瘍 第５回 個体の変化に影響する条件１　先天異常 第６回 個体の変化に影響する条件２　老化のメカニズム 第７回 生命の危機的状況①：　ショック、火傷、熱傷、DIC・MOF、 第８回 生命の危機的状況②：　死について 第９回 手術療法１　全身麻酔 第１０回 手術療法２　外科手術の実際

	第１１回 放射線治療総論 第１２回 放射線治療各論 第１３回 リハビリテーション１　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの基礎（ＡＤＬ評価、廃用症候群、各種制度など） 第１４回 リハビリテーション２　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実際（理学療法） 第１５回 リハビリテーション３　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの実際（作業療法、言語聴覚療法）
受講生に関わる情報および受講のルール	まず、私語は厳禁とする。注意しても私語の止まないものは、退席させる。本講義は、概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。 各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習することが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（概論50点、手術・化学療法20点、リハビリ20点、放射線10点）
教科書	ナーシンググラフィカ　疾病の成り立ち①病態生理学　メディカ出版
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浜田　邦弘　金子　和光　林　伸宇			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①消化器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②腎泌尿器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ③内分泌系・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療1：食道・胃の疾患の治療① 第２回 消化器系疾患の理解と治療2：食道・胃の疾患の治療② 第３回 消化器系疾患の理解と治療3：肝臓・胆嚢の疾患と治療 第４回 消化器系疾患の理解と治療4：腸の疾患と治療① 第５回 消化器系疾患の理解と治療5：腸の疾患と治療② 第６回 腎泌尿器系疾患の理解と治療　1　腎機能障害のある疾患とその治療① 第７回 腎泌尿器系疾患の理解と治療　2　腎機能障害のある疾患とその治療② 第８回 腎泌尿器系疾患の理解と治療　3　人工透析、腎臓の手術 第９回 腎泌尿器系疾患の理解と治療　4　泌尿器系の疾患と治療①　前立腺の疾患 第１０回 腎泌尿器系疾患の理解と治療　5　泌尿器系の疾患と治療②　その他の疾患 第１１回 内分泌系疾患と治療1　病態生理の理解と主な治療①　バセドウ病・原発性アルドステロン症等

	第１２回 内分泌系疾患と治療2　病態生理の理解と主な治療②　副腎脂質ホルモン異常など 第１３回 内分泌系疾患と治療3　病態生理の理解と主な治療③　糖尿病 第１４回 内分泌系疾患と治療4　病態生理の理解と主な治療④　脂質代謝異常、痛風等 第１５回 内分泌系疾患と治療5　病態生理の理解と主な治療⑤　その他の代謝異常　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（消化器33点、腎・泌尿器33点、内分泌34点）
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎泌尿器、系統看護学講座　専門分野Ⅱ内分泌：医学書院
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　疾病・治療論各論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
神戸　将彦　田口　浩平　蘇原　直人			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し、主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげることができる。 【到達目標】 ①運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 ②脳神経系の健康障害と人間の反応について概説できる。
授業の概要	運動器系・脳神経系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 ガイダンス、運動器系の疾患の理解と治療1： 骨折①上肢の骨折(上腕骨顆上骨折、橈骨骨折、鎖骨骨折など) 第２回 運動器系の疾患の理解と治療2： 骨折②下肢の骨折(大腿骨頸部骨折、大たい骨骨折、脛骨・踵骨骨折など) 第３回 運動器系の疾患の理解と治療3：脊椎の疾患①椎間板ヘルニア、側弯症他 第４回 運動器系の疾患の理解と治療4：脊椎の疾患②脊髄損傷、脊髄腫瘍 第５回 運動器系の疾患の理解と治療5：神経麻痺 第６回 運動器系の疾患の理解と治療6：先天性疾患(内反足、先天性股関節脱臼等) 第７回 運動器系の疾患の理解と治療7：骨腫瘍 第８回 脳神経系の疾患の理解と治療1：脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(内科的治療) 第９回 脳神経系の疾患の理解と治療2：脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血（外科的治療） 第１０回 脳神経系の疾患の理解と治療3：脳腫瘍 第１１回 脳神経系の疾患の理解と治療4：パーキンソン病、ALS

	第１２回 脳神経系の疾患の理解と治療5：脊髄小脳変性症、髄膜炎など 第１３回 脳神経系の疾患の理解と治療6：認知症 第１４回 脳神経系の疾患の理解と治療7：脱髄性疾患、脳性まひ他 第１５回 脳神経系の疾患の理解と治療8：その他
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は厳禁とする。静粛に講義を聴くこと。私語を注意して止めないものは、退席とする。人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。授業は、人体構造学の知識が習得できていることを前提に、ハイスピードで進行する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストで予習・復習をすること。
オフィスアワー	各講師の授業終了後３０分
評価方法	筆記試験100％（脳神経50点、運動器50点）
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　脳・神経　医学書院、ナースのためのやさしくわかる整形外科　ナツメ社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　微生物学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
松本　竹久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 感染症の原因となる病原微生物の種類や基礎的な性質、感染予防対策等について医療従事者として必要な知識を身に付ける。 【到達目標】 1）微生物とはどのような生物であるか、その種類と性質について説明できる。 2）病原微生物の感染経路、感染予防対策について説明できる。 3）主な病原微生物の性質とその感染症について説明できる。
授業の概要	医療の発展に伴い、薬剤耐性菌感染症や日和見感染症が急増し、感染症の種類が著しく変貌している。そして看護師は様々な感染症患者のケアをするため、感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行わなくてはならない。本講義では、感染症の原因となる主な病原微生物の性質を学び、それぞれの病原微生物に対する感染予防対策を行えるよう学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 微生物と微生物学　微生物の発見以前・発見、微生物の種類 第２回 微生物の生育　微生物発育の要因 第３回 感染症総論　感染と病原体、感染経路、感染症の検査・治療 第４回 予防接種　ワクチンの種類 第５回 洗浄・消毒・滅菌 第６回 医療関連感染と感染対策 第７回 感染症を起こす主な細菌①　グラム陽性球菌 第８回 感染症を起こす主な細菌②　グラム陰性球菌・桿菌 第９回 感染症を起こす主な細菌③　腸管感染の原因細菌、結核菌、マイコプラズマ 第１０回 感染症を起こす主なウイルス①　ウイルス性呼吸器感染症・下痢症、麻疹、風疹、ヘルペス感染

	症 第１１回 感染症を起こす主なウイルス②　HIV、肝炎ウイルス、エボラウイルス 第１２回 感染症を起こす主な真菌　カンジダ感染症、アスペルギルス症、白癬、ニューモシスチス肺炎 第１３回 感染症を起こす主な寄生虫　マラリア、トキソプラズマ症、寄生虫による食中毒 第１４回 病原微生物の構造　細菌・真菌・原虫・ウイルスの構造 第１５回 講義全体のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	スマホなどの操作はせず、誠意ある態度での受講を求めます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に該当する内容をテキストを用いて予習すること。また、配布するおさらい問題を解いて復習すること。
オフィスアワー	授業の前後10分は対応可能。
評価方法	小テスト（20%）、定期試験（80%）等で評価する。
教科書	疾病のなりたちと回復の促進4　微生物学　系統看護学講座　専門基礎分野　医学書院　最新版
参考書	病気がみえる vol. 6　免疫・膠原病・感染症　医療情報科学研究所　編集
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生化学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
神谷　誠			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、生化学を理解する。 【到達目標】 生化学を看護の視点で系統的に捉えることができる。 看護の対象者の生化学について述べることができる。
授業の概要	1．看護の視点で生化学を理解できるようにする。 2．日常生活を送る上で、人体がどのような機能しているかを理解できるようにする。 3．正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。 4．看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。 5．自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 糖質とは 第２回 糖代謝 第３回 脂質とは 第４回 脂質代謝 第５回 タンパク質とは 第６回 タンパク質代謝 第７回 核酸，水と無機質 第８回 血液と尿 第９回 核酸代謝，ポルフィリン代謝 第１０回

	代謝の異常 第１１回 ホルモンと生理活性物質 第１２回 酵素 第１３回 ビタミンと補酵素 第１４回 遺伝情報 第１５回 先天性代謝異常
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を必ず読んで講義に参加すること。 テキストで予習をすること。 授業中に生じた疑問はそのままにせず、調べる、質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	出席状況，授業態度と定期テスト（筆記試験）で総合的に評価する。
教科書	三輪　一智、中　恵一：系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能②　第12版　医学書院
参考書	なし
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　栄養学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(15)	必修
担当教員			
木村　順子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 看護業務に必要な栄養学の基本的な知識について学び、臨床現場での実践、並びに日常生活での健康づくりに生かせるようになる。 【到達目標】 ・栄養素の種類とはたらき、食物の消化、吸収、代謝について理解できる。 ・エネルギー代謝について理解し、エネルギー消費量の計算ができる。 ・日本人の食事摂取基準について理解できる。 ・各種疾患、症状別食事療法の基本を理解できる。 ・自分に必要な適切なエネルギー・栄養素の量を知り健康的な食生活を送れるようにする。 ・自らの日常生活において食物や栄養素を適正に摂取できるようになる。
授業の概要	栄養学は食物や栄養素を適切に摂取することで、生涯を通じて健康を維持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を学習する。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 科目オリエンテーション 第１章：人間栄養学と看護（食事における看護師の役割・チーム医療） 第２章：栄養素の種類とはたらき 第２回 第３章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝、吸収・代謝産物の排泄 第３回 第４章：エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準、食品と栄養素 第５章：食事と食品（人間の食事と食文化） 第４回 第６章：栄養ケア、マネジメント 第７章：栄養状態の評価、判定（栄養アセスメント、評価・判定法） 第５回 第８章：ライフステージと栄養（乳児、乳幼児、学童期、思春期、青年期、成人期、妊娠期、授乳期、更年期、高齢期） 第６回 第９章：臨床栄養（チームで取り組む栄養管理・栄養補給法、病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤、循環器疾患の食事療法） 第７回 第９章：臨床栄養（栄養・代謝疾患、腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患患者の食事療法）

	第８回 第９章：臨床栄養（骨粗鬆症、咀嚼嚥下障害患者の食事療法、場面別の栄養管理、がんの食事療法） 第１０章：健康づくりと食生活
受講生に関わる情報および受講のルール	・他の教科との関連を理解する。 ・私語･携帯電話の使用等、受講生の迷惑になる行動は慎む。 ・初回を除き、毎回次回の授業に該当する授業資料を配布するので、テキスト該当箇所とともに配布資料を読んでおく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回配布する復習問題に取り組む。３課題に取り組む。
オフィスアワー	終了後の２０分間、コメントカードに質問を記載すれば答える。
評価方法	定期試験（７０％）及び課題提出（３０％）をもとに総合評価する。
教科書	著者代表　中村丁次　系統看護学講座専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能［３］　医学書院
参考書	監修　香川芳子　七訂食品成分表2016　女子栄養大学出版部　糖尿病食事療法のための食品交換表第７版　文光堂
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 病理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
前島　俊孝			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。 【到達目標】 ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。 ・基本的な疾患の病態について説明できる。〔授業の目的〕
授業の概要	細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回	オリエンテーション 解剖学、病理学病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明など。 （病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること）
	第２回	解剖学の復習 病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。 細胞増殖能からみた、各種細胞の特徴について学習し、様々な疾患との関連を意識する。（解剖学の教科書） 教科書（病理学）: p.31
	第３回	病因 様々な疾患の原因について、また、細胞死に関する用語を理解する。教科書: p.27-31
	第４回	細胞傷害 細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。 教科書: p.50-52教科書 p.27-52を読んでみる。 講義を受けることで、教科書を理解して読み込むことが可能となるはずである。月に２回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。
	第５回	循環障害　1 循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。教科書: p.65-71
	第６回	循環障害　2 循環障害に関する用語を理解し、説明できるようにする。 また、スライドで、循環障害性の疾患について学ぶ。教科書: p.65、71-75教科書 p.65-75「循環障害」について復習する。

	第７回　炎症 炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。教科書：p.76-87 第８回　免疫、アレルギー 免疫機能、アレルギー反応について理解する。教科書：p.88-97教科書p.76-102を復習する。 第９回　腫瘍　1 腫瘍の定義、分類について理解する。教科書：p.118-121 第１０回　腫瘍　2 腫瘍発生の原因や、転移様式を理解する。教科書：p.118-134 第１１回　腫瘍　3 腫瘍の診断、治療の流れを理解する。スライドを用いて、腫瘍の肉眼、顕微鏡像を観察する。教科書：p.118-134教科書p.116-132を復習する。 第１２回　代謝異常、糖尿病 代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。教科書：p.317-323 また、課題を与えるので、レポート作成に取り組む。 第１３回　先天異常 主な染色体異常、遺伝性疾患について学習する。教科書：p.53-64 第１４回　感染症 特徴的な感染症をいくつか取り上げて、感染症について学習する。教科書：p.97-100, 103-117, 201-205 第１５回　まとめ 補足、講義のまとめ、試験について
受講生に関わる情報および受講のルール	・学習した範囲の解剖学の復習をして、病理学の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2～3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・病理学の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に２回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにすむ。
オフィスアワー	講義の際に指示する。
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%
教科書	堤 寛： クイックマスター 病理学　第2版，サイオ出版，2018
参考書	解剖学の教科書（病理学の講義でも使用する）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　臨床薬理薬物論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	1単位(30)	必修
担当教員			
秋山　滋男　竹内　裕紀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】看護師が臨床において関わる薬物療法を安全に行えるよう薬物の作用機序、体内動態を正しく理解することができる。 【到達目標】看護師が様々な病態に対して治療に関わるうえで、薬物治療に関連した代表的な薬剤を列挙することができ、作用機序、臨床病態と関連づけながら薬物の作用や副作用などを説明することができる。
授業の概要	薬物の薬理作用、体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）などの作用機序を学び、その後、病態生理をおさえた上で臨床で使用される主な薬物を中心に整理し臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。授業では課題を与え、自ら考える力を身につける。

■当科目の看護学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．看護学の観点から人間、環境、健康、看護の概念における基礎的知識と幅広い教養を身につけている。	２．看護専門職者として、相互の立場を尊重した適切なコミュニケーション能力を身につけている。 ３．人々が健康な生活を送るための情報を、様々な方法によって収集することができ、収集した情報を科学的・論理的分析を行い、適切な問題の把握と解決ができる能力を身につけている。 ４．人々の健康に関する課題解決に向けて、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を基本とした看護実践が提供できるための基礎的な実践力を身につけている。	５．自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察を行い、建学の精神である「仁」を具現化し実践しようとする姿勢を身につけている。 ６．多職種と協働・連携しながら看護職者の位置づけと役割を認識し、チームワーク、リーダーシップ、マネージメント力を発揮するための基礎的能力を身につけている。 ７．生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための高い倫理観、看護の役割・機能を果たすための責任感、行動力を身につけている。 ８．国内外における社会と健康問題の情勢に興味・関心を持ち、生涯にわたって自己研鑽し続ける姿勢を身につけている。	９．自らが獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、看護専門職者に求められる新たな課題を主体的に解決する能力を身につけている。

授業計画	第１回 今後の授業内容についてオリエンテーションを行う。および生理学復習。 第２回 薬理学　総論　　薬理作用の基礎。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用などを理解する。 第３回 薬理学　各論　　末梢神経系と末梢神経作用薬　ついて　を学ぶ。 第４回 自律神経系薬物について　を学ぶ。 第５回 心血管系作用薬について　を学ぶ。 第６回 物質代謝作用薬について(糖尿病・甲状腺・骨粗鬆症)について　を学ぶ。 第７回 呼吸器・消化器・生殖器系作用薬について　を学ぶ。 第８回 皮膚科・眼科用薬について　を学ぶ。 第９回 中枢神経系作用薬について　を学ぶ。 第１０回 抗感染症薬について　を学ぶ。

	第１１回 救急時用いられる薬物・消毒薬、抗擬固薬・貧血、について　を学ぶ。 第１２回 免疫治療薬について　を学ぶ。 第１３回 抗アレルギー薬について　を学ぶ。 第１４回 抗炎症薬について　を学ぶ。 第１５回 抗癌剤について　を学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートを取ること。　教科書等を良く読むこと。教科書　参考書は必ず持参して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている教科書は必ず熟読し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。授業冒頭で学習理解度を知るためミニテストを行うこともある。
オフィスアワー	授業終了３０分後
評価方法	筆記試験70%、レポート30%
教科書	①【教科書】　系統看護学講座　専門基礎5　疾病のなりたちと回復の促進2　医学書院
参考書	薬がみえる　Vol1～３　MEDIC MEDICA　今日の治療薬
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない